

羽根下立遺跡発掘調査報告

— 公害防除特別土地改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 X —

2011年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所



上 遺跡全景（南から） 下 SR1B3出土土器



下層出土縄文土器

羽根下立遺跡発掘調査報告

— 公害防除特別土地改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告 X —

2011年

財団法人 富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

飛騨の山中に源を発して富山湾へと流れる神通川のほとり、戦国の世には対岸の富山城をめぐって多くの城や砦が築かれたその要衝の地に、羽根下立遺跡はあります。

当事務所では平成7年度から、この神通川中流域で県営公害防除特別土地改良事業にともなう埋蔵文化財調査を継続的に実施してまいりました。16年の永きにわたる発掘調査は、この調査報告をもって終了を迎えます。

旧婦中町の清水島遺跡をはじめ、これまで行った12の遺跡の調査によって、古代・中世の暮らしぶりが浮き彫りになってきました。みつかった多くの住居跡や井戸、さまざまな器の数々は、稲穂輝く田畠を拓いていった人々の生きた証といえます。

羽根下立遺跡の調査では、中近世の掘立柱建物からなる集落跡のほか、縄文時代晩期の生活の痕跡がみつきり、扇状地に居住を始めて間もない頃の遺跡として、貴重な発見となりました。

本書をとおして地域の歴史と埋蔵文化財への理解を深めていただければ幸いです。

終わりに、調査にあたってご理解とお力添えを賜りました多くの機関と方々に厚くお礼申し上げます。

平成23年2月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長 岸本雅敏

例 言

- 1 本書は富山県富山市羽根^{はね}地内に所在する羽根^{はね}下立遺跡^{しもだて}の発掘調査報告書である。
- 2 調査は富山県（農林水産部）からの委託を受けて、財団法人富山県文化振興財団が行った。
- 3 本遺跡の発掘調査機関と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。
調査期間 平成19（2007）年5月16日～10月30日
整理期間 平成20（2008）年4月1日～平成23（2011）年2月28日
- 4 本書の編集は中川道子・町田尚美が担当した。
本文執筆は中川・町田の外、青山裕子、永井三郎が担当した。
- 5 整理作業中に下記の方々の指導・助言等を受けた。
縄文土器について 酒井重洋（富山県埋蔵文化財センター）
中近世陶磁器について 宮田進一（同上）
- 6 遺物の写真撮影は専門業者に委託した。
- 7 自然科学的な分析は諸機関に委託して行い、その成果について報文を得た。
- 8 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から多大なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略、五十音順）
垣内光次郎、佐藤亜聖、久田正弘、藤田慎一、山本信夫、石川県埋蔵文化財センター、富山県教育委員会、富山市教育委員会

凡例

- 1 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。
- 3 挿図の縮尺は次の率を基本とし、各図に縮尺率を示す。
遺構 掘立柱建物：1/100、柱穴：1/40、井戸：1/40、土坑・溝：1/20～1/80
遺物 土器・陶磁器：1/3～1/6、土製品：1/3、木製品：1/3～1/6、
石製品：1/3・1/6、金属製品：1/3
- 4 遺構の略号は次のとおりである。
SA：柵、SB：掘立柱建物、SD：自然流路・溝、SE：井戸、SK：土坑、SP：柱穴
SR：川、SX：その他の遺構
- 5 遺構番号は、調査時において地区毎に付した番号をそのまま踏襲し、その末尾に調査地区を表すアルファベットと数字を組み合わせて個々の番号とした。但し、掘立柱建物については新たに番号を付した。
- 6 遺物には連番を付し、本文・挿図・一覧表・写真図版で一致する。
- 7 遺跡の略号は01HO-地区名で、遺物の注記には略号を用いた。
- 8 遺構の焼土、炭化物は以下のとおりに示す。これ以外については図中に凡例を示した。
焼土  炭化物 
- 9 土層・遺構埋土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 10 遺構一覧及び本文中で用いる遺構についての用語は以下の文献を参考にした。
掘立柱建物：奈良国立文化財研究所1976『平城宮発掘調査報告Ⅵ』
井戸：宇野隆夫1982「井戸考」『史林』第65巻第5号
- 11 遺物についての分類と編年に関する用語は以下の文献を参考にした。
縄文土器：小林達雄編2008『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
珠洲：吉岡康暢1994『中世須恵器の研究』吉川弘文館
輸入陶磁器：山本信夫2000『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』太宰府市教育委員会、
森田勉1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁No.2』日本貿易陶磁研究会
- 12 遺構・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
 - ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に新>古のように記号で示す。
 - ②規模・法量は原則として最大値を示し、()内は現存長を表す。
 - ③胎土・釉色調は前出の『新版標準土色帖』および財団法人日本規格協会「標準色標光沢版」を使用し、釉調和名は小学館『色の手帖』を参考にした。

目 次

第Ⅰ章 調査経緯	1
1 調査に至る経緯	1
(1) 調査の契機	1
(2) 試掘調査	5
(3) 本調査	5
2 調査経過	6
3 普及活動	7
4 遺物整理作業の経過	8
第Ⅱ章 位置と環境	9
1 地理的環境	9
2 歴史的環境	10
第Ⅲ章 遺跡の調査	13
1 調査方法	13
2 層序	13
3 遺構	14
(1) 縄文時代晩期	14
(2) 古墳時代以前	15
(3) 古墳時代	15
(4) 中世	15
(5) 近世	19
4 遺物	98
(1) 土器・陶磁器	98
(2) 土製品	101
(3) 木製品	102
(4) 石製品	102
(5) 金属製品	102
第Ⅳ章 自然科学分析	137
1 羽根下立遺跡出土漆器の科学分析 (漆器文化財科学研究所 四柳嘉章)	137
2 羽根下立遺跡出土木製品の樹種同定 (株式会社古環境研究所)	145
3 羽根下立遺跡出土石製品石材鑑定報告 (株式会社古環境研究所)	149
第Ⅴ章 まとめ	155

写真図版

報告書抄録

巻首図版目次

- 巻首図版1 羽根下立遺跡全景 S R 1 B 3 出土中世土師器
巻首図版2 縄文土器

挿図目次

- 第1図 神通川流域における発掘調査位置
第2図 調査区割図
第3図 遺跡周辺の地形
第4図 遺跡分布図
第5図 基本層序模式図
第6図 遺構全体図（縄文時代～古墳時代）
第7図 遺構全体図（縄文時代）
第8図 遺構全体図（古墳時代）
第9～14図 遺構実測図（縄文時代）
第15図 遺構実測図（古墳時代）
第16・17図 遺構全体図（中世）
第18～49図 遺構実測図（中世）
第50図 遺構全体図（近世）
第51～69図 遺構実測図（近世）
第70～77図 遺物実測図（縄文土器）
第78図 遺物実測図（弥生土器・須恵器・土師器・灰軸陶器）
第79～82図 遺物実測図（中世土師器）
第83図 遺物実測図（中国製磁器）
第84・85図 遺物実測図（珠洲・中近世陶磁器）
第86・87図 遺物実測図（越中瀬戸）
第88図 遺物実測図（土製品）
第89図 遺物実測図（木製品）
第90～94図 遺物実測図（石製品）
第95図 遺物実測図（金属製品）
第96・97図 赤外線吸収スペクトル
第98～100図 蛍光X線スペクトル
第101図 分析漆器実測図
第102・103図 中世集落変遷図

表 目 次

- | | | | |
|------|-----------------------------|------|------------------|
| 第1表 | 神通川流域第3次地区における
埋蔵文化財発掘調査 | 第13表 | 縄文土器一覽 |
| 第2表 | 試掘調査結果 | 第14表 | 弥生土器・土師器・須恵器一覽 |
| 第3表 | 調査体制・調査一覽 | 第15表 | 中世土師器一覽 |
| 第4表 | 整理体制・委託業務一覽 | 第16表 | 陶磁器・土製品一覽 |
| 第5表 | 周辺遺跡一覽 | 第17表 | 木製品一覽 |
| 第6表 | 基本土層一覽 | 第18表 | 石製品一覽 |
| 第7表 | 縄文～古墳時代 遺構一覽 | 第19表 | 金属製品一覽 |
| 第8表 | 中近世 掘立柱建物・柵一覽 | 第20表 | 羽根下立遺跡における樹種同定結果 |
| 第9表 | 中近世 柱穴一覽 | 第21表 | 羽根下立遺跡出土の石材鑑定結果 |
| 第10表 | 中近世 井戸一覽 | 第22表 | 羽根下立遺跡器種毎構成岩種 |
| 第11表 | 中近世 土坑一覽 | 第23表 | 比重計測一覽 |
| 第12表 | 中近世 溝一覽 | | |

写真図版目次

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------------------|
| 図版1・2 | 航空写真 | 図版27～36 | 土器・陶磁器・土製品（弥生時代～近世） |
| 図版3 | 遺跡遠景 | 図版37 | 土製品 |
| 図版4・5 | 縄文時代 遺構 | 図版38 | 木製品 |
| 図版6～11 | 中世 遺構 | 図版39～41 | 石製品 |
| 図版12～14 | 近世 遺構 | 図版42 | 金属製品 |
| 図版15～26 | 土器（縄文時代） | | |

第I章 調査経緯

1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

神通川流域のカドミウム汚染田復元工事は、昭和43年5月に当時の厚生省が発表した「富山県におけるイタイイタイ病に関する厚生省の見解」の中でイタイイタイ病を公害病として認定したことから具体的に動き出した。神通川流域地区はイタイイタイ病患者を発生した唯一の地域である。

富山県は当該地域を復元するに当たり、1971（昭和46）年に「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」が施行されたことに伴い、土壌汚染実態を把握するため、農用地5,800haを対象にカドミウム濃度調査を実施した。この調査結果を受け、県は関係市町長の意見聴取と「富山県公害対策審議会」の諮問、答申に基づき、汚染米発生地域とその近傍地域のうち汚染米が発生する恐れがある地域1,500.6ha（神通川流域左岸地域1,018.4ha、同右岸地域482.2ha）を「農用地土壌汚染対策地域」として指定した。

1980（昭和55）年には1市3町にわたる広大な汚染地域内の土地利用区分や農用地に係る汚染対策を樹立するため、「農用地土壌汚染対策計画（第1次）」を策定し、公害防除特別土地改良事業に着手した。1984（昭和59）年の「第2次農用地土壌汚染対策計画」、1991（平成3）年の「第3次農用地土壌汚染対策計画」で全区域の対策計画の樹立を完了した。

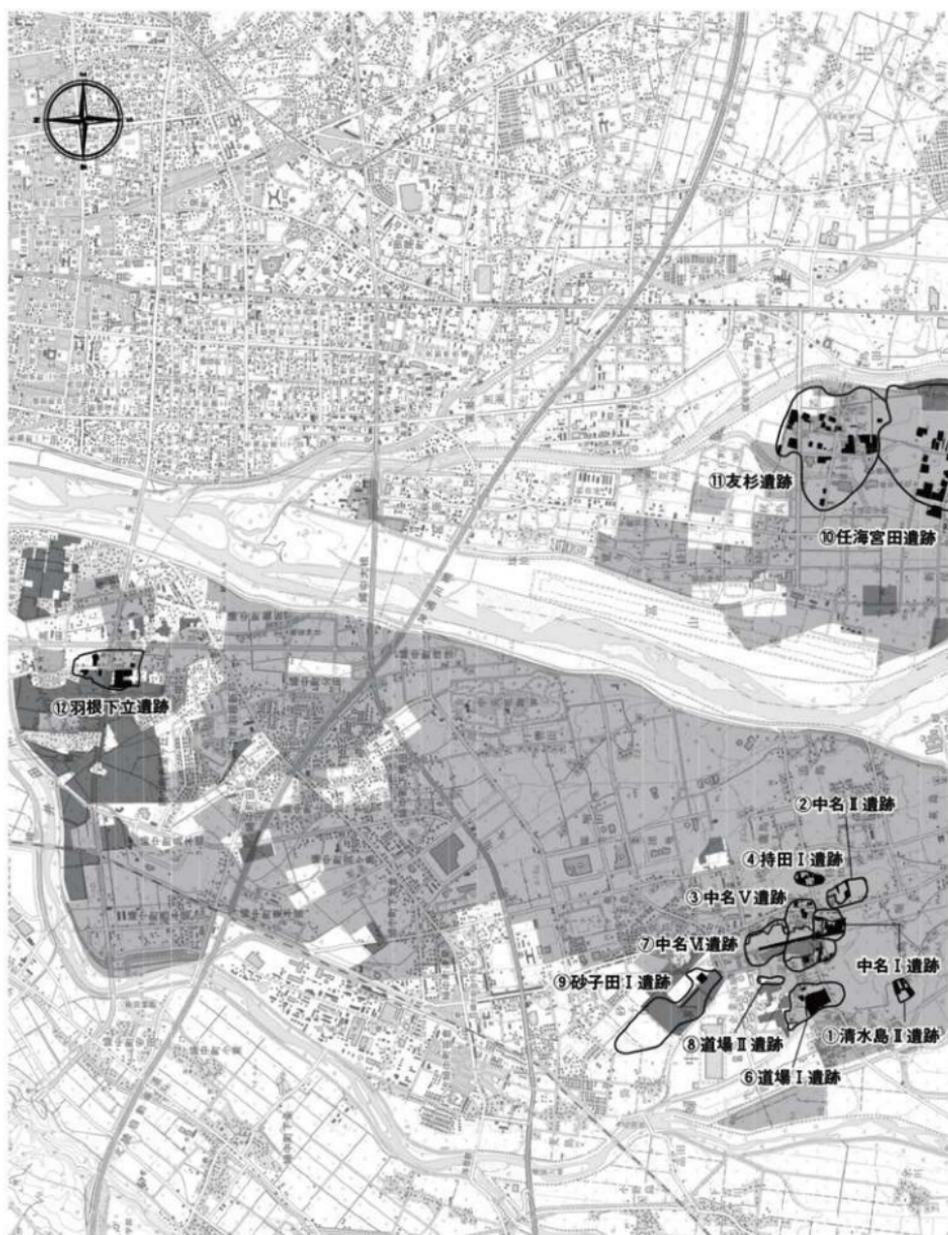
この復元工事に先立ち、昭和53年に第1次地区、昭和57年に第2次地区での分布調査が実施されたが、ともに埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。第1次地区の対策地域96.4haのうち90.27haの復元工事は昭和59年に完了し、第2次地区については昭和59年着工、対策地域450.5haのうち356.5haが1994（平成6）年までに復元工事を完了し、併せて498.2haが指定解除された。

第3次地区での分布調査は平成2・3・5・6年度に実施され、平成5・6年度の調査で埋蔵文化財包蔵地が確認された。平成6年度には試掘調査が実施され、遺跡の範囲が確認された。この結果を受け富山県農林水産部耕地課（以下耕地課）・富山県農地林務事務所・婦中町農地課・婦中町教育委員会（以下婦中町教委）・富山県教育委員会（以下県教委）・富山県埋蔵文化財センター（以下県埋文センター）により、その取扱について協議された。

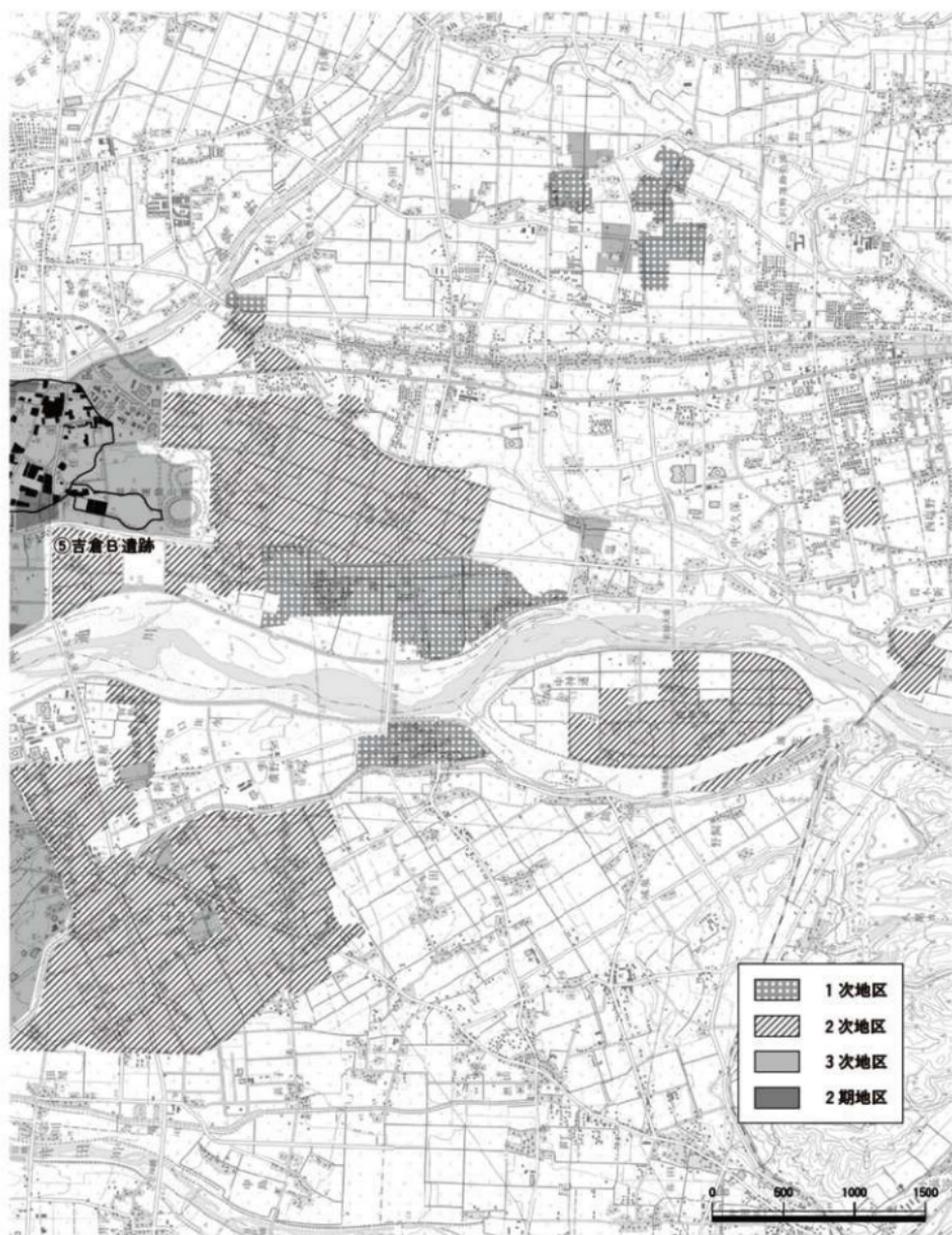
復元の対策工法には埋込客土工法と上乗せ客土工法があるが、遺跡を最大限に保存するために上乗せ客土工法への工法変更の検討や計画田面高の調整がされ、平成6年度には婦中町教委・県埋文センターによる埋蔵文化財本発掘調査が開始された。財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所（以下財団）は平成7年度から本発掘調査を受託し、平成18年度までの12年間に11遺跡、約196,000㎡（延面積約308,000㎡）の本発掘調査を実施した（第1表）。

第3次地区の復元工事は1992（平成4）年に着手し、2004（平成16）年までに対策地域510.3haのうち436.9haの復元工事を完了する予定であったが、2003（平成15）年に計画変更があり、2008（平成20）年度まで工期延長となった。また、平成9年には神通川流域二期地区（3号地）89.6haの復元工事が開始され、平成20年度の復元工事を完了を目標に進められた。

しかし、社会状況の変化から2005（平成17）年には当初復元の対象としていなかった市街化区域内汚染農用地でも復元工事を実施することとなり、神通川流域第3次地区と神通川流域二期地区内にお



第1図 神通川流域における発掘調査位置



ける復元工事は2011(平成23)年度までの工期延長を含む計画変更となった。

変更された復元工事計画は平成17年度に耕地課から県教委に示された。工事予定地内では、17年度に富山市教育委員会(以下富山市教委)が有沢地区一帯で実施した分布調査において、新たに約62,500㎡の埋蔵文化財包蔵地が確認され、有沢下立遺跡(平成18年10月10日には羽根下立遺跡(No. 201619)と改称)として2006(平成18)年4月10日付で新規登録されており、この取扱について同年6月に耕地課・富山農地林務事務所・県教委・富山市教委・財団による協議が行われた。

その結果、18年度秋に富山市教委が試掘調査を実施し、その結果に基づき工事計画を調整し、19年度に財団が本調査を実施することとなった。

第1表 神通川流域第3次地区における埋蔵文化財発掘調査

調査年度	遺跡名	発掘調査報告書No	各遺跡の調査面積		調査面積 面積㎡ (延面積㎡)	検出遺構	出土遺物
			面積㎡	延面積㎡			
1995 (平成7)	①清水島Ⅱ	1	2,830	4,420	3,276 (5,332)	雁立柱建物・井戸・溝・土坑・溝列・墓塚・集石遺構	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸・青磁・白磁・青化・青白磁・瓦器・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	②中名Ⅱ	1	456	912			
1996 (平成8)	③中名Ⅲ	1	2,425	4,021	15,448 (27,111)	雁立柱建物・井戸・溝・土坑・石樋	中世土師器・中世土師器・珠洲・青磁・白磁・土師・卑土・土師・木製品・石製品・金属製品
	④中名Ⅴ	2	1,217	2,434			
	⑤持田Ⅰ	1	6,006	7,606			
1997 (平成9)	⑥吉倉B	5	5,800	13,050	14,375 (30,188)	雁立柱建物・土台建物・井戸・溝・土坑・墓塚・集石遺構	中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸・青磁・白磁・青白磁・越中瀬戸・木製品・石製品・金属製品
	⑦中名Ⅴ	2	11,892	24,832			
1998 (平成10)	⑧吉倉B	5	2,883	5,766	16,301 (28,003)	土師器・雁立柱建物・土台建物・井戸・溝・土坑・溝列・集石遺構・高・田河遺	土師器・須恵器・埴輪・製瓦土師・中世土師器・八尾・珠洲・瀬戸・青磁・白磁・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	⑨中名Ⅴ	2	3,727	7,239			
	⑩遺場Ⅰ	3	12,664	20,764			
1999 (平成11)	⑪中名Ⅴ	4	8,037	19,945	17,409 (38,302)	雁立柱建物・雁立柱建物・井戸・溝・土坑・溝列・集石遺構・高・田河遺	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・美濃・青磁・白磁・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	⑫中名Ⅵ	4	4,139	12,122			
	⑬遺場Ⅰ	3	5,322	6,124			
2000 (平成12)	⑭遺場Ⅱ	3	111	111	22,312 (28,047)	雁立柱建物・溝・土坑	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・美濃・青磁・白磁・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	⑮中名Ⅴ	4	951	2,853			
2001 (平成13)	⑯砂子田Ⅰ	4	2,965	2,965	35,787 (49,840)	雁立柱建物・溝・土坑・集石	土師器・須恵器・土師・石製品
	新任教官田	6	18,396	22,229			
2002 (平成14)	前任教官田	7	35,787	49,840	34,320 (45,346)	雁立柱建物・雁立柱建物・井戸・溝・土坑・墓塚・水田跡・高・田河遺	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・美濃・青磁・白磁・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	前任教官田	8	34,320	45,346			
2003 (平成15)	前任教官田	8	624	809	10,764 (25,000)	雁立柱建物・雁立柱建物・井戸・溝・土坑・道路・土塚墓	土師器・須恵器・中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・美濃・青磁・白磁・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	辻友杉	9	10,140	24,191			
2004 (平成16)	辻友杉	9	13,613	16,607	9,359 (11,400)	雁立柱建物・雁立柱建物・井戸・溝・土坑・道路・土塚墓	中世土師器・八尾・珠洲・越前・瀬戸・美濃・青磁・白磁・越中瀬戸・伊万里・唐津・木製品・石製品・金属製品
	辻友杉	9	9,359	11,600			
2006 (平成18)	辻友杉	9	2,829	2,829	196,083 (308,615)	雁立柱建物・井戸・溝・土坑・道	中世土師器・珠洲・瀬戸・美濃・青磁・白磁・木製品・石製品・金属製品
	辻友杉	9	2,829	2,829			
合計					196,083 (308,615)		

- 1 清水島Ⅱ遺跡、中名Ⅱ遺跡、持田Ⅰ遺跡発掘調査報告書-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2002
 2 中名Ⅰ、Ⅴ遺跡発掘調査報告書-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2003
 3 道場Ⅰ、Ⅱ遺跡発掘調査報告書-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2004
 4 中名Ⅴ、葛巻跡、砂子田Ⅰ遺跡発掘調査報告書-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2005
 5 吉倉Ⅱ遺跡発掘調査報告書Ⅰ-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2005
 6 持田Ⅰ遺跡発掘調査報告書Ⅰ-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2006
 7 新任教官田遺跡発掘調査報告書Ⅰ-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2007
 8 前任教官田遺跡発掘調査報告書Ⅰ-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2008
 9 辻友杉遺跡発掘調査報告書-公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-2010

(2) 試掘調査

試掘調査は富山市教委により平成18年10月10日～11月4日にかけて実施され、古代～中世・近世にかけての2層の遺構の広がりと、縄文時代の遺物包含層を確認した。

第2表 試掘調査結果

	調査期間	対象面積 (㎡)	遺跡確認面積 (㎡)	調査対象面積		
				(㎡)	(㎡)	時代
羽根下立	10.10～11.14	20,420	11,670	延べ 17,080	1,300	上層(中世)
					11,670	中層(古代～近世)
					4,110	下層(縄文時代)

(3) 本調査

本調査については、平成18年度に耕地課から県教委に調査依頼があり、それを財団が受託し、平成19年5月16日～10月30日にわたり実施した。調査体制・調査期間等は以下の表のとおりである。

第3表 調査体制・調査一覧

調査事業 担当	総括	所長 岸本 雅敏		総務	チーフ 浅地 正代		調査総括 調査員			調査員	
		主 査 山本 正敏	副 査 加藤 豊次郎		主 任 岩田 扶紀	主 任 中川 道子	主 任 細江 真澄	主 任 中川 道子	主 任 細江 真澄	主 任 中川 道子	主 任 細江 真澄
遺跡	地区	遺構面	調査期間	面積 (㎡)	調査担当	検出遺構	出土遺物		工事請負	空中写真 測量	
羽根下立 (01HO)	A1	中 近 世	5.16～6.22	426	青山裕子	掘立柱建物・井戸・溝・土坑	越中瀬戸・唐津・伊万里・磁石		依藤工業 株式会社	アジア航測 株式会社	
		縄文時代	6.25～7.12	426	永井三郎	住居・土坑・埋栗	縄文土器・打製石斧・磨製石斧				
	A2	中 近 世	5.21～8.3	1,547	青山裕子	掘立柱建物・井戸・溝・土坑	越中瀬戸・唐津・伊万里・磁石				
		縄文時代	8.6～8.30	332	永井三郎	住居・土坑	縄文土器・打製石斧・磨製石斧・土冠				
	A3	中 近 世	5.30～8.27	1,432	細江真澄 永井三郎	掘立柱建物・井戸・溝・土坑	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・磁石				
	A4	中 近 世	5.16～8.3	4,030	中川道子	掘立柱建物・井戸・溝・土坑	中世土師器・珠洲・越中瀬戸・唐津・伊万里・磁石・釘				
		縄文時代	8.6～8.25	3,405	細江真澄	住居・土坑・埋栗	縄文土器・打製石斧・磨製石斧				
	B1	中 世	7.6～8.25	428	細江真澄	溝・土坑	中世土師器・珠洲				
	B2	中 世	8.7～10.23	1,450	青山裕子	掘立柱建物・井戸・溝・土坑	中世土師器・珠洲				
		縄文時代	10.24～10.30	281	永井三郎	土坑					
	B3	中 世	7.13～10.4	689	青山裕子	土坑	中世土師器・珠洲・白磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・磁石・五輪塔・釘				
					細江真澄						

2 調査経過

発掘調査の基準となるグリッドは、日本測地系2000平面直角座標7系X座標75,480m Y座標1,400mを原点X0Y0とした。グリッドは2m方眼とし、各グリッド名は北東交点の座標とした。

遺跡の範囲は県道富山・小杉線をほぼ中央にして南北約380m、富山環状線以西に東西約200mで、発掘調査範囲は県道以南をA地区、以北をB地区とし、A1～A4の4地区、B1～B3の3地区の計7地区である。

調査の作業工程と内容については、文化庁による「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）」（平成16年10月）に概ね則っている。



第2図 調査区割図 (1:1,500)

3 普及活動

発掘調査成果を広く公開・普及するため、地元小学生の校外学習・中学生の職場体験学習（14歳の挑戦）の受入・現地説明会を実施した。

校外学習として地元の富山市立神明小学校の発掘現場見学があり、平成19年7月20日に5年生約50人、7月23日に4年生約40人が発掘作業と出土遺物を見学した。身近な場所で、現地面からさほど深くない所から見つかった、遙か昔の住居や井戸に驚いたり、出土した遺物を恐る恐る手に取り、その感覚を興奮気味に話していた。

職場体験学習については、1回目は平成19年7月10日～11日（2日間）で富山大学人間発達科学部附属中学校から5名、2回目は平成19年10月1日～5日（5日間）で富山市立北部中学校から2名が発掘作業と遺物整理作業を体験した。

現地説明会は現地在交通量の多い幹線道路沿いで且つ、住宅地に隣接していて駐車場の確保が困難である等の制限から、地元住民を主対象とし、平成19年8月2日（木）の午前10時～12時・午後13時～15時に開催した。会場は近世の区画溝に囲まれた掘立柱建物群と井戸があるA2地区、中世の掘立柱建物群・井戸・畠があるA4地区で、現地解説と共に出土遺物の展示を行った。出土遺物には中世・近世の土器・陶磁器をはじめ、先に調査が完了したA1地区出土の縄文時代晩期の埋設土器の展示もあり、約100名の参加者は興味深そうに見学していた。参加者の中には、先の校外学習で現地を見学し、夏休みの宿題として本遺跡についてレポートする生徒もあり、熱心に質問する姿が見られた。



4 遺物整理作業の経過

発掘調査により出土した遺物は、現場において洗浄・注記を行った。調査終了後は本格整理に向けて図面や遺物の基礎的分類・整理を行うほか、木製品・石製品・金属製品については整理台帳を作成し、次年度以降の委託業務準備を進めた。なお、調査概要は「平成19年度 埋蔵文化財年報」で公表している。

本格的な整理業務は平成20年度から開始し、20年度は土器・陶磁器の接合、実測を中心に作業を進める一方で、自然科学分析や遺物写真撮影、遺構図面編纂を行った。21年度は遺物復元、遺構・遺物観察表等の作成、原稿執筆の外、遺物写真撮影、自然科学分析、保存処理、遺物図面編纂を行った。21年度は原稿執筆、編集、校正、印刷を行い、報告書刊行後遺物・資料を富山県に移管した。

整理業務において業務委託は大きな割合を占め、整理期間短縮や遺跡を評価するための成果を得る等の目的で専門機関に委託した。詳細な委託先は以下の表のとおりである。

遺物実測は木製品・石製品・金属製品を対象とし、作業の効率化を図るため実施した。

自然科学分析は木製品・石製品についての分析で、当時の技術や木材・石材の利用状況や流通を復元することを目的に漆塗膜分析・樹種同定・石材鑑定を実施した。

遺物写真撮影は報告書掲載用の写真を撮影するもので、デジタルカメラまたは4×5判フィルムで撮影された。木製品・石製品・金属製品については実測及び保存処理業務に先立ち、土器・陶磁器については復元作業終了後にそれぞれ撮影した。

保存処理は出土したままの状態では整理作業や保管に支障をきたすような脆弱な遺物について、保存のための科学的な処理を施すもので、遺物の材質や状態に最適な方法で、形状や質感が大きく損なわれないような方法で実施する。木製品については糖アルコール含浸法により処理した。

図面編纂は報告書掲載用の挿図作成を目的とし、遺構図・遺物実測図ともにデジタルデータ化後、レイアウト作業を行い、印刷用データを作成した。

第4表 整理体制・委託業務一覧

実施年度	平成20年度		平成21年度		平成22年度	
整理業務 担当	総括	所長 岸本 雅敏	総括	所長 岸本 雅敏	総括	所長 岸本 雅敏
		主任 山本 正敏		副所長 池野 正男		副所長 池野 正男
	総務	チーフ 浅地 正代	総務	課長 竹中 慎一	総務	課長 竹中 慎一
		主任 岩田 扶紀		チーフ 浅地 正代		チーフ 浅地 正代
		調整総括 調査第二課長 河西 健二		調整総括 調査第二課長 河西 健二		調整総括 チーフ 中川 道子
担当	主任 中川 道子	担当	主任 町田 尚美	担当	主任 町田 尚美	
委託業務	遺物整理員	株式会社人材派遣北陸	テンスタッフフォーラム			
	写真撮影	アーガス・フォスタジオ	写房 楠華堂			
	遺物実測	財団法人大阪市文化財協会 (木製品・金属製品等)				
		株式会社アルカ(石製品)				
	分析	滋賀文化財科学研究所(漆塗膜分析)	株式会社古環境研究所(石材鑑定)			
	保存処理		株式会社古環境研究所(木製品)			
図面編纂	アジア航測株式会社	株式会社 上智				

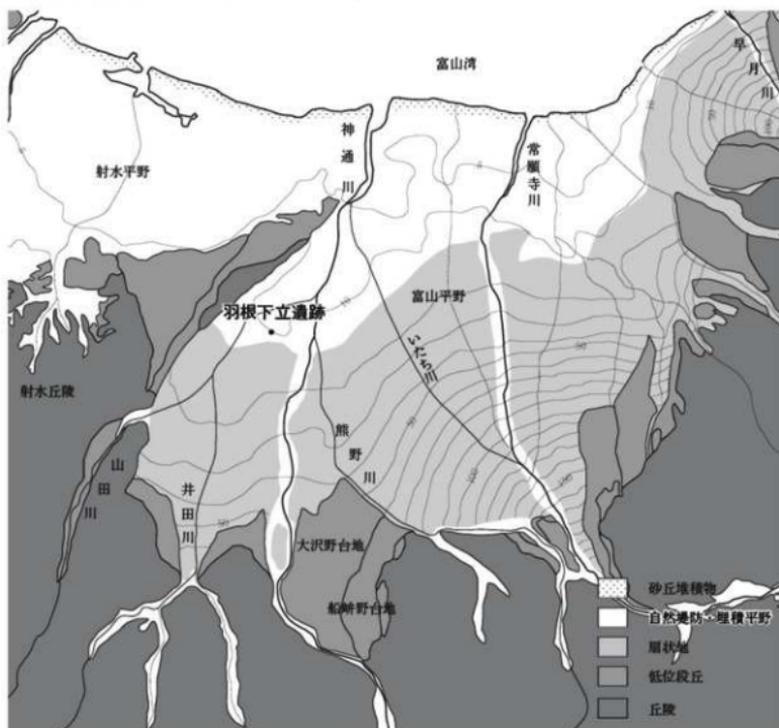
第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

羽根下立遺跡は富山県中央部に広がる富山平野西寄りに位置する。行政区では富山市に属し、合併以前の婦負郡婦中町との市町村境に近い。富山平野は常願寺川と神通川によって形成された複合扇状地で、その背後に連なる立山連峰の豊かな伏流水によって潤う土地である。常願寺川は上流に立山カルデラの膨大な崩壊堆積物を抱え、日本有数の暴れ川として知られる。この勢いが強いため、神通川扇状地は西の呉羽丘陵側へ押されたような状態となり、扇状地の形状は不明瞭となっている。

また、遺跡は飛騨に源を発する神通川とその支流である井田川との合流地点から南西に1.5kmの自然堤防上にあり、標高は約11mを測る。付近には常願寺川水系の小河川や用水が数多く流れることから、周辺一帯は近現代に至るまで度重なる水害を受け続けてきた土地ともいえる。

遺跡中央には横切るように主要地方道富山小杉線が貫いているが、近年、遺跡東側で富山市環状線草島西線との交差点が開通したことを受け周辺開発が増加している。交通量はさらに増大し、現在では非常に交通混雑の激しい場所となっている。



第3図 遺跡周辺の地形

2 歴史的環境

近隣は遺跡分布がまばらで、羽根下立遺跡と同じ自然堤防上には、鶴坂Ⅰ遺跡、鶴坂寺跡があるにとどまる。しかし西側の呉羽山丘陵とその縁辺一帯は、県内でも屈指の遺跡集中地域として知られる。

丘陵西の境界新扇状地には境界新遺跡があり、旧石器時代の遺跡がみつまっている。県内の旧石器には東北系の石器群が多いが、ここでは瀬戸内系の剥片や石核が出土している。呉羽丘陵南端には杉谷遺跡群があり、全体的に石器数が少ないことからキャンプサイトのような場所が想定されている。

続く縄文時代にも杉谷遺跡群周辺では草創期の遺物が出土している。海進期にあたる前期では呉羽丘陵北の低地に集落が展開する。日本海側最大級の小竹貝塚、蛭ヶ森貝塚は、ともにヤマトシジミを主体とした貝塚で、古放生津潟緑の墓域を含む集落が極めて良好な状態で遺されている。中期になると遺跡数は著しく増加し、北代、杉谷、古沢周辺を主体に遺跡分布が拡大する。国指定史跡の北代遺跡は中期後半の広場を中心とした集落跡で、三角埴形土製品が複数出土したことで知られる。後期や晩期前半には遺跡が減少するが、晩期後半には再び丘陵上で展開がみられるほか、神通川扇状地などの低地にも遺跡が散見し始めており、羽根下立遺跡もそうした遺跡のひとつと考えられる。

弥生時代では丘陵一帯に遺物が確認されているが、概ね後～終末期に位置づけられ、のちの古墳群形成の足掛かりとなるものであろうか。白鳥城跡は中世の山城であるが、この下層で弥生終末期の環濠とみられる遺構が確認されており、高地性集落の存在が認められる。西金屋京平遺跡でも同時期の遺物が出土しており、丘陵上に同じような集落が点在していたことが想定される。

丘陵には弥生時代終末から古墳時代初期にかけて墳墓群が次々に築かれ始めるが、古墳時代全時期を通して古墳の造営が続けられ、古墳密集地帯となっている。丘陵南西端の杉谷古墳群では、山陰文化圏との繋がりが想定される四隅突出型墳丘墓をはじめ、多くの墳丘や方形周溝墓が集中している。出土遺物には素環頭太刀、鉄鏃、銅鏃、ガラス製小玉などの副葬品があり、有力支配層の存在がうかがふ。金屋天神山古墳群では四隅突出型墳丘墓のほか、前方後円墳、円墳がみられ、畿内的な墳形である前方後円墳と山陰系の四隅突出型が同一墓域内に築かれており、勢力の変遷をたどる好資料である。古墳時代後期には斜面を利用して横穴墓が造られ、丘陵北東では安養坊番神山横穴墓群、南西には金屋陣の穴横穴墓群がみられる。

古代の律令制の下では婦負郡の郡域に比定される。呉羽丘陵の北西斜面では須恵器生産が行われており、西金屋センガリ山窯跡、金草Ⅰ号窯を皮切りに8世紀代後半に操業はピークを迎える。白鳥城跡、寺町城乗Ⅰ・Ⅱ遺跡のほか、丘陵東の低地には友坂遺跡があり、古代から中世の集落が調査されている。羽根下立遺跡の南に位置する鶴坂神社は『延喜式』神名帳に記載された式内社である。万葉集には大伴家持の「婦負郡鶴坂河を渡る時」作歌した一首があり、諸郡巡行で訪れたものとみられている。神社周辺は伊勢神宮領の鶴坂御厨とされ、『和名抄』に見える婦負郡十郷のうち川合郷との関係が考えられている。別当寺は鶴坂寺で、鶴坂山または高柳山の山号を称する真言宗寺院であった。明治維新後の神仏分離令により神社だけが残ったが、各所に同じ山号の寺院を建立したとされ、羽根下立遺跡に隣接する高柳山常禪寺も鶴坂寺と深い所縁をもつものであろう。

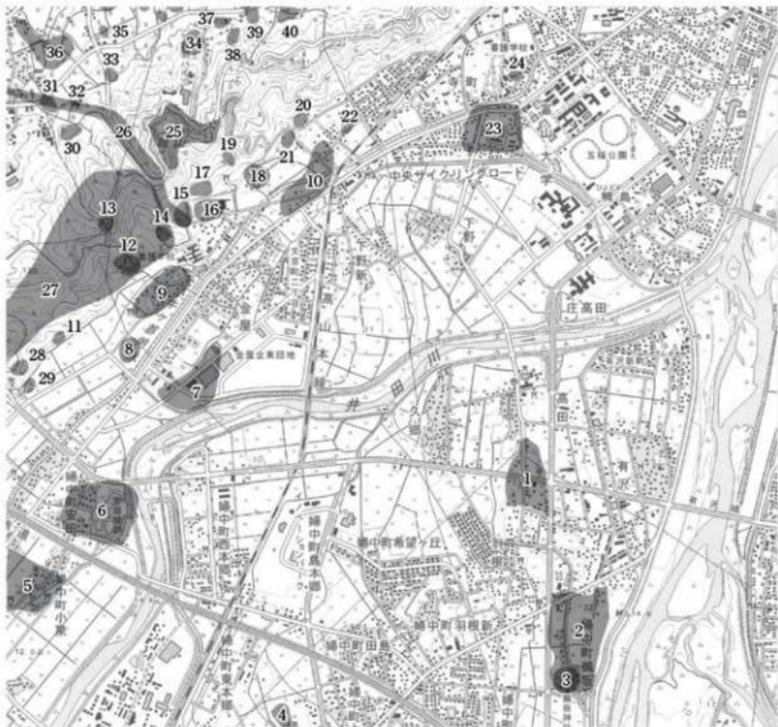
中世には徳大寺家領宮川荘に属すとみられる。荘域の推定範囲内では神通川左岸に道場Ⅰ・Ⅱ遺跡、中名Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ遺跡、清水島Ⅱ遺跡、持田Ⅰ遺跡ほか、右岸に任海宮田遺跡、友杉遺跡、吉倉A・B遺跡、南中田A～D遺跡ほか多くの遺跡の存在が確認されている。また、『越登賀三州志』故墟考には宮川郷有澤村に山伏墳という地があり、新川郡弓庄城主土肥氏の庶流である有澤氏の館が存在した

ことを示す記録が見える。有澤氏は代々居住していたとされ、地名の由来とも考えられる。

金屋地内では古くから田畑の耕作で鉄滓が出土することが知られ、地名が「野鍛冶」、「鋳物師」からくるものと伝承されてきた。金屋南遺跡の発掘調査ではこの伝承を裏付けるかのごとく、整然と区画された中世の大規模集落とともに、溶解炉や鋳型、炉壁、鉄滓などの鍛冶関連の遺構や遺物が多数出土し、鍛冶職人や鋳物師の集団として注目を集めた。遺跡周辺には天正13年（1585）の豊臣秀吉軍による富山城攻めの際、本営地であったとされる白鳥城跡のほか、その出城である安田城跡、大船城跡など戦国期の軍事的拠点が数多く取り巻いており、これらに向けての鉄器供給地であったという見方もある。

近世には富山藩領の新川郡に属す。領主前田氏の支配下では、年貢増徴のため新開政策に重点が置かれており、慶長9年（1609）前田利長からの野開許可状には、婦負郡豊田村、塚原村、鶴坂村、羽根村の4村のうち新村を立てることを許可する記述がある。

今回の調査に先立って試掘調査では、太平洋戦争中の焼夷弾が土中に発見された。昭和20年8月1日の富山大空襲では富山歩兵連隊（現富山大学）から東方へ向かっての爆撃に無数の焼夷弾と小型爆弾を投下したという記録があり、当地もほぼ同時に被災したと考えられる。また、平成22年6月には富山市街地にある旧星井町小学校跡地の工事現場から複数の焼夷弾が発見され、現代においてなお発火するものもあるなど、戦火の凄まじさを彷彿とさせるニュースが報じられた。負の記憶として語り継がれる富山大空襲は、その甚大な痕跡を今も地中に遺したままとっている。



第4図 遺跡分布図（1：25,000）

第5表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	種類	時代
1	羽根下立遺跡	富山市羽根字下立割	集落	縄文(晩)・中世・近世
2	鶴坂Ⅰ遺跡	富山市鶴中町鶴坂	集落	古墳・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
3	鶴坂寺跡	富山市鶴中町鶴坂	社寺	中世
4	宮ヶ島Ⅱ遺跡	富山市鶴中町宮ヶ島	散布地	近世
5	友坂遺跡	富山市鶴中町友坂 他	集落・城館	古代・中世・近世
6	安田城跡	富山市鶴中町安田字川原 他	散布地・城館	古代・中世・近世
7	金屋南遺跡	富山市金屋	散布地・城館・集落	縄文・古代(平安)・中世・近世
8	金屋南Ⅱ遺跡	富山市金屋	散布地	古代・中世
9	金屋古屋敷遺跡	富山市金屋(二区)金屋字古屋敷割	散布地	中世
10	金屋向田遺跡	富山市金屋字向田割 寺町一区	散布地・集落	古代(平安)・中世
11	金屋Ⅱ遺跡	富山市金屋	散布地	弥生(終)
12	金屋山山西遺跡	富山市金屋	城館	中世
13	西金屋京平遺跡	富山市西金屋字京平	散布地	弥生(後)
14	金屋八幡山遺跡	富山市金屋	散布地	縄文(中)・弥生(終)
15	金屋登山遺跡	富山市金屋字登山割 他	城館	中世
16	金屋遺跡	富山市金屋字嘉平田・字熊谷	散布地	古墳・古代(奈良・平安)・中世
17	金屋嘉平田遺跡	富山市金屋字嘉平田 登山割熊谷	散布地	旧石器・古代・中世
18	寺町大平下遺跡	富山市寺町字大平下割 他	散布地	古代・中世・近世
19	寺町草山遺跡	富山市寺町草山割大平割登山	散布地	弥生(終)・古墳(前)
20	寺町城乗Ⅰ遺跡	富山市寺町字城乗	散布地	古代・中世
21	寺町城乗Ⅱ遺跡	富山市寺町字城乗	散布地	古代・中世
22	寺町遺跡	富山市寺町二区	散布地	中世
23	大福城跡	富山市五福字城 他	城館	戦国(安土桃山)
24	五福遺跡	富山市五福字青山	散布地	古代(平安)・中世・近世
25	白鳥城跡	富山市金屋字黄山割 他	集落・散布地・城館	弥生(後)・古代(飛鳥・白鳳)・中世(室町)
26	呉羽山古道	富山市住吉 他	道路	古代・中世
27	呉羽山丘陵古墳群	富山市古沢 他	古墳	弥生(終)・古墳
28	古沢谷の山遺跡	富山市古沢字宮ノ山 西金屋字平林	散布地	古代
29	安田北遺跡	富山市鶴中町安田	散布地	古代
30	金草Ⅱ遺跡	富山市古沢字金草 他	散布地	縄文・古代
31	吉作南Ⅰ遺跡	富山市吉作	散布地・集落	弥生・古代(奈良・平安)
32	吉作南Ⅱ遺跡	富山市吉作	散布地	縄文・古代
33	吉作南Ⅲ遺跡	富山市吉作	散布地	縄文(晩)
34	吉作南Ⅳ遺跡	富山市吉作	散布地	縄文・古代
35	吉作南Ⅴ遺跡	富山市吉作	散布地	古代
36	住吉遠草神社南遺跡	富山市住吉	散布地・窟	縄文・古代
37	遠分茶屋大谷遺跡	富山市呉羽町字大谷	散布地	古代
38	呉羽町大谷Ⅰ遺跡	富山市呉羽町字大谷	散布地	古代
39	呉羽町大谷Ⅱ遺跡	富山市呉羽町字大谷	散布地	旧石器・縄文
40	呉羽町長谷遺跡	富山市呉羽町長谷	散布地	縄文・古代(平安)・中世・近世

参考

富山県GISサイト <http://wwwgis.pref.toyama.jp/toyama/index.asp>

第Ⅲ章 遺跡の調査

1 調査方法

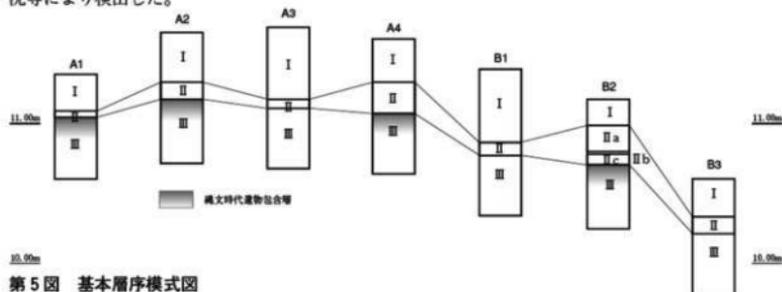
調査対象地の現況は水田及び畑地である。表土（耕土）は重機により除去し、包含層と遺構埋土については人力で掘削した。遺跡の西側は近代の自然流路により削られており、自然流路の落ち際まで遺構確認を行った。

2 層序

遺跡の標高差は南北1mを測る。基本となる層はⅠ層～Ⅲ層で、Ⅰ層は表土（耕土）、Ⅱ層は中世および近世の遺物包含層、Ⅲ層は地山となる（第5図・第6表）。

Ⅱ層は耕作に伴って削平されているため、層厚は薄い地区がほとんどであるが、B2地区では古墳時代以前の谷状地形上にⅡ層が比較的厚く堆積しており、Ⅱa層～Ⅱc層の3層に細分される。中世の遺構はⅡb層上面とⅢ層上面で検出しており、若干の時期差がある。また、A4地区では噴砂を確認したが、近世遺構は影響を受けていないことから、中世以前の地震とみられる。

Ⅲ層は地山で、上面は中世・近世遺構の検出面となるが、A1・A2・A4地区では縄文時代の遺物包含層でもある。土質・土色での細分層は困難で、各地区とも上面から約10～15cm程が縄文時代晩期を主とする遺物包含層である。縄文時代の遺構も確認したが、炭化物・焼土の検出、土器の出土状況により検出した。



第6表 基本土層一覧

	Ⅰ層	Ⅱ層	Ⅲ層
A1	2.5Y5/1黄灰色土(酸化鉄混)	2.5Y4/1黄灰色土(酸化鉄混)	2.5Y5/3黄褐色土(酸化鉄混)
A2	2.5Y5/1黄灰色土 (10YR5/6黄褐色土10%混)	2.5Y5/1黄灰色土(10YR5/6黄褐色土40%混)	2.5Y4/3オリーブ褐色砂質シルト (30YR6/9黄褐色砂質シルト40%、2.5Y4/2黄褐色土5%混)
A3	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルト (酸化鉄混)		2.5Y5/3黄褐色粘土質シルト
A4	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルト (酸化鉄混)	2.5Y4/4オリーブ褐色シルト (炭化物9%、酸化鉄10%混)	2.5Y5/4黄褐色砂質シルト(炭化物5%混)
B1	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルト	2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト	2.5Y4/4オリーブ褐色粘土質シルト
B2	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルト	Ⅱa層 10YR4/2灰黄褐色砂質土(酸化鉄混)	Ⅲa層 10YR5/4にぶい黄褐色シルト (2.5Y4/1黄灰色砂質土2%混)
		Ⅱb層 10YR4/1灰褐色砂質土2%、酸化鉄混)	Ⅲb層 10YR4/4褐色シルト
		Ⅱc層 10YR4/2灰黄褐色砂質土(酸化鉄混)	
B3	2.5Y4/3オリーブ褐色粘土質シルト		2.5Y5/4黄褐色粘土質シルト

3 遺構

遺構は総数1,915基を検出した。時期は縄文時代晩期、古墳時代、古代に属するものが少数あるほか、中世および近世に属するものが主体である。

縄文時代晩期の遺構はA1、A2、A4地区で確認した。この時期の掘り込みは判然とせず、焼土や炭化物の集中箇所を重点的に精査することで検出したものが多い。このため土坑としたものものなかにも、堅穴建物の可能性が高い遺構が含まれている。

古墳時代、古代の遺構はわずかで、B2地区において谷と土坑を検出した。

中世の遺構は全調査区で遺構を確認した。掘立柱建物、区画溝、井戸、土坑などがあり、掘立柱建物は構造や方位の違いから、時期差があると考えられる。

近世は遺跡南側のA地区でのみ確認されており、掘立柱建物、土台建物、区画溝、井戸、土坑のほか、畝跡を検出した。特にA2地区には遺構が集中しており、溝で区画された屋敷地では建物が繰り返し建て替えられた状況がうかがえる。

以下、主要な遺構について記述する。個々の詳細については観察表の記載に代えたい。

(1) 縄文時代晩期

A 住居・土坑

SX101A1 (第12図、図版4) 検出時、赤色の硬化面を精査したところ、炭化物が混入する埋土を確認できた。焼土の堆積はみられず、赤色の硬化面は1cm程の厚みであった。一括出土した深鉢(52)は上半部が欠損しているが、遺構検出面より10cm程度上から出土しており、遺構上部は後世の削平によって失われたものとみられる。

SX102A1 (第13図、図版5) 埋設土器。SX101A1よりわずかに低い面で検出した。掘形は明確でない。壺(54)は口縁部が欠損しているが、肩部以下が正位で遺存していた。底部には打ち欠いたとみられる穿孔があり、土器内の埋土中には割れ落ちた上部の破片が落ち込む。破片の下の埋土は内容物と考えられ、炭化物、焼土のほか、下位ではわずかに骨片が認められた。

SX401A2 (第9図、図版4) A2地区東壁際に位置。不整形で、2棟以上が重なっていると思われる。柱穴は確認できなかったが、焼土が3カ所で確認できたほか、西側には、長楕円形の炭集中箇所があった。炭層の深さは約20cmあり、比較的大きな破片の土器が出土している。

SX411A2 (第12図) SX401A2の南に近接する。埋土が10cm以上あり、比較的良好に残る。底面に凹凸がある。

SX412A2 (第12図) SX411A2に隣り合う。約20cmの埋土をもち、数点の土器が混入している。

SX801A4 (第14図、図版5) A4地区東側。縄文土器(II)が押しつぶされた状態で出土したもので、遺構の掘り込みはほとんどない。

SX802A4 (第14図、図版5) A4地区中央東寄り。Ⅲ層(地山)とは炭化物が混入するややしまりのない埋土で判別した土坑。横倒しになった縄文土器(9)の約1/2個体分が出土した。

SX803A4 (第14図) SX802A4の南に位置。縄文時代の遺構としては埋土が他と異なるが、遺物の出土もないため時期を推定できない。

SX804A4 (第10図、図版4) A4地区東端で確認した。掘形は浅いが、南端には焼土の広がりが見られ、住居の可能性がある。遺物は西側に散在しており、深鉢(61)等が出土した。内部で検出

したSK805A4、SK806A4は柱穴の可能性を考えたが、掘り込みが浅く可能性は低い。

SK807A4（第10図、図版4）SK804A4の南隣。Ⅲ層（地山）上面で中世・近世の遺構とともに一部を確認したが、約10cm掘り下げて全体を検出した。掘り込みはほとんどないが、中央には焼土の広がりがあり、さらにその周囲に炭化物が比較的多いことから住居の可能性はある。遺構内には遺物の集中地点が数か所あり、土器（44）や叩石（642）等がある。SK808A4はそのほとんどを近世の掘立柱建物の柱穴により破壊されているが、SK807A4に伴う柱穴の可能性はある。

SK809A4（第11図、図版4）A4地区東側調査区の西端で確認した。貼床状のやや硬化した面の広がりがあり、南北にやや突出した部分で焼土を検出したことから、住居と考える。南側の焼土は広く浅い堆積で、北側はやや焼土の堆積が厚いが広がり狭い。遺物は遺構内全体に散在している。

SK810A4（第14図、図版5）A4地区西側調査区。縄文土器（62）の破片が積み重なるように出土した。

SX811A4（第13図、図版5）SK810A4の北に位置。埋設土器。SX102A1と同様に掘形ははっきりしない。口縁部は後世の攪乱で一部欠損しているが、底部を打ち欠いた深鉢（29）が出土した。北にはA4取上No.104と称する遺物集中地点があり、深鉢（38）が出土している。

（2）古墳時代以前

A 谷

谷（第15図）上面はB2地区の中世遺構の検出面となる。東西に流れる広い谷筋に南北の狭い谷筋が合流し、幅をさらに広げながら北東へ流れる。今回の調査では遺物の出土はないが、埋蔵文化財包蔵地確認調査の際、やや北の地点で古墳時代の壺蓋が出土している。

（3）古墳時代

A 土坑

SK401B2（第15図）B2地区東側。中世の遺構に北側を破壊されているが、土師器甕（111）が出土している。

SK402B2（第15図）SK401B2より古い土坑で、土師器が出土している。

SK403B2（第15図）SK401B2、SK402B2の北東に隣接し、土師器（112）が出土している。

（4）中世

A 掘立柱建物

SB11（第34図）A2地区北東で1列2間分を検出した。柱痕跡がSP322A2、SP320A2で確認されている。A2地区では中世の建物はこの1棟のみであり、SD12A2以南では建物を確認していないことから、SD12A2が建物域を区画する区画溝と考えられる。

SB12（第24図、図版6）A3地区東寄りに位置。東側に伸びる可能性がある。SP51A3、SP57A3で柱痕跡が確認されている。

SB13（第24図、図版6）SB12の西に隣接する小型の建物である。

SB14（第25図、図版6）SB13の西で、SB15、SB16と重複する。2間×4間の規模に1間×1間が東側に取り付け南北棟建物である。もしくは柱穴を検出できなかったが3間×4間の総柱建物の可能性もある。また、さらに西側に伸びる可能性がある。SP104A3、SP106A3、SP108A3、

S P110A 3で柱痕跡が確認されている。

S B15 (第26図、図版6) 西側に伸びる可能性がある。S P125A 3、S P126A 3で柱痕跡が確認されている。またS P89A 3、S P90A 3でS B16と重複しており、S B15が新しい。

S B16 (第25図、図版6) 東西棟で、西側に伸びる可能性がある。S P125A 3、S P126A 3で柱痕跡が確認されている。またS P120A 3、S P124A 3でS B15と重複しており、S B16が古い。

S B17 (第24図、図版6) S D74A 3をはさんで北のA 4地区側で検出された3間の柱列。西側および北側に伸びる可能性がある。いずれの柱穴でも柱痕跡が確認されている。調査区内では建物としての広がりを確認できなかったが、他の建物との類似性から掘立柱建物として報告しておく。

S B18 (第27図、図版7) A 4地区北西隅の建物。重複する柱穴があることから、建て替えられた可能性がある。

S B19 (第28・29図、図版7) A 4地区西寄りに位置。南北の柱間が大きくとられるが、北面する一間の柱間は小さい。柱痕跡がS P558A 4、S P640A 4、S P641A 4、S P642A 4、S P644A 4、S P647A 4、S P653A 4、S P651A 4、S P657A 4、S P659A 4、S P660A 4、S P693A 4、S P709A 4、S P768A 4で確認されている。S P703A 4がS B22に付属する雨落ち溝S D678A 4に切られることから、S B22に先行する建物である。5間×5間の規模はS B22と共に当遺跡中、最大規模の建物で、S B22に先行する中心的建物である。

S B20 (第27図、図版7) A 4地区西端。1間×4間分を検出した総柱建物で、西側に伸びる可能性がある。柱痕跡がS P644A 4で確認されている。南北両端の柱間が狭いことから東西棟の可能性が高い。

S B21 (第27図、図版7) S B20と重複。1間×2間分を検出した総柱建物で、西側に延びる可能性がある。柱痕跡がS P679A 4で確認されている。

S B22 (第30・31図、図版7) S B19の東に隣接。四周に雨落ち溝がめぐる。柱間は南北が大きくとられ、西面する1間と東面する2間は小さい。柱痕跡がS P503A 4、S P505A 4、S P506A 4、S P507A 4、S P512A 4、S P513A 4、S P514A 4、S P518A 4、S P520A 4、S P523A 4、S P524A 4、S P528A 4、S P530A 4、S P532A 4で確認されている。東面する2間の柱間が狭いのは、1間分を増築したものと考えられる。増築前の建物規模は、桁方向の両側の柱間が小さい定型に当てはまり、雨落ち溝が東面だけ2重に検出されていることも整合する。S B19と共に当遺跡では最大規模の建物で、S B22は雨落ち溝をもつ点を含め、S B19に後出する中心的建物である。雨落ち溝S D552A 4、S D567A 4、S D568A 4、S D678A 4は幅24~55cm、深さ6~14cmである。S D568A 4は建物増築の際、掘られた新しい溝で、S D552A 4には古い溝の痕跡が見られる。

S B23 (第32図、図版7) A 4地区南西隅。2間×3間分を検出した総柱建物で、柱間は南北が大きくとられている。柱痕跡がS P625A 4、S P629A 4、S P631A 4、S P632A 4で確認されている。

S B24 (第32図、図版7) S B23の西隣。1列5間分が検出され、西および南に伸びる可能性がある。柱痕跡がS P633A 4、S P634A 4、S P765A 4で確認されている。

S B25 (第33図) A 4地区中央南寄り検出した。楕円形の柱穴をもつ。

S B26 (第33図、図版7) A 4地区東寄り。柱痕跡がS P166A 4で確認されている。

S B27 (第33図、図版7) S B26の東に位置。南側に伸びる可能性がある。柱痕跡がS P177A 4、S P216A 4、S P217A 4、S P220A 4、S P235A 4で確認されている。

S B28 (第34図、図版7) A 4 地区東端。東西棟で、東側に伸びる可能性がある。柱痕跡が S P 258 A 4、S P 259 A 4、S P 261 A 4、S P 265 A 4、S P 266 A 4、S P 267 A 4 で確認されている。

S B29 (第36・37図、図版8) B 2 地区東に位置。東西棟である。柱痕跡が S P 35 B 2、S P 37 B 2、S P 39 B 2、S P 40 B 2、S P 42 B 2、S P 47 B 2、S P 48 B 2、S P 49 B 2、S P 51 B 2、S P 54 B 2、S P 55 B 2、S P 56 B 2、S P 57 B 2、S P 58 B 2、S P 63 B 2 で確認されている。また S B29 には方形竪穴状遺構 S K 87 B 2 が伴う。S K 87 B 2 は $3.25 \times 1.95\text{m}$ 、深さ 60cm の隅丸方形で、床面は硬化している。

S B30 (第35図、図版8) B 2 地区中央南寄り。柱痕跡が S P 112 B 2、S P 195 B 2 で確認されている。

S B31 (第35図、図版8) S B30 の西で S B32 と重複する東西棟である。柱痕跡が S P 119 B 2、S P 128 B 2、S P 130 B 2 で確認されている。また方形竪穴状遺構 S K 107 B 2 が付属する可能性がある。S K 107 B 2 は $1.85 \times 1.6\text{m}$ 、深さ 3.6cm の不整形で同じく方形竪穴状遺構 S K 105 B 2 に切られる。

S B32 (第38図、図版8) S B31 と重複する南北棟である。柱痕跡が S P 129 B 2、S P 135 B 2、S P 314 B 2 で確認されている。また S B32 には方形竪穴状遺構 S K 105 B 2 が付属する。S K 105 B 2 は $1.7 \times 2.5\text{m}$ 、深さ 20cm の不整形で、同じく方形竪穴状遺構の S K 107 B 2 を切る。S K 107 B 2 が S B31 に付属すると考える場合には S B32 が新しいことになる。

S B33 (第35図、図版8) S B32 の西隣。南北棟で、南側に伸びる可能性がある。柱痕跡が S P 125 B 2、S P 303 B 2 で確認されている。

S B34 (第39図、図版8) B 2 地区中央北寄り。東西棟で、北側に伸びる可能性がある。柱痕跡が S P 323 B 2、S P 335 B 2 で確認されている。また S B34 には方形竪穴状遺構 S K 159 B 2 が付属する。S K 159 B 2 は $1.82 \times 1.6\text{m}$ 、深さ 80cm の方形で、同じく方形竪穴状遺構 S K 160 B 2 を切る。また S P 334 B 2 は S X 100 B 2 及び S K 297 B 2 床面より検出しており、両遺構より古い。

S B35 (第40図、図版8) S B34 の西で重複する。1間×3間分を検出した総柱建物跡で、北側に伸びる可能性がある。柱痕跡は S P 294 B 2 で確認されている。

S B36 (第39図、図版8) S B35 と重複。1間×4間分を検出した総柱建物跡で、北側に伸びる可能性がある。柱痕跡は S P 206 B 2、S P 241 B 2、S P 244 B 2、S P 320 B 2 で確認されている。また、S B36 には方形竪穴状遺構 S K 297 B 2 が付属する。S K 297 B 2 は $2.0 \times 1.8\text{m}$ 以上、深さ 70cm の方形である。なお S X 100 B 2 は S K 297 B 2、S P 333 B 2 よりも新しい。

S B37 (第40図) B 2 地区西寄りに位置。1間×4間分を検出した総柱建物跡で、北側に伸びる可能性がある。柱痕跡が S P 198 B 2、S P 201 B 2、S P 203 B 2、S P 205 B 2、S P 286 B 2、S P 287 B 2 で確認されている。また S B37 には方形竪穴状遺構 S K 221 B 2 が付属する。S K 221 B 2 は $2.1 \times 1.7\text{m}$ 、深さ 21cm の不整形で、同じく方形竪穴状遺構の S K 222 B 2 を切る。

S B38 (第40図) S B37 と重複。1列2間分を検出し、北及び東側に伸びる可能性がある。すべての柱穴で柱痕跡が確認されている。

S B39 (第38図、図版8) S B29 の北。1間×3間分を検出した総柱建物跡で、北側に伸びる可能性がある。柱痕跡が S P 261 B 2、S P 327 B 2、S P 328 B 2 で確認されている。また、S B39 には方形竪穴状遺構 S K 88 B 2 が付属する。S K 88 B 2 は $2.85 \times 2.1\text{m}$ 、深さ 34cm の不整形である。

S B40 (第41図、図版9) B 3 地区西に位置。2間×2間分を検出し、S B41 と重複する。切り合

いから S D122 B 3、S D160 B 3 より古い。

S B41 (第41図、図版9) 切り合いから S D122 B 3、S D160 B 3 より古い。S B40と重複し、建物の方位もほぼ同じであるが、柱穴規模は S B40に比べやや小さい。

S B42 (第42図、図版9) B 3地区中央南に位置。南東隅の柱穴は確認できなかった。

S B43 (第42図、図版9) S B42の北で、S B44、S B45と重複する。梁行の柱間が大きく違う。

S B44 (第43図、図版9) S B43、S B45と重複。切り合いから S D122 B 3 より古い。

S B45 (第43図、図版9) S B43、S B44と重複。S B47と建物方位が一致する。

S B46 (第44図、図版9) B 3地区中央北寄りに位置し、少なくとも3間×4間の規模を持つ。柱穴規模は、S B40、S B47、S B48と同様やや大きめであるが、これらとは建物方位が異なる。

S B47 (第45図) B 3地区東端に位置し、S B48と重複する。S B40などと同様、比較的大きめの柱穴をもつ。切り合いから S R 1 B 3 よりも古く、B 3地区のなかでは古い遺構である。

S B48 (第45図) S B47と重複し、建物方位もほぼ同じであるが新旧はわからない。東側に伸びると思われるが、西側にもう1間伸びる可能性がある。比較的大きめの柱穴をもつ。

B 横列

S A 1 (第44図) B 1地区東寄りに位置。東西方向の欄である。

S A 2 (第44図) B 3地区南東。南北方向の欄で、S B47と重複するが、切り合いから S B47より新しい。

C 井戸

S E 8 A 1 (第46図) A 1地区の南端。断面観察からは井戸側の痕跡があることから、木枠もしくは曲物等の井戸側があったと考えられる。中世土師器の外、縄文土器(93)が出土している。

S E 122 A 3 (第46図、図版10) A 3地区建物群の南に位置する。素掘りで、下部には円形の水溜痕跡があり、曲物等が掘えられていたと考えられる。中世土師器が出土している。

S E 730 A 4 (第46図) S B22の北西に近接する。素掘りで、下部には水溜等の痕跡はみられない。断面形が直線的でないのは、地震によるずれの可能性がある。中世土師器(170・171)、珠洲、円形板(621)等が出土している。

S E 90 B 2 (第47図、図版10) S B29の北に近接する。Ⅱb層上面で確認したもので、ほぼ垂直に掘られ、下部には水溜等の痕跡はみられない。出土遺物には中世土師器(269)、珠洲、瀬戸(447)、土師器(118)等がある。

S E 98 B 2 (第47図、図版10) B 2地区ほぼ中央で確認した S B30~33、S B34~36間に位置する。掘鉢状に掘られており、下部には水溜等の痕跡はみられない。中世土師器(211・334)、珠洲、八尾等が出土している。

S E 99 B 2 (第47図、図版10) S E 98 B 2の南西に近接する。ほぼ垂直に掘られており、底部は水平で水溜等の痕跡はみられない。出土遺物には中世土師器、珠洲、八尾がある。

D 土坑

S K11 A 1 (第49図) A 1地区南端に位置。浅い方形で、埋土には炭化物を含み、中世土師器(339・340)が出土した。

S K32 A 1 (第49図) A 1地区北東に位置。底部は堅くしまる。中世土師器、八尾が出土。

S K205 A 4 (第49図) A 4地区中央付近で、試掘トレンチにより西半を破壊されている。掘鉢状の断面形で、底面付近には炭化物層があり、その上部の埋土にも炭化物が混じる。遺物は出土してい

ない。

S X100B 2 (第49図) S B36に付随するS K297B 2より新しい浅い土坑で、焼土が堆積している。中世土師器(306)、珠洲、青磁、釘(653)が出土している。

S K329B 2 (第49図) S B39の東に位置し、S B39を構成するS P261B 2より新しい浅い堅穴状土坑。底面はやや硬化している。出土遺物には中世土師器(199)がある。

S K216B 3 (第48図) B 3地区西側に位置する。S D122B 3に伴う土坑と思われる。下層は炭化物が約60%混じっており、埋葬施設であると思われる。また、砂岩製の加賀型宝塔の火輪(648)が出土しているが、二つに割れており、間に厚さ15cm程、土や礫、炭が堆積していた状況から、割れたものを廃棄したか、S D122B 3に囲まれた平坦面から、転落してきたものと思われる。

E 溝

S D12A 2・S D74A 3 (第48図) ほぼ東西に流れ、断面V字形の比較的深い溝。掘立柱建物群を南北に分割する区画溝として機能していたと考える。中世土師器(180)、珠洲(405・439)、青磁(371)の外、須恵器(125)、土師器等が出土している。

S R1B 3 (第48図、図版11) B 3地区東側を南北に延び、北では西に曲がる。逆台形に掘られており、中層から下層にかけて、12世紀後半～13世紀前半の中世土師器の皿が大量に出土した。珠洲は吉岡編年Ⅰ～Ⅱ期のものが出土している。

S D122B 3 (第48図、図版11) B 3地区西側に位置し、長方形に巡る。幅が広いところは浅く、狭いところはV字状に掘られており深い。遺物は、主に上層で出土した。珠洲は、吉岡編年Ⅰ～Ⅱ期のものが多いが、Ⅲ～Ⅳ期のものもあり、また、15世紀の中世土師器の皿がみられることから、B 3地区のなかでは、新しい遺構である。検出時には、溝を埋めるために投げ込まれたと思われる、直径15cm程度の石が多量にあった。溝に囲まれた平坦面は、この部分だけで建つ建物はなく、また、溝内のS K216B 3から火輪が出土していることから、墓である可能性がある。

S D160B 3 (第48図、図版11) B 3地区西側に位置。V字状に掘られており、遺物は主に12世紀後半～13世紀の中世土師器と珠洲で、S R1B 3と同時期である。切り合いから、S B40、S B41より新しい。

(5) 近世

A 掘立柱建物

S B1 (第54図、図版12) 東および南側へ伸びる可能性がある。柱穴規模と柱間に特徴のある大型の建物。S P18A 1、S P65A 1で根固めの石に使用した可能性のある石が出土している。

S B2 (第54図、図版12) 東および南に伸びる可能性がある。柱穴は直径30～40cmほどの不整形、不整長方形で、深さは27～70cmとばらつきがある。S B1同様、柱間からは大型の建物が想起できるが、柱穴規模はやや貧弱である。

S B3 (第54図、図版12) 東に伸びる可能性がある。S B1、S B2に比べると柱穴規模、柱間ともに小振りである。

S B4 (第56図、図版12) A 2地区中央西側に位置。柱穴の形・規模が西半と東半で違っており、楕円形で規模の大きい西半の4間×1間が当初の建物、それを堅穴状土坑S K44A 2・S K82A 2を含む建物に増築したと思われる。増築は、S K44A 2・S K82A 2のみを囲むように、S K285A 2・S K310A 2・S K312A 2を柱穴とし、ツノ(張り出し部)になるのではないかと考えてみたが、

富山県内ではツノは家の背面につくことが多い⁴¹⁾。SB4の正面は、区画溝SD25A2とSD65A2の間が途切れ、出入りできる様になっていることから、東側と考えている。東半部をツノではなく、全体が増築されたとする、柱間の長さがある割に柱穴の規模が小さく、痕跡がない所もある。礎石を利用したのであろうか⁴²⁾⁴³⁾。SK44A2とSK82A2は、切り合いからSK44A2が新しい。SK44A2は、SK82A2よりやや北東にずれて位置し、SK44A2を作る段階で、SB4は北側・東側・西側の下屋にあたる部分をさらに増築したと思われる。SK44A2は上面が堅くしまっていないこと、また、西端にある石列の東側に切り口があることから、掘り込んだ状態で使用されていたのだろう。

SB5(第55図、図版12)A2地区中央西側に位置。柱穴規模や建物の方位などから、SB4よりも古い。柱痕跡がSP77A2で確認されている。

SB6(第55図、図版12)A2地区中央に位置。独立棟持柱SP216A2、SP229A2をもつ。柱痕跡がSP236A2で確認されている。

SB7(第58図)A2地区北側東に位置。柱穴規模は北半が大きい。柱痕跡がSP330A2、SP334A2で確認された。

SB8(第58図、図版13)A4地区東端に位置。平面が長楕円形の柱穴をもつ。

B 井戸

SE50A1(第59図、図版14)SB1～SB3の北に隣接する。石組みで、水溜には直径約60cmの桶(622)を用いている。検出面から底までの深さは約4mを測り、湧水点が非常に深い。埋土からは土器をはじめ木製品、石製品、金属製品など様々な遺物が出土しており、井戸底からは漆器椀(617～619)、越中瀬戸皿(493)が見つかった。

SE78A2(第60図、図版14)A2地区北側中央に位置。井戸枠や水溜の曲物などの痕跡は認められなかったが、底面が標高7.4mまで掘っても確認できないほど低く、SE50A1とはほぼ同じ深さがあり、湧水があったと想像されることから井戸と判断した。切り合いからSD25A2よりも新しく、SD355A2よりも古い。よってSD25A2を伴うSB4、SD355A2を土台と考える建物とは、時期は異なる。

SE107A2(第59図、図版14)A2地区中央に位置。石組みであるが、上部約0.8mは石がない。転用のために抜き取られたのであろう。底面は、確認面からの深さ約2.6m、標高は8.6mである。標高約7.4mとなるSE50A1やSE78A2とは異なりかなり高く、規模や埋土などからも、これらとは時期が異なる。SB4に伴うものと考えている。

SE149A3(第62図、図版13)調査区東端で約1/2のみの確認となった。断面形は掘り鉢状で、他の近世井戸とは形状・深さが大きく異なることから、井戸の可能性は低い。

SE308A4(第61図、図版13)底面の確認は湧水と崩落のためできなかったが、上部にある2段の方形の掘り込みは井戸側の痕跡と考える。下部の構造の観察が不十分であったため、上部との関連が不明である。出土遺物には越中瀬戸、唐津、伊万里(457)等がある。

C 土坑

SK11A2(第66図)A2地区北側中央に位置。埋土は単純で、しまりはないため、掘りくぼめた状態で使用されていたと思われる。SD50A2、SD94A2、SD355A2、SD350A2と共に土台建物になる可能性がある。

SK201A2(第67図)A2地区北側に位置。区画溝内にあり、SB4と同時期の池や水溜、もし

くは雪捨て場のような性格のものと思われる。西側からの溝が合流しており、S E 107 A 2 で使われた水がS K 201 A 2 に流れ込むようになっていたのであろう。

S K 274 A 4 (第68図) 東調査区の南東隅に位置。掘立柱建物の柱穴とはほぼ同規模であるが、柱痕跡は確認できない。埋土はⅢ層(地山)が多量に混じり、一気に埋まったものとする。越中瀬戸、土師器、縄文土器が出土している。

S K 277 A 4 (第69図) A 4 地区東側に位置。上面約10cmが炭化物層で、その下の埋土にも炭化物が多く含まれ、焼土も僅かに混じる。遺物が出土するのは上面からのみである。

S K 278 A 4 (第69図) 西に近接するS K 277 A 4 とほぼ同規模で、多量の炭化物が上面にみられ、埋土にも炭化物が多く含まれる。出土遺物には中世土師器、青花(397)、唐津、釘(655・656)等がある。

S K 279 A 4 (第68図) S K 274 A 4 の北西に近接する。近世の土坑としては標準的な規模であるが、埋土は比較的均質な土坑の一群に分類できる。中世土師器、伊万里等が出土している。

S K 285 A 4 (第68図) S K 274 A 4 の西に位置。柱痕跡があり、掘立柱建物の柱穴とはほぼ同規模であることから、柱穴の可能性が高い。

S K 302 A 4 (第68図) S K 285 A 4 の南に近接。掘立柱建物の柱穴とはほぼ同規模であるが、埋土は比較的均質な土坑群である。

S K 404 A 4 (第68図) 東調査区の南寄りに位置。溝状の浅い土坑で、上部から唐津等の遺物がまとまって出土した。

D 晶

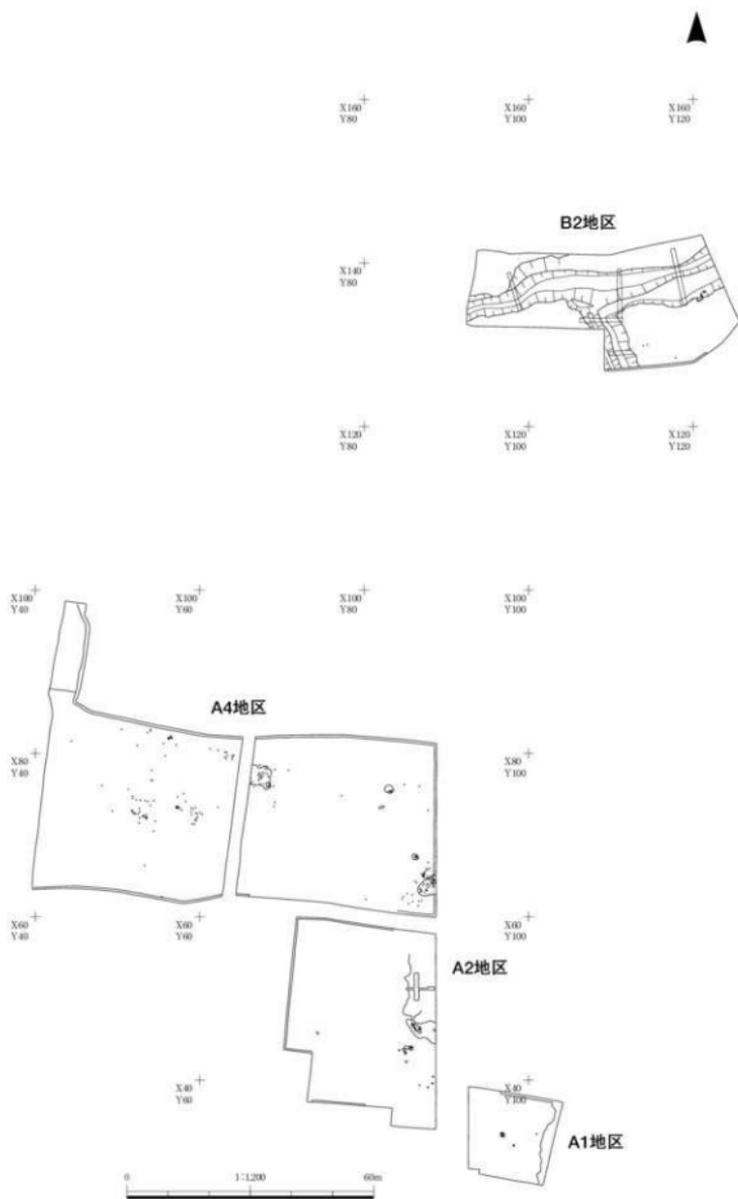
比較的遺存状況が良かったのはA 4 地区で、中央には1.8mの間隔で深さ10cm程の溝が整然と並ぶ。南にある建物群の晶であったと考える。

E 溝

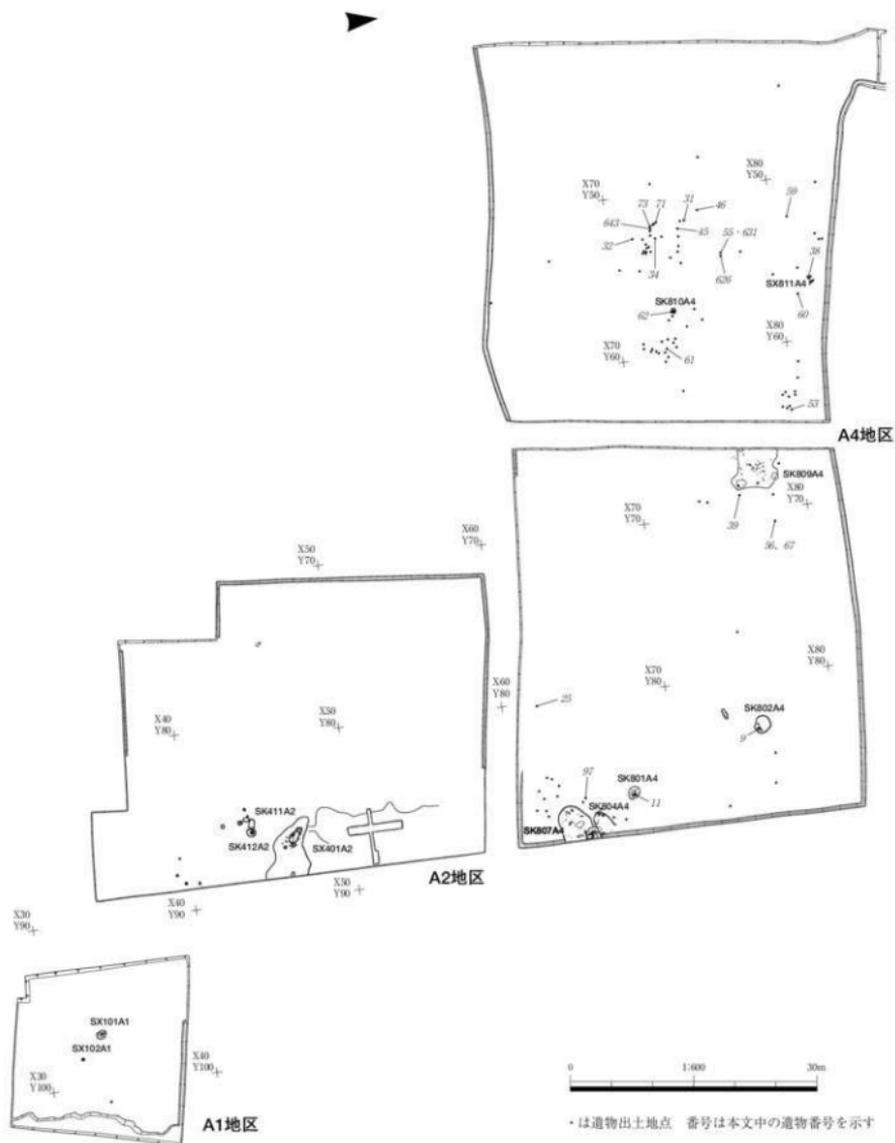
S D 1 A 2 (第63図) A 2 地区南側に位置。東西に延び、東側は南に屈曲する。3カ所が特に深くっており、越中瀬戸が多く出土している。池や水溜のような性格のものと思われる。

S D 2 A 2 (第63図) A 2 地区南側に位置。東西に延び、東側は南に屈曲するものと、そのままS D 67 A 2 につながるものにわかれる。北側から延びるS D 65 A 2 と合流しており、S D 65 A 2 ・S D 25 A 2 と共に、S B 4 を囲む区画溝となっている。遺物は越中瀬戸が大量に出土した。

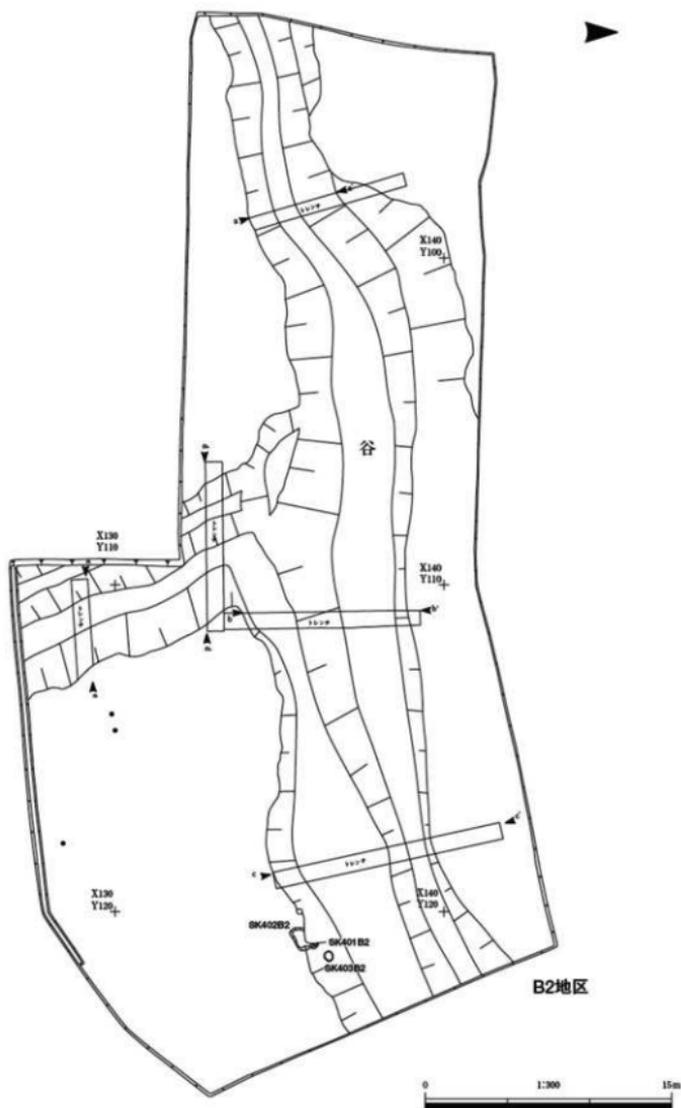
S D 25 A 2 ・65 A 2 (第63・65図、図版13) S D 2 A 2 と共にS B 4 を囲む区画溝となる。S D 25 A 2 とS D 65 A 2 の間には約2mの掘られていない部分があり、ここが屋敷地への出入り口として使用されていたと思われる。



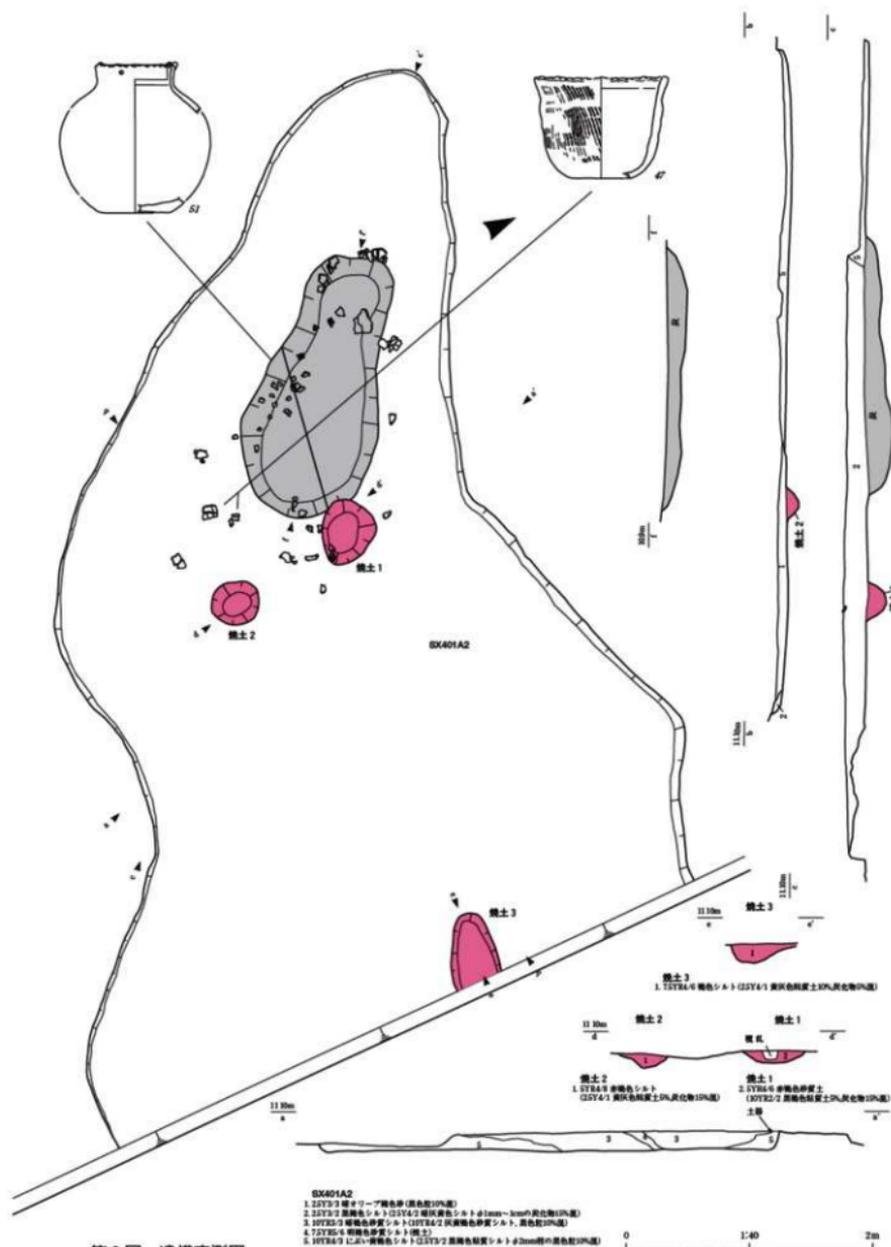
第6図 遺構全体図（縄文時代～古墳時代）



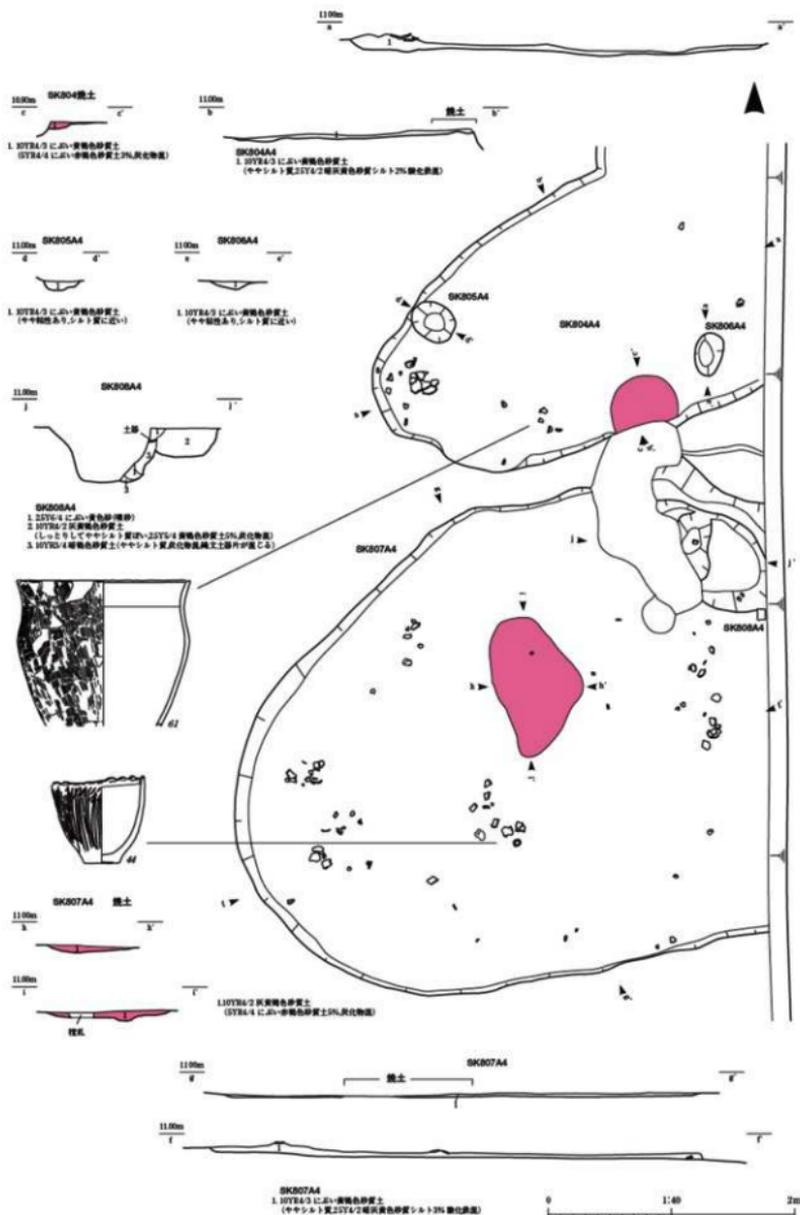
第7図 遺構全体図(縄文時代)



第8図 遺構全体図(古墳時代)

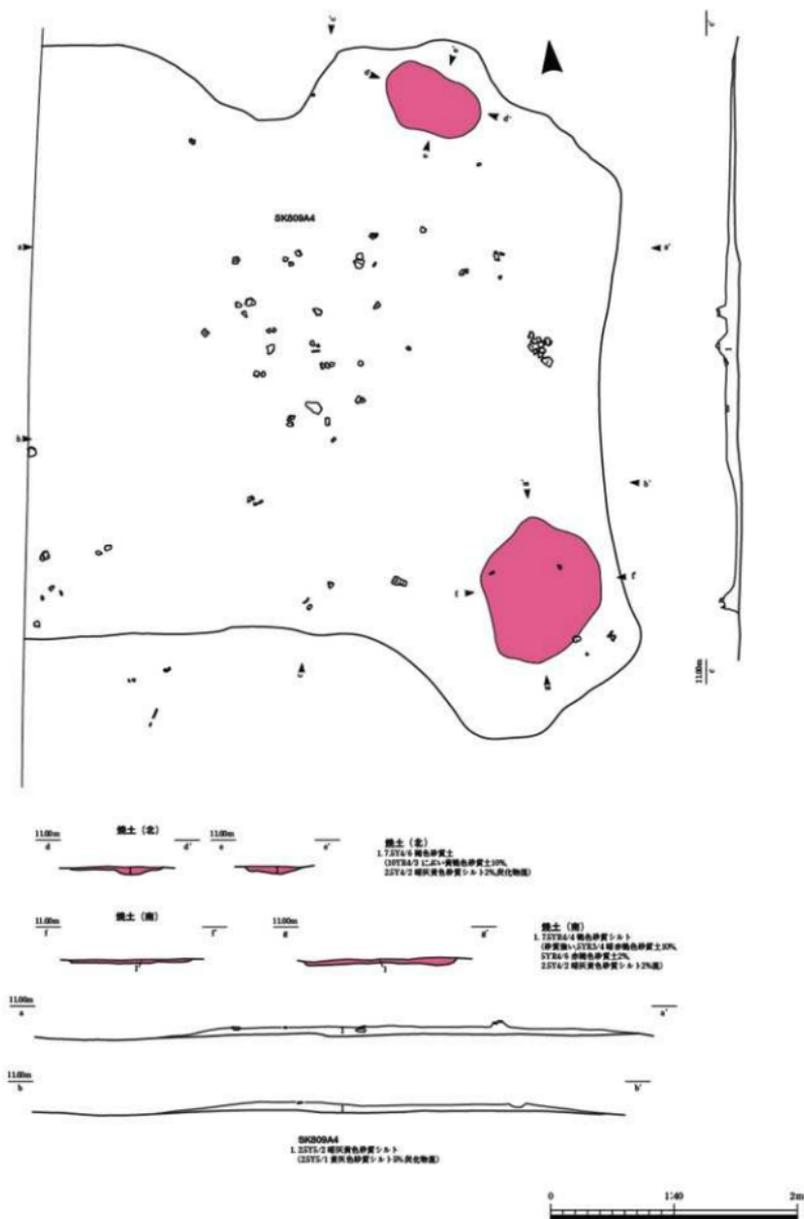


第9図 遺構実測図
SX401A2

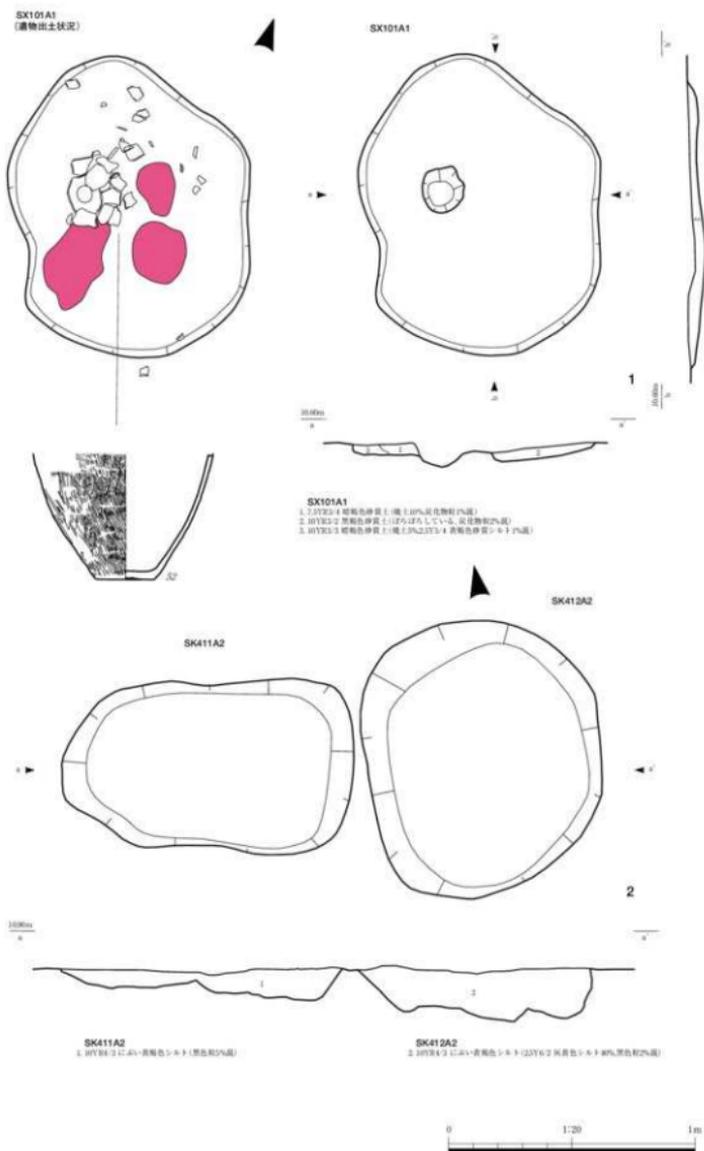


第10図 遺構実測図

SK804A4・SK805A4・SK806A4・SK807A4・SK808A4

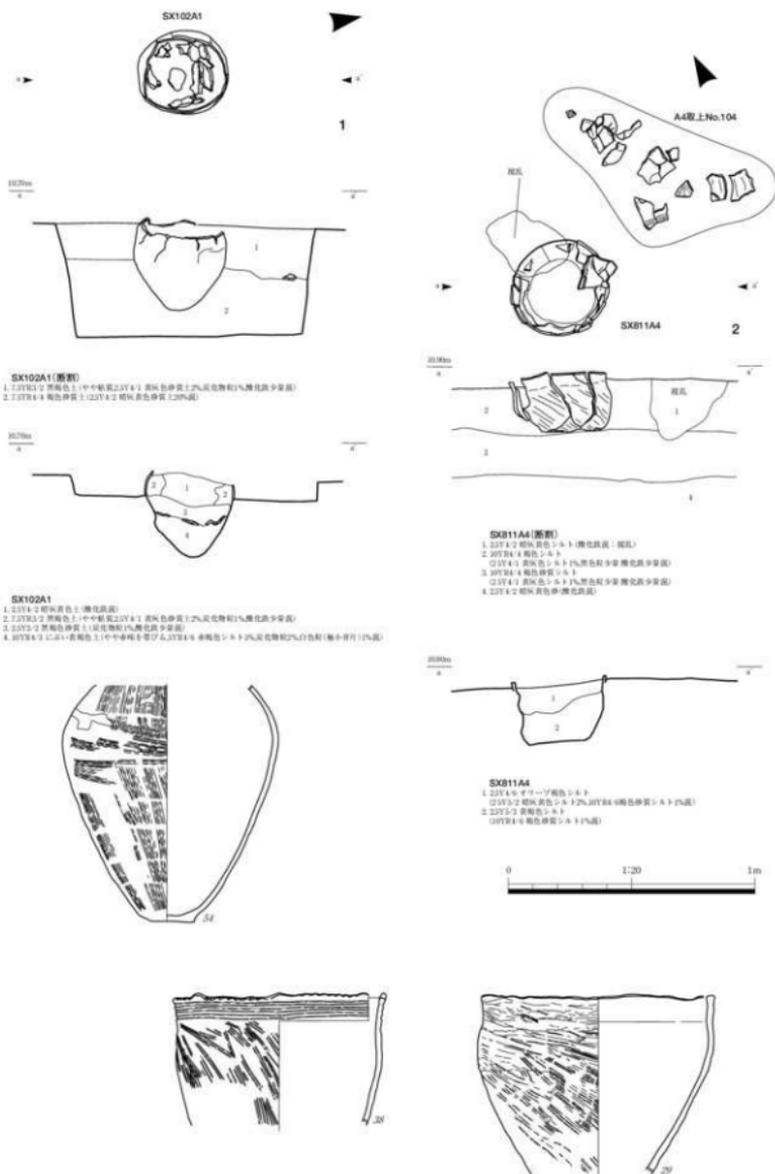


第11図 遺構実測図
SK809A4



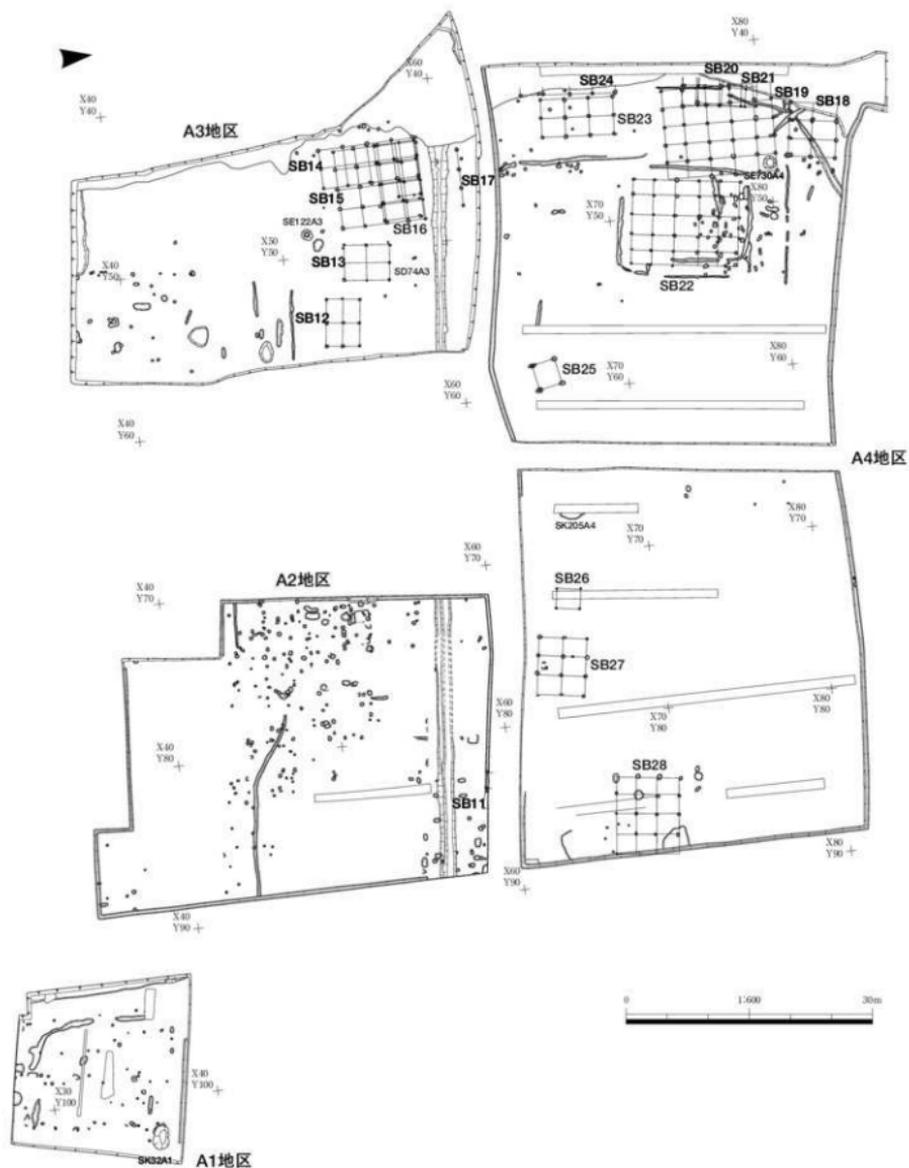
第12図 遺構実測図

1. SK101A1 2. SK411A2・SK412A2

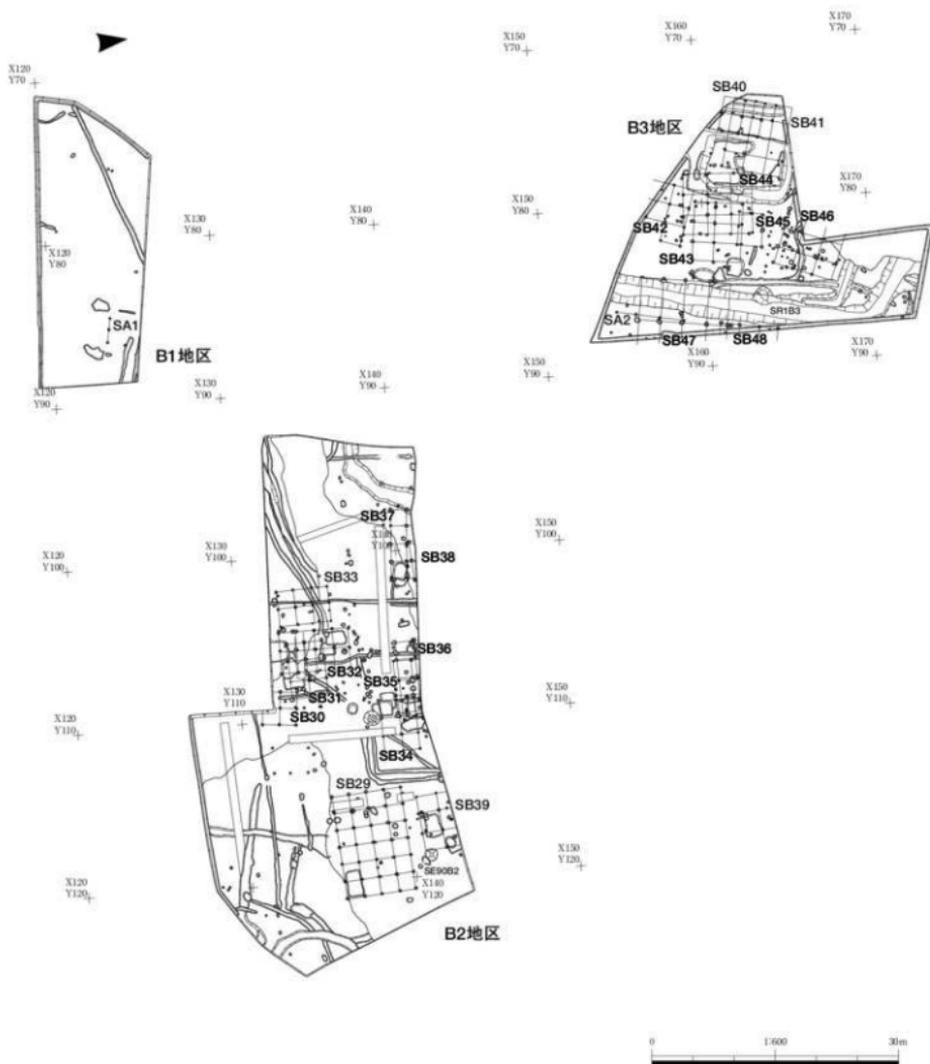


第13図 遺構実測図

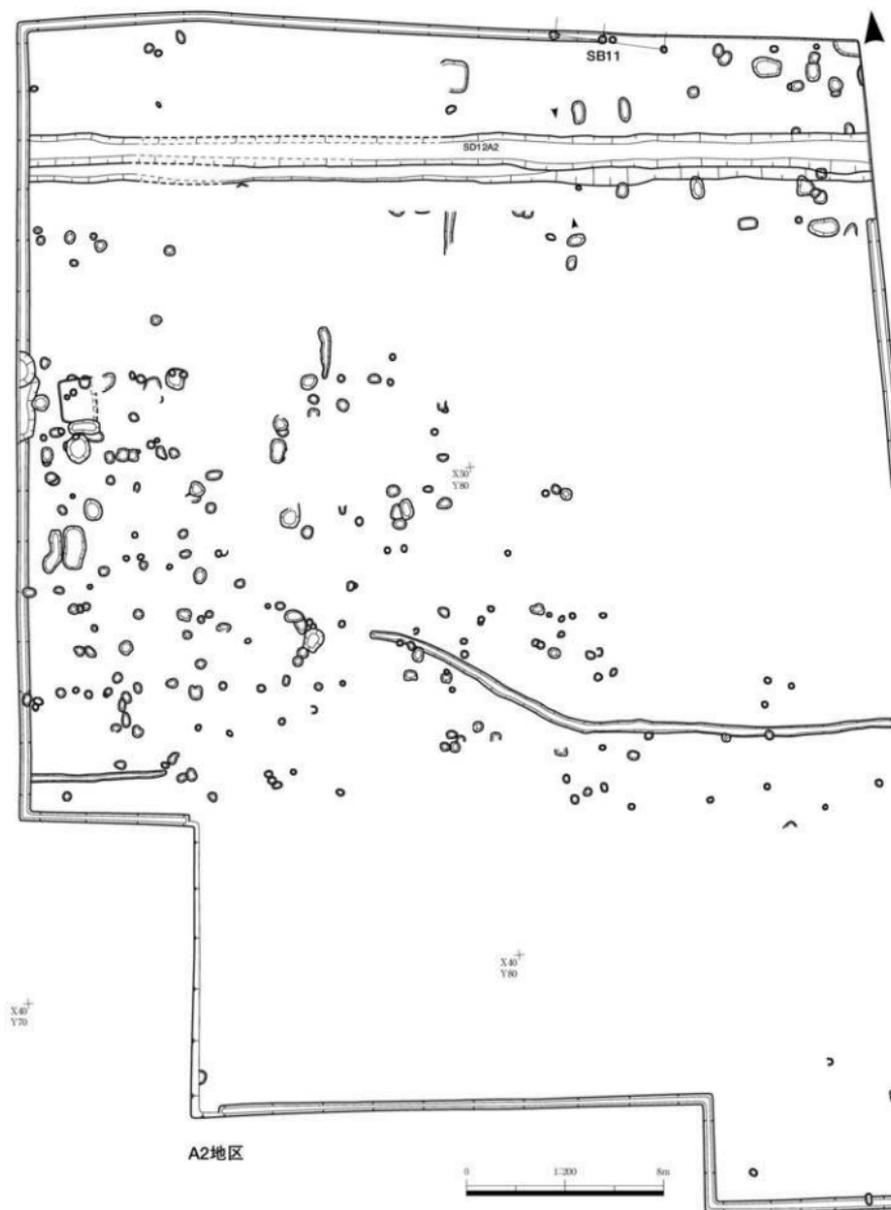
1. SX102A1 2. SX811A4



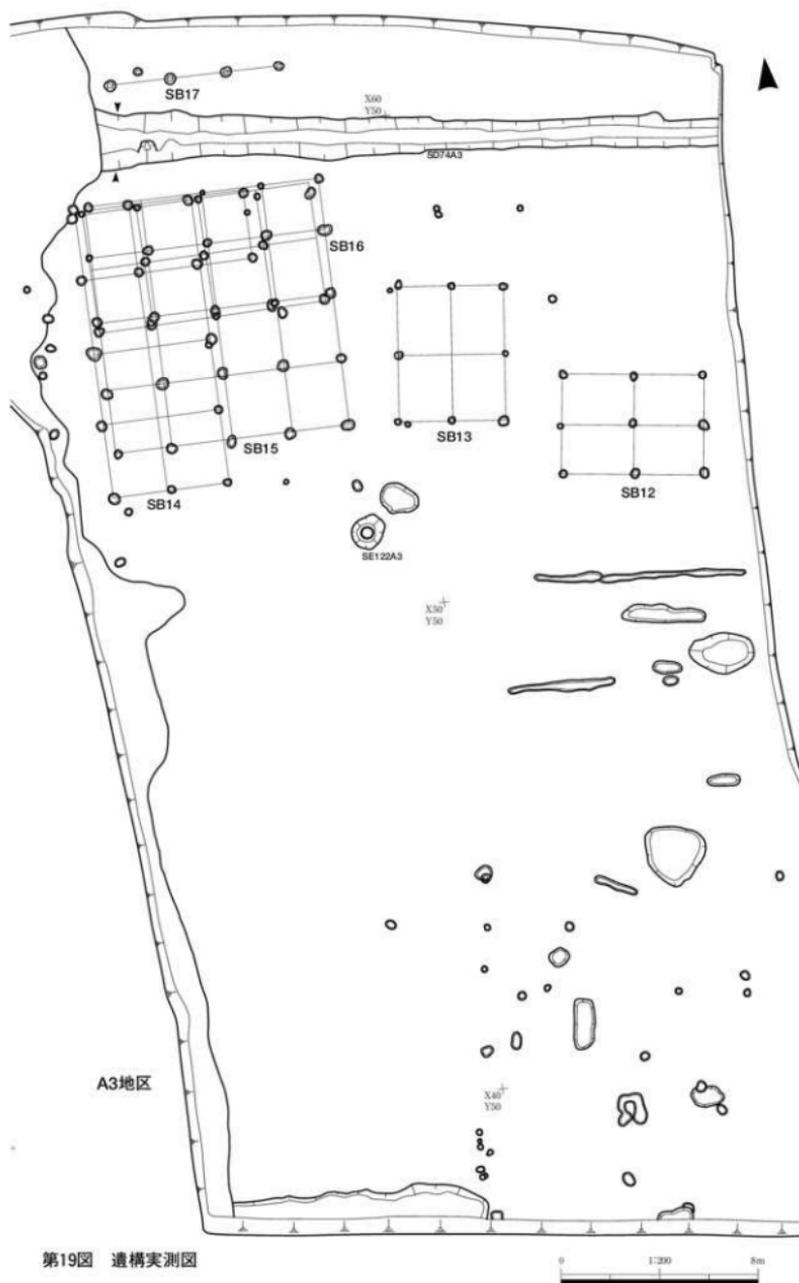
第16図 遺構全体図(中世)A地区



第17図 遺構全体図(中世) B地区



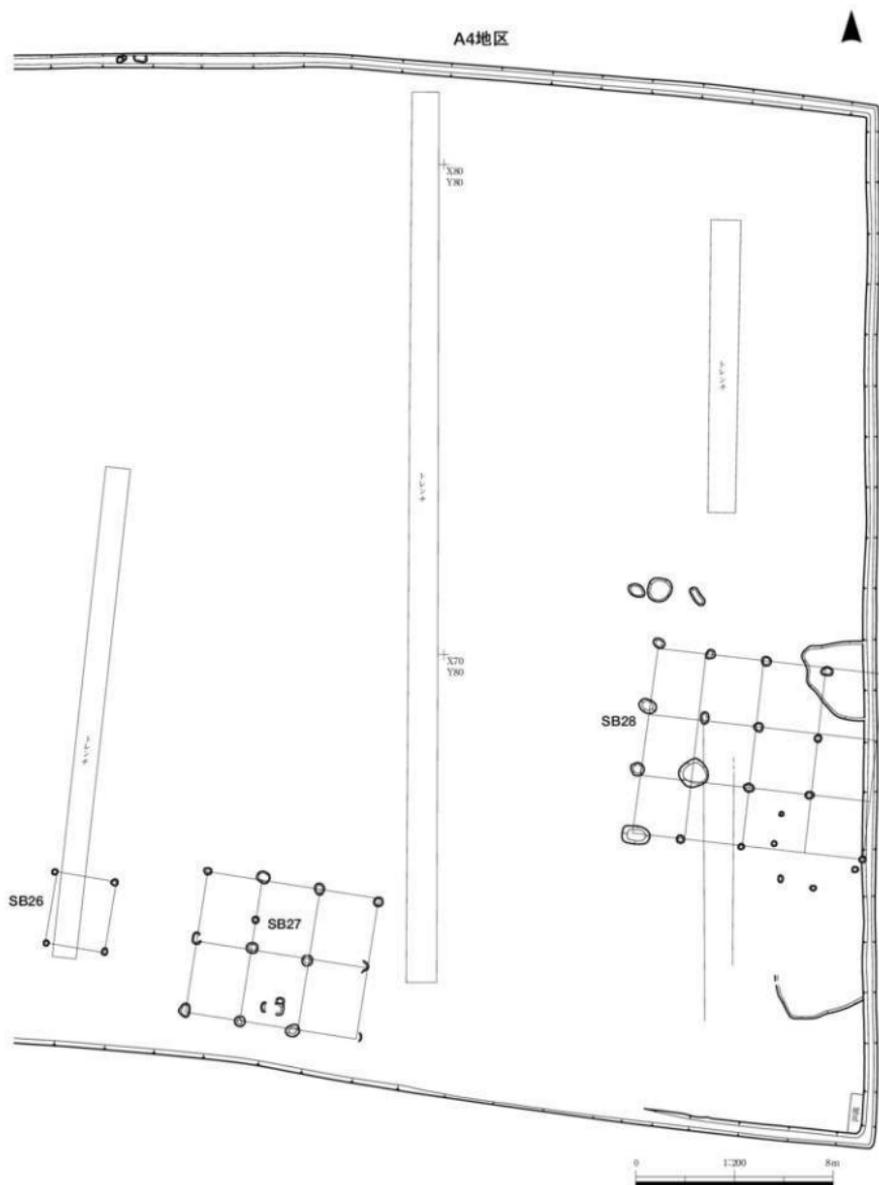
第18図 遺構実測図



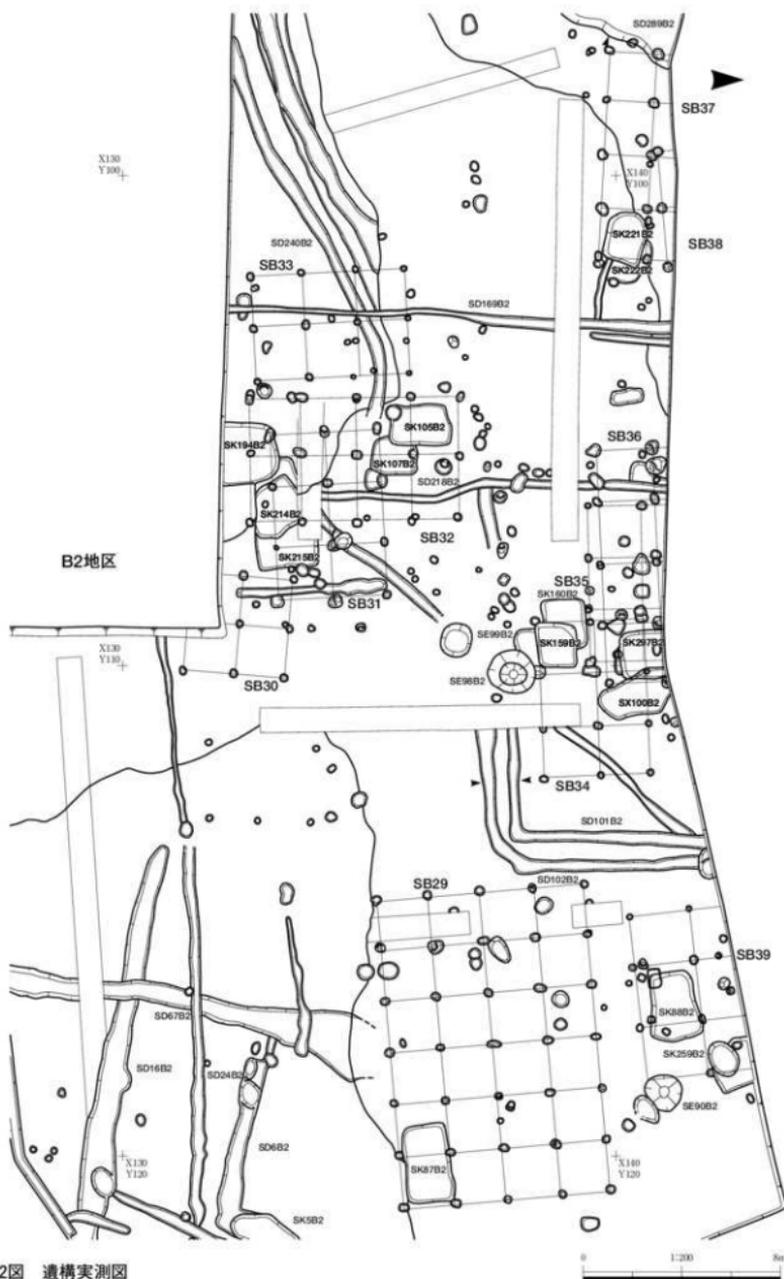
第19図 遺構実測図



第20図 遺構実測図



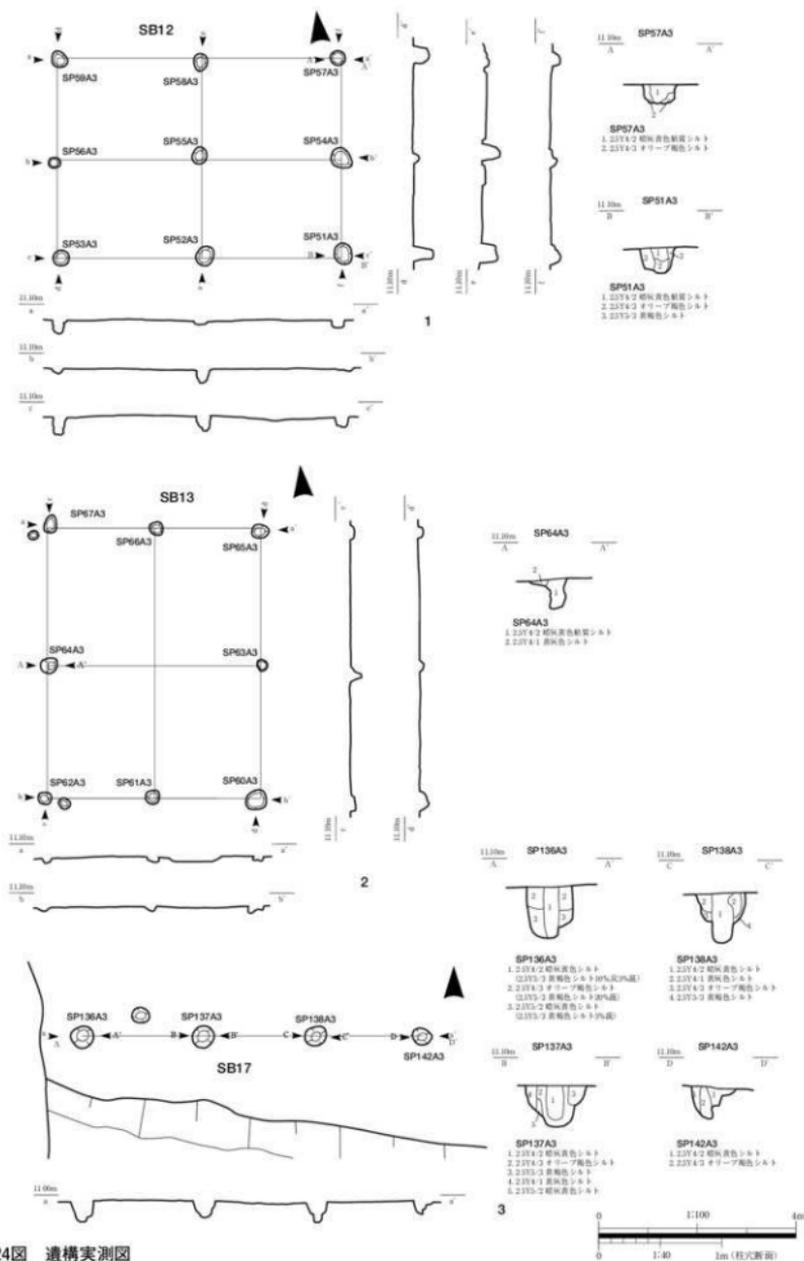
第21図 遺構実測図



第22図 遺構実測図

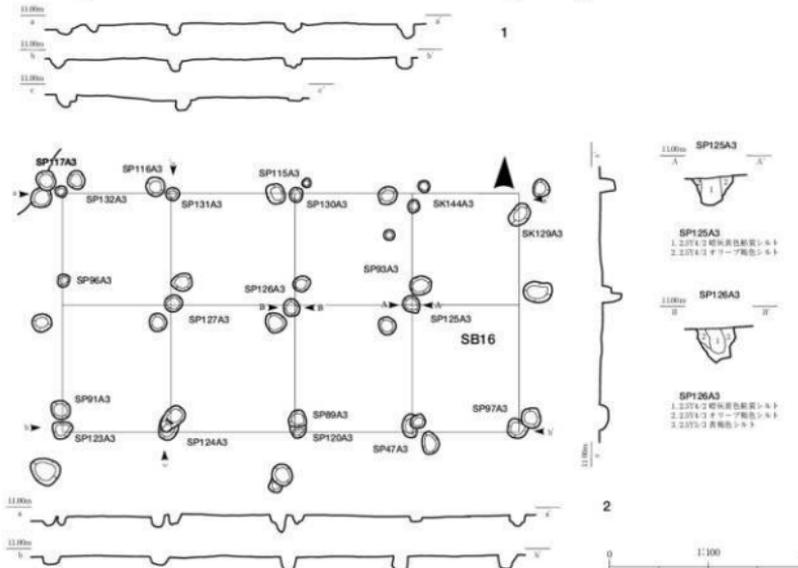
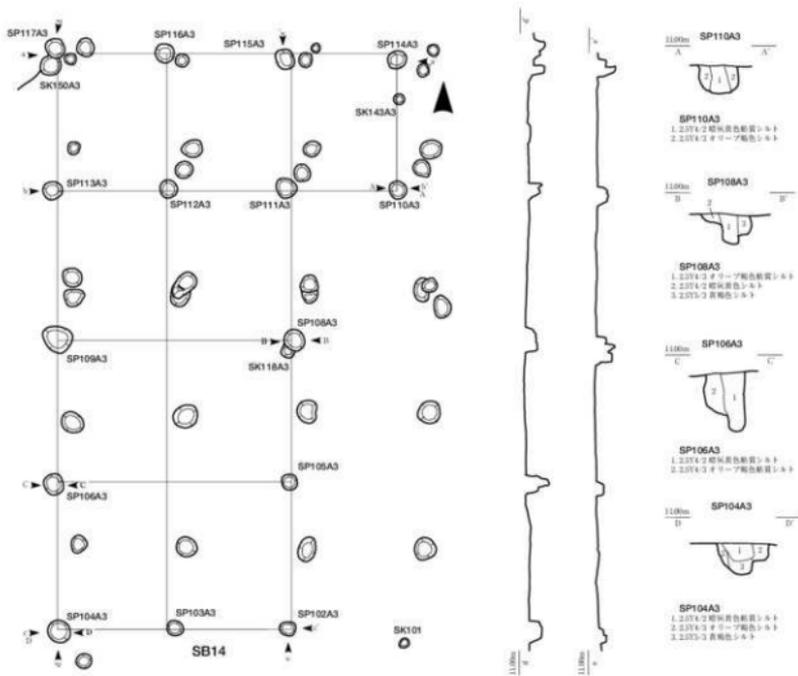


第23図 遺構実測図



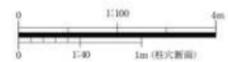
第24図 遺構実測図

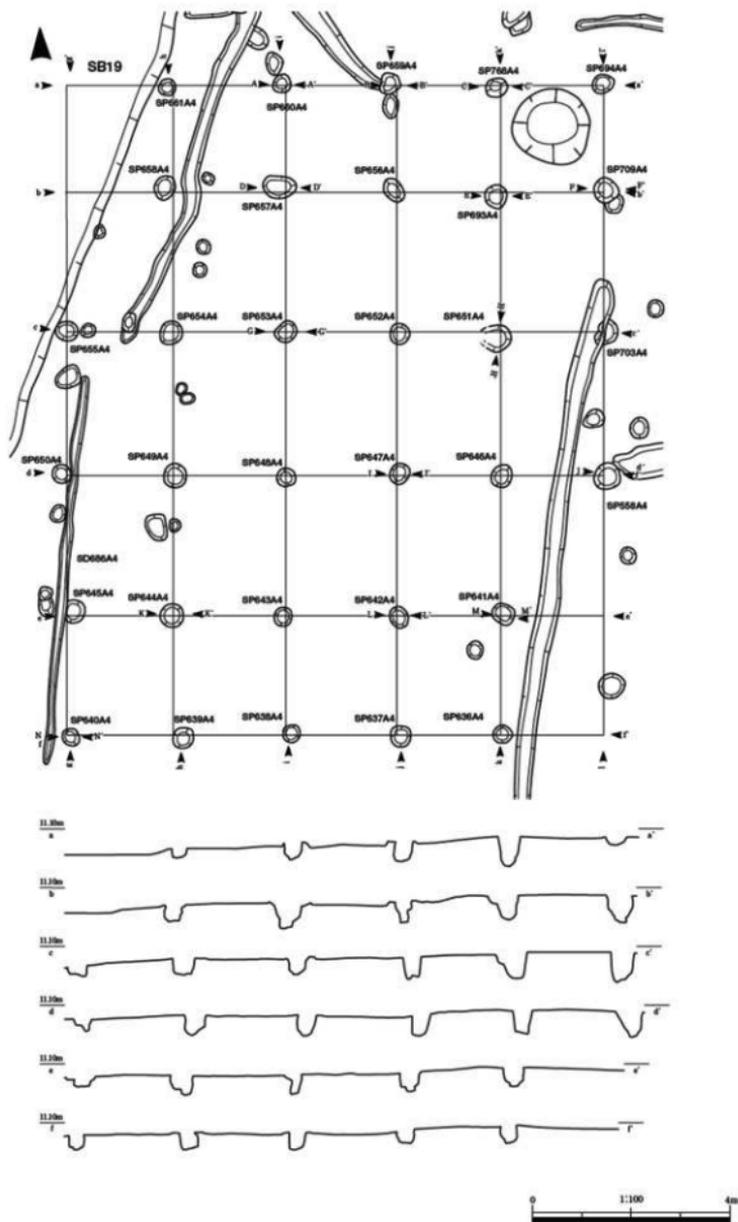
1. SB12 2. SB13 3. SB17



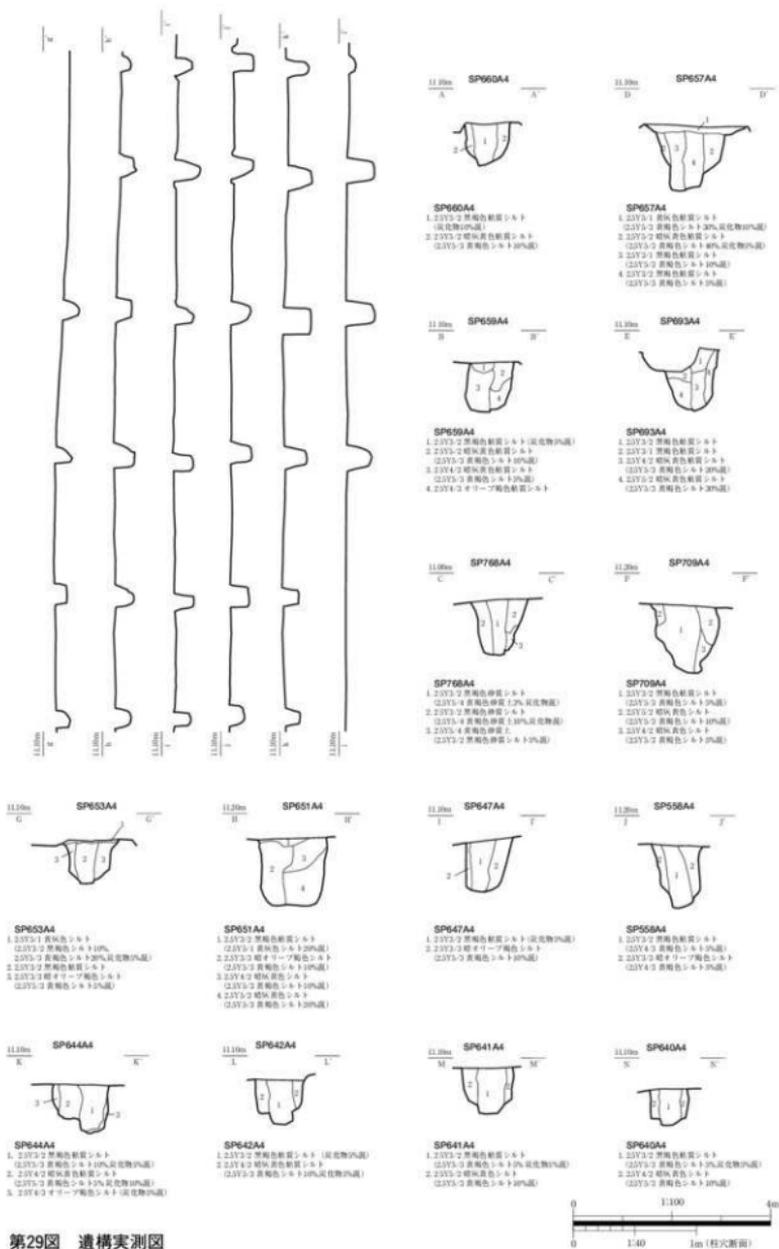
第25図 遺構実測図

1. SB14 2. SB16



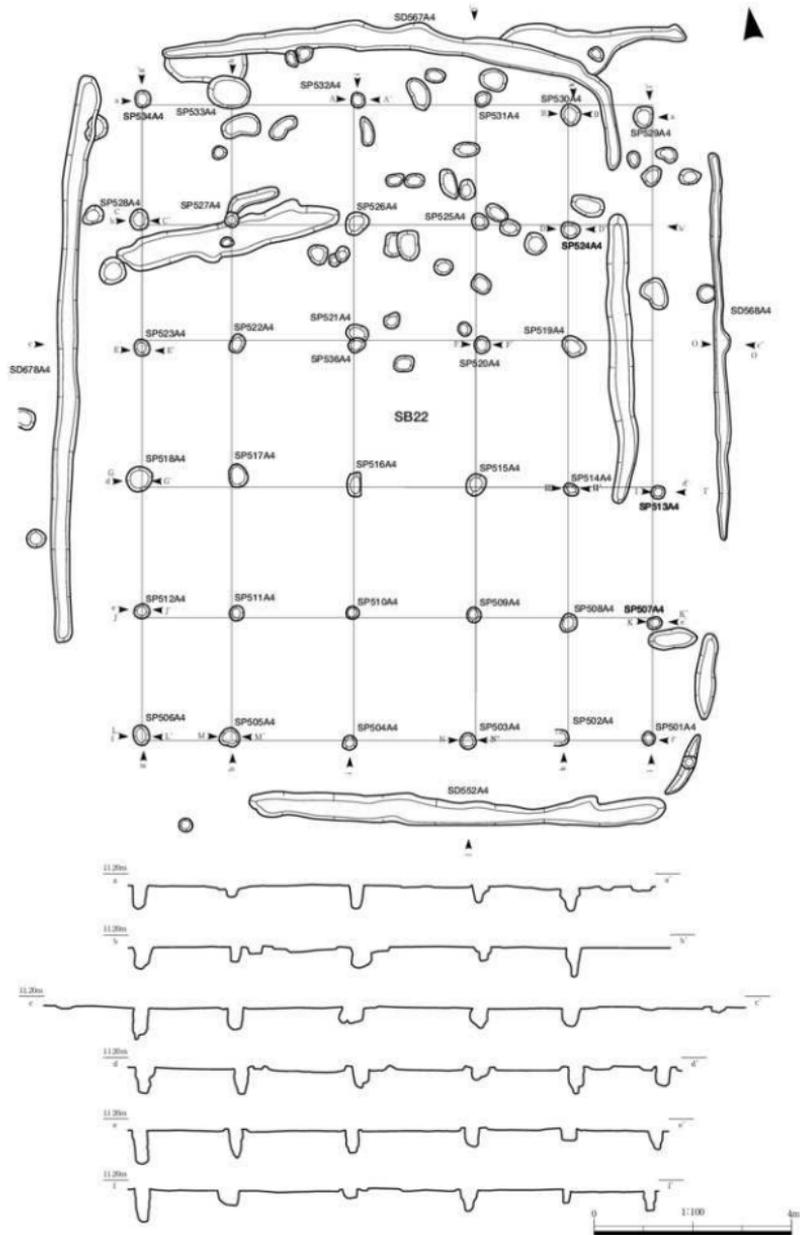


第28図 遺構実測図
SB19

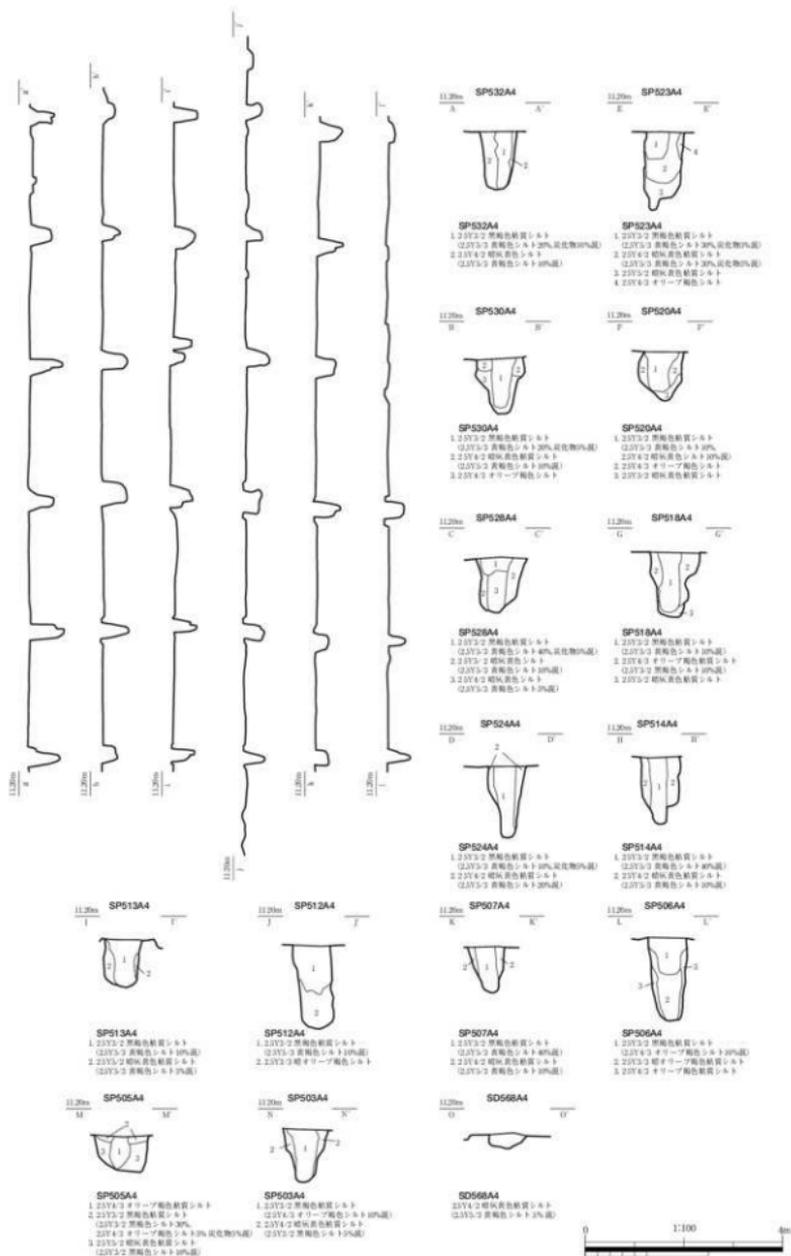


第29図 遺構実測図

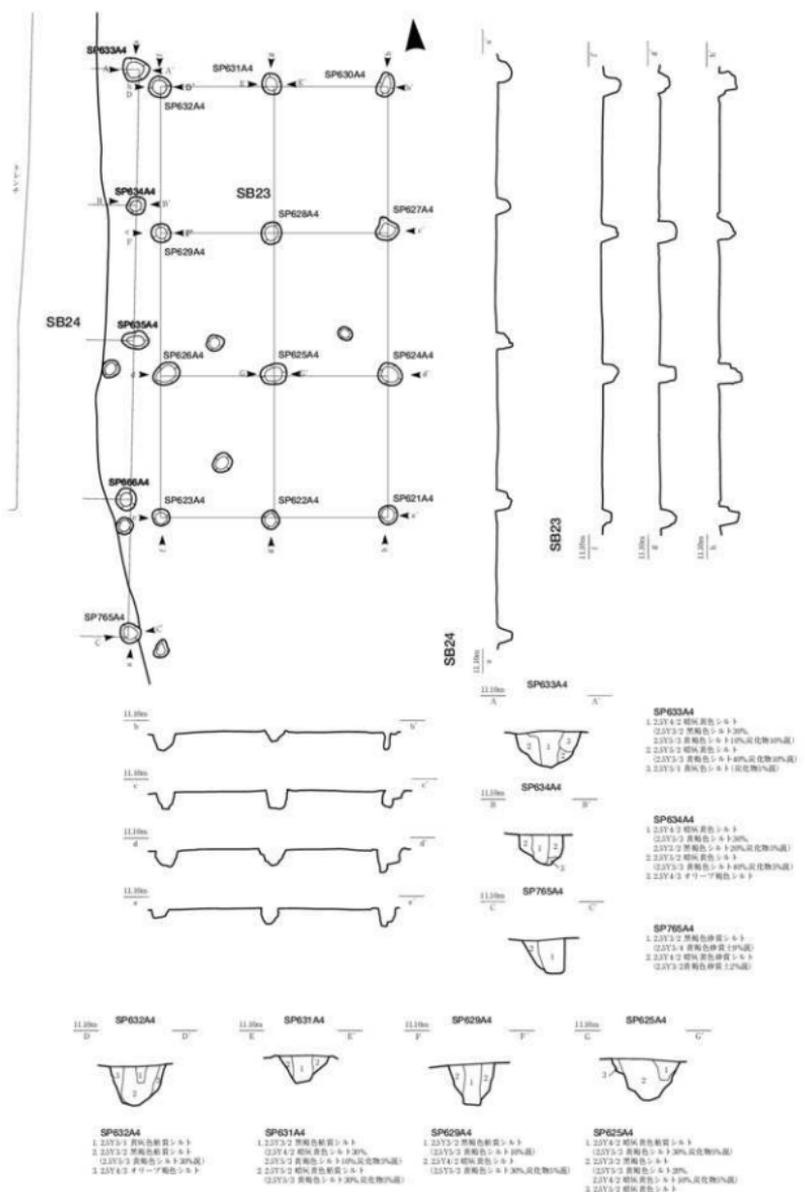
SB19



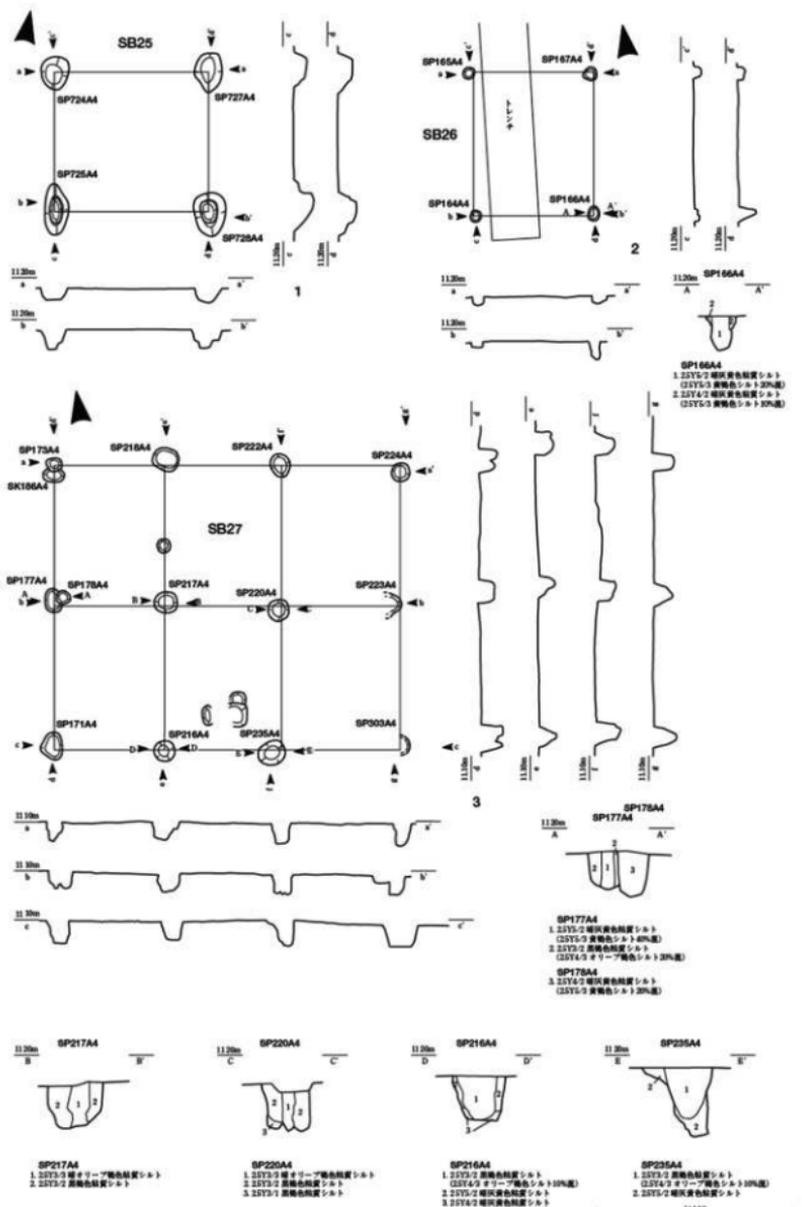
第30図 遺構実測図
SB22



第31図 遺構実測図
SE22

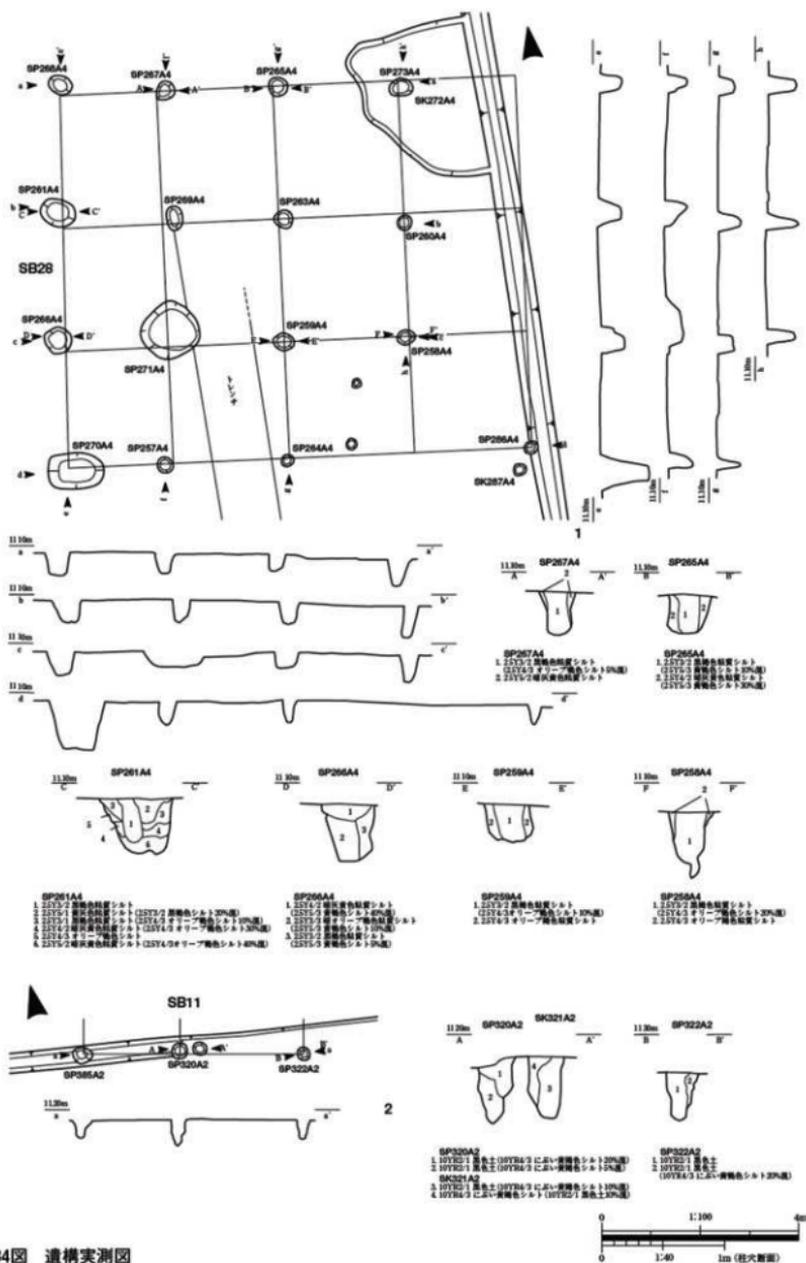


第32図 遺構実測図
 SB23・SB24



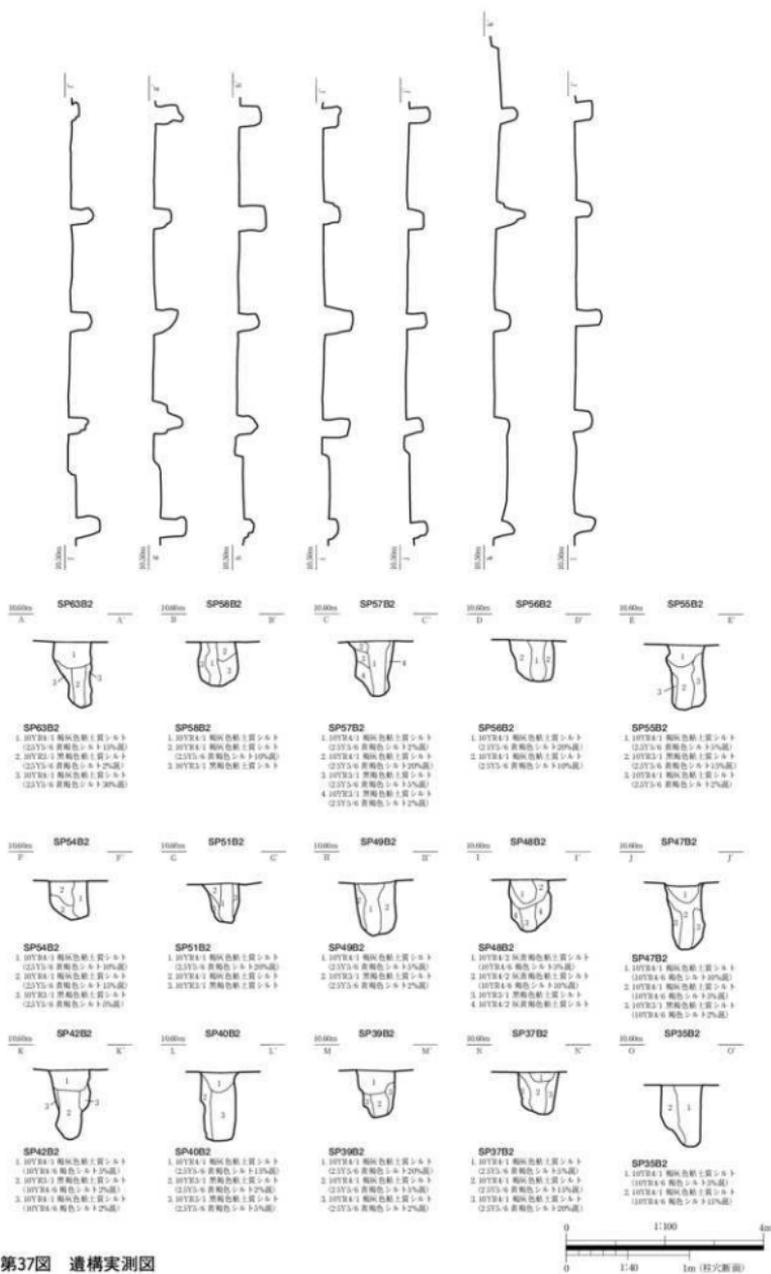
第33図 遺構実測図

1. SB25 2. SB26 3. SB27



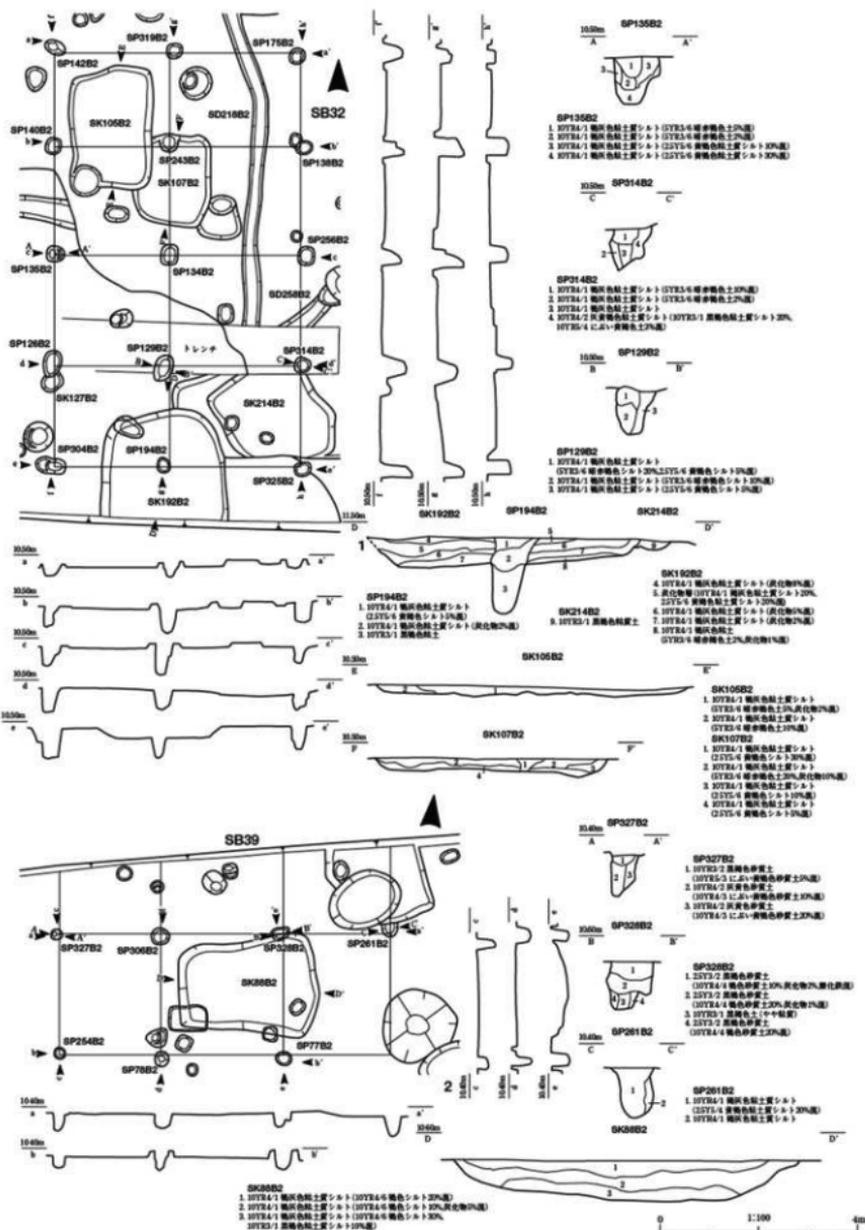
第34図 遺構実測図

1. SB28 2. SB11



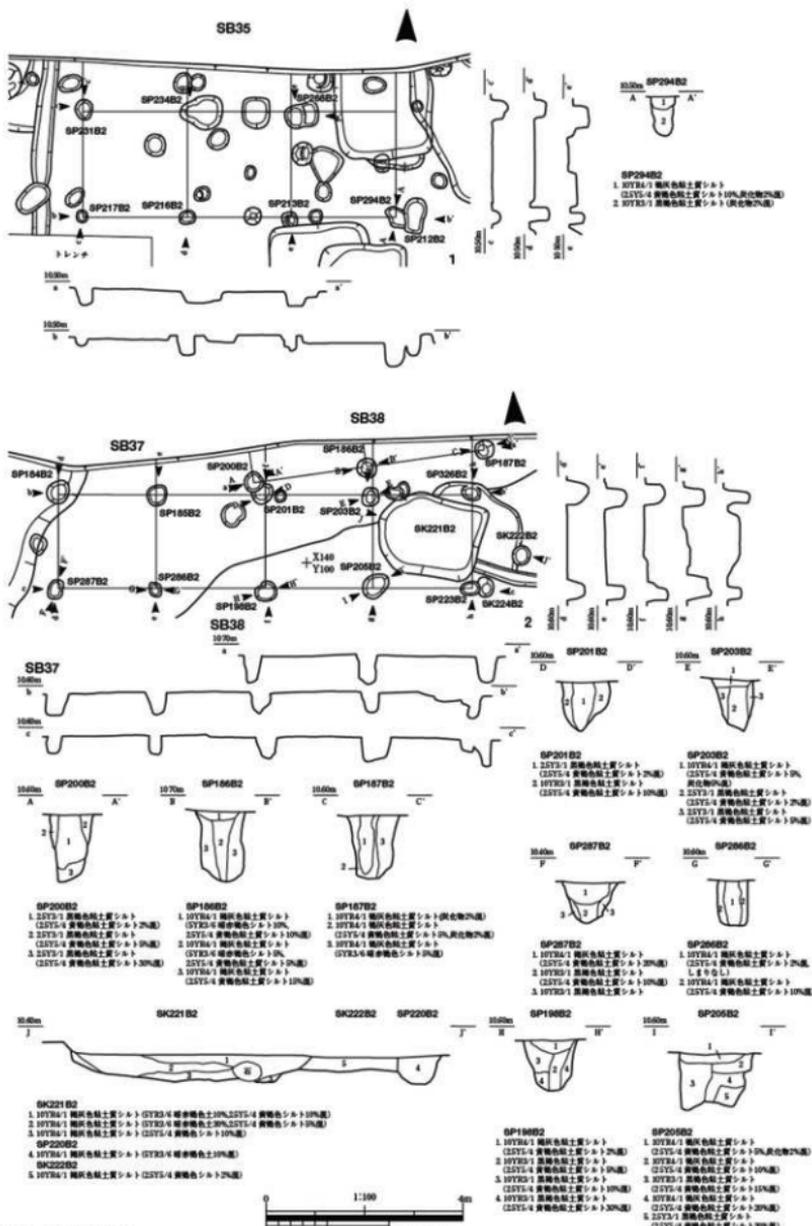
第37図 遺構実測図

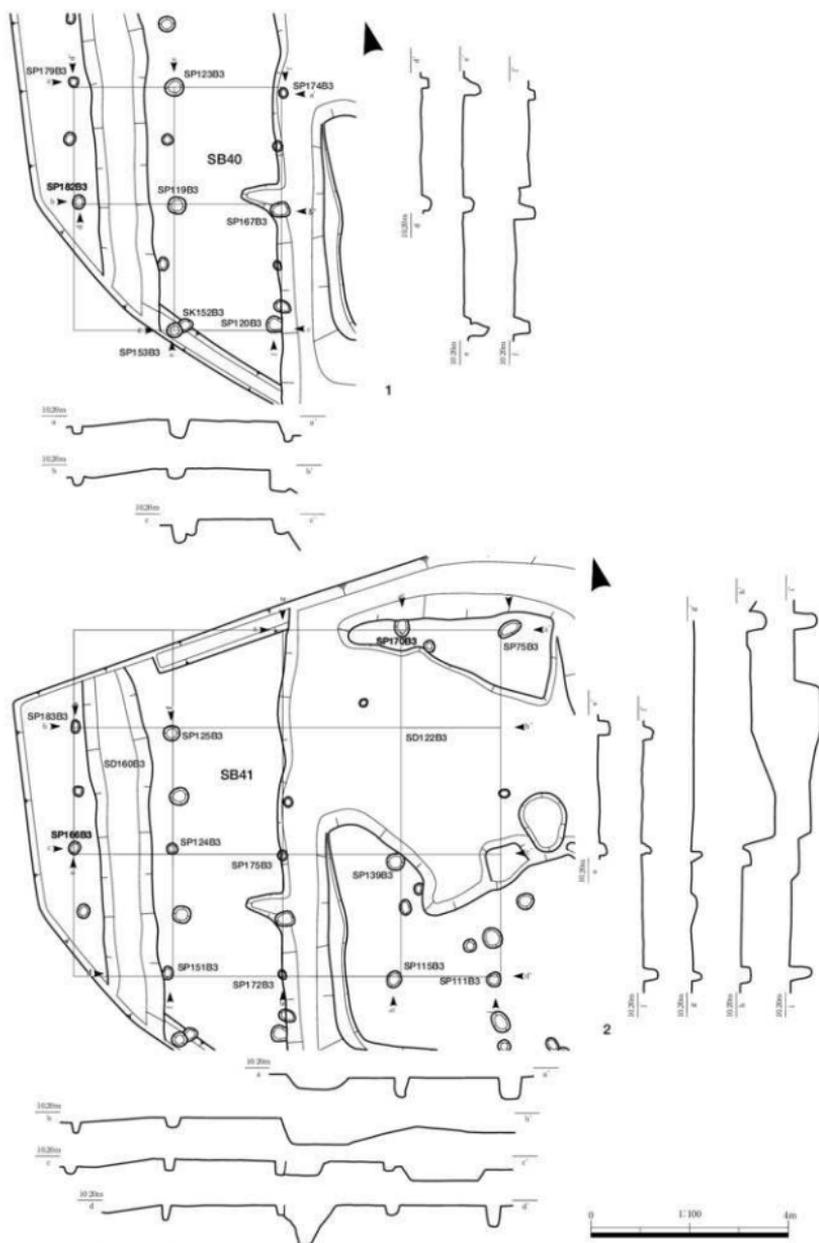
SB29



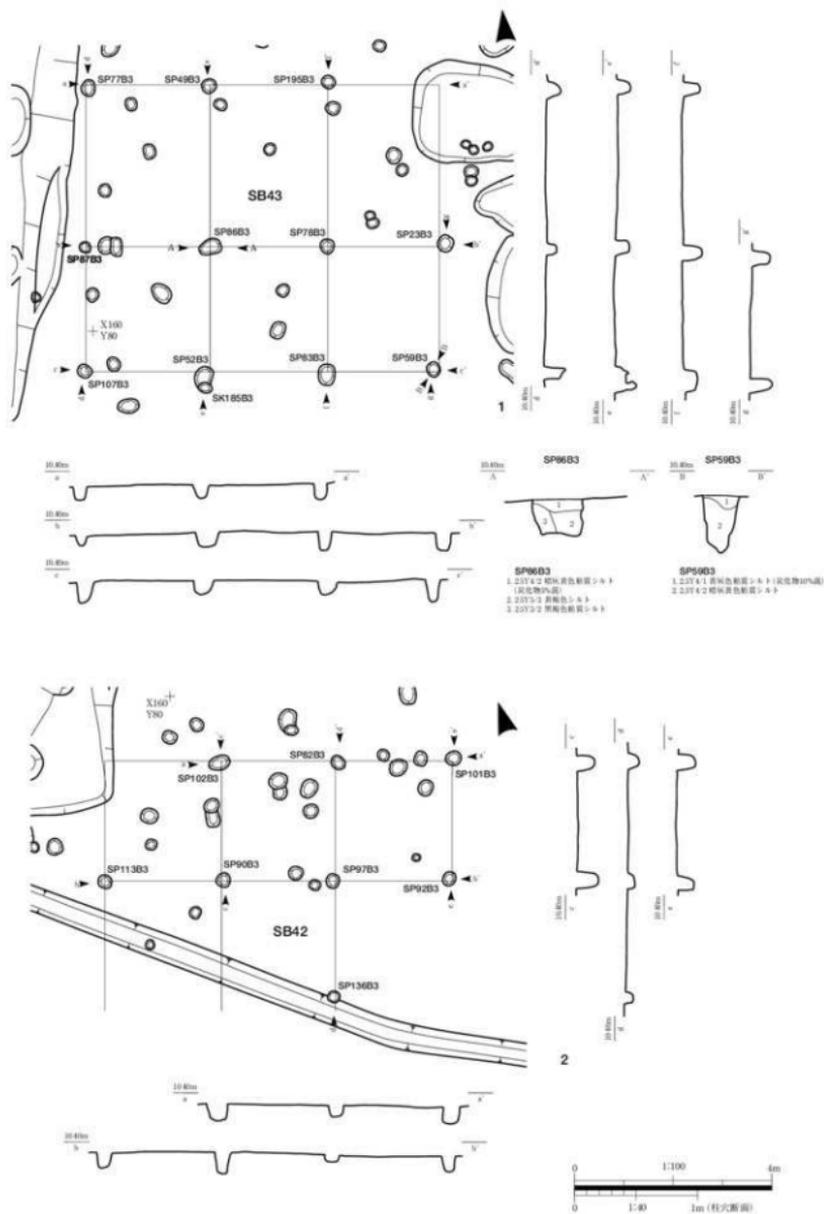
第38図 遺構実測図

1. SB32 2. SB39



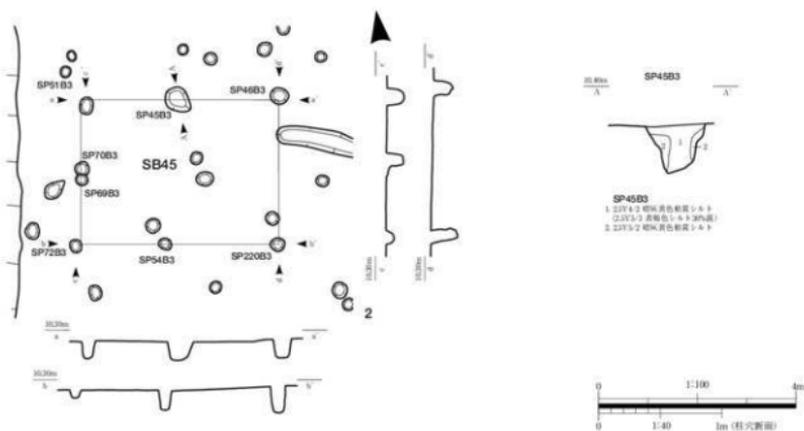
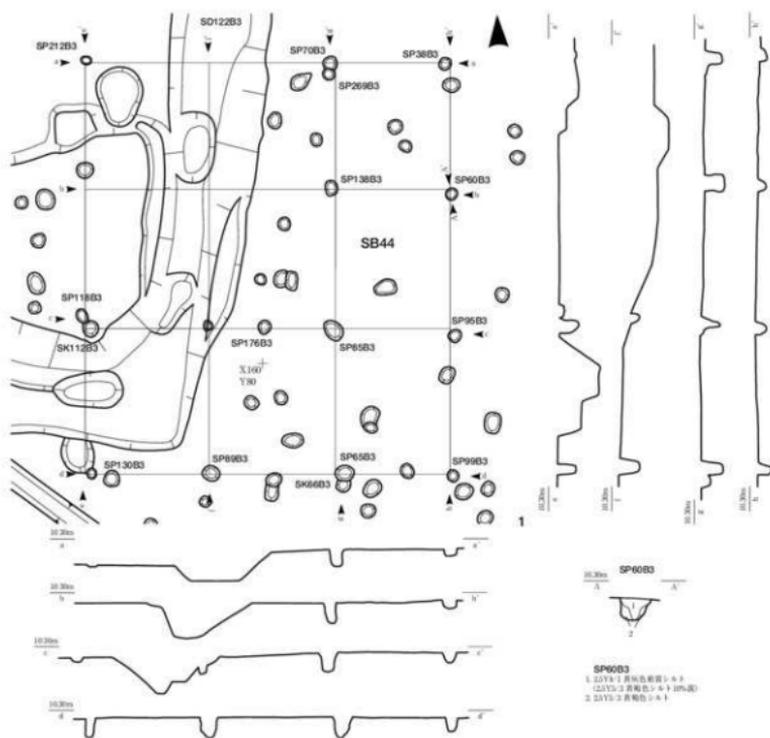


第41図 遺構実測図
1. SB40 2. SB41



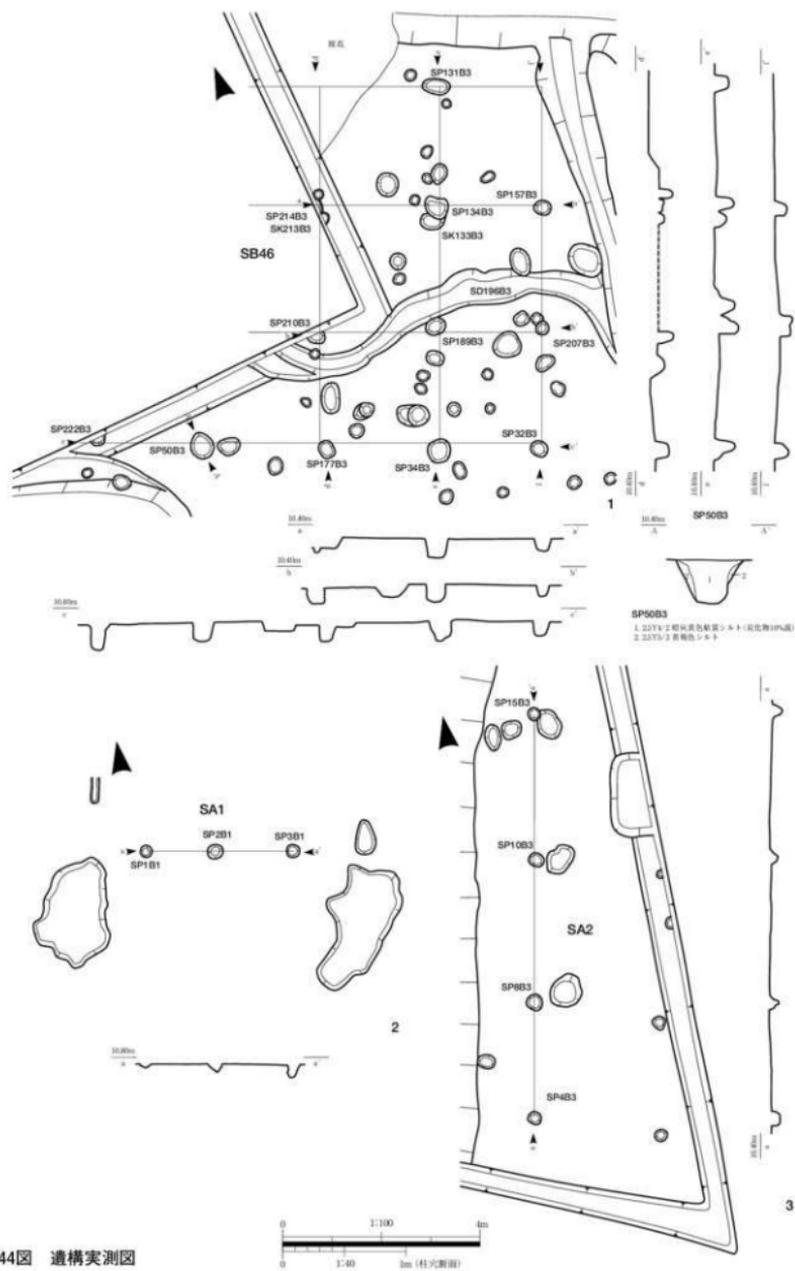
第42図 遺構実測図

1. SB43 2. SB42



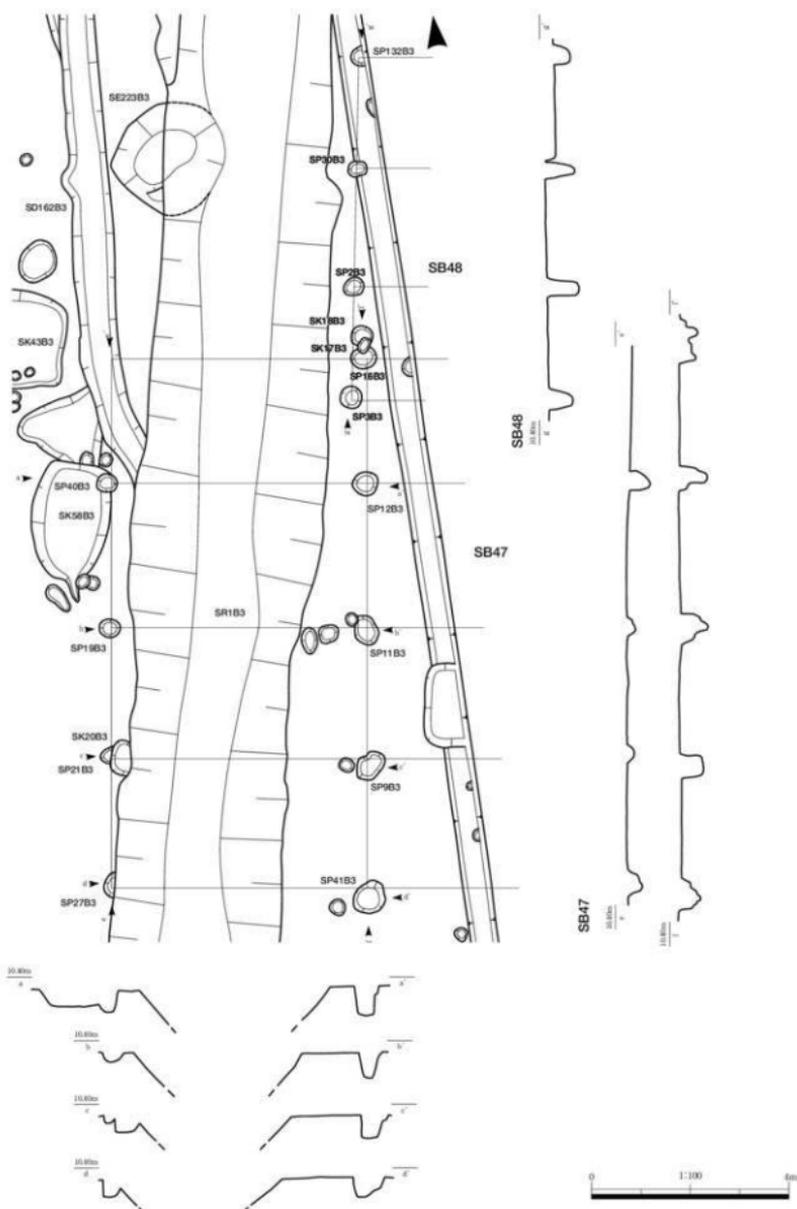
第43図 遺構実測図

1. SB44 2. SB45

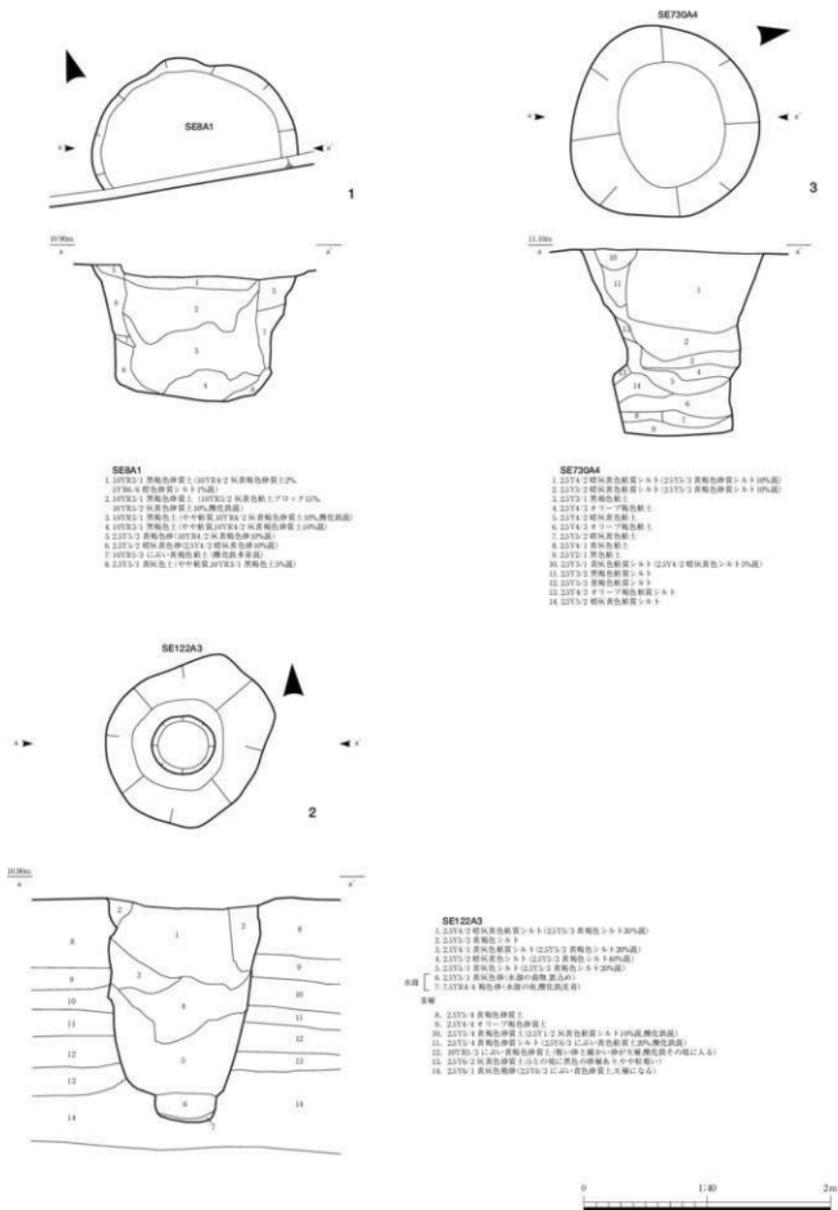


第44図 遺構実測図

1. SB46 2. SA1 3. SA2

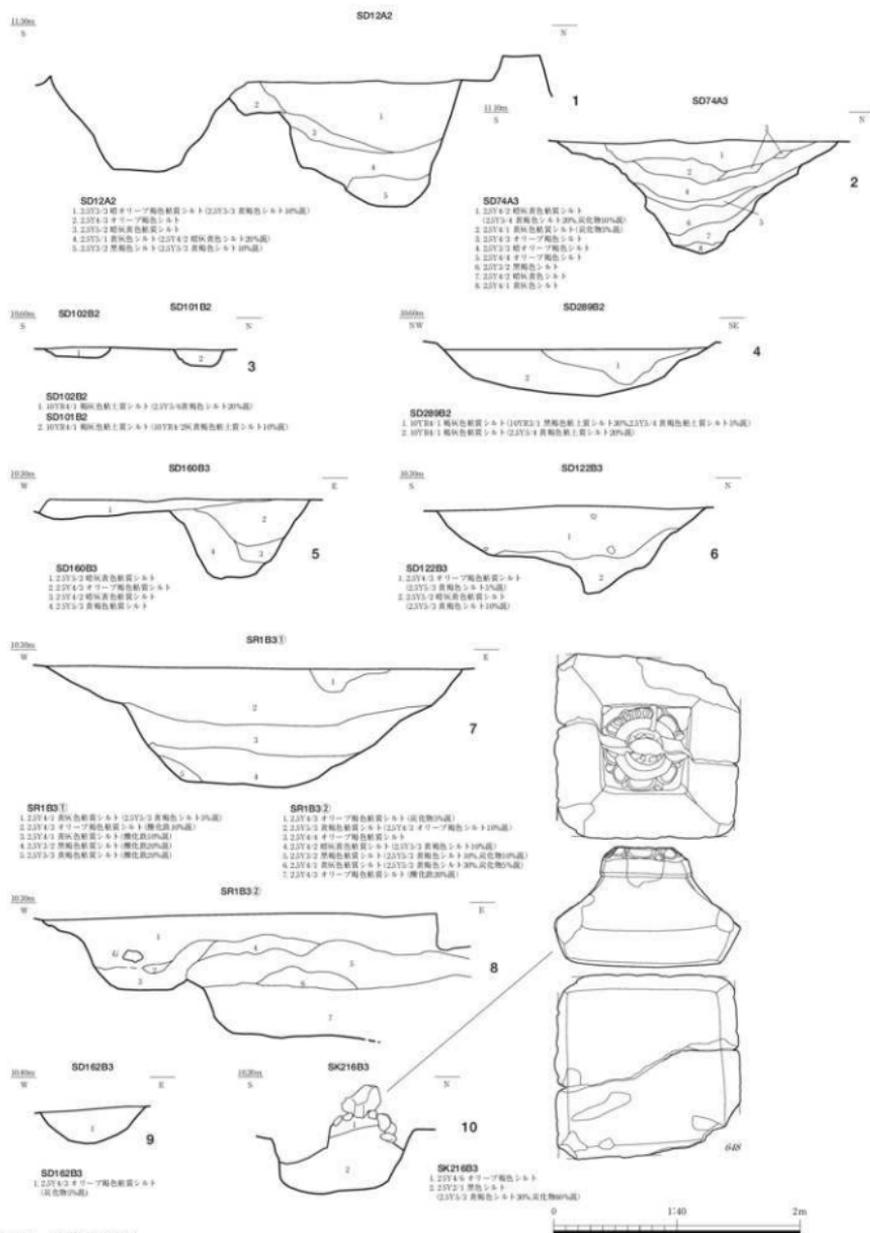


第45図 遺構実測図
SB47・SB48



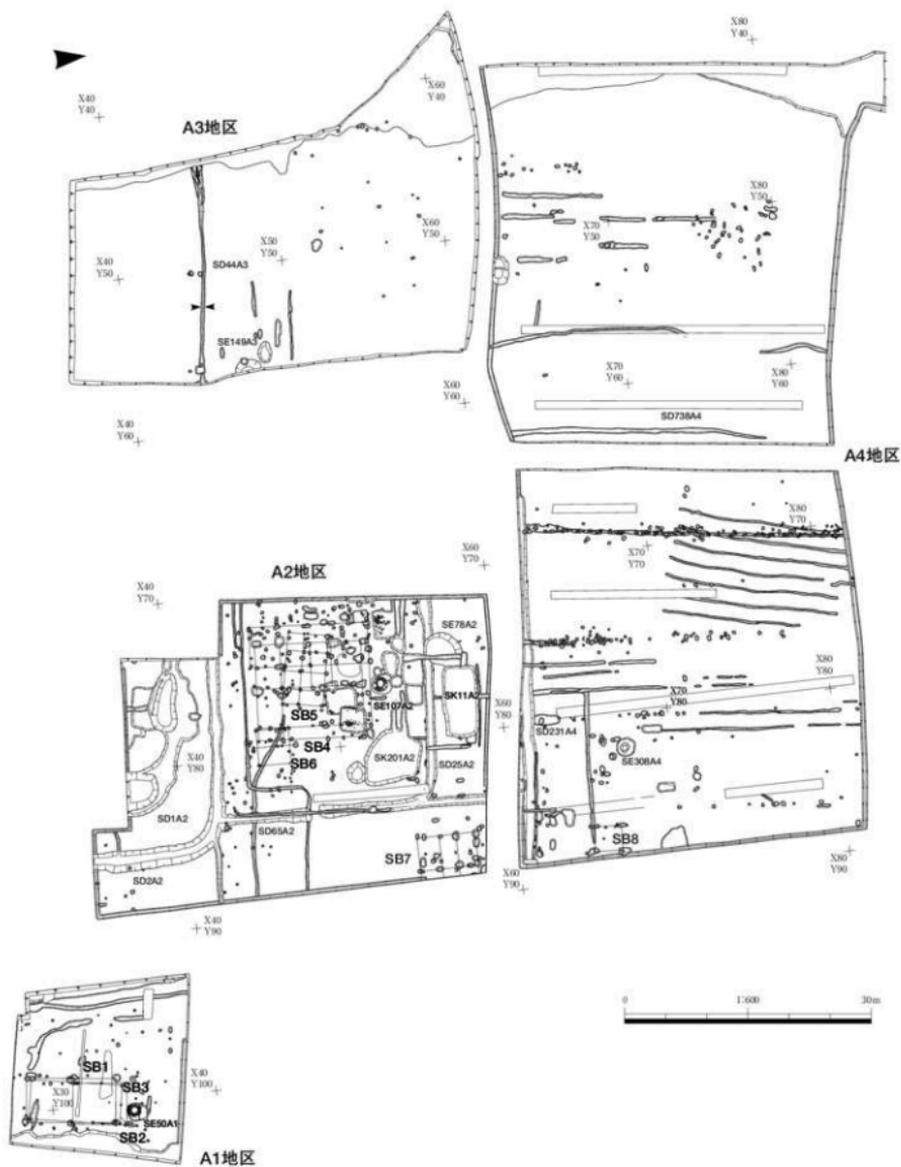
第46図 遺構実測図

1. SE8A1 2. SE122A3 3. SE730A4

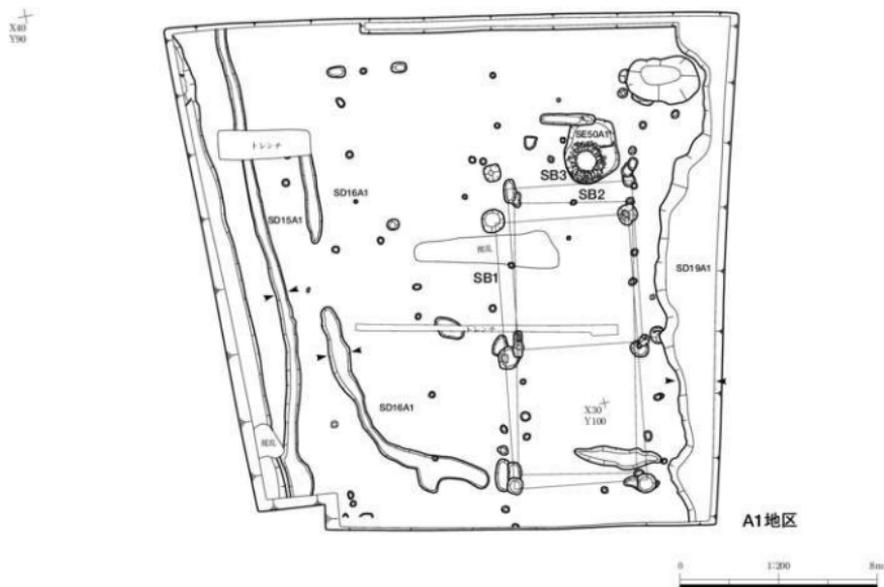


第48図 遺構実測図

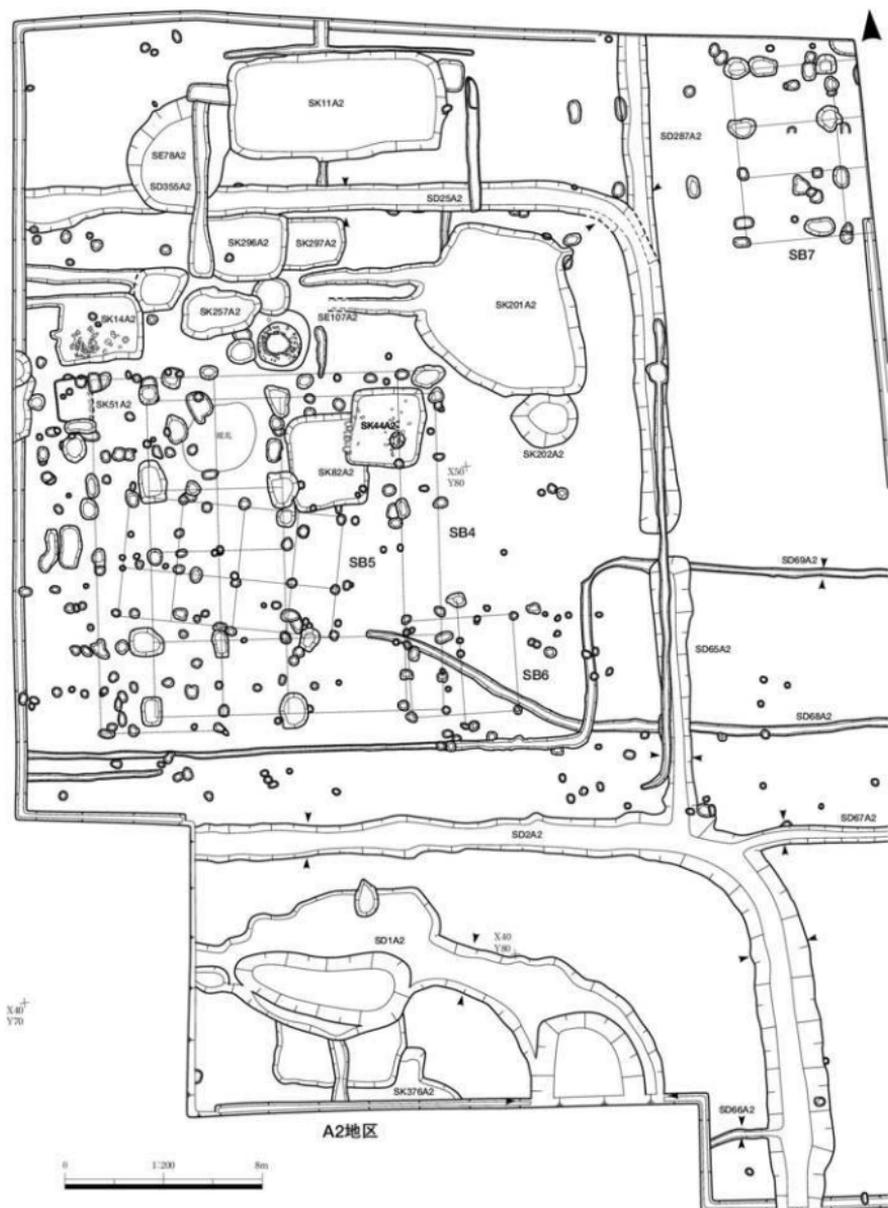
1. SD12A2 2. SD74A3 3. SD101B2・SD102B2 4. SD289B2 5. SD160B3 6. SD122B3
7・8. SR1B3 9. SD162B3 10. SK216B3



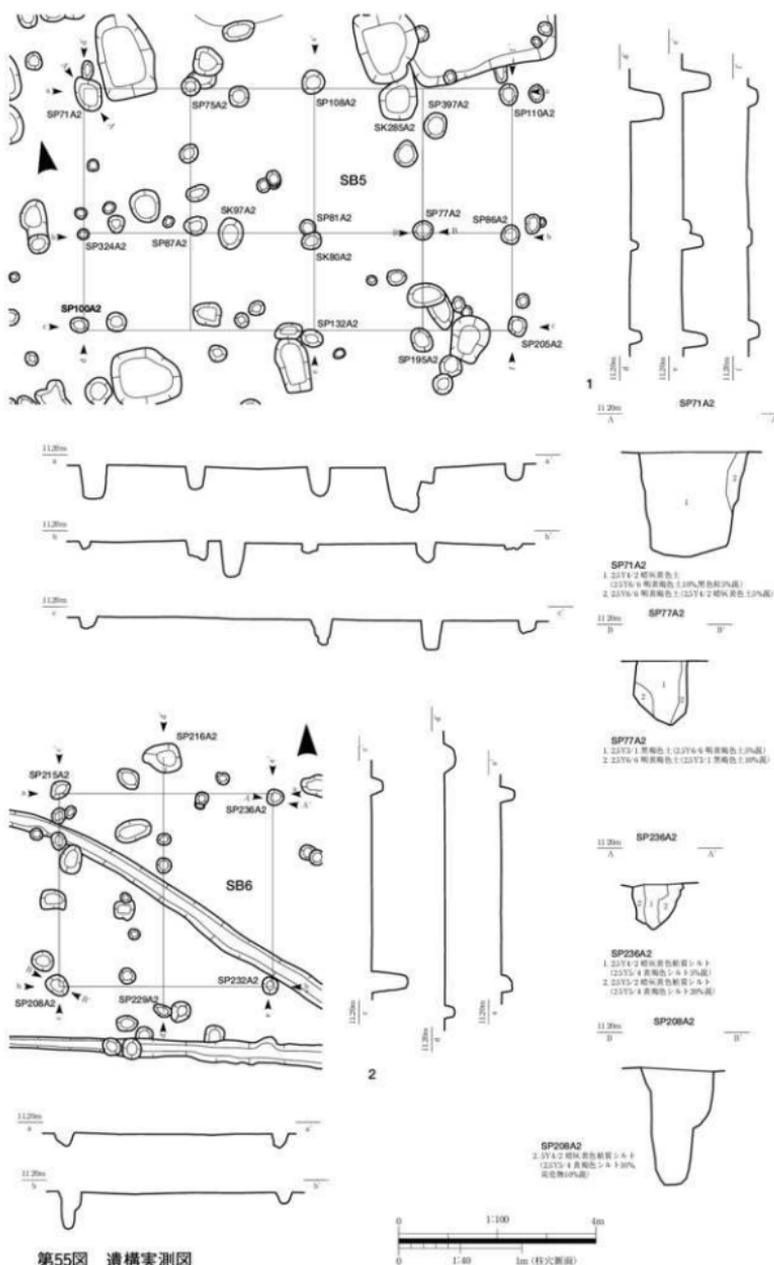
第50図 遺構全体図(近世)



第51図 遺構実測図

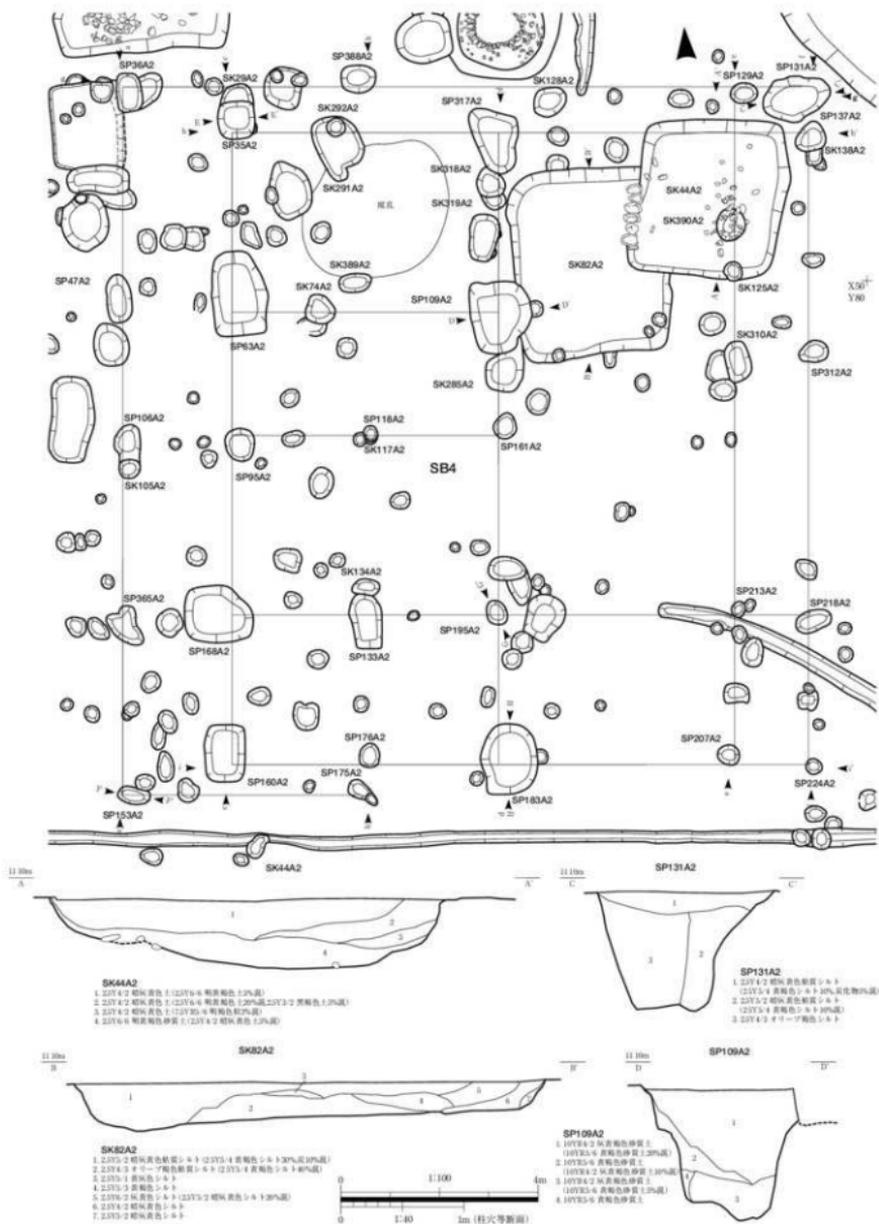


第52図 遺構実測図



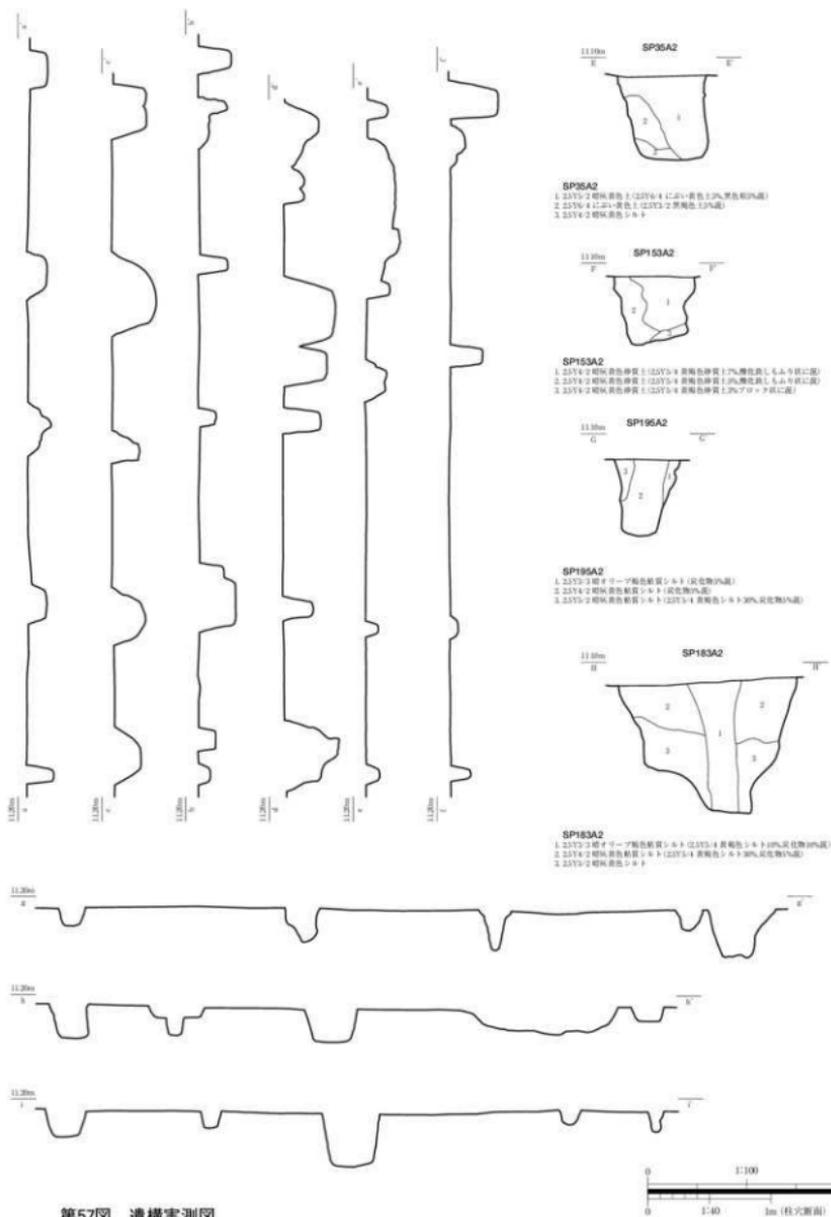
第55図 遺構実測図

1. SB5 2. SB6

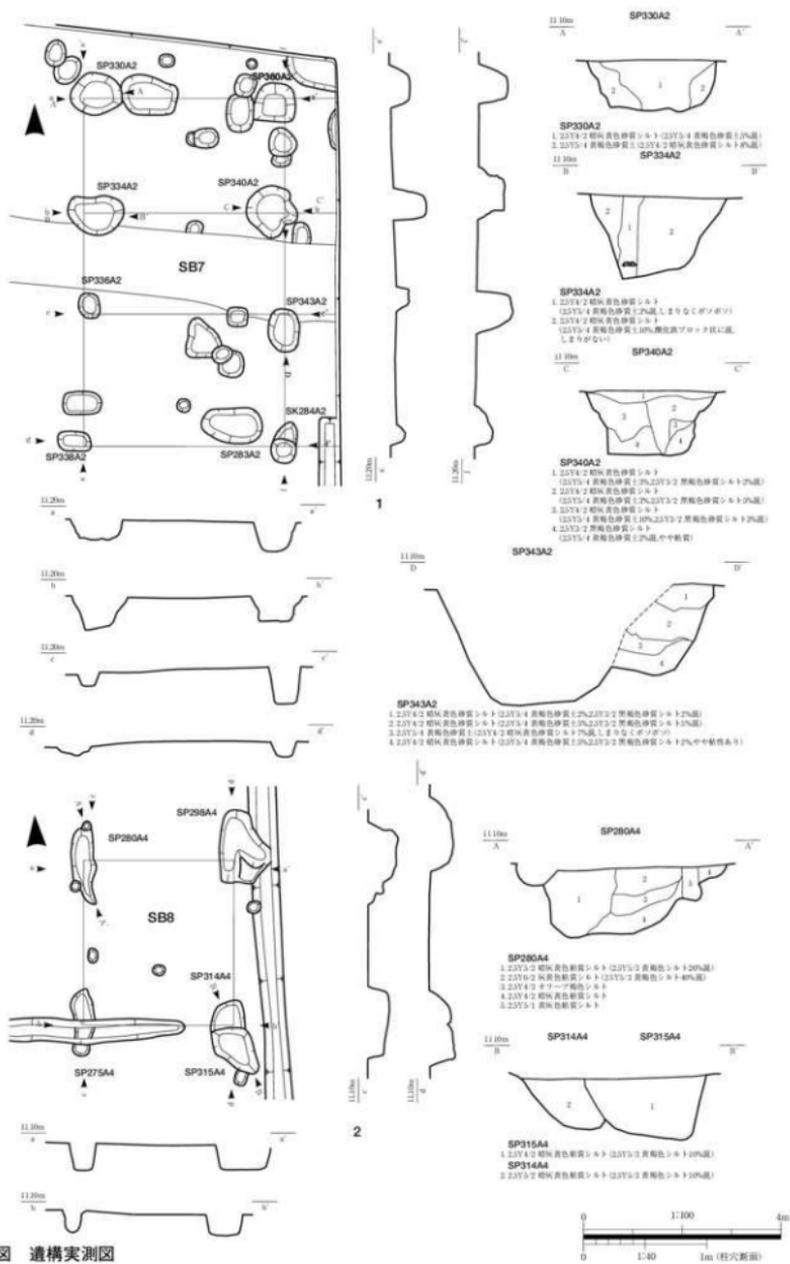


第56図 遺構実測図

SB4

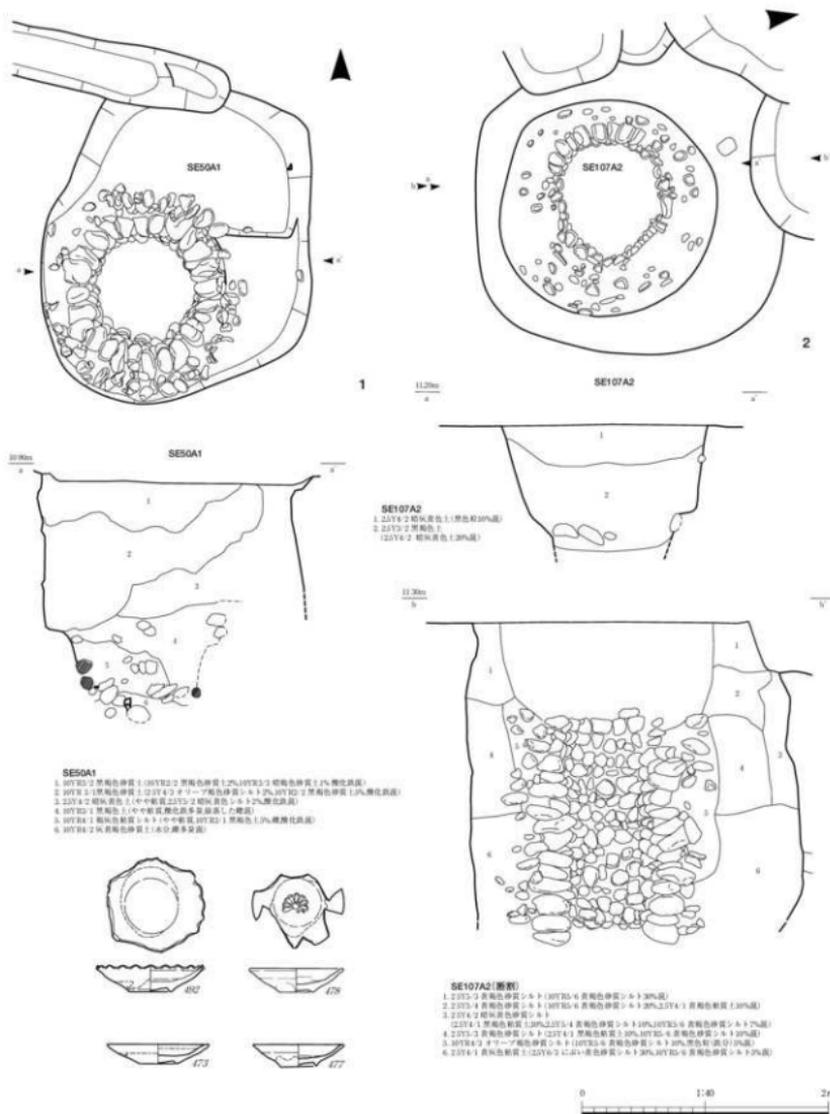


第57図 遺構実測図
SB4



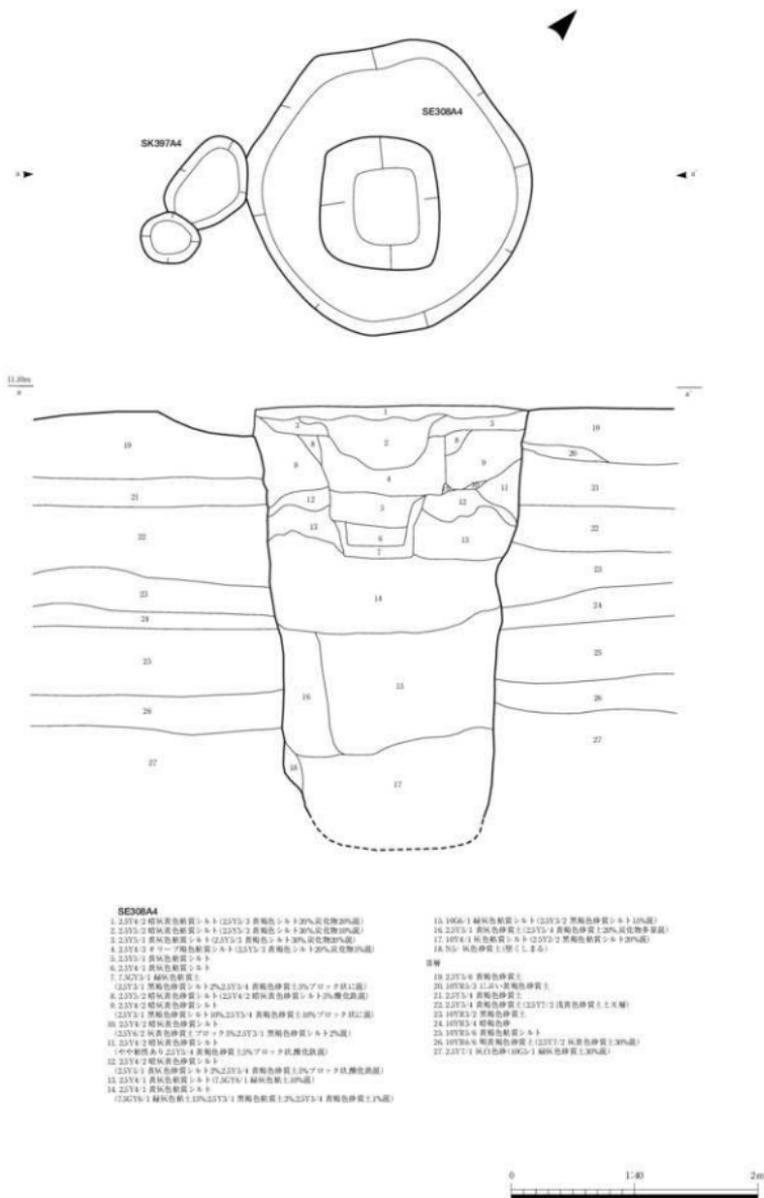
第58図 遺構実測図

1. SB7 2. SB8

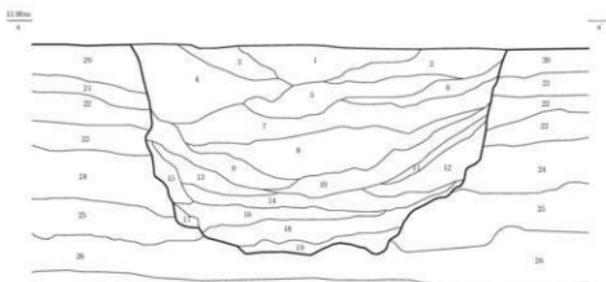
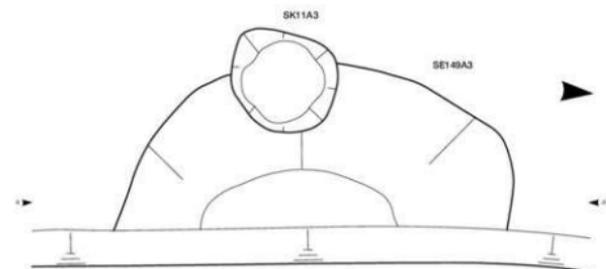


第59図 遺構実測図

1. SE50A1 2. SE107A2



第61図 遺構実測図
SE308A4



SE149A3

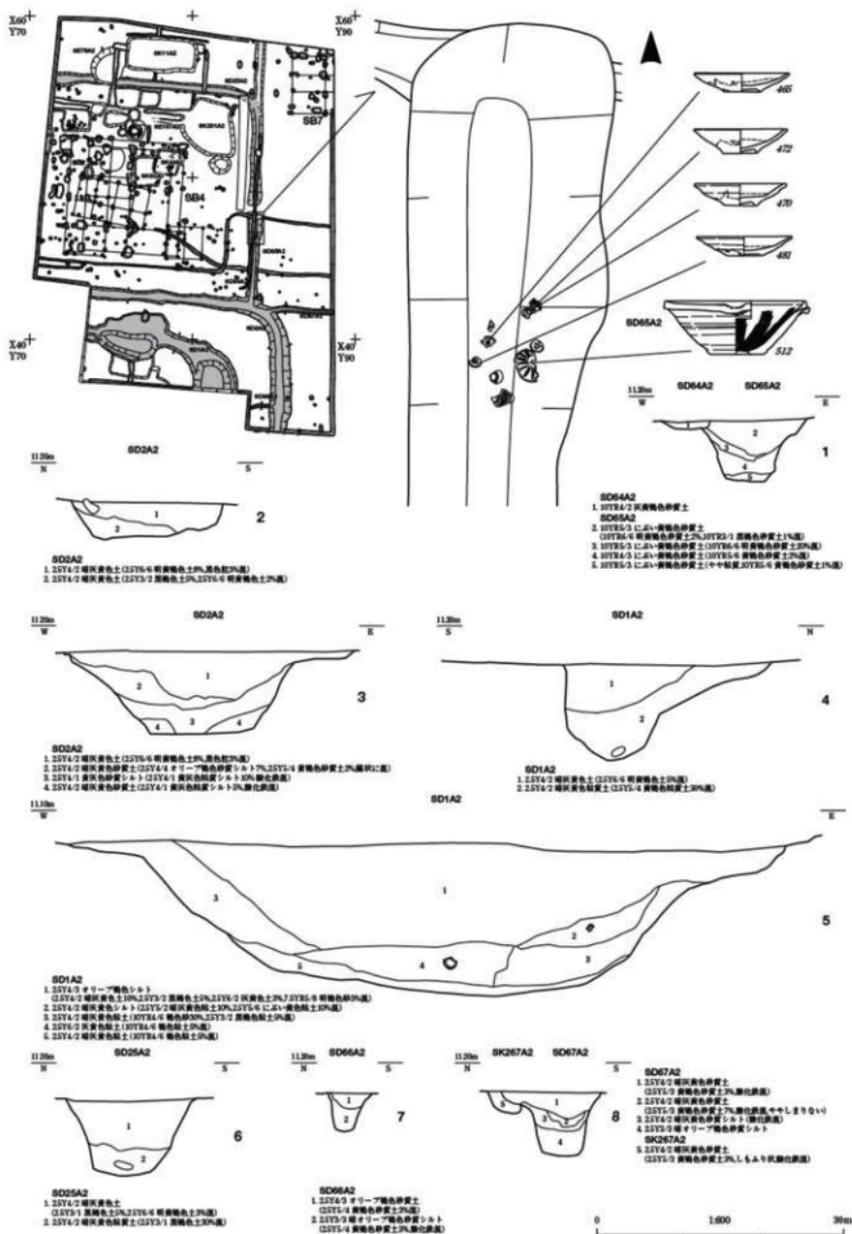
- | | |
|--|---|
| 1. 2374-2 オープン状断面層 S 4 (2373-2 黒褐色粘土アゾウ土表に20%混) | 15. 2373-2 黒褐色砂質 S 4 (2372-2 黒褐色 S 4 土2%)混) |
| 2. 2373-1 黒褐色砂質 S 4 (2372-2 黒褐色粘土アゾウ土表に10%混) | 16. 2374-2 砂質土 S 4 (2373-2 土20%-褐色 S 4 土1%)内埋込土混) |
| 3. 2374-2 砂質土褐色砂質 S 4 (2373-2 黒褐色粘土アゾウ土表に20%混) | 17. 2373-2 黒褐色 S 4 (1077R 4 褐色砂 褐色土混) |
| 4. 2374-4 オープン状断面層 S 4 (2373-2 黒褐色粘土アゾウ土表に20%混) | 18. 2376-2 土20%-褐色 S 4 (2375-2 砂質土褐色砂質 S 4 土20%-褐色土混) |
| 5. 2375-2 砂質土褐色砂質 S 4 (2374-2 黒褐色粘土アゾウ土表に20%混) | 19. 2374-1 黒褐色砂質 S 4 (6)中砂質2376-2 土20%-褐色 S 4 土20%混) |
| 6. 2375-2 黒褐色砂質 S 4 (2374-2 黒褐色粘土アゾウ土表に10%混) | |
| 7. 2375-2 オープン状断面層 S 4 (2374-2 黒褐色粘土アゾウ土表に20%混) | |
| 8. 2376-4 黒褐色 S 4 (2375-2 黒褐色粘土アゾウ土表に10%土2372-2 黒褐色 S 4 土20%混) | |
| 9. 2376-4 オープン状断面層 S 4 (2375-2 黒褐色粘土アゾウ土表に10%混) | |
| 10. 2375-3 黒褐色 S 4 土 | |
| 11. 2374-1 黒褐色 S 4 土 | |
| 12. 2375-4 黒褐色 S 4 土 | |
| 13. 2375-2 黒褐色砂質 S 4 (2373-2 黒褐色 S 4 土10%混) | |
| 14. 2373-2 黒褐色 S 4 土(2376-2 土20%-褐色 S 4 土20%混) | |
| | 20. 1077R 2 黒褐色砂質 S 4 土 |
| | 21. 2374-4 オープン状断面層 |
| | 22. 1077R 4 黒褐色砂質 S 4 土 |
| | 23. 2374-4 オープン状断面層1077R 4 黒褐色砂質 S 4 土10%混) |
| | 24. 1077R 4 土20%-黒褐色砂質 S 4 土(褐色土混) |
| | 25. 1077R 4 黒褐色砂質 S 4 (2375-2 黒褐色粘土アゾウ土表に10%混) |
| | 26. 2373-2 黒褐色砂質 |

備考



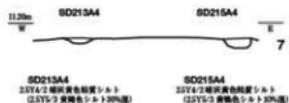
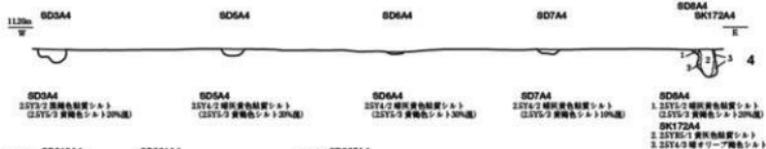
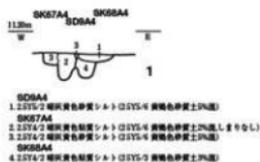
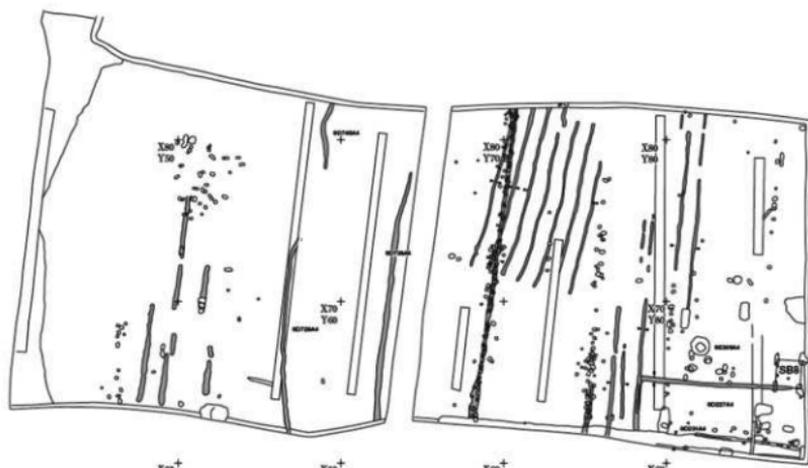
第62図 遺構実測図

SE149A3



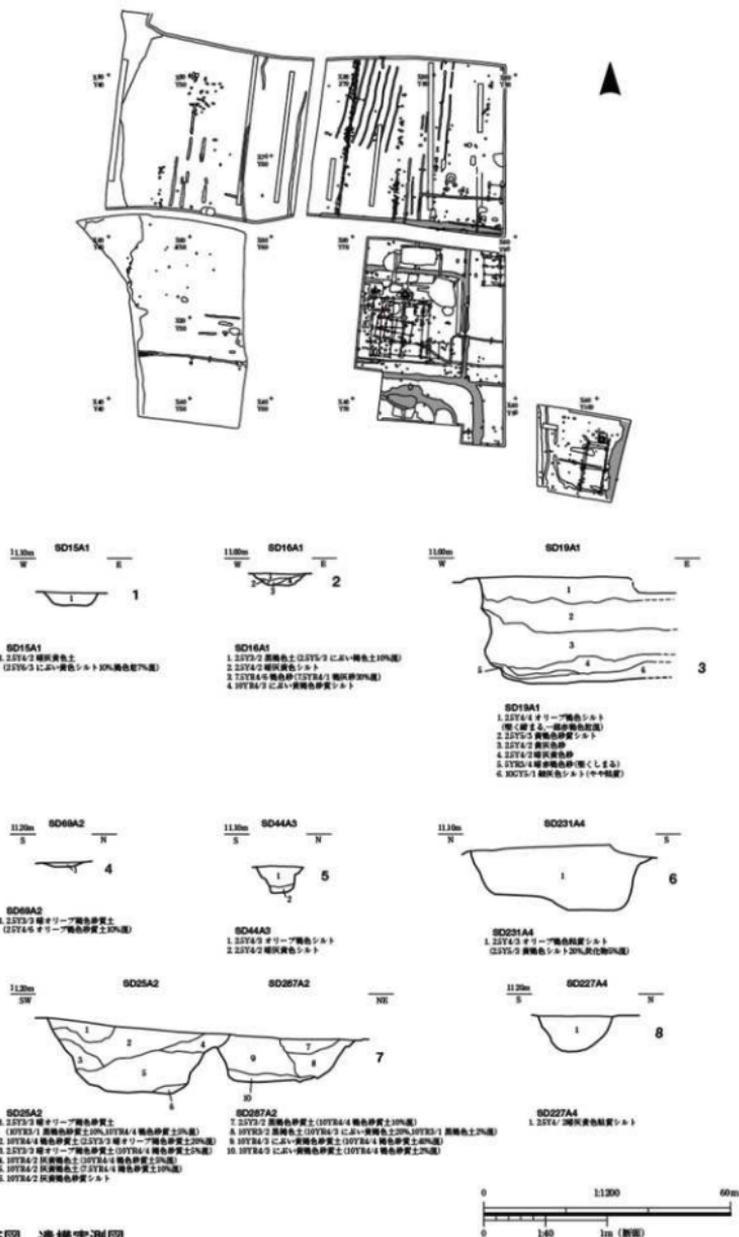
第63図 遺構実測図

1, SD64A2・SD65A2 2・3, SD2A2 4・5, SD1A2 6, SD25A2 7, SD66A2
 8, SD67A2・SK267A2



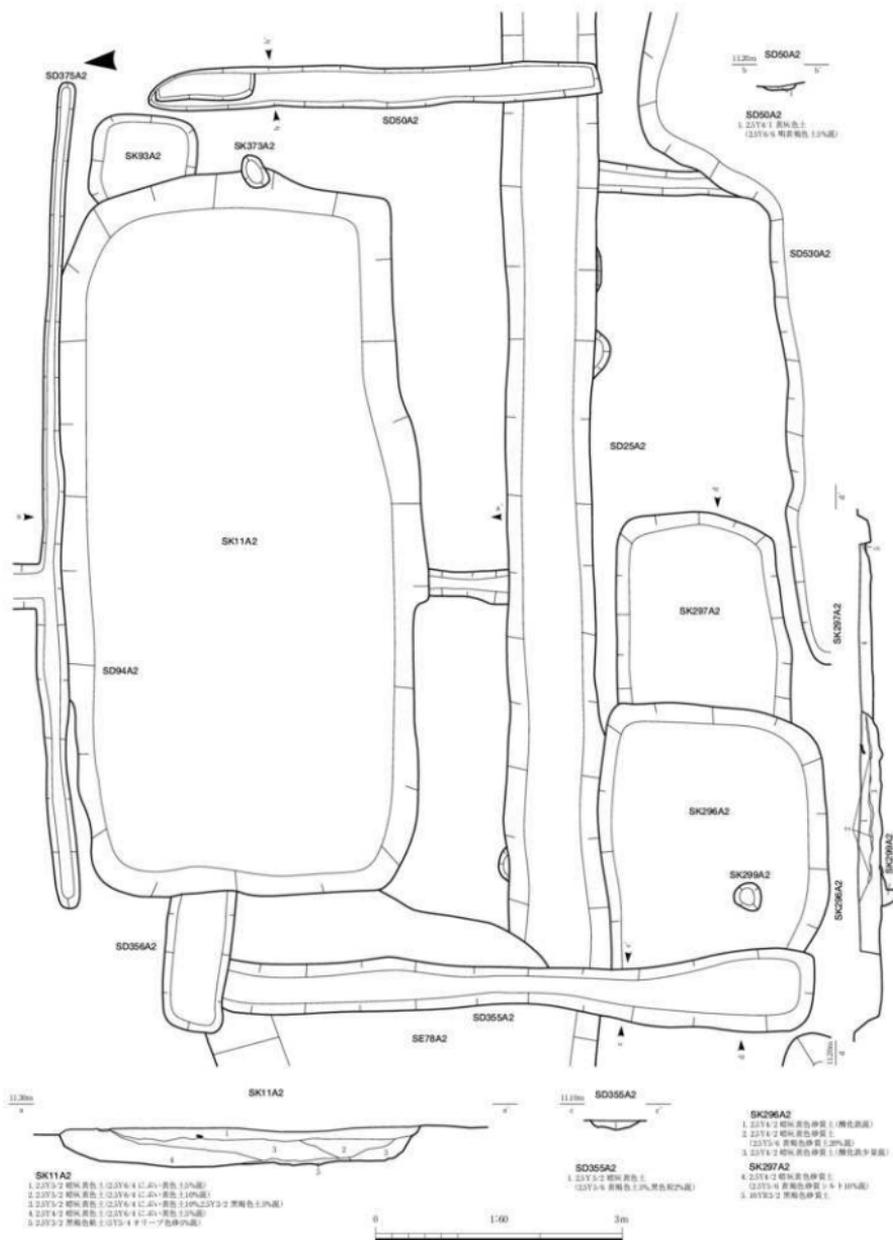
第64図 遺構実測図

1. SD9A4・SK67A4・SK68A4 2. SD1A4 3. SD2A4
4. SD3A4・SD6A4・SD6A4・SD7A4・SD8A4・SK172A4 5. SD219A4・SD221A4 6. SD225A4
7. SD213A4・SD215A4 8. SD19A4



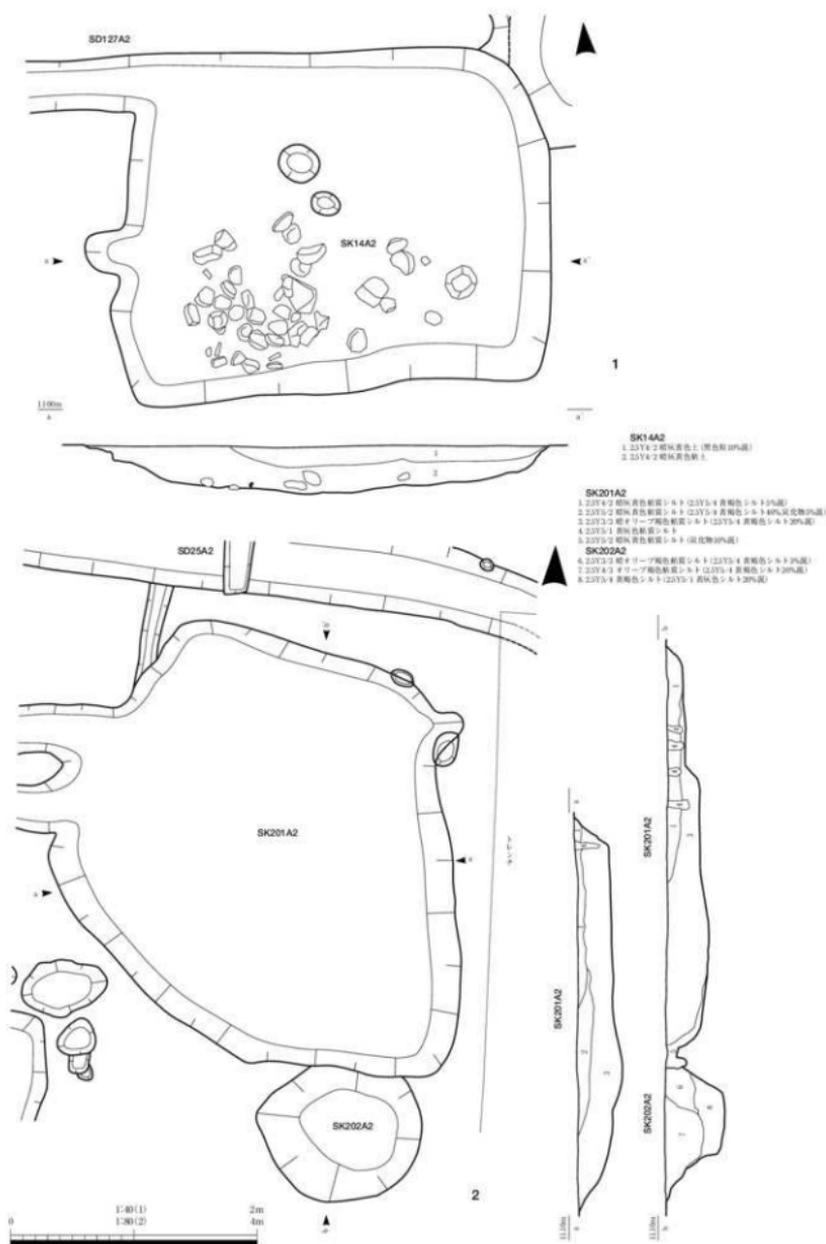
第65図 遺構実測図

1. SD15A1 2. SD16A1 3. SD19A1 4. SD69A2 5. SD44A3 6. SD231A4
7. SD25A2・SD287A2 8. SD227A4



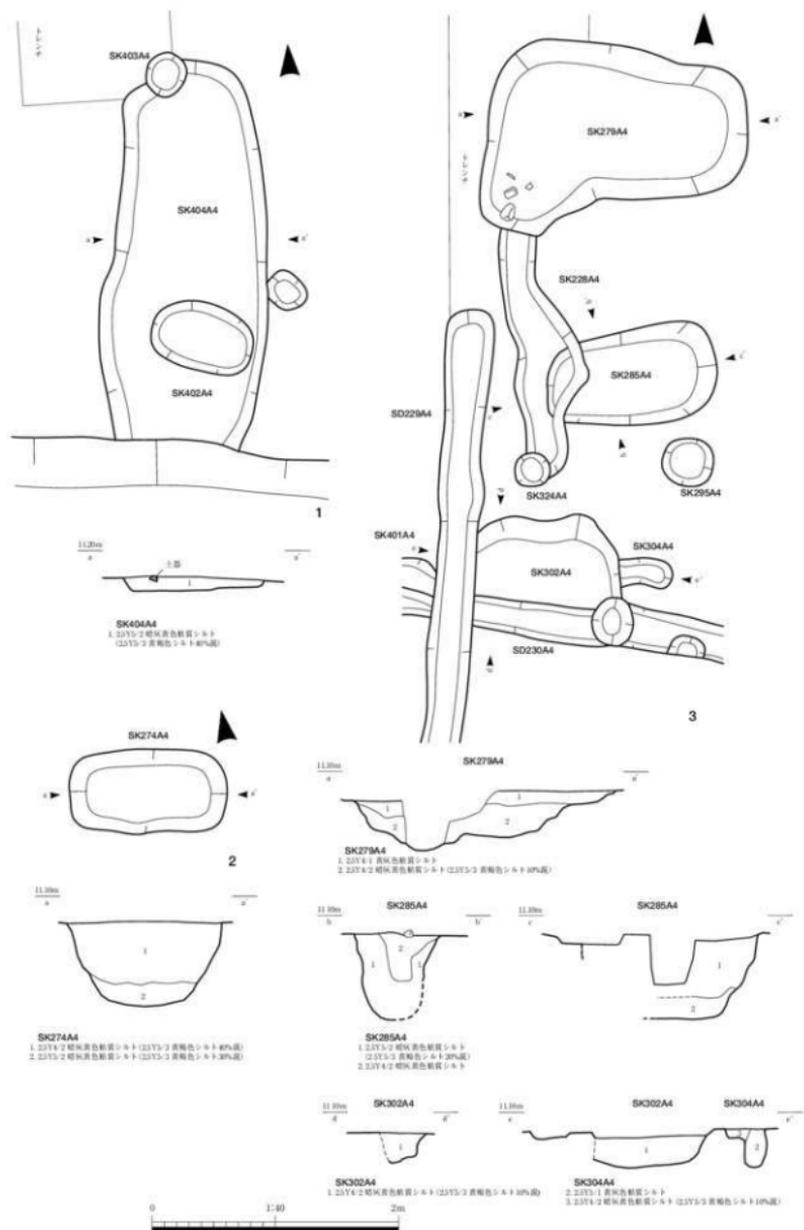
第66図 遺構実測図

SK11A2・SD50A2・SK296A2・SK297A2・SD355A2



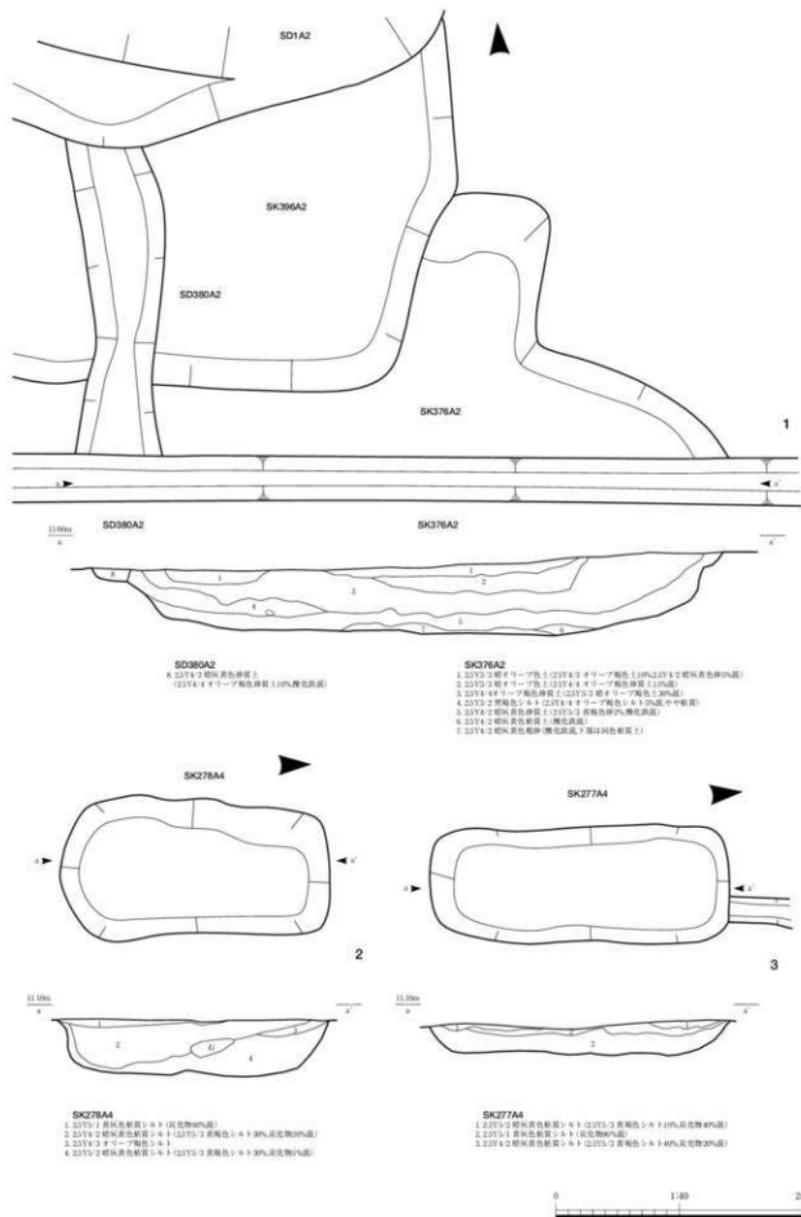
第67図 遺構実測図

1. SK14A2 2. SK201A2・SK202A2



第68図 遺構実測図

1. SK404A4 2. SK274A4 3. SK279A4・SK285A4・SK302A4・SK304A4



第69図 遺構実測図

1. SK376A2 2. SK278A4 3. SK277A4

第7表 縄文～古墳時代 遺構一覧

遺構番号	種類	平面形	規模, cm			出土遺物	時期	特記事項	跡目番号	図版番号
			長さ	幅	高さ					
SX101A1	伊勢	不整	124	97	30	縄文(52)	縄文晩期	炭化物の堆積と深跡下半部出土	12	4
SX102A1	埋設土器	-	36	34	36	縄文(54)	縄文晩期	壺の肩部以下が出土。内容物は焼土・炭化物混の赤褐色土に骨片含む	13	5
SX401A2	住居	不整	760	500	38	縄文(28・29・30・41・43・47・49・51・65・66・79)・不明石製品	縄文晩期	3棟の系履か。発出時から大割く式部行の土器が多く出土。A式併存もあり	9	4
SK411A2	土坑	楕円	120	70	13		縄文晩期		12	
SK412A2	土坑	円	113	95	30		縄文晩期		12	
SK801A4	土坑	楕円	150	140	5	縄文(11)	縄文晩期	埋土ほとんどなく土器集中。埴山よりやや低味あり	14	5
SK802A4	土坑	楕円	220	190	5	縄文(9)	縄文晩期	埋土は薄い	14	5
SK803A4	土坑	長楕円	135	55	8		縄文晩期	埋土は薄い	14	
SK804A4	住居	不整 (340)	210	13		縄文	縄文晩期	埋土は僅かで床面の硬化は弱い	10	4
SK805A4	土坑	円	37	30	7		縄文晩期	SK804A4の床面で確認。掘り込みが浅く、柱穴の可能性は低い	10	
SK806A4	土坑	楕円	35	23	7		縄文晩期	SK804A4の床面で確認。掘り込みが浅く、柱穴の可能性は低い	10	
SK807A4	住居	不整 (440)	(387)	6		縄文(44)・明石(642)・不明石製品	縄文晩期	埋土は僅かで、床面の硬化は弱い。遺物は床面直上、埋土中からまとまって出土	10	4
SK808A4	土坑	不整 (130)	(86)	45		縄文	縄文晩期	SK807A4の床面で確認。柱穴の可能性もある。埋土は噴砂に切られている	10	
SK809A4	住居	方	455	300	15	縄文・炭化物	縄文晩期	埋土は僅かで、2箇所の上土を確認。床面はSK807A4よりは硬化。遺物は床面直上や埋土中から出土	11	4
SK810A4	土坑	円	67	60	30	縄文(62)	縄文晩期	土器がまとまって出土	14	5
SX811A4	埋設土器	-	40	38	23	縄文(29)	縄文晩期	土器は底部を欠く	13	5
SK401B2	土坑	不整 (36)	46	30		弥生(11)	弥生～古墳	下層で検出	15	
SK402B2	土坑	不整 (152)	(60)	18		縄文・弥生	弥生～古墳	下層で検出	15	
SK403B2	土坑	楕円	65	56	13	弥生(12)	弥生～古墳	下層で検出	15	

出土遺物の表記については以下の略称を用いた。

縄文：縄文土器、弥生：弥生土器、土師：土師器、須恵：須恵器、灰輪：灰輪陶器、中土：中世土師器、越前：越中瀬戸、瓦質：瓦質土器

第8表 中近世 掘立柱建物・柵一覧(1)

建物 番号	掘立柱 柱間	掘立柱 柱間	掘立柱 柱間	面積 (㎡)	柱間距離 (cm)				柱穴幅 (cm)				柱形式	方位	時期	柱穴	備考	跡目 番号	図版 番号					
					桁行	棟行	棟行	棟行	径	径	径	径												
SB11	2			3.97					198	199					28-30	29-32	?	?	中世	SP20A2・SP20A2・SP20A2	1-2	24		
SB12	2	2	4.1	5.83	23.90	240	210		208	205					25-48	30-40	竪	N-7.5°-E	中世	SP51A3・SP22A3・SP23A3・SP24A3・SP25A3・SP26A3・SP27A3・SP28A3	1-2	24	6	
SB13	2	2	5.3	4.28	24.00	280	270		222	216					21-43	30-34	竪	N-3.7°-W	中世	SP60A3・SP61A3・SP62A3・SP63A3・SP64A3・SP65A3・SP66A3・SP67A3	1-2	24	6	
SB14	4	3	11.78	6.13	72.45	282	308	280	301	225	255	215			30-60	3-16	竪	N-1°-W	中世	SP102A3・SP103A3・SP104A3・SP105A3・SP106A3・SP107A3・SP108A3・SP109A3・SP110A3・SP111A3・SP112A3・SP113A3・SP114A3・SP115A3・SP116A3・SP117A3	1-1	25	6	
SB15	4	4	30.11	9.42	97.55	211	260	270	258	230	250	216	238		18-59	1-41	竪	N-0°	中世	SP127A3・SP128A3・SP129A3・SP130A3・SP131A3・SP132A3・SP133A3・SP134A3・SP135A3・SP136A3	1-1	26	6	
SB16	2	4	4.9	9.37	45.91	229	261		223	225	240	219			28-30	16-37	竪	N-0.5°-W	中世	SP121A3・SP122A3・SP123A3・SP124A3・SP125A3・SP126A3・SP127A3	1-1	25	6	
SB17	3			6.98					250	232	216				30-47	27-42	竪	N-1.0°-E	中世	SP128A3・SP129A3・SP130A3・SP131A3	1-1	24	6	
SB18	2	3	5.75	6.68	38.41	280	276		218	234	216				40-58	30-68	竪	N-10°-E	中世	SP206A1・SP206A1・SP206A1・SP207A1・SP211A1・SP216A1・SP218A1・SP221A1・SP221A1・SP260A1	1-2	27	7	
SB19	5	5	13.26	11	145.36	230	284	250	280	244	218	226	233	212		31-68	15-63	竪	N-1.5°-E	中世	SP258A1・SP258A1・SP257A1・SP258A1・SP259A1・SP260A1・SP261A1・SP262A1・SP263A1・SP264A1・SP265A1・SP266A1・SP267A1・SP268A1・SP269A1・SP270A1・SP271A1・SP272A1・SP273A1・SP274A1・SP275A1・SP276A1・SP277A1・SP278A1・SP279A1・SP280A1・SP281A1・SP282A1・SP283A1・SP284A1・SP285A1・SP286A1・SP287A1・SP288A1・SP289A1・SP290A1・SP291A1・SP292A1・SP293A1・SP294A1・SP295A1・SP296A1・SP297A1・SP298A1・SP299A1・SP300A1	1-1	28-29	7

第8表 中近世 掘立柱建物・柵一覽(3)

建物番号	建行法	建行長(m)	建行高(m)	高根(m)	柱間距離(cm)				柱穴間隔(cm)		柱形式	方位	時期	柱穴	調査	掘削番号	図取番号								
					建行	建行	建行	建行	深	深															
S246	3	4	7.3	8.96	66.14	214	200	226		232	211	235	207		28-56	10-53	掘	N-20.7°-E	中世	SP12B1 + SP13B1 + SP16B1 + SP13B2 + SP14B2 + SP15B2 + SP17B2 + SP18B2 + SP20B2 + SP14B3 + SP22B2	1-4	44	9		
S247	1	1	10.76	5.25	56.49	253	203	263	263	325					31-71	15-17	掘	S-7.5°-E	中世	SP19B1 + SP18B3 + SP12B3 + SP14B3 + SP19B3 + SP11B3	1-2	45			
S248	3			7.02		227	242	233							38-52	34-44	掘	N-8.5°-E	中世	SP21B1 + SP19B3 + SP20B3 + SP12B3	1-2	45			
SA1		2								140	140									SP19B1 + SP20B1 + SP20B1	■1-2	44			
SA2		3				205	201	235												SP19B1 + SP19B3 + SP19B3 + SP19B3			■	44	
SB1	2	1	10.89	5.48	58.68	560	529			518					42-143	8-75	掘	N-6.5°-E	近世	SP71A1 + SP61A1 + SP18A1 + SP26A1 + SP27A1 + SP28A1 + SP28A1			■	34	12
SB2	2	1	11.1	4.86	53.95	100	529			486					30-108	10-75	掘	S-9.5°-E	近世	SP71A1 + SP25A1 + SP28A1 + SP28A1 + SP28A1 + SP71A1			■	34	13
SB3	1	1	6.6	5.02	33.13	660				302					49-108	26-78	掘	N-7.0°-E	近世	SP61A1 + SP61A1 + SP64A1 + SP27A1			■	34	12
SB4	1	2	12.85	11.3	134.37	364	252	364	303	547	631				30-171	19-109	掘	S-6°-E	近世	SP18A2 + SP16A2 + SP16A2 + SP24A2 + SP25A2 + SP26A2 + SP19A2 + SP11A2 + SP11A2 + SP27A2 + SP22A2 + SP21A2 + SP22A2 + SP22A2 + SP26A2			■	56-57	12-13
SB5	2	4	4.86	8.76	43.45	294	200			219	233	221	183		21-77	10-68	掘	N-14°-E	近世	SP71A2 + SP25A2 + SP72A2 + SP18A2 + SP26A2 + SP26A2 + SP19A2 + SP18A2 + SP18A2 + SP18A2 + SP22A2 + SP22A2 + SP22A2			■	35	12-13
SB6	1	2	3.95	4.30	17.34	305				215	224				33-76	23-75	掘	N-4°-E	近世	SP20B2 + SP23A2 + SP21A2 + SP20B2 + SP22A2 + SP22A2 + SP22A2			■	30	12-13
SB7	3	1	7.12	4.1	28.19	236	203	271		410					50-114	16-76	掘	S-1.0°-E	近世	SP28A2 + SP23A2 + SP23A2 + SP23A2 + SP23A2 + SP23A2 + SP23A2			■	36	
SB8	1	1	3.39	3.08	19.41	338				308					92-156	42-60	掘	S-4.0°-E	近世	SP27A1 + SP28A1 + SP29A1 + SP24A1 + SP24A1			■	36	13

第9表 中近世 柱穴一覽(1)

建物番号	遺構番号	平面形	規模・cm		出土遺物	特記事項	掘削番号	図取番号
			長さ	幅・深さ				
中世								
SB11	SP120A2	円	30	30	52			
	SP122A2	円	28	26	39			34
	SP128A2	円	35	34	35			
	SP151A3	円	25	43	21			
	SP152A3	円	40	35	38			
	SP153A3	円	33	31	40			
SB12	SP144A3	楕円	48	40	14			
	SP155A3	円	35	30	38			24
	SP166A3	円	25	22	12			6
	SP167A3	円	30	30	15			
	SP198A3	円	28	28	10			
	SP199A3	円	24	30	32			
	SP160A3	円	43	30	40			
	SP161A3	円	28	28	13			
	SP162A3	円	28	26	11			
SB13	SP163A3	円	24	30	10			24
	SP164A3	円	34	31	24			6
	SP165A3	円	35	28	12			
	SP166A3	円	30	26	16			
	SP167A3	楕円	36	27	10			
SB14	SP102A3	円	34	28	5			
	SP103A3	円	34	30	21			
	SP104A3	円	45	45	27			
	SP105A3	円	30	30	15			
	SP106A3	円	39	43	46			
	SP108A3	円	42	42	37			
	SP109A3	円	60	50	25			
	SP110A3	円	35	37	25			25
	SP111A3	円	42	40	22			6
	SP112A3	円	36	35	23			
	SP113A3	円	40	38	27			
	SP114A3	円	40	34	38			
	SP115A3	円	42	36	37			
	SP116A3	円	40	38	30			
	SP117A3	円	40	38	23			
	SP177A3	円	55	40	30			
	SP178A3	円	46	42	28			
	SP179A3	楕円	49	35	27			
SB15	SP180A3	円	44	40	30			
	SP181A3	円	52	30	21			
	SP182A3	円	40	35	27			
	SP183A3	円	45	45	40			26
	SP184A3	円	38	45	28			6
	SP185A3	円	52	46	25			
	SP186A3	円	45	42	33			

第9表 中近世 柱穴一覧(2)

建物番号	遺構番号	平面形	規模・cm			出土遺物	特記事項	棟回数	図版番号
			長さ	幅	深さ				
SB15	SP87A3	円	42	40	36	中土	>SK97A3	26	6
	SP88A3	円	30	28	38		>SP47A3		
	SP89A3	円	35	35	38	中土	>SP120A3		
	SP90A3	楕円	39	37	40	中土(15?)	>SP124A3		
	SP91A3	円	42	38	41				
	SP92A3	円	38	42	18	中土			
	SP93A3	円	43	38	23				
	SP94A3	円	40	38	35				
	SP95A3	円	43	35	38				
	SP96A3	円	26	24	17				
	SP121A3	円	36	34	9				
	SP134A3	円	18	18	4				
	SP135A3	円	38	26	15	中土(15?)			
	SP146A3	円	27	24	8				
SB16	SP47A3	楕円	50	50	35		<SP98A3	25	6
	SP97A3	円	40	40	20		<SP87A3		
	SP120A3	楕円	(23.0)	32	30		<SP89A3		
	SP123A3	円	43	35	21				
	SP124A3	円	(18)	40	21		<SP90A3		
	SP125A3	円	35	42	23				
	SP126A3	円	34	35	34				
	SP127A3	円	35	34	37				
SB17	SP130A3	円	29	25	16	中土		24	6
	SP131A3	円	26	26	30				
	SP132A3	円	23	23	20				
	SP136A3	円	47	45	42				
SB18	SP171A4	円	44	44	34			27	7
	SP138A3	円	43	39	41				
	SP142A3	円	39	34	27				
	SP685A4	円	42	40	45		>SK694A4 柱痕		
SB19	SP695A4	円	42	42	32		>SK743A4 柱痕	28・29	7
	SP705A4	円	37	50	35	縄文	柱痕		
	SP707A4	円	50	43	50		柱痕		
	SP711A4	円	39	43	68		柱痕		
	SP716A4	木塼	53	50	48		>SK717A4, <SK715A4 柱痕		
	SP719A4	円	46	40	65		柱痕		
	SP721A4	円	40	37	36		>SK720A4 柱痕		
	SP732A4	楕円	58	43	48		>SD733A4		
	SP764A4	楕円	46	34	20		自然流路の石部で検出		
	SP538A4	円	35	30	51		柱痕		
	SP636A4	円	49	37	35		柱痕		
	SP837A4	円	43	41	38		柱痕		
	SP638A4	円	37	35	35		柱痕		
	SP639A4	円	48	44	34	中土	柱痕		
	SP640A4	円	38	33	30	鉄滓	柱痕		
	SP641A4	方	46	40	37		柱痕		
	SP642A4	楕円	45	36	36		柱痕		
	SP643A4	円	40	34	39		柱痕		
	SP644A4	円	50	48	40		柱痕		
	SP645A4	円	49	(38)	24	中土・鉄滓	<SD686A4		
	SP646A4	円	50	41	45		柱痕		
	SP647A4	円	44	38	43		柱痕		
SP648A4	円	38	38	43	中土	柱痕			
SP649A4	円	39	45	42		柱痕			
SP650A4	円	38	38	36		柱痕			
SP651A4	木塼	55	60	53	縄文	柱痕			
SP652A4	円	42	40	45		柱痕			
SP653A4	方	45	37	38		柱痕			
SP654A4	円	52	46	34	中土・鉄滓	柱痕			
SP655A4	円	45	41	34		柱痕 自然流路の石部で検出			
SP656A4	楕円	52	36	43		柱痕			
SP657A4	楕円	68	46	55		柱痕			
SP658A4	円	51	40	32		柱痕			
SP659A4	木塼	43	40	40		>SD734A4 柱痕			
SP660A4	円	38	36	36		柱痕			
SP661A4	円	34	32	21		柱痕			
SP662A4	円	47	45	50		柱痕			
SP664A4	円	45	38	15		柱痕			
SP703A4	木塼	50	48	63		<SD678A4 柱痕			
SP709A4	円	52	50	55		>SK710A4 柱痕			
SP768A4	円	45	39	60		柱痕			
SB20	SP644A4	円	50	48	40		柱痕	27	7
	SP675A4	楕円	45	29	24		柱痕		
	SP680A4	円	27	23	32		柱痕		
	SP683A4	円	22	21	30		柱痕		
	SP688A4	円	30	31	23		柱痕		
	SP689A4	円	52	40	23		柱痕		
	SP691A4	円	30	27	5		>SP692A4		
SB21	SP699A4	円	30	28	25		柱痕	27	7
	SP675A4	楕円	45	29	24		柱痕		
	SP679A4	楕円	55	49	29		柱痕		
	SP682A4	円	30	28	27		柱痕		
SB22	SP687A4	円	26	30	28		柱痕	30・31	7
	SP689A4	円	52	40	23		柱痕		
	SP766A4	円	28	22	17		自然流路の石部で検出		
SB22	SP501A4	円	28	28	47		柱痕	30・31	7
	SP502A4	円	(20)	32	28		<SD653A4		

第9表 中近世 柱穴一覧(3)

建物番号	遺構番号	平面形	規模・cm		出土遺物	特記事項	棟間番号	採取番号
			長さ	幅				
SE22	SP503A4	円	34	32	43	柱痕	30・31	7
	SP504A4	円	30	28	47	柱痕		
	SP505A4	円	42	40	30	柱痕		
	SP506A4	円	42	33	68	柱痕		
	SP507A4	円	30	25	38	柱痕		
	SP508A4	円	40	33	30	柱痕		
	SP509A4	円	31	28	40	柱痕		
	SP510A4	円	25	25	46	柱痕		
	SP511A4	円	31	31	57	柱痕		
	SP512A4	円	32	31	70	柱痕		
	SP513A4	円	30	30	40	柱痕		
	SP514A4	楕円	32	25	35	柱痕		
	SP515A4	楕円	46	36	38	柱痕		
	SP516A4	楕円	50	120	44	<SD335A4 柱痕		
	SP517A4	楕円	46	38	51	柱痕		
	SP518A4	円	55	51	53	柱痕		
	SP519A4	楕円	49	36	36	柱痕		
	SP520A4	円	36	32	50	柱痕		
	SP521A4	楕円	45	134	35	柱痕		
	SP522A4	楕円	40	39	47	柱痕		
	SP523A4	円	35	32	65	柱痕		
SP524A4	円	39	34	57	柱痕			
SP525A4	円	36	31	32	柱痕			
SP526A4	円	52	42	38	柱痕			
SP527A4	円	30	28	30	>SI731A4 柱痕			
SP528A4	円	44	38	45	柱痕			
SP529A4	円	42	40	10	縄文			
SP530A4	楕円	45	40	46	柱痕			
SP531A4	円	34	30	34	柱痕			
SP532A4	円	31	28	47	中土			
SP533A4	楕円	88	68	23	中土・釘(637)			
SP534A4	円	36	33	47	柱痕			
SP535A4	円	36	30	29	柱痕			
SR23	SP621A4	円	38	38	40	柱痕	32	7
	SP622A4	円	40	36	32	柱痕		
	SP623A4	円	35	34	16	柱痕		
	SP624A4	円	49	41	46	柱痕		
	SP625A4	楕円	53	42	33	柱痕		
	SP626A4	楕円	58	43	32	柱痕		
	SP627A4	不整	50	48	34	柱痕		
	SP628A4	円	46	40	39	柱痕		
	SP629A4	円	40	39	34	柱痕		
	SP630A4	楕円	52	42	34	柱痕		
	SP631A4	円	45	39	22	柱痕		
SP632A4	円	45	42	34	柱痕			
SR24	SP633A4	不整	53	48	30	中土(1,6)	32	7
	SP634A4	円	28	27	25	柱痕		
	SP635A4	楕円	55	36	23	柱痕		
	SP666A4	円	46	40	32	柱痕		
SR25	SP766A4	円	41	41	29	柱痕 自然道路の肩部で検出	33	
	SP724A4	楕円	68	36	25			
	SP725A4	不整	104	46	41			
	SP727A4	楕円	80	36	29			
	SP728A4	楕円	90	68	37			
SR26	SP164A4	円	24	20	9		33	7
	SP165A4	円	24	24	15			
	SP166A4	円	30	22	37	柱痕		
SP167A4	円	28	26	16				
SR27	SP171A4	楕円	58	45	44	柱痕	33	7
	SP172A4	円	34	32	40	柱痕		
	SP177A4	楕円	50	122	30	>SK186A4 柱痕 <SP178A4 柱痕		
	SP178A4	円	42	28	47	>SP177A4		
	SP216A4	円	42	42	35	柱痕		
	SP217A4	円	46	43	37	柱痕		
	SP218A4	円	53	45	35	柱痕		
	SP219A4	円	45	42	37	<SD221A4 柱痕		
	SP222A4	円	48	42	40	柱痕		
	SP223A4	不整	50	124	37	<SD225A4 柱痕		
	SP224A4	円	39	36	43	柱痕		
SR28	SP235A4	円	55	50	52	中土	34	7
	SP303A4	円	135	110	47	柱痕 <SD227A4 柱痕		
	SP257A4	円	31	30	48	柱痕		
	SP258A4	円	35	30	53	中土		
	SP259A4	楕円	43	36	34	縄文		
	SP260A4	円	30	30	65	柱痕		
	SP261A4	楕円	72	56	48	柱痕		
	SP263A4	円	38	37	45	柱痕		
	SP264A4	円	25	20	47	柱痕		
	SP265A4	円	40	40	32	柱痕		
	SP266A4	円	54	54	46	柱痕		
	SP267A4	円	40	38	42	柱痕		
	SP268A4	楕円	48	36	45	中土(129)		
	SP269A4	楕円	50	32	46	唐津		
SP270A4	楕円	112	74	98	柱痕			
SP271A4	円	120	118	32	縄文・青銅・鉄製・伊万里・林氏遺品・唐津			
SP273A4	楕円	47	38	55	<SK272A4 柱痕			
SP286A4	円	28	25	40	柱痕			

第9表 中近世 柱穴一覧(4)

遺物番号	遺構番号	平面形	規模・cm			出土遺物	特記事項	坪回数	図版番号
			長さ	幅	深さ				
SB29	SP30R2	楕円	47	31	42			36・37	8
	SP31R2	円	36	31	41				
	SP32R2	円	36	28	37				
	SP33R2	円	38	36	22	縄文			
	SP34R2	円	38	32	19				
	SP35R2	円	43	37	40	中土			
	SP36R2	不整	36	35	49				
	SP37R2	楕円	43	33	39				
	SP38R2	楕円	40	30	25	中土(286)			
	SP39R2	円	30	30	38	須恵・中土			
	SP40R2	楕円	34	28	55				
	SP41R2	円	40	32	41				
	SP42R2	楕円	63	34	57				
	SP43R2	円	39	28	34				
	SP44R2	円	53	31	48				
	SP45R2	楕円	44	30	32				
	SP46R2	円	30	28	39				
	SP47R2	楕円	57	28	57				
	SP48R2	円	37	32	43				
	SP49R2	楕円	48	32	42				
	SP50R2	円	40	38	42				
	SP51R2	円	35	29	32	中土			
	SP52R2	不整	44	35	60				
	SP53R2	楕円	40	30	32				
	SP54R2	楕円	45	33	33				
	SP55R2	楕円	51	34	53				
	SP56R2	方	40	34	34				
	SP57R2	楕円	38	31	45	珠洲			
	SP58R2	円	39	36	36				
	SP59R2	円	33	30	55				
SP60R2	円	32	30	45					
SP61R2	楕円	40	25	32					
SP62R2	円	40	32	54					
SP63R2	楕円	38	28	55					
SP64R2	円	32	30	25					
SB30	SP94R2	円	31	30	45	中土		35	8
	SP95R2	円	34	32	43	縄文・中土			
	SP96R2	楕円	36	28	15				
	SP108R2	円	34	27	39				
	SP112R2	円	30	28	41	中土・板状鉄製品(967)			
SP118R2	円	38	34	42					
SP195R2	楕円	34	26	50					
SB31	SP115R2	円	34	33	52			35	8
	SP116R2	不整	56	52	53	縄文・弥生?・土師・中土(256)			
	SP119R2	方	52	(47)	56				
	SP128R2	楕円	45	36	70				
	SP130R2	方	40	53	55				
	SP132R2	楕円	(34)	45	49				
	SP136R2	楕円	49	50	32				
	SP137R2	楕円	46	28	15				
SP145R2	不整	90	71	63	中土・棒状鉄製品				
SP193R2	楕円	60	34	50		<SK192R2			
SP245R2	円	30	28	42					
SP247R2	円	29	16	24	中土(276)・瀬戸(432)・八尾				
SB32	SP120R2	楕円	56	36	40	中土・珠洲・白根(357)		38	8
	SP129R2	楕円	55	37	45				
	SP134R2	方	42	35	65	中土			
	SP135R2	楕円	36	33	40	中土			
	SP138R2	円	34	25	43	中土・灰石(647)			
	SP140R2	円	34	31	41	須恵・中土			
	SP142R2	楕円	44	27	38				
	SP175R2	円	33	36	18	縄文・須恵・中土(286)			
	SP194R2	円	32	26	62	縄文・中土	>SK192R2		
	SP243R2	円	36	36	60				
SP256R2	方	38	33	36					
SP304R2	不整	60	31	64					
SP311R2	円	33	31	37					
SP319R2	円	35	30	31					
SP325R2	方	32	37	47					
SB33	SP123R2	円	36	28	18			35	8
	SP124R2	円	40	32	47				
	SP125R2	円	30	30	34				
	SP155R2	円	30	28	16	中土(337)			
	SP158R2	円	34	39	34				
	SP161R2	円	28	26	12				
	SP162R2	円	29	23	30				
	SP164R2	円	24	24	33				
	SP176R2	円	20	18	33				
	SP303R2	楕円	23	18	44				
SP317R2	円	26	25	30					
SB34	SP80R2	円	34	28	32			39	8
	SP212R2	楕円	71	44	45	縄文・中土			
	SP267R2	円	28	24	32				
	SP268R2	不整	73	45	31				
	SP296R2	円	30	27	16				
SP310R2	円	38	26	25	中土				
SP315R2	楕円	38	28	55					

第9表 中近世 柱穴一覧(5)

建物番号	遺構番号	平面形	規模・cm			出土遺物	特記事項	採掘番号	採取番号
			長さ	幅	深さ				
SB34	SP16B2	円	26	26	41	中土(287)		39	8
	SP32B2	楕円	28	(24)	31				
	SP33B2	円	20	30	5				
	SP33B2	楕円	50	(41)	75				
	SP36B2	円	28	32	36				
SB35	SP21B2	不整	30	(29)	32			40	8
	SP24B2	円	32	28	41				
	SP21B2	円	24	22	30				
	SP23B2	楕円	42	34	38				
	SP23B2	不整	85	69	30				
SB36	SP20B2	円	37	30	73			39	8
	SP21B2	円	40	30	13	中土			
	SP23B2	楕円	48	32	44				
	SP24B2	不整	62	51	68	中土(287)			
	SP24B2	円	26	22	50				
	SP29B2	不整	50	(38)	25	中土(187・258)			
	SP29B2	円	30	30	30	中土			
	SP23B2	楕円	44	27	37	中土			
	SP32B2	円	34	(29)	25				
	SP33B2	不整	40	(15)	41	中土(287)			
SB37	SP18B2	円	50	45	44		>SD280B2	40	
	SP18B2	円	41	40	44				
	SP19B2	円	44	40	42	中土			
	SP20B2	円	40	35	45		<SP200B2		
	SP20B2	円	34	38	45	中土			
	SP20B2	円	58	45	55				
	SP22B2	楕円	40	28	28	植遺			
	SP26B2	円	29	25	37				
	SP28B2	方	41	30	36				
	SP30B2	円	28	34	52				
SB38	SP18B2	円	40	40	60			40	
	SP18B2	円	38	36	52				
	SP20B2	円	40	38	55	中土	>SP201B2		
SB39	SP77B2	円	32	28	40	中土(287・258)		38	8
	SP78B2	円	30	28	40	植遺			
	SP25B2	円	24	23	25				
	SP26B2	楕円	(28)	32	40				
	SP29B2	円	26	34	29				
SB40	SP15B3	円	23	31	36			41	9
	SP15B3	楕円	37	26	29	中土(287)			
	SP11B3	楕円	36	34	20				
	SP12B3	楕円	(30)	30	33		<SD122B3		
	SP12B3	楕円	40	36	38				
SB41	SP15B3	円	30	28	35		>SK152B3	41	9
	SP16B3	楕円	28	30	45		<SD122B3 SD122B3の検出面より4.5cm程下で検出		
	SP17B3	円	30	18	14		<SD122B3 SD122B3の検出面より4.5cm程下で検出		
	SP17B3	円	20	20	16				
	SP18B3	楕円	24	30	19				
	SP75B3	楕円	50	28	45				
	SP11B3	円	30	30	45				
	SP11B3	円	34	30	20				
	SP12B3	円	22	22	23				
	SP12B3	円	32	32	21				
SB42	SP13B3	円	36	34	16		<SD122B3	41	9
	SP15B3	楕円	28	30	31		<SD160B3		
	SP16B3	円	26	22	16				
	SP17B3	楕円	(35)	30	40		<SD122B3		
	SP17B3	円	20	16	18		<SD122B3 SD122B3の検出面より4.5cm程下で検出		
SB43	SP17B3	円	22	20	29		<SD122B3 SD122B3の検出面より4.5cm程下で検出	42	9
	SP18B3	楕円	28	18	24				
	SP82B3	円	32	24	22				
	SP90B3	円	30	29	45				
	SP92B3	円	30	25	32				
	SP97B3	円	29	27	14				
	SP101B3	円	32	28	36				
	SP102B3	楕円	44	30	36	白磁			
	SP11B3	円	28	28	32				
	SP13B3	円	24	24	19				
SB44	SP22B3	円	33	31	36	中土		42	9
	SP49B3	円	30	30	28				
	SP52B3	楕円	28	34	30		<SK183B3		
	SP69B3	円	28	28	46				
	SP77B3	楕円	34	28	30				
	SP78B3	円	30	28	42	中土・鉄滓			
	SP83B3	楕円	43	33	26				
SB44	SP66B3	楕円	45	32	29			43	9
	SP67B3	円	22	22	20				
	SP167B3	円	28	26	43				
	SP194B3	円	36	26	35				
	SP28B3	円	25	22	15				
	SP60B3	円	24	24	18				
	SP63B3	円	39	34	43		>SK66B3		
	SP69B3	円	26	24	6		>SP70B3		
SP70B3	円	30	30	35		>SP60B3			
SP85B3	楕円	45	34	40	中土				

第9表 中近世 柱穴一覧(6)

遺物番号	遺構番号	平面形	規模・cm			出土遺物	特記事項	棟号番号	図版番号	
			長さ	幅	深さ					
SB44	SP89B3	円	36	31	42	中土		43	9	
	SP95B3	円	28	25	23					
	SP99B3	円	31	24	30					
	SP118B3	楕円	30	22	12		>SK112B3			
	SP130B3	円	22	20	40		>SK137B3			
	SP138B3	楕円	31	25	40	中土				
SB45	SP176B3	円	22	20	18		<SD122B3	43	9	
	SP212B3	楕円	22	17	5		<SD122B3			
	SP45B3	楕円	50	46	38					
	SP46B3	円	36	34	39					
	SP51B3	楕円	35	26	35					
	SP54B3	円	26	24	40					
SB46	SP69B3	円	28	24	6		>SP70B3	44	9	
	SP70B3	円	30	30	35		<SP69B3			
	SP72B3	楕円	28	24	16					
	SP220B3	楕円	30	28	55					
	SP32B3	円	35	30	28					
	SP34B3	円	50	48	52					
SB47	SP50B3	楕円	54	46	40			45	9	
	SP131B3	楕円	36	40	28	中土(22?)				
	SP134B3	不整	48	40	40		>SK133B3			
	SP157B3	楕円	36	30	25					
	SP177B3	楕円	38	30	27	中土				
	SP189B3	楕円	41	33	40					
SB48	SP207B3	円	28	26	22	中土(25?)	>SK208B3	45	9	
	SP210B3	円	38	33	30					
	SP214B3	不整	35	41	10					
	SP222B3	不整	116	28	53					
	SP9B3	不整	68	49	46					
	SP11B3	楕円	63	48	55	中土(15?)	<SP15B3			
SB49	SP12B3	円	51	48	57			45	9	
	SP16B3	楕円	52	40	35		<SK17B3			
	SP19B3	楕円	42	38	19	中土	<SK20B3			
	SP21B3	楕円	52	34	15		<SR1B3			
	SP27B3	円	53	118	35		>SK58B3			
	SP40B3	円	40	38	43					
SB48	SP41B3	不整	71	62	45			45	9	
	SP23B3	楕円	38	44	64	中土				
	SP38B3	円	48	47	47					
SA1	SP20B3	楕円	39	32	56			44	9	
	SP132B3	楕円	52	40	34					
SA2	SP1B1	円	25	26	7			44	9	
	SP2B1	円	32	29	15					
SA2	SP3B1	円	26	27	25			44	9	
	SP4B3	円	36	24	18					
	SP9B3	円	32	32	19					
SB1	SP10B3	円	30	28	17			44	9	
	SP15B3	円	31	24	21		>SP11B3			
SB1	SP7A1	円	75	(50)	38	土師	<SP6A1	54	12	
	SP9A1	円	62	64	50		>SP29A1			
	SP18A1	円	81	79	48	須恵・越前	底部に石			
	SP26A1	円	75	75	53	中土・善洋・鉄洋	>SP25A1			
	SP27A1	不整	143	50	8					
	SP55A1	円	95	90	75	縄文・鉄洋				
SB2	SP65A1	円	(65)	90	54	瀬戸	<SP64A1	底部に石	54	12
	SP7A1	円	75	(50)	38	土師	<SP6A1			
	SP25A1	円	41	(22)	10		<SP26A1			
SB3	SP29A1	楕円	(65)	54	66		<SP9A1	54	12	
	SP90A1	円	70	25	75					
	SP94A1	楕円	108	42	72	土師(11?)・越前	>SP65A1			柱穴2基重なり 底部に石
	SP74A1	楕円	98	48	27		<SP67A1			
	SP6A1	円	49	38	36		>SP7A1			柱当たりあり
	SP48A1	円	(40)	48	38	土師				
SB4	SP64A1	楕円	108	42	72	土師(11?)・越前	>SP65A1	柱穴2基重なり 底部に石	54	12
	SP67A1	楕円	96	48	78	縄文・中土・越前	>SP74A1	柱当たりあり		
	SP35A2	楕丸方	70	70	71	縄文	>SK29A2			
	SP28A2	楕円	89	52	72	縄文	>SK37A2			
	SP47A2	楕円	100	50	39					
	SP63A2	楕丸長方	171	115	90	縄文				
SB4	SP106A2	楕円	(72)	54	46		<SK105A2	56・57	12・13	
	SP109A2	不整	148	126	107	縄文	>SK82A2, >SK124A2, >SK285A2			
	SP118A2	楕円	30	(26)	34					
	SP129A2	楕円	136	40	42	越前(#8)				
	SP131A2	不整	140	92	96	縄文				
	SP133A2	楕円	(115)	66	72					
	SP137A2	円	60	60	30		>SK138A2			
	SP153A2	楕円	65	34	56					
	SP160A2	長方	117	84	53	縄文・中土				
	SP161A2	楕円	48	44	80					
	SP164A2	楕円	30	22	19					
	SP168A2	不整	140	118	65	縄文・須恵・中土				
	SP175A2	楕円	(40)	32	25					
	SP176A2	楕円	48	42	36	縄文・土師				
SP183A2	不整	141	106	109	縄文・須恵・中土	>SK184A2				
SP195A2	楕円	30	40	62						
SP207A2	楕円	41	40	29						

第9表 中近世 柱穴一覽(7)

建物番号	遺構番号	平面形	規模, cm		出土遺物	特記事項	棟目番号	採取番号	
			長さ	幅・深さ					
SB4	SP213A2	楕円	32	28	26				
	SP218A2	楕円	75	42	18				
	SP224A2	楕円	32	30	41				
	SP312A2	楕円	60	46	70				
	SP317A2	不整	145	95	67	縄文・須恵・中土・八尾・越前(75)・不明陶器	>SK318A2	56・57	12・13
	SP365A2	不整	90	64	28				
SB5	SP288A2	楕円	70	56	70				
	SP71A2	不整	77	32	68	縄文・須恵・中土(75)・越前			
	SP75A2	円	36	36	50	縄文・中土	>SK76A2		
	SP77A2	円	42	40	42				
	SP81A2	楕円	(31)	32	19			<SK80A2	
	SP86A2	円	28	25	10				
	SP87A2	楕円	46	36	40				
	SP100A2	楕円	38	32	22	中土			
	SP108A2	円	50	48	60				
	SP110A2	楕円	42	34	33				
	SB6	SP132A2	楕円	46	35	51			
SP162A2		楕円	53	44	46	伊万里			
SP195A2		楕円	50	40	62				
SP205A2		楕円	38	36	21	縄文・珠洲			
SP234A2		楕円	24	21	17				
SP208A2		楕円	46	38	75				
SP215A2		楕円	45	36	25	越前			
SP216A2		不整	76	58	23				
SP229A2		楕円	38	23	21	珠洲			
SP252A2		円	33	32	22				
SB7		SP238A2	楕円	33	31	28			
	SP283A2	楕円	50	54	37			>SK284A2	
	SP330A2	楕円	104	80	42				
	SP334A2	楕円	114	(58)	67	白磁?	<SD12A2		
	SP336A2	楕円	50	42	23			<SD12A2	
	SP338A2	楕円	68	40	16				
	SP340A2	不整	108	104	52	縄文?			
	SP342A2	楕円	38	43	76			<SD12A2	
	SP260A2	方	83	78	61	土師?	深さ50cm付近に幅40cm程度の礎石あり		
	SP275A4	楕円	138	42	42			<SD227A4	
	SE8	SP280A4	楕円	158	50	60			<SK281A4 柱敷
SP298A4		不整	148	105	48	縄文・伊万里			
SP314A4		不整	(54)	70	44	縄文	<SP315A4	58	13
SP315A4		不整	92	80	53	縄文	>SP314A4		

第10表 中近世 井戸一覽

遺構番号	平面形	規模, cm		出土遺物	時期	形態	特記事項	切り合い	棟目番号	採取番号
		長さ	幅・深さ							
SE8A1	楕円	167	(95) 110	縄文(97)・土師・須恵・中土	中世	木桶+曲物か?	真っ直ぐに掘り及び木桶構築物なし			46
SE122A3	円	13	134 152	中土	中世	曲物水溜				46 10
SE730A4	円	154	150 150	中土(170・177)・珠洲・円形板(621)・叩石・板状鉄製品・鉄洋	中世	素掘り				46
SE90R2	円	150	148 128	縄文・土師(738)・中土(369)・珠洲・瀬戸(447)	中世		構築物なし			47 10
SE98R2	円	195	176 246	縄文・須恵・中土(277)・234)・越前・八尾・土師	中世		構築物なし			47 10
SE99R2	円	137	126 245	中土・珠洲・八尾	中世		構築物なし			47 10
SE223R3	円	226	212 140	土師・須恵・中土(164)・砥石	中世	板組	SR1B3の掘削時に検出 中央部に平面的な色の異なる部分があり、この一辺に着目するとみられる棒状の木片が出土	<SR1B3		-
SE50A1	楕円	230	217 200	縄文(5)・土師・須恵・中土・瀬戸・越前(472・477・478・492・510)・越前板(622)・漆器陶(617~620)・板敷(620)・桶ノ子・埴輪(631)・砥石・加工石・鉄洋	近世	石組+桶水溜	平面が不整形で作り替えの可能性あり			59 14
SE78A2	円	480	(273) 300	縄文・須恵・中土・珠洲・瀬戸・越前・不明陶器・伊万里・鉄洋	近世	素掘り	重傷は未復原のため全形は不明	<SD335A2・<SD336A2・>SD12A2・>SD25A2		60 14
SE107A2	円	175	173 265	縄文・土師・須恵・中土・越前・伊万里・不明陶器・火輪(649)・鉄洋	近世	石組				59 14
SE149A3	円	315	(133) 170		近世~					62 13
SE308A4	円	240	230 360	縄文・中土・越前・唐津・伊万里(457)・不明石製品・棒・炭化物	近世	板組	方形の井戸側板跡	<SK307A4		61 13

第11表 中近世 土坑一覧(1)

遺構番号	遺構種類	平面形	規模・cm		出土遺物	時期	特記事項	切り合い	棟図番号
			長さ	幅					
SK11A1	土坑	方	(100)	98	18	縄文・中土(329・340)・ 珠洲・鉄滓	中世		49
SK32A1	土坑	楕円	287	192	70	縄文・中土・八尾	中世		49
SK205A4	土坑	不整	74	54	28		中世	検出面は他の遺構より約10cm低く 平面ではわかりにくい。炭化物層 があり焼土ブロックが混じる	49
SK684A	土坑	半円	28	(20)	20		中世	柱痕	27
SK715A4	土坑	楕円	50	36	50		中世	柱痕	>SP716A4<SK717A4
SK717A4	土坑	方	42	(23)	26		中世	柱痕	<SP716A4<SK715A4
SK720A4	土坑	楕円	45	(27)	35		中世	柱痕	<SP721A4
SK87B2	竪穴状土坑	方	320	186	34	縄文・中土	中世	SK329に付属 炭化物堆積 床 硬化	36
SK88B2	竪穴状土坑	方	287	212	33	須恵・中土(190・191・ 230)	中世	SK339に付属	>SK331B2
SK97B2	土坑	楕円	42	34	11	中土(235)	中世		-
SK100B2	竪穴状土坑?	不整	(288)	186	7	中土(300)・珠洲・青磁 (632)	中世	ブロン不整形だがSK334に付属か? 焼土堆積あり	>SK297B2
SK105B2	竪穴状土坑	方	250	170	9	縄文・須恵・中土(289・ 289)	中世	SK324に付属 掘り込み浅く、基 礎弱	>SK107B2
SK107B2	竪穴状土坑	方	184	130	15	中土	中世	SK311に付属か 掘り込み浅く、床 軟弱	<SK109B2
SK110B2	土坑	楕円	40	32	34	縄文・中土(279)	中世		-
SK131B2	土坑	楕円	70	66	22	中土(273)	中世		-
SK150B2	竪穴状土坑	方	180	163	31	縄文・中土・板状鉄製品 (666)	中世	SK31が西へ1間伸びた場合、付 属する土坑か? 硬化した床面か ら鉄製品出土	>SK160B2
SK160B2	竪穴状土坑	方	204	174	10	縄文・中土	中世		<SK150B2
SK171B2	土坑	円	径50	-	30	縄文・中土・土師(604)	中世		-
SK192B2	竪穴状土坑	方	250	(228)	25	土師?・中土・珠洲(404)・ 青磁	中世	焼土、炭化物堆積あり 床硬化	>SK193B2、<SK194B2
SK196B2	土坑	円	径24	-	-		中世		35
SK197B2	土坑	円	径22	-	34	釘(654)	中世		-
SK211B2	土坑	円	径48	-	27	中土・灰石(645)	中世		-
SK214B2	土坑	不整	248	210	15		中世		38
SK215B2	竪穴状土坑?	長方	450	250	16	縄文・中土(286・302)・ 珠洲・八尾	中世	炭化物の堆積少量あり	-
SK219B2	土坑	楕円	76	48	20	中土(272)	中世		-
SK221B2	竪穴状土坑	方	212	160	23	須恵・中土(329・329)・ 灰石・土師	中世	SK37に付属 床硬化	>SK222B2
SK227B2	竪穴状土坑?	不整	(130)	186	10	土師・中土	中世		<SK221B2
SK233B2	土坑	不整	63	56	12	中土(282)	中世		-
SK246B2	土坑	円	径30	-	33	中土(303)	中世		-
SK277B2	土坑	円	径58	-	20	土師・中土(272)	中世		-
SK297B2	竪穴状土坑	方	210	(187)	(28)	中土(250・277・290)	中世	SK36に付属	30
SK298B2	土坑	不整	112	(28)	7	中土(282)	中世		-
SK309B2	土坑	不整	(150)	(90)	34	中土・珠洲(435)	中世		-
SK313B2	土坑	楕円	57	46	63	中土・板状鉄製品(639)	中世		-
SK329B2	竪穴状土坑	不整	196	(157)	18	中土(199)	中世		49
SK331B2	土坑	長方	80	54	20	縄文・中土(276)	中世	炭化物堆積あり	<SK88B2
SK58B3	土坑	不整	242	158	38	中土(150)・青磁(381)	中世		<SP40B3、SK184B3、 >SK56B3、SK57B3
SK108B3	土坑	楕円	42	38	35	中土(297)	中世		-
SK161B3	土坑	楕円	70	60	18	中土(142)	中世		-
SK202B3	土坑	楕円	27	22	43	中土(288)	中世		-
SK216B3	土坑	楕円	120	95	37	宝塚式陶(648)	中世	竪はSK216B3だけではないがSK122B3 全体に入っている	<SD122B3
SK221B3	土坑	円	径30	-	9	白磁(260)	中世		-
SK61A1	土坑	不整	130	77	24	縄文(27)・中土	中近世	下層の遺構か?	-
SK62A1	土坑	円	径31	-	34	青磁(280)・伊万里(454)	近世		-
SK11A2	竪穴状土坑	方	880	448	44	縄文・土師・須恵・中土・ 珠洲(433)・美濃・青磁・ 越前(491)・唐津・京焼 風?・伊万里・鉄滓(668)・ 土師	近世		>SD12A2・SK93A2・ SD37A2・SD356A2・ SD94A2
SK14A2	土坑	方	375	289	38	須恵・中土・珠洲・瀬戸・ 越前・灰石	近世	SD127A2との切り合いは不明	>SK48A2・SK49A2
SK44A2	竪穴状土坑	方	325	304	57	縄文・須恵・珠洲・白磁・ 青磁(277)・越前・不明 陶器・伊万里・鉄滓	近世	SB41に付属 西側の石列は切り台 を境としており、掘り込んだ状態 での使用が想像できる 床面近く から礫が多数出土	>SK82A2、<SK125A2、 SK300A2
SK82A2	竪穴状土坑	方	380	315	38	縄文(15・22)・中土・瀬 戸?・越前	近世		<SK44A2・SP109A2、 >SK83A2・SK85A2
SK115A2	土坑	楕円	153	94	(9)	中土(158)・珠洲	近世	S B 41に付属	56
SK201A2	土坑	不整	715	654	76	縄文・土師・須恵・中土・ 珠洲・越前・打製石斧 (627)・板状鉄製品	近世	SD350A2・SD151A2との切り合いな し SK201A2は深く、SD350A2・ SD33A2が浅い	>SK202A2・SK348A2・ SK349A2
SK202A2	土坑	楕円	269	(221)	94	珠洲・不明陶器・伊万里?	近世		<SK201A2
SK203A2	土坑	楕円	77	48	72	縄文・灰石(644)	近世		>SK204A2
SK206A2	土坑	楕円	30	26	12	縄文・越前(511)	近世		-
SK252A2	土坑	楕円	47	36	21	縄文・土師(601)	中近世		-

第11表 中近世 土坑一覧(2)

遺構番号	遺構種類	平面形	規模, cm			出土遺物	時期	特記事項	切り合い	棟号
			長さ	幅	深さ					
SK257A2	土坑	不整	340	205	48	縄文・須恵・中土・珠洲・瀬戸?・白磁(339)・越前・鉄洋(669)	近世		>SK298A2・SK384A2	-
SK267A2	土坑	不整	52	(22)	17		中近世		<SD67A2	63
SK296A2	土坑	方	(324)	290	30	須恵・珠洲	近世		<SK298A2・SD355A2・>SK297A2・SK299A2	66
SK297A2	土坑	方	(236)	214	16	中土	近世		<SK296A2	66
SK321A2	土坑	円	28	26	31		中近世			34
SK376A2	土坑	不整	(458)	(216)	63		近世		<SK306A2	69
SK602A4	土坑	楕円	29	24	40	打製石斧(620)	近世	柱痕	>SK634A4<SD9A4	-
SK63A4	土坑	楕円	28	20	31	打製石斧(637)	近世		>SD9A4, <SK62A4	-
SK69A4	土坑	楕円	40	33	27	白磁(348)	近世		<SD1A4	-
SK107A4	土坑	楕円	120	27	73	不明石製品(662)	近世	柱痕	<SD2A4	-
SK67A4	土坑	円	35	35	33	越前	近世	柱痕	>SK68A4 <SD9A4	64
SK68A4	土坑	半円	28	(13)	30		近世		>SD9A4, <SK67A4	64
SK172A4	土坑	楕円	35	22	34		近世			64
SK274A4	土坑	長方	127	70	68	縄文・土師・越前	近世	深く、南北方向の断面形はV字状		64
SK277A4	土坑	長方	243	93	37	棒状鉄製品(665)	近世	上面から多量の炭化物が確認され、特に10cm程が炭化物層である。炭土は横僅か	>SD215A4	69
SK278A4	土坑	長方	216	110	45	縄文・土師・中土・青花(397)・青津・不明陶器・土製品・釘(655・656)	近世	上面で多量の炭化物が確認される壁の立ち上がりはほぼ垂直		69
SK279A4	土坑	不整	210	160	50	縄文・中土・京焼風・伊万里	近世			68
SK285A4	土坑	長方	140	80	13	縄文	近世	柱痕 近世の柱状の可能性高い	<SK228A4	68
SK302A4	土坑	楕円	(117)	(76)	22		近世		<SD20A4<SD229A4	68
SK304A4	土坑	楕円	(43)	23	32		近世	柱痕	<SK302A4	68
SK404A4	土坑	不整	(310)	122	12	唐津	近世		>SK402A4, <SD231A4	68
SK606A4	土坑	円	径28	-	23	近世陶磁・須(1667)	近世			-

第12表 中近世 溝一覧(1)

遺構番号	規模, cm	幅	深さ	出土遺物	時期	特記事項	切り合い	棟号
SD14A1	-	-	-	縄文(7)・須恵・珠洲・八尾・瀬戸・越前(502)	中世			-
SD15A1	87	13		縄文・須恵・珠洲・越前	中世			65
SD16A1	87	20		縄文・瀬戸	中世			65
SD12A2	202	100		土師・須恵(125)・中土・珠洲・越前	中世		<SD25A2・SD50A2・SK78A2・SD287A2・SP334A2・SP336A2・SP343A2・SK344A2・SK347A2・SD354A2・SD355A2・SK382A2	48
SD71A3	225	90		土師・須恵・中土(189)・珠洲(405・439)・青磁(377)	中世	SD12A2と同一		48
SD339A4	38	13		釘(652)・不明陶器	中世			-
SD68A4	32	10		縄文	中世	SB5の東側雨落ち溝(外側)		31
SD101B2	42	14		須恵・中土(215・307)・八尾	中世			48
SD102B2	52	19			中世			48
SD169B2	42	20		中土(279)・珠洲	中世			-
SD236B2	60	12		縄文・須恵(127)	中世			-
SD289B2	226	35		縄文・須恵(130)・棒状鉄製品	中世			48
SD68B2	156	46		縄文(63)・中土	中世			-
SD122B3	653	77		土師・須恵・中土(168・204・212・217・231・246・259・259・275・311・314・324・335・337)・珠洲(40)・408・416・418・427・432・440・442)・八尾・青磁(386)・砥石・切石?・石(炭焼)	中世(鎌倉)	SD160B3と合流の可能性あり	>SP120B3・SK137B3・SP139B3・SK158B3・SK159B3・SP167B3・SP170B3・SK113B3・SP172B3・SP174B3・SP175B3・SP176B3・SK181B3・SK203B3・SP212B3・SK216B3	48 11
SD160B3	116	63		縄文・中土(191・209・229・225・281・285)・珠洲(420)・青磁・鉄洋	中世		>SP151B3・SB40・SB41	48 11
SD162B3	77	30		中土(2825)・瀬戸(449)・粘土塊	中世	横断面にSR1B3とは同一のように見えていた。北14SD173B3と合流するが、SK204B3につながる可能性あり	>SD196B3, <SR1B3	48
SD196B3	137	32		土師・須恵・中土(122・134・156・157・163・165・322)・石(炭焼)	中世	B3地区の遺構のなかでは確認面が低く、やや古相とみられる。柱状高台の付く土師製品が多数出土	<SD162B3	-
SD206B3	45	47		中土・中土(207・226・266・289・296)・珠洲・中国製陶器	中世	12~13C代の中国製陶器・壺か小壺が出土し、SR1B3と接合		-

第12表 中近世 溝一覧(2)

遺構番号	規格・cm 幅 深さ	出土遺物	時期	特記事項	切り合い	棟目 番号	図版 番号
SR1B3	335 113	須恵(127)・中土(135・137・139・144・146・149・152・162・166・167・173・175・179・182・185・186・189・192・193・195・197・200・203・205・206・213・218・222・228・230・232・239・243・249・260・264・265・283・284・287・291・294・295・300・304・305・308・317・318・326・328)・珠洲(389・402・406・407・411・413・421・424・426・433・434・437・441)・八尾・瀬戸(白磁(342・349)・青磁(367・369・373・383・385・389)・中国製陶器・不明磁器・土製品・銅1)・板状鉄製品(658・662)・鉄洋(667)・棒状鉄製品・土師(692)・ブイ子類(612・616)・不明土製品・炭化物	中世(鎌倉)	SD173B3と合流。12~13C代の中国製陶器(壺か小壺)が出土し、SD206B3と接合	>SD162B3、>SE223B3	48	11
SD173B3	262 89	弥生? (113)・中土(148・186・222・227・231・233・244・252・309)・珠洲(419)・白磁(332・351)	中世(鎌倉)	SR1B3と合流	-	-	-
SD1A2	611 124	縄文(30)・土師・須恵・中土(331)・珠洲・八尾・越前(463・471・482・483・490・495・497・505・507・513)・伊万里・打製石斧(632)	五世(江戸)	X40Y80近辺が最も浅く、三ヶ所で池状に深い	>SD380A2・SK306A2・<SR115A2	63	-
SD2A2	260 68	縄文(94)・土師・須恵・中土(330)・珠洲・八尾・越前(475・476・489・494・501・508・509)・唐津・不明陶器・伊万里・土師・加工石・不明石製品・鉄洋・土師	近世(江戸)	北へ分岐したSD65A2との切り合いなし	63	63	-
SD13A2	59 13	縄文・土師・須恵・珠洲・越前(69)	近世	SK256A2との切り合いは不明	-	-	-
SD25A2	181 60	土師・須恵・中土・珠洲・越前(462)	近世	SD2A2・SD65A2と共に両溝これらとは完全に接続しており、そこが埋め立てへの出入り口といえる。SD287A2との切り合いは不明	<SD12A2・SK16A2・SD30A2・SD64A2・SK78A2・SD355A2	63	13
SD50A2	50 5	土師	近世	>SD25A2・SD65A2	66	-	-
SD64A2	38 7	越前・白磁?	近世	>SD25A2・SD65A2	63	-	-
SD65A2	160 50	縄文・土師・須恵(126)・中土(331)・珠洲・八尾・瀬戸(430)・越前(464・465・467・468・470・484・486・493・503・506・472・480・481・512)・唐津・不明陶器・伊万里・打製石斧(628)・水輪(650)・棒状鉄製品	近世	SD2A2と同一	63	13	-
SD66A2	40 31	土師・中土・越前	五世	東側はSD2A2に合流	63	-	-
SD67A2	63 53	縄文・土師・越前	五世	西側はSD2A2に合流	63	-	-
SD69A2	56 4	縄文(2)・土師・須恵・中土・越前・埴石(629)	近世		<SD65A2・SD68A2・SK226A2・SK227A2・SK258A2・SK314A2・SK369A2、>SK230A2	65	-
SD287A2	125 38		近世	SD25A2との切り合いは不明	65	-	-
SD355A2	102 30		近世		>SD25A2・SE78A2、<SD356A2	66	-
SD380A2	70 10		近世		>SK306A2、<SD1A2	69	-
SD1A4	26 15	縄文・中土	五世	畚	64	-	-
SD2A4	36 15		五世	畚	<SD9A4	64	-
SD3A4	35 17		五世	畚	64	-	-
SD5A4	27 9	土師	五世	畚	64	-	-
SD6A4	31 6		五世	畚	64	-	-
SD7A4	31 6		五世	畚	64	-	-
SD8A4	30 35		五世	畚	64	-	-
SD9A4	40 7	須恵・中土・越前・近世陶器・板状鉄製品	近世		>SD2A4、<SD231A4	64	-
SD191A4	30 35		五世	畚	>SD231A4	64	-
SD213A4	29 18		五世	畚	64	-	-
SD215A4	34 22	縄文・唐津	五世	畚	64	-	-
SD219A4	45 7		五世	畚	64	-	-
SD221A4	26 19		五世	畚	64	-	-
SD225A4	52 40	須恵・中土	五世	畚	>SD227A4	64	-
SD227A4	47 45	縄文・唐津	近世	区画溝	<SD225A4	65	-
SD231A4	175 55	縄文・須恵・中土・珠洲(488)・八尾・瓦貫・越前(479・507)・唐津・伊万里	近世	A2地区から北へ延びた区画溝が西に屈曲して合流したもの	>SD9A4、<SD191A4	65	-
SD191A1	(143) 86	縄文・伊万里	五世		65	-	-
SD44A3	140 25	中土・珠洲・瀬戸・越前・唐津・平戸焼(江水)・伊万里	近世	西端で集石検出	65	-	-

4 遺物

(1) 土器・陶磁器

A 縄文時代 (第70~77図、図版15~26)

縄文土器 (1~109)

A地区の遺構周辺を中心に、一部はB地区からも出土している。後期後葉から晩期末葉まで時期幅があるが、晩期中葉から後葉(中屋式~下野式)が主体となる。

ここでは年代順に以下の4期を設定し、各時期の様相を説明する。

羽根下立1期…後期末葉~晩期前葉(八日市新保~御経塚式に併行)

羽根下立2期…晩期中葉(中屋式に併行)

羽根下立3期…晩期中葉~後葉(下野1式²¹、大洞C2式に併行)

羽根下立4期…晩期中葉~後葉以降(下野2式、大洞A式以降に併行)

羽根下立1期 (1~11)

1~3は沈線文が特徴的。1は蓋で三叉文。2の深鉢は波状の口縁部に2本の平行沈線が巡る。3は算盤玉状の浅鉢とみられるが、口縁はやや直立気味である。口縁部と胴部の平行沈線は連結三叉状文によって区切られる。7は深鉢口縁の波状部分に「山」字状の沈線。8は粗製深鉢で口縁に補修孔。9の深鉢は縄文地に縄文原体を横位に押圧したような文様が巡り、新潟県で類似がある綾織り文に系統が追えるものか。10は緩やかに開く口縁の4箇所を外側からの押圧により突起状に立てる。体部全面に縄文を施し、口縁部には小波状の粘土接合痕が残る。11は無節の撚糸による施文。

羽根下立2期 (12~36)

12~18には沈線間に列点を施す共通した文様がみられる。22、23は平縁口縁が広く開く深鉢で、口縁部と胴部に縄文を地文とした文様帯をもつ。22は「フ」の字状入組文、23は珊瑚状の突起が付く口縁部に鍵状文、胴部に「フ」の字状入組文を施す。27の粗製深鉢は「く」の字口縁端部に「B」字状突起が付くが、これは23の突起に先行する形態である。30、36は口縁端部に押圧や刻みを加え小波状に仕上げている。

羽根下立3期 (37~44、46~62、64、65、67、68、93、97)

深鉢は斜行条痕を地文とし、37~39、41~43では口縁部および頸部、胴部などに沈線を施す。37は口縁部に2個1単位の突起を有し、二つの突起の間には短い沈線が引かれる。44は小型鉢で、口縁部に付く突起は3個1単位である。46、48、51は壺形を呈する。51は外面が赤彩される精製品で、SX401A2の焼土部分から出土。東北地方の系統を汲む搬入品の可能性がある。54は口縁部を欠くが、SX102A1から立位で出土しており埋設土器であった可能性がある。64、65、67、68は鉢類。65、68は口縁端部に突起が付き、その間隙には沈線を巡らす。

羽根下立4期 (45、63、66、69~92、94~96、98~109)

63、66、69~79は精製鉢類。63は小型浅鉢で内湾する口縁部には「S」字状文、71は「工」字状文風の沈線が巡る口縁部に赤彩。72は沈線による文様区画内を背向する弧線文で充填し、外面は赤彩される。73~77は口縁部に眼鏡状隆帯が付く一群。73は眼鏡状隆帯と沈線による菱形の工字文を組み合わせている。74は筒型で内面にはミガキ状の調整が残る。76は外面に赤彩。78は口縁が内湾した変容壺。79は鉢の胴部に多段の楕円工字文が施される。80~89は粗製深鉢で、胴部には縦方向の条痕を施す。丸く仕上げる口縁端部には絡条体の押圧による刻みが巡り、1条の凹線が引かれる。95、96、98

～106では条痕が斜行するものがある。口縁端部が細く尖り、多条沈線や列点文、浮線文がみられる。107は横方向に粗い条痕が施される。108、109は最も新しい時期と考えられる。108は変容壺で口縁部に浮線文。109は壺の頸部に指頭圧痕状の文様が付くが、類似の文様が氷見市大境洞窟第V層にみられることから晩期終末～弥生前期と考えられる。

B 弥生時代～古代（第78図、図版27）

弥生土器（110～113）

時期は全て後期とみられる。110は壺で口縁端部に刻みがある。112、113は壺で、無文の有段口縁。113は蓋のつまみ。

土師器（114～118）

115は有孔鉢か、底部外面に指頭圧痕が残る。118は5世紀後半～6世紀代とみられる。内外面ともにハケ調整されるが、粘土接合痕が明瞭に残る。

須恵器（119～127、129、130）

包含層および中近世の遺構に混入している。119の蓋はほぼ完形で出土。123は杯の底部外面に墨書。124は壺の口縁部か、粗い波状文が残る。130は壺で細かいカキメと波状文がみられる。

灰釉陶器（128）

椀の高台を含む底部片のみ出土した。

C 中近世（第79～87図、図版27～36）

中世土師器（131～341）

成形技法からロクロと手づくねに大別される。ここでは北陸中世考古学研究会の成果²³をもとに、友杉遺跡報告書での分類²⁴を用い、それぞれについて記述する。なお、個々の分類は観察表を参照されたい。また、分類のうち該当資料のないものは説明を割愛する。

- ロクロ成形（R）
- I 底部に糸切痕がなく、端までロクロによって引き伸ばす
 - II 柱状高台（大小の法量差あり・高台厚は2cm以上が多い）
 - a 高台が直立か、やや裾広がり
 - b 高台が裾広がり、または接地面端部を水平方向に引き出す
 - III 底部から口縁部へと直線的に開く
 - a 口縁端部に向かい器壁が薄くなる
 - b 口縁端部まで器壁が厚い
 - c 口縁端部をつまみ上げる
 - d 体部中位にナデによる段（稜）が入る（手づくねの技法を模倣か？）
 - e 体部の立ち上がりが短い（コースター型）
 - その他 接地面端部に面取りあり
 - IV 底部から口縁部へ内湾している
 - a 口縁端部に向かい器壁が薄くなる
 - b 口縁端部まで器壁が厚い
 - c 口縁端部をつまみ上げる
 - V 底部から口縁部へ外反している

R ロクロ成形で全体が不明、分類できないもの

手づくね成形 (T) I 平底一段ナデ

- a 口縁端部に面取り (断面三角形・方形)、またはつまみ上げ
 - b 口縁端部に面取りなし
 - c 口縁部が肥厚し、内面はナデによる凹凸が目立つ
 - d 口縁部の立ち上がりが短く、コースター状を呈する
- II 平底・丸底ともにあり、強いナデにより体部に段が生じる

III 丸底一段ナデ

- a 口縁端部に面取り、または上方へのつまみ上げ
- b 口縁端部に面取りなし
- c 口縁端部を薄く引き出す
- d 口縁部が外傾～外反、または水平方向へ引き出す

R II (131~151)

B3地区からの出土が多く、大小の法量がある。131~135は器形全体がわかる資料で、杯部は浅く開き、口縁端部は肥厚気味である。134は底部外面から穿孔される。148は内面黒色で、やや深身の杯部を回転糸切りした後、高台を貼付した痕跡が残る。151は杯部が湾曲気味に開く。

R III (152~160、162~165)

口縁部形態で細分している。法量は大小2種類がある。152、153は口縁部が直線的に開き、端部は尖り気味。160は底部に貫通孔をもち、接地面端部が面取りされる。162は杯部の立ち上がりがわずかで浅い器形。163は内面および口縁部外面が黒色で、内面には鋭い稜を有する。

R IV (166~179)

全てRIVcに細分される。大小2種類の法量があるが、全器高における高台高の比率は小型品ほど高いことから、厳密にはさらなる細分が必要と考えられる。169は口縁部のつまみ上げにより体部中に段が出来る。178は胎土に海面骨針が混ざる。

T I (180~314)

手づくね成形の大半がT Iに属しており、口縁部形態によって細分した。

T I a (180~206、216~244)は大小の法量がある。特にSR1B3から多量に出土した。内面のヨコナデ調整には右回りに外ヘナデ抜くものが多数みられる。202は底部に内外面両側から穿たれた孔がある。T I b (245~303)では大中小の法量がある。また、細分はしていないが、器壁の厚さにややばらつきがみられる。T I c (304~314)は特に口縁部の肥厚する一群で、大小の法量がある。305は切り込み円板手法で成形される。307は底部外面に細かい皺が目立つことから、型作りの可能性がある。T I d (207~215)口縁部の立ち上がりが短く、コースター状を呈する。209、213の内面調整には板状工具が用いられており、213ではこの調整痕が放射状に残る。

T II (315~322)

属する遺物は少ない。315は出土した中世土師器で唯一、内面右回りのヨコナデ後、逆方向にナデ抜いた痕跡が残る資料である。

T III (323~341)

口縁部形態による細分のT III a (330、331)は法量や胎土、赤っぽい色調など、全体に酷似した資料である。器壁が厚めで、口縁端部内外面にはススがべったり付着する。T III b (323~329、332

～335)は大小の量がある。323内面には板状工具による調整痕あり。TⅢc(336～340)では339、340の外面に縮み皺があり、型作りの可能性がある。

中国製陶磁器(342～397)

白磁(342～361) 342は徳化窯の白磁杯とみられ、口壳部分を銅箔で覆った覆輪の装飾が施されており、一般集落からの出土は少ない³⁴⁾。343、344は皿、346は碗で口縁口縁。347は壺。348～351は玉縁口縁。352は内面に1条の沈線。358、361は見込みに沈線が一周する。359、360は内面見込みにハケメを施す。

青磁(362～394) 362～391は龍泉窯系。362は皿、363は杯、364～385、387、388、390、391は碗。367、380は口縁が輪花をかたどる。368～377、382、385は鎬蓮弁文、381は口縁部内面に崩れた雷文帯をもつ。378、379、383、384は内面に草花文、雲文等の片彫りと櫛目が施される。390は内面見込みに花文。386は小壺、389は盤とみられる。392～394は同安窯系の皿。392、393には内面見込みに櫛点描文がみられる。

青白磁・青花 395は梅瓶。396は小壺。397の皿は内面に文様が描かれる。

珠洲(398～444)

鉢、甕、灯明台がある。時期は13～14世紀で、吉岡福年Ⅰ～Ⅳ期に相当する。器種では鉢が最も多く、その大半はB3地区から出土した。402は8条1単位の卸目が横方向に入る。406の口縁端部には波状文、卸目は10条1単位。412には「大」の印字文が4つ。417は「○」の刻印。428は印字文「大」のほか、菱形に「米」印の刻印がある。434は流水状の卸目。443は灯明台の受部とみられ、中心に細い貫通孔がある。出土例が少なく、石川県鳳珠郡能登町(旧鳳至郡柳田村)本阿寺所蔵の資料が15世紀とされている。444は面子。

越中瀬戸(462～513)

皿、向付、碗、壺、瓶、建水、播鉢がある。最も多く出土した皿には、丸皿、折縁皿、ひだ皿があり、内壳で主に鉄軸、灰軸が掛かる。見込みには印花文、記号文のほか、494では「大叶」とみられる印字文がある。483、485～488、499には高台内に墨書があり、483、487は「一」、488は丸の中に「一」。その他は文字が欠けているため、判読できない。503は小型の鼠耳壺。耳の接着部は葉の形に飾られ、肩部には印花文がある。

その他中近世陶磁器(445～461)

瀬戸、美濃、八尾、伊万里がある。

(2) 土製品(第88図、図版27・37)

土冠(601)

S K252A 2から出土した。県内において晩期の土冠出土例は富山市古沢遺跡、同市岩瀬天神遺跡、滑川市本江・広野新遺跡ほか多数の遺跡で確認されているが、土製品は初例とみられる。楕円形の基底部は底面が長軸方向に湾曲するものの、凹みがなく扁平である。外面は無文で調整痕等も特に見当たらないが、底面にごく小さな掻き傷状の痕跡が微かに残る。土冠は中部山岳、とりわけ飛騨地方を中心とした地域に密集しており、飛騨市を源とする庄川・神通川流域では数多くの資料が確認されている。これに対し土冠は東北地方を中心とした東日本での出土が多いことから、東北地方に搬入された土冠を模して、容易に加工できる土製品が造られた可能性を指摘する見方がある³⁵⁾。

土鎌 (602~610)

出土量は多くない。形態から寸胴型、樽型、卵型に分けられる。

フイゴ羽口 (611~616)

611がSK606A4のほかは全てSR1B3から出土した。なかでも616は残りが良く、送風口とみられる部分には casting 時の熔着物が付着している。

(3) 木製品 (第89図、図版38)

漆器椀、底板、桶がある。617~619はSE50A1から出土した漆器椀で、全て総黒色系漆の上にベンガラ漆により絵が描かれる。617は内面に扇と雲形文、口縁部には松葉が配される。618は合鹿椀タイプ^{iv)}とされる形態で、外面に笹竹に似た文様が描かれる。620、621は底板で、側面には木釘が残る。622は桶で直径は約40cm。18枚の側板は全てスギ材で、上下には箍の跡が残る。側板は5枚が板目板、その他は全て柾目板。SE50A1の井戸杵として据えられた状態で出土した。

(4) 石製品 (第90~94図、図版39~42)

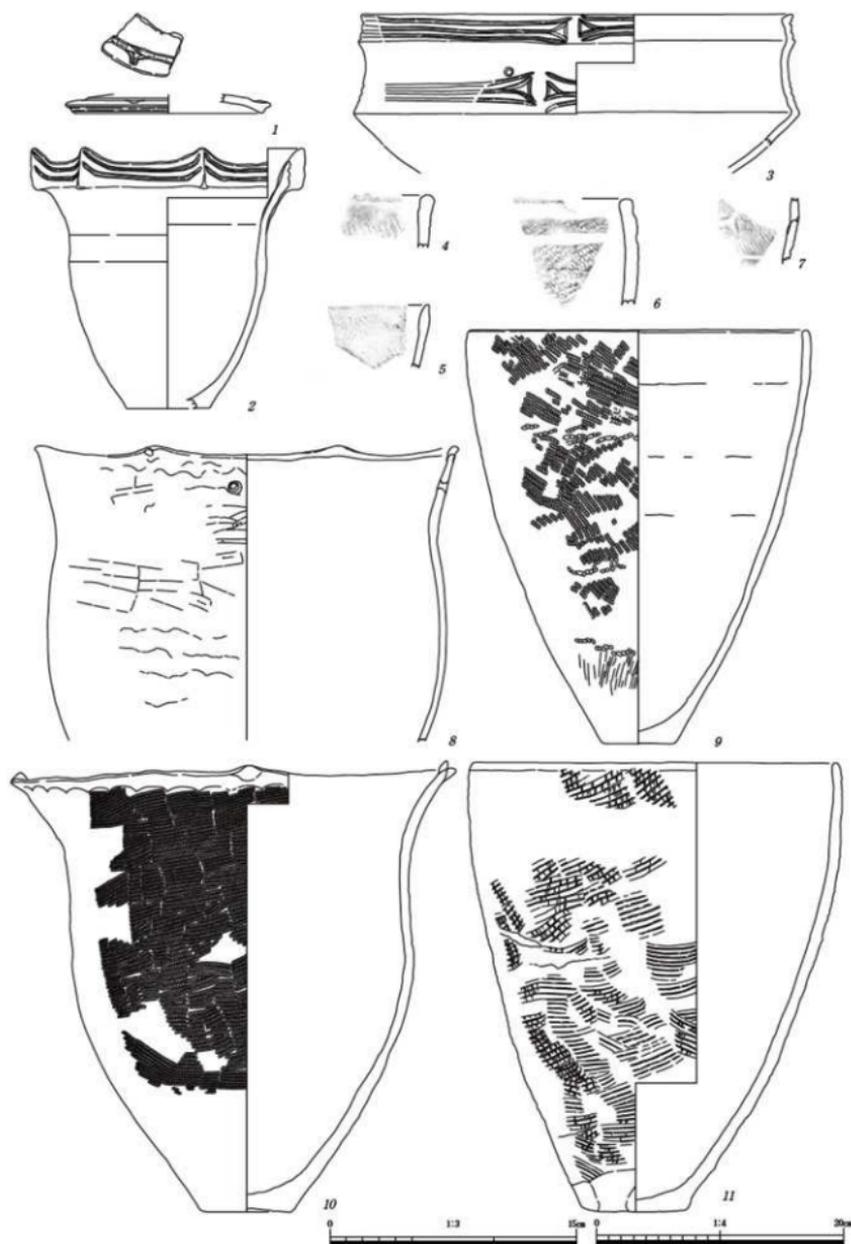
623~634は打製石斧で短冊形、撥形、分銅形に形態分類される。632、633は欠損、摩耗のため断定できないが、可能性あるものとする。635~637は磨製石斧。635は透閃石岩製の完形品。638~640は叩石。640は叩石としたが、敲打痕は不明瞭。641は扁平な形状で、片面の中央には細かい敲打痕とみられる痕跡があるが、反対の面は滑らかで用途は不明である。642は加工及び使用痕跡が不明瞭。643は磨石とみられる。644、645、647は砥石。644は滑らかで全面に擦痕があり、表裏には「田」字状の線刻がある。646は穿孔のある温石で、滑石製石鍋の転用品であろう。648は風化による摩耗が著しいが、頂部の露盤状に彫り出した段上に八葉複弁の反花装飾を刻む「加賀型宝塔」^{iv)}と称される石塔の笠部である。主に北加賀地域に分布し、金沢市善正寺遺跡、辰口町宮竹墓谷中世墓群、松任市鯉崎遺跡ほかで確認されているが、富山県内では小矢部川流域以東での確認例がなく、今のところ分布の北限とみられる。軒の形状からは14世紀後半~15世紀前半の所産と推測される。また、石材鑑定では弱固結砂岩とされているが、周辺で出土する石塔にはみられない石質であり、運び込まれた製品である可能性が高い^{iv)}。649~651はそれぞれ五輪塔の火輪、水輪、地輪である。650の刻字は梵字「バン」。

(5) 金属製品 (第95図、図版42)

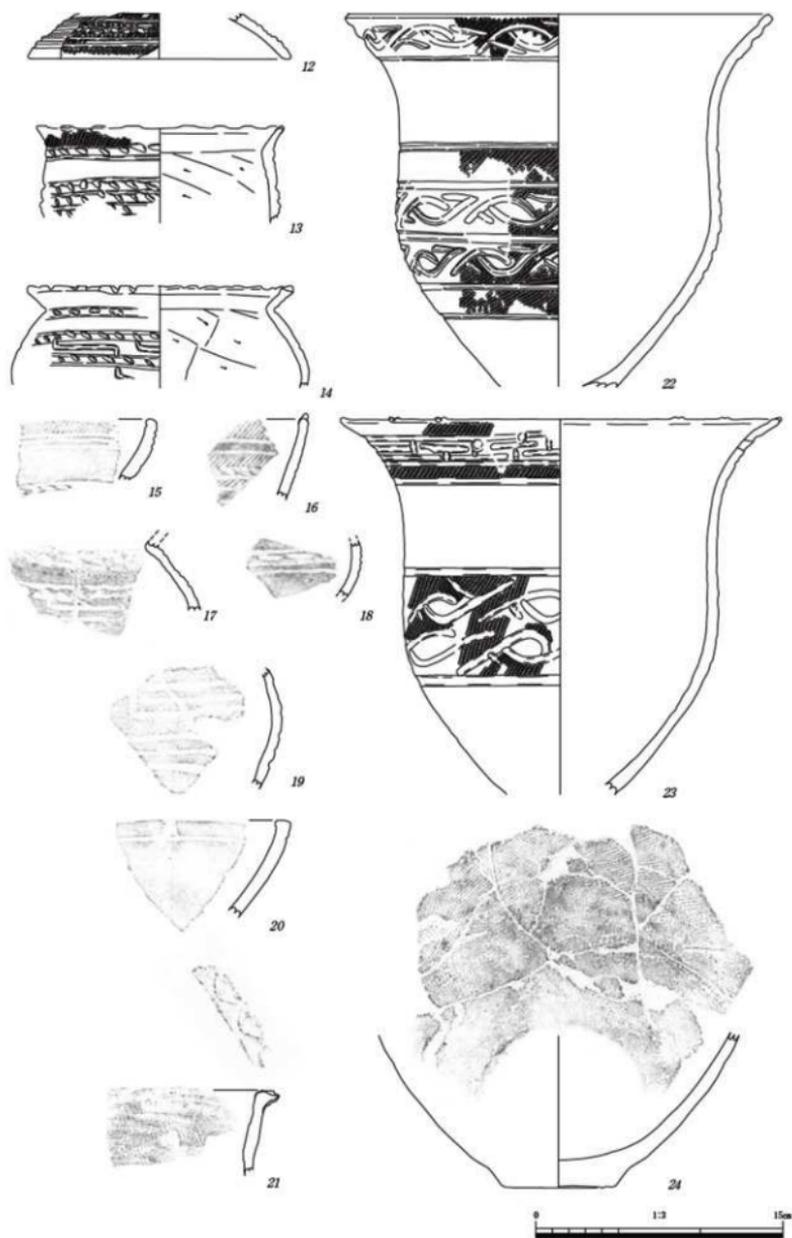
出土遺物は少ない。652~658は釘。657は長く、「L」字に曲がる。661は板状で、何かを包むか巻いたような形状。662、663は刀子とみられ、663の柄には目釘孔がある。667~669は鉄滓。

[註]

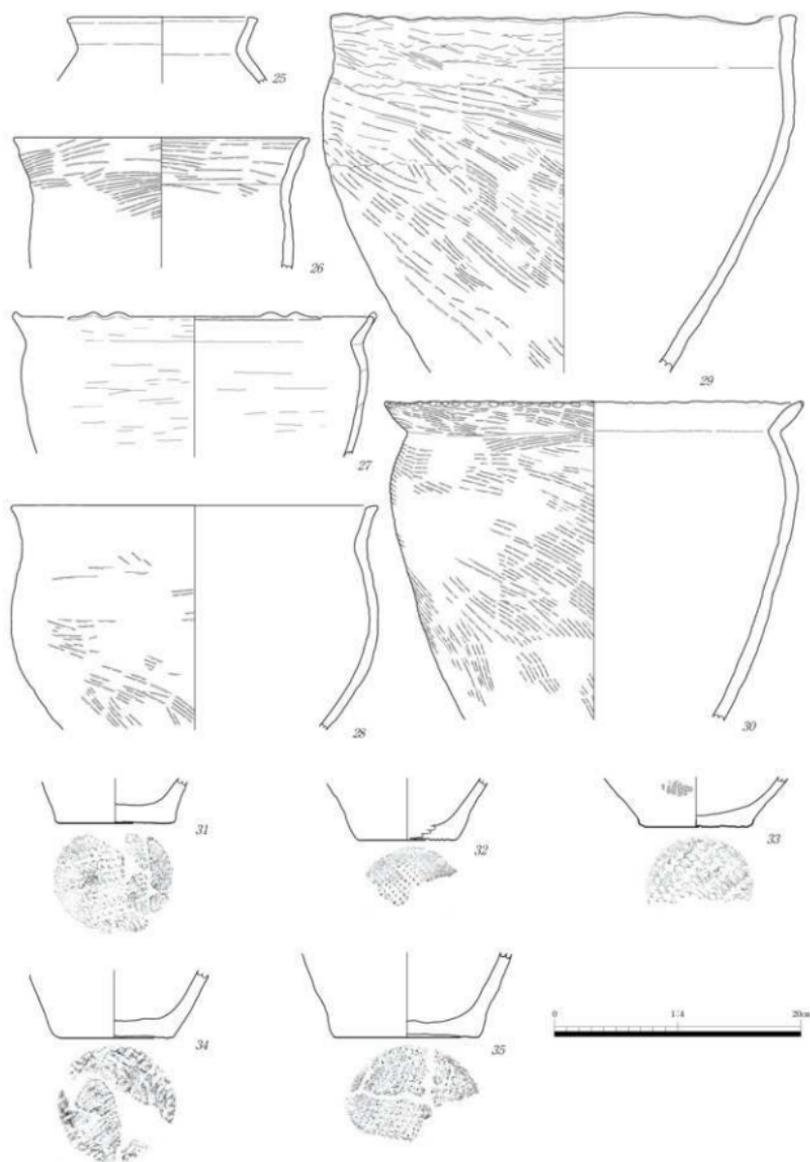
- i) 年代・編年は右記に拠る。酒井重洋 2008『下野式土器』『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- ii) 北陸中世考古学研究会 2006・2007『中世北陸のカワラケと輸入陶磁器・瀬戸美濃製品』『中世前期北陸のカワラケと輸入陶磁器・施輪陶器・瀬戸美濃製品』
- iii) 御富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2010『友杉遺跡発掘調査報告』
- iv) 山本信夫氏の御教示による。
- v) 中島栄一 1983『石冠・土冠』『縄文文化の研究9 縄文人の精神文化』雄山閣
- vi) 四柳嘉章 1993『合鹿椀の計量及び塗膜分析』『合鹿椀』石川県柳田村
- vii) 三浦純夫 2003『中世加賀における石製宝塔の系譜』『加能史料研究』第15号
- viii) 埴内光次郎氏の御教示によれば、石川県小松市流ヶ原産の可能性を示唆されている。



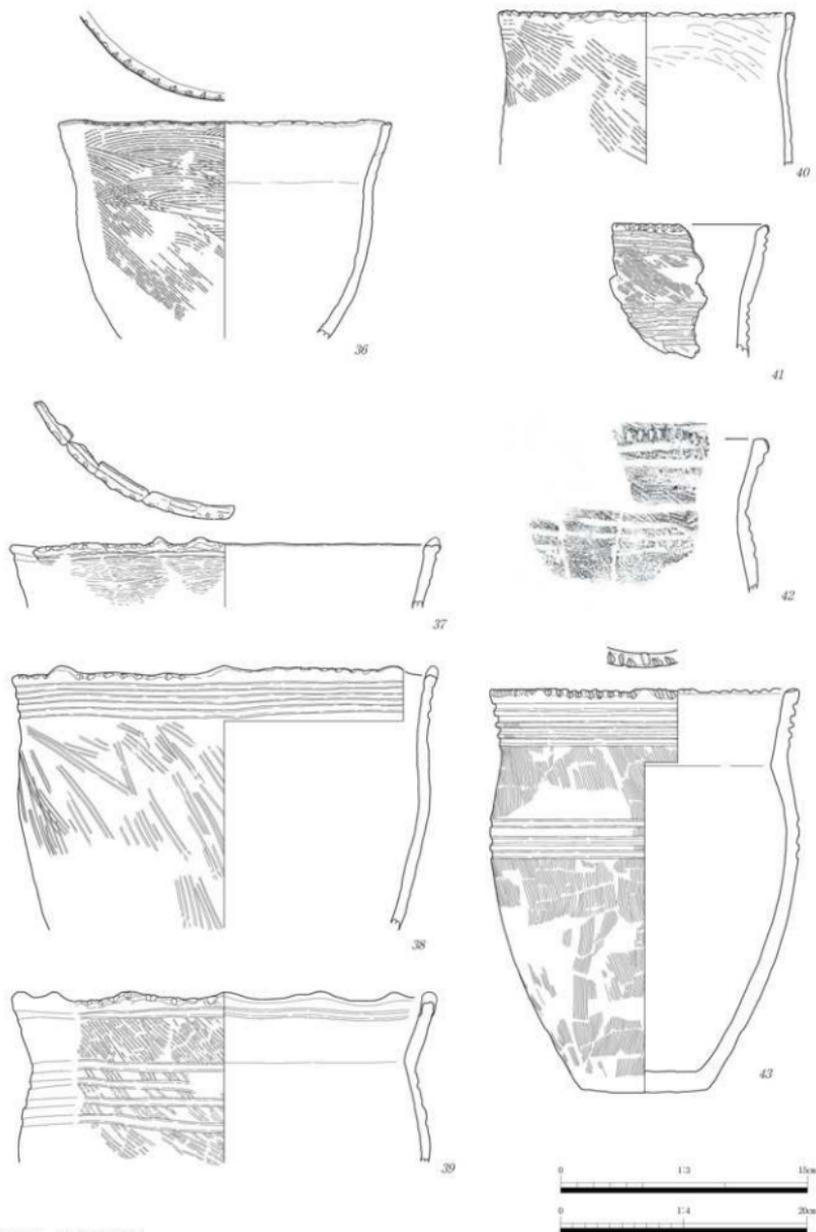
第70図 遺物実測図
(10 1/3, 1~9・11 1/4)



第71図 遺物実測図

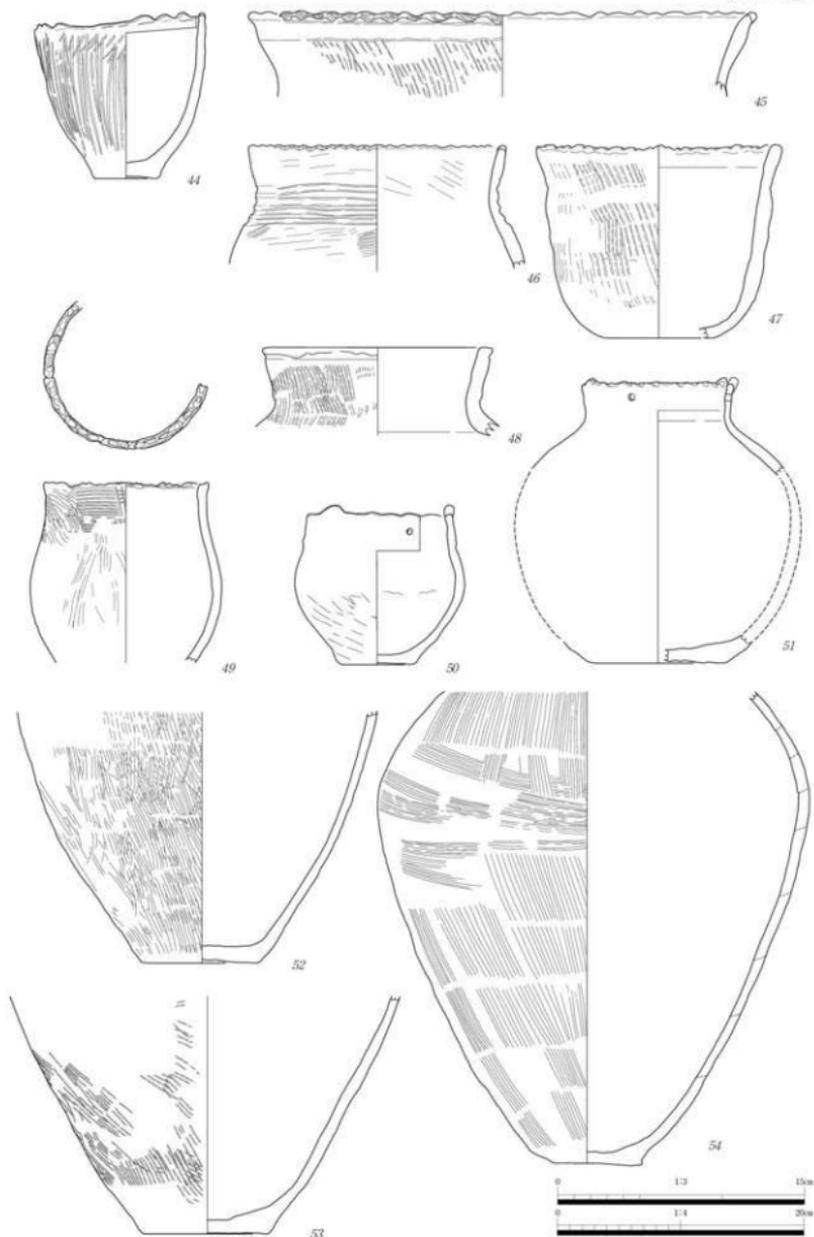


第72図 遺物実測図



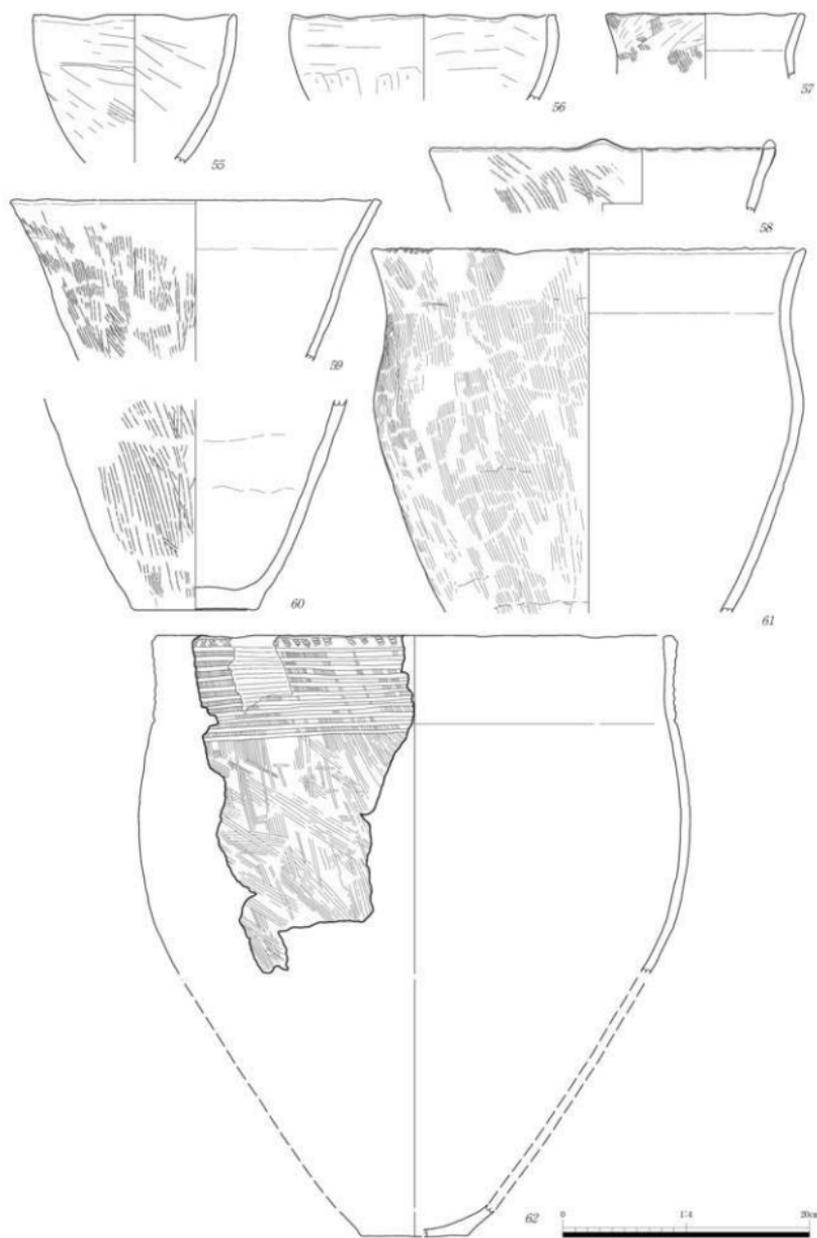
第73図 遺物実測図

(39・41~43 1/3, 36~38・40 1/4)

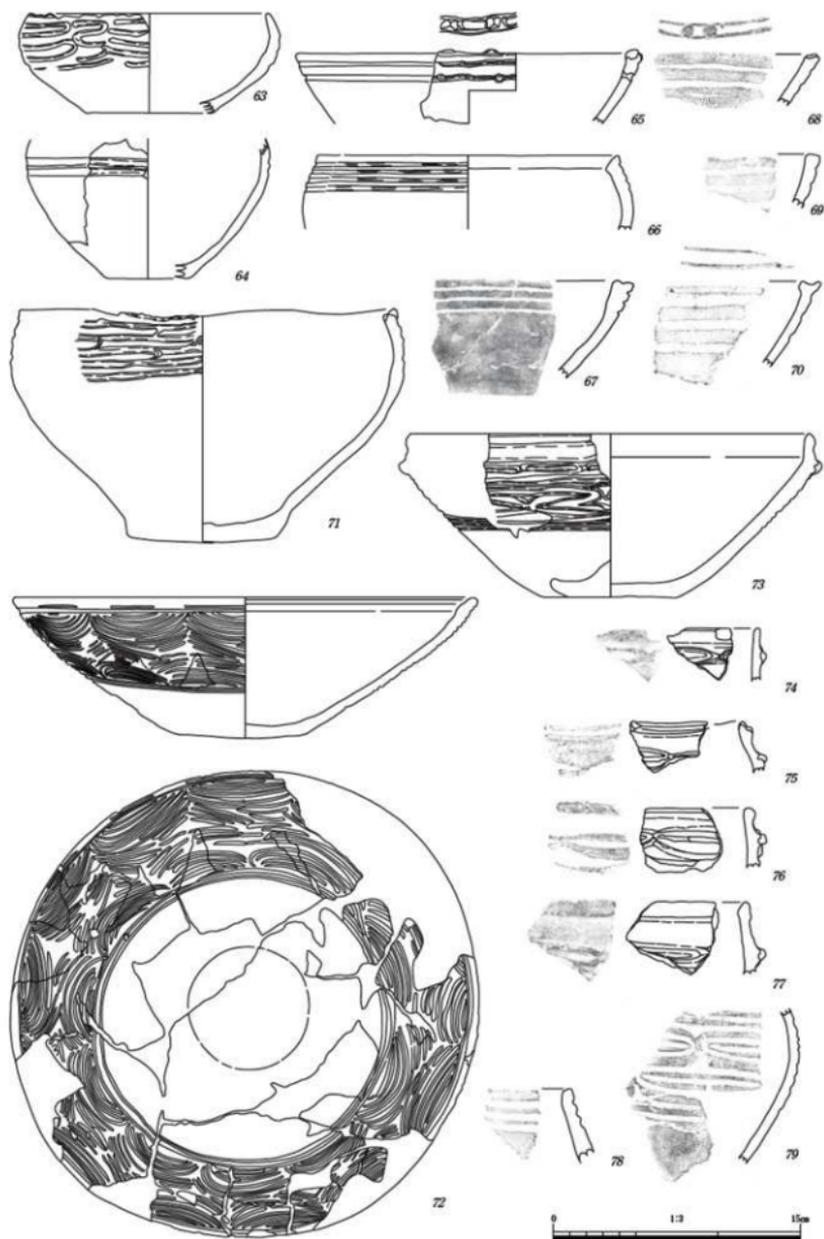


第74図 遺物実測図

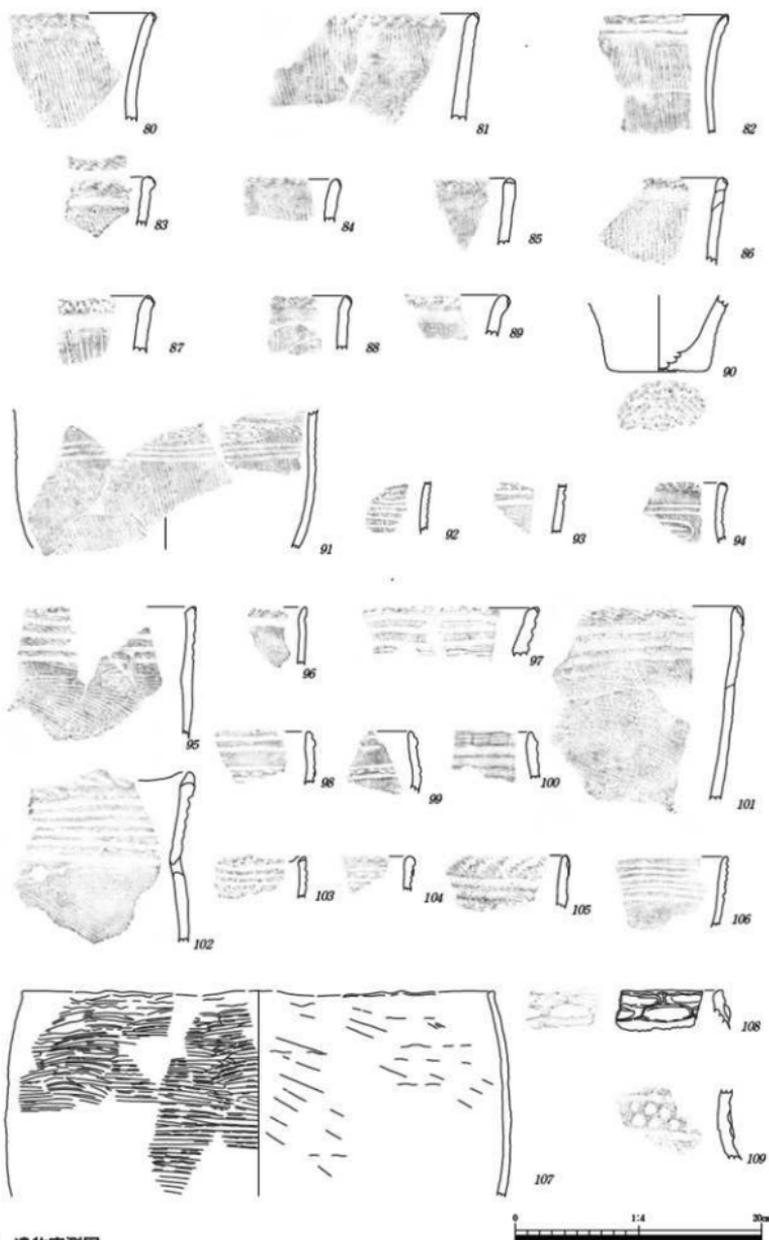
(44~51 1/3, 52~54 1/4)



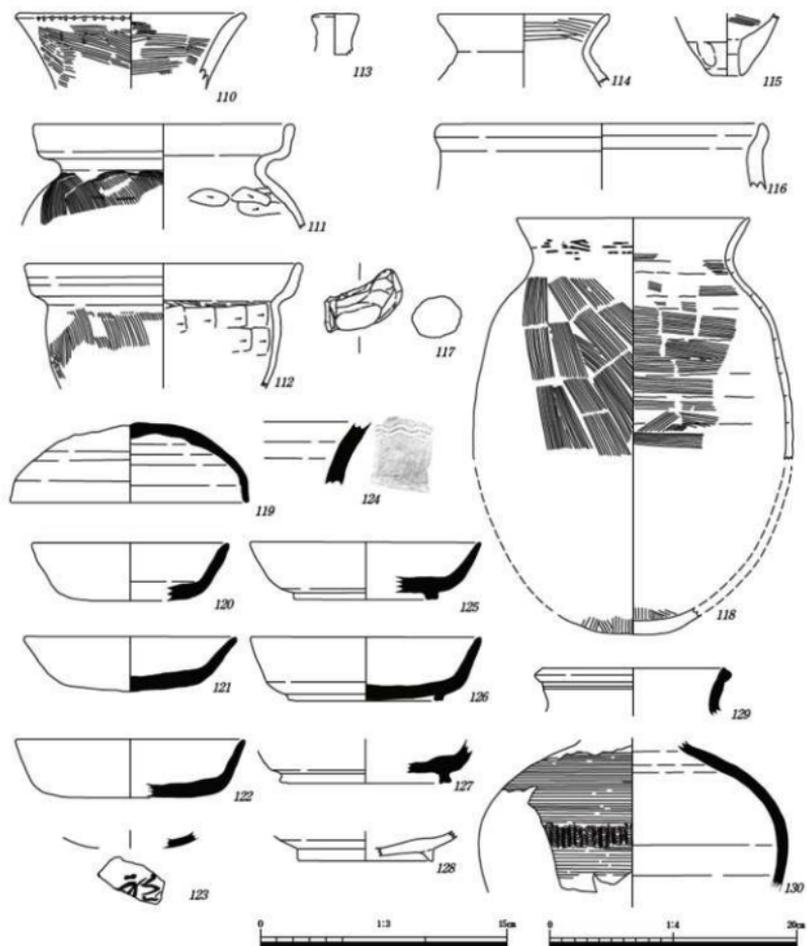
第75図 遺物実測図



第76図 遺物実測図



第77図 遺物実測図



第78図 遺物実測図
(118 1/4, その他 1/3)

第13表 縄文土器一覧(1)

時期は表順下立1~4期(本文参照)とする
 座標欄の%は取り上げ番号を示す

口端:口縁端部, 口:口縁部, 胴:胴部, 肩:肩部, 胴:胴部, 底:底部

採出 地番 号	器物 番号	遺物 番号	器種	土器部	器種	時期	法量(cm)			調剤・施文(内側)	調剤・施文(外側)	色調 (記号)	色調 (和名)	胎土	備考
							口径	器高	底径						
70	1	A4	X30Y87	肩	蓋?	1期	15.1	(1.5)		1ギキ 口:沈線文・三 文文 口端:平面に面取り後, 沈線1条	1ギキ	7.5YR7/6	褐色	石灰	
	2	B2	X330Y115	肩	深鉢	1期	22.2	21.2	6.7	胴上:横線筋 胴下:横 線筋・縦7ギキ 口: 沈線2条	横線筋	10YR6/4	にじみ 黄褐色		
	3	B2	X134Y134	肩	浅鉢?	1期	34.9	(10.6)		1ギキ 口:横・沈線文・ 三文文	横7ギキ	7.5YR5/3	にじみ 黄褐色	長石 海綿骨 計	穿孔あり
	4	A2	X30Y74	1期	深鉢	1期	(4.3)			縄文 口端:1ギキ	ナテ・1ギキ	7.5YR6/3	にじみ 褐色		粗製
	5	SEGOA1			深鉢	1期	(5.1)			縄文	1ギキ	7.5YR6/6	褐色		粗製
	6	A2	X40Y73	肩	深鉢	1期	(8.6)			縄文 口:内線2条	ナテ	10YR7/3	にじみ 黄褐色		粗製
	7	SD14A1	X33Y95		深鉢	1期	-			口:縄文・沈線文・山字 文	1ギキ	10YR7/2	にじみ 黄褐色		底状口縁
	8	B2	X150Y78 他	肩	深鉢	1期	34.3	(23.9)	32.2	横線筋	横ナテ	10YR7/2	にじみ 黄褐色	長石	粗製 底状 口縁 穿孔 あり
	9	SK80A4 他			深鉢	1期	27.4	23.7	5.8	縄文・横線筋? 肩: 体:ナテ	口:1ギキ 体:ナテ	7.5YR7/4	にじみ 褐色		外面又ス
	10	A2	X44Y86	肩	深鉢	1期	27.0	25.2	5.5	縄文・口:つぎま上字に よぶ突起 底:ナテ	ナテ	7.5YR6/3	にじみ 褐色		外面又ス
	11	SK80A4 他			深鉢	1期	29.4	26.5	8.6	無彫印全体による縄文 口 下:4cm幅の沈線筋	ナテ	10YR7/4	にじみ 黄褐色		外面又ス
	12	A1	X38Y98	肩	蓋	2期	16.0	(2.8)		口:縄文・沈線6条・列 点文	1ギキ	7.5YR6/4	にじみ 黄褐色		粗製
	13	A4	X73Y89	肩	鉢	2期	15.0	(6.0)		口端:突起あり 口:縄 文 第一上字:沈線筋・ 列点文	口:ナテ 胴以下:横 筋	7.5YR7/6	褐色		小底状口縁
	14	A1	X37Y97	肩	鉢	2期	16.2	(6.2)	18.1	口端:へろ形皿 口:横 線筋 胴:列点文 胴: 沈線文・列点文・横線文	口:ナテ 胴以下:横 筋	7.5YR7/4	にじみ 褐色		粗製 外面 又ス
	15	SK82A2			深鉢小鉢	2期	(3.7)			口:縄文・沈線筋3条・上字 文・沈線文・列点文	横7ギキ	7.5YR5/3	にじみ 黄褐色		粗製 外面 又ス
	16	A1	X38Y97	肩	浅鉢?	2期	(5.0)			口:縄文・沈線文・列点 文	ナテ	10YR6/4	にじみ 黄褐色		粗製 底状 口縁
	17	A1	X37Y97	肩	深鉢	2期	-			胴・肩:沈線文・列点文	ナテ	7.5YR7/4	にじみ 黄褐色		赤色粒
71	18	A1	X38Y98	肩	深鉢	2期	-		赤粒? 沈線筋・列点 筋文	1ギキ	7.5YR7/3	にじみ 黄褐色		海綿骨 計	粗製 外面 又ス
	19	A1	X34Y96	肩	深鉢	2期	-		胴・縄文・沈線文・上字 文・横線文	ナテ	7.5YR8/4	洗青 褐色			粗製
	20	A4	X66Y88	肩	浅鉢	2期	(6.0)		赤粒 1ギキ 口端:平 面に面取り 口:沈線文	1ギキ	7.5YR5/3	にじみ 褐色		赤粒 長石	粗製
	21	SD60A2	X46Y87		深鉢	2期	(5.2)		横線筋・縦筋筋 口端: 面取り・面出し, 平口に 面取り後, 面押しを	横線筋	5YR5/4	にじみ 赤褐色			粗製
	22	SK82A2 他			深鉢	2期	25.9	(22.7)		口:縄文・フ字入組文の 支線部 胴:1ギキ 胴:縄文・フ字入組文之 段の支線部 底:1ギキ	1ギキ 口: 段が付 く	7.5YR7/4	にじみ 褐色		粗製
	23	A4	X68Y79	肩	深鉢	2期	26.8	(22.9)		口端:横線状突起 口: 縄文・横線文の支線部 胴:縄文・フ字入組文の 支線部 底:1ギキ	上字:ナテ, 1ギキ 下 字:ナテ	5YR7/6	褐色		粗製 縁部 孔あり
	24	A4	X68Y79	肩	深鉢	2期	(8.3)	6.8		縄文・筋筋	ナテ	5YR8/6	褐色	長石 海綿骨 計	
	25	A4	No5		深鉢	2期	15.4	(5.4)		ナテ 口端:平面に面取り 口:ナテ 体:粗製	口: ナテ 体:粗製	10YR8/2	灰白色		粗製 くの 字状口縁
	26	SK40A2			深鉢	2期	24.0	(10.6)		胴一右上下が赤系 口 端:平面に面取り	ナテ	7.5YR5/4	にじみ 褐色		粗製
	27	A1	X38Y94	肩	深鉢	2期	28.5	(12.0)	28.1	横線筋 口端:3字状突起 口:1ギキ 体:粗製・ 1ギキ	口:1ギキ 体:粗製・ 1ギキ	10YR5/3	赤褐色		粗製 くの 字状口縁
28	SK40A2 他			深鉢	2期	26.6	(18.2)		胴一右下が赤系	横一右下が赤系	10YR6/3	にじみ 黄褐色		粗製 くの 字状口縁	
29	SK81A4			深鉢	2期	37.6	(28.7)		胴一右下が赤系 口 端:面取り	ナテ	10YR7/4	にじみ 黄褐色		外面又ス	
72	30	SD1A2他		深鉢	2期	33.8	(23.9)	33.0	胴一右下が赤系 口 端:面取りを	ナテ	10YR7/2	にじみ 黄褐色		砂粒多 く	くの字状口 縁
	31	A4	No66		深鉢	2期	(3.6)	9.6		横線筋 底:銅代底		7.5YR7/3	にじみ 黄褐色		粗製
	32	A4	No73		深鉢	2期	(5.0)	8.0		1ギキ 底:銅代底	1ギキ	7.5YR7/6	褐色		
	33	A2	X43Y75	肩	深鉢	2期	(4.1)	9.1		縄文 底:銅代底	1ギキ	7.5YR7/3	にじみ 黄褐色		
	34	A4	X73Y93 他	肩	深鉢	2期	(5.5)	9.5		底:銅代底	1ギキ	7.5YR7/6	褐色		
	35	A2	No23		深鉢	2期	(6.9)	11.6		底:銅代底	10YR7/4	にじみ 黄褐色			砂粒多 く
	36	SK40A2	No14		深鉢	2期	27.0	(17.6)		口端:へろ形皿 口:横 線筋 体:右下が赤系	ナテ	10YR6/3	にじみ 黄褐色		粗製 くの 字状口縁 外面又ス
	37	A4	X76Y68 他		深鉢	2期	34.8	(3.6)		横線筋 口端:平面に面 取り後, 5字状突起が付 く。沈線1条, へろ形皿	10YR7/3	にじみ 黄褐色			砂粒多 く
	38	A4	No104他		深鉢	2期	34.5	(21.3)		右下が赤系 口端:突起 へろ形皿 口:沈線3条	ナテ 口: 内線1条	7.5YR6/3	洗青 褐色		砂粒多 く
	39	A4	No9		深鉢	2期	25.8	(10.4)		右下が赤系 口端:突起 横線文 口端:突起 沈線1条 沈線4条	ナテ 口: 沈線1条	10YR6/4	にじみ 黄褐色		砂粒多 く
40	SK40A2 他			深鉢	2期	24.0	(12.3)		右下が赤系 口端:へ ろ形皿	ナテ	7.5YR7/3	にじみ 黄褐色		外面又ス 赤色粒	

第13表 縄文土器一覽(2)

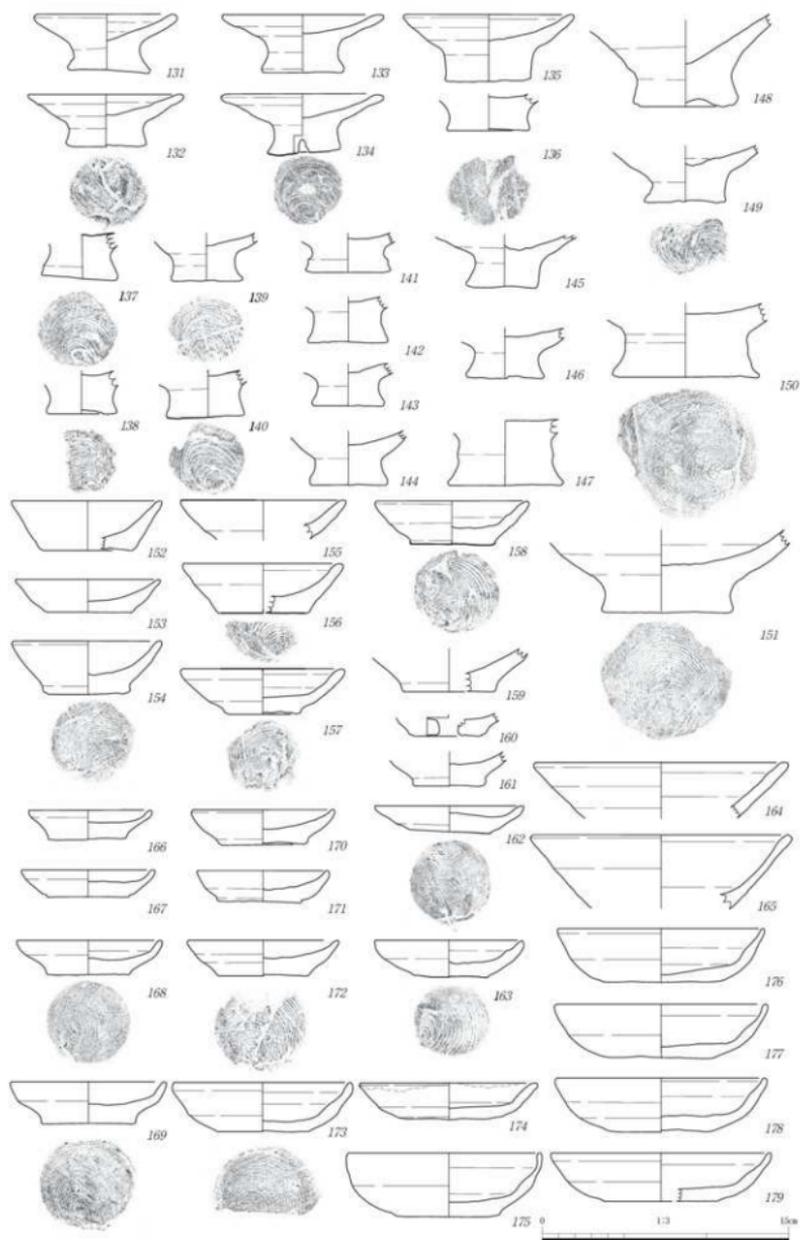
採集番号	調査番号	遺物番号	形状	土層別	器種	時期	法量(cm)				調整・施文(内面)	調整・施文(外面)	色調(器口)	色調(胎色)	胎土	備考
							口径	器高	底径	取込径						
73	41	SX401A2 集	深鉢	3期						右下がり垂腹 口縁へ うろ込み 口：沈線3条 底：沈線5条	ナデ	7.5YR7/6	12.5Y+ 黄褐色	海綿骨針		
	42	A4	X70Y85	垂腹直上	深鉢	3期			(9.4)	右下がり垂腹 口縁へ うろ込み 口：沈線 底：沈線3条	横ナデ	7.5YR7/4	12.5Y+ 黄褐色	長石		
	43	SX401A2 集	深鉢	3期	08.8	24.6	7.6			縦糸痕 口縁：突起、 へうろ込み 口：沈線4条 底：沈線2条	ナデ・ミガキ	10YR7/4	12.5Y+ 黄褐色	赤色殻 海綿骨針		
	44	SK807A4	小笠鉢	3期	09.4	9.6	4.0			縦糸痕 口縁：3個1単位の突起	ナデ・ミガキ	10YR7/3	12.5Y+ 黄褐色			
74	45	A4	№58集	深鉢	4期	31.0	(3.2)			縦糸痕 口縁：筋糸体による筋目 口：指頭凹線	横腹直	10YR8/3	12.5Y+ 黄褐色	口縁小直状スス		
	46	A4	№65集	深鉢	3期	15.7	(7.7)			縦糸痕 口縁：へうろ込み 底：沈線4条	ナデ	10YR5/2	12.5Y+ 黄褐色	内外面スス 内面コゴテ		
	47	SX401A2 集	小笠鉢	3期	15.0	(11.8)	6(7)			縦糸痕 口縁：へうろ込み	横腹直	5YR7/4	12.5Y+ 黄褐色	外面スス		
	48	A4	X66Y89	直脚	壺形	3期	14.0	(3.4)			縦糸痕 口縁：平面に面取り	ナデ	2.5YR/3	12.5Y+ 黄褐色		
	49	SX401A2	小笠鉢	3期	10.0	(11.0)				右下がり垂腹 口縁：側点	ナデ	7.5YR4/4	褐色	内外面スス		
	50	A4	X70Y30	直脚	小笠鉢	3期	8.7	9.8	4.6		上唇：ナデ 下唇：筋線 口縁：突起	ナデ	5YR7/6	褐色	穿孔あり	
	51	SX401A2 集	壺形	3期	9.3	(17.3)	9(4)			赤彩 ミガキ 口縁：突起 底：へうろ込み	ナデ	7.5YR7/3	12.5Y+ 黄褐色	穿孔あり 土製の輸入品?		
	52	SS101A1	深鉢	3期	-	(20.4)	9(4)			縦糸痕	ナデ	7.5YR7/6	褐色	内面スス		
	53	A4	№66集	深鉢	3期	-	(19.3)	9.6		右下がり垂腹	ナデ	5YR6/6	褐色	海綿骨針 海綿直スス		
	54	SK102A1	深鉢	3期	-	(38.3)	7.2			蓋・下唇：縦糸痕 胴： 縦糸痕	ナデ	10YR7/3	12.5Y+ 黄褐色			
75	55	A4	№63集	鉢	3期	16.4	(12.0)			右下がり垂腹 ミガキ	ナデ	5YR7/6	褐色			
	56	A4	№6	浅鉢	3期	21.3	(6.9)			口縁：平面に面取り 上 手・横筋痕、ナデ 下手： 縦筋痕	横腹直	10YR6/3	12.5Y+ 黄褐色	横筋		
	57	A4	X27Y37 集	垂腹直上	鉢	3期	16.0	(5.3)		右下がり垂腹直、右上がり ミガキ	口：横ミガキ	7.5YR6/4	12.5Y+ 黄褐色	長石 石英		
	58	A4	X73Y30	垂腹直上	深鉢	3期	26.0	(3.9)		右下がり垂腹 口縁：平 面に面取り、A字状突起	ナデ	7.5YR7/4	12.5Y+ 黄褐色	砂粒多 い	外面スス	
	59	A4	№64集	深鉢	3期	30.0	(13.1)			縦糸痕 口縁：面取り	ナデ	7.5YR6/3	12.5Y+ 黄褐色	横筋 内 面スス		
	60	A4	№68集	深鉢	3期	-	(17.1)	10.0		縦糸痕	ナデ	5YR7/6	褐色	横筋		
	61	A4	№68集	深鉢	3期	26.0	(29.6)			縦糸痕 口縁：面取り、 筋糸体による筋目	ナデ	10YR7/2	12.5Y+ 黄褐色			
	62	SK803A4	深鉢	3期	42.2	148.9	8.6			右下がり垂腹 口縁： 筋糸体による筋目 口： 沈線11条	ナデ	7.5YR7/4	12.5Y+ 黄褐色			
	63	SD808I2	浅鉢	4期	14.5	6.1	7.8			口：沈線文・S字状文・ 工字文	10YR6/4	12.5Y+ 黄褐色				
	64	A2	X44Y86	直脚	浅鉢	3期	18.6	5.0	14.8		赤彩 胴：沈線文	5YR6/8	褐色			
76	65	SX401A2	浅鉢	3期	21.1	(4.5)			赤彩 ミガキ 口縁：平 面に面取りし、沈線1条 と2個1単位の凹線付 口：沈線2条	ミガキ	10YR3/1	黒褐色	穿孔2個あり			
	66	SX401A2	№46	浅鉢	4期	18.3	(4.5)	20(2)		赤彩 口：沈線4条	横ミガキ	7.5YR6/6	褐色	赤色殻		
	67	A4	№6	直脚	浅鉢	3期	-	(6.0)		赤彩? 横ミガキ 口 縁：平面に面取りし、 沈線1条と2個1単位の 凹線付付文 口：沈線 2条	横ミガキ	10YR7/2	12.5Y+ 黄褐色	赤色殻	横筋	
	68	A4	X82Y48	直脚	鉢	3期	-	(3.1)		口縁：平面に面取りし、 内外面側面へうろ 込み 口：沈線3条	ナデ	5YR7/6	褐色			
	69	A1	X32Y85	直脚	鉢?	4期	-	(3.3)		口縁：平面に面取りし、 内外面側面へうろ 込み 口：沈線3条	ナデ	5YR5/4	12.5Y+ 赤褐色			
	70	70	A4	X63Y85	直脚	浅鉢	4期	-	(5.2)		ミガキ 口縁：平面に 面取りし、縦沈線1条 口：沈線3条	ミガキ	7.5YR6/4	12.5Y+ 黄褐色	赤色殻	
	71	A4	№66集	浅鉢	4期	23.0	14.3	9.0		ナデ 口：赤彩、沈線文・ 工字文	ナデ	7.5YR7/4	12.5Y+ 黄褐色	赤色殻		
	72	SK61A1	浅鉢	4期	24.2	8.6	7.6			赤彩 上手：背向沈線文 の文様付 口：沈線 1条、ミガキ	10YR7/4	12.5Y+ 黄褐色				
	73	A4	№69集	浅鉢	4期	24.2	10.0	8.0		赤彩 上唇：面取状突起 、裏面工字文 下唇：ミガ キ	ミガキ	5YR7/6	褐色	砂粒多 い		
	77	74	A1	X38Y97	直脚	壺形	4期	-	(3.2)		ミガキ 口：縦筋状突起	ミガキ	2.5YR6/6	褐色		
75		A1	X34Y97	直脚	浅鉢	4期	-	(3.1)		口縁：沈線文 口：縦筋 状突起	5YR6/8	褐色	砂粒多 い			
76		A1	X35Y95	直脚	浅鉢	4期	-	(4.0)		赤彩 ミガキ 口：縦筋 状突起	7.5YR7/6	褐色	赤色殻			
77		A1	X34Y96	直脚	浅鉢	4期	-	(4.4)		ミガキ 口：縦筋状突起	7.5YR8/6	褐色	浅赤褐色			
78		A1	X34Y96	直脚	変形壺	4期	-	(4.3)		赤彩 口：沈線3条	7.5YR3/4	12.5Y+ 褐色				
79		SX401A2 集	浅鉢	4期	-	-	-			ミガキ 胴：多段横内工 字文	10YR7/4	12.5Y+ 黄褐色	横筋			
80		A1	X36Y97	直脚	深鉢	4期	-	(6.8)		縦糸痕 口縁：筋糸体による筋目	5YR6/6	褐色				
81		A1	X38Y97	直脚	深鉢	4期	-	(8.7)		縦糸痕 口縁：筋糸体による筋目	横腹直	10YR7/4	12.5Y+ 黄褐色			
82		A1	X32Y95	直脚	深鉢	4期	-	(9.7)		縦糸痕 口縁：筋目 口： 浮線文	ミガキ	2.5YR6/6	褐色	海綿骨針		
83		A1	X30Y101	直脚	深鉢	4期	-	(4.0)		縦糸痕 口縁：筋糸体による筋目 口： 指頭凹線	10YR8/3	12.5Y+ 黄褐色				
84	A2	X31Y86	直脚	深鉢	4期	-	(3.5)		縦糸痕 口縁：筋糸体による筋目	ミガキ	5YR7/4	12.5Y+ 黄褐色				
85	A1	X36Y97	直脚	深鉢	4期	-	(3.4)		縦糸痕 口縁：筋糸体による筋目	5YR6/4	褐色					

第13表 縄文土器一覽(3)

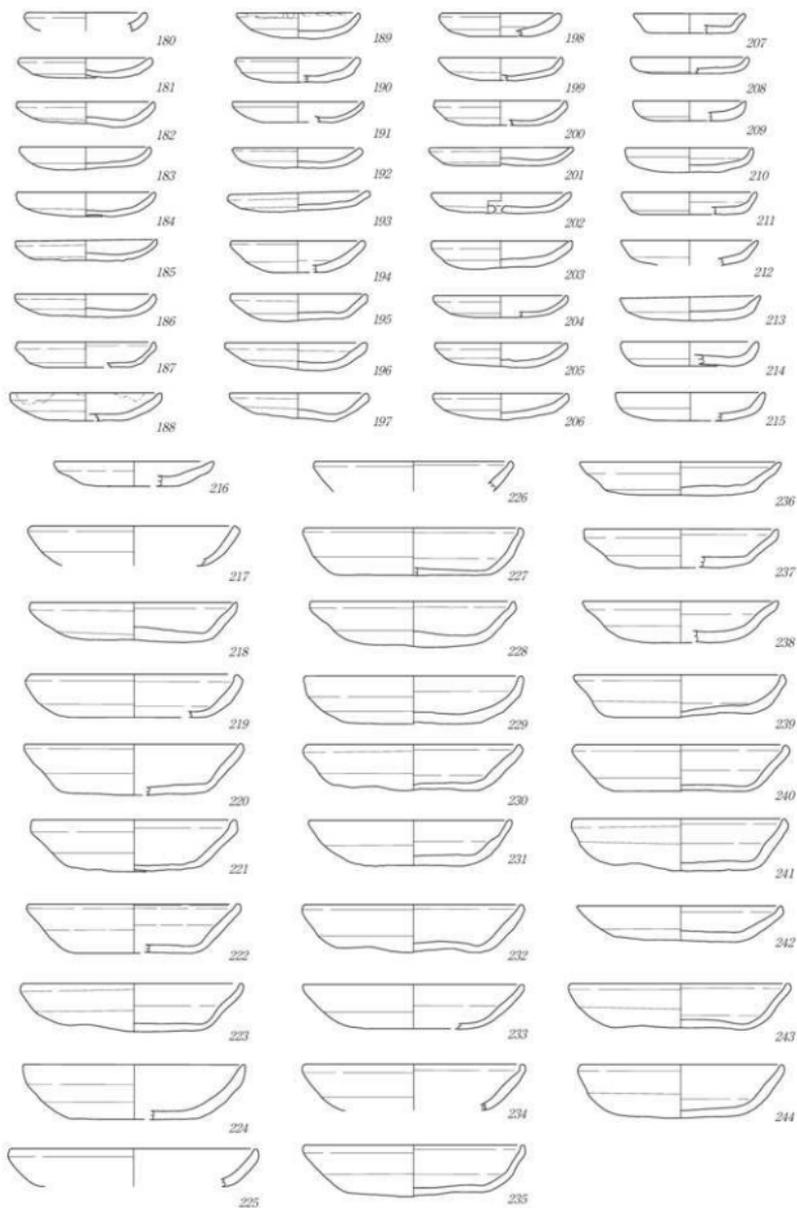
採出 回数 番号	採出 番号	遺物 番号	遺物 番号	形状	土器種	器種	時期	法量 (cm)				調整・施文 (内面)	調整・施文 (外面)	色調 (記号)	色調 (姓名)	胎土	備考
								L径	器高	口径	取付径						
77	86	A1	X38Y98	圓形	深鉢	4期	(7.1)				縦糸痕 口縁：縁糸体による割み		10YR4/4	褐色			
	87	A1	X38Y97	圓形	深鉢	4期	(4.6)				縦糸痕 口縁：縁糸体による割み 口：脚面凹縁		7.5YR6/4	12.5Y 褐色			
	88	A2	X47Y88	圓形	深鉢	4期	(4.4)				縦糸痕 口縁：縁糸体による割み		5YR7/4	12.5Y 褐色			
	89	A1	X38Y54	圓形	深鉢	4期	(3.4)				縦糸痕 口縁：縁糸体による割み		10YR7/3	12.5Y 黄褐色			
	90	A	X38Y7	圓形	深鉢	4期	(6.2)	7.9			左：磨り面 底：網代文		10YR5/3	12.5Y 黄褐色			粗製
	91	A1	X38Y97	圓形	深鉢	4期	-				縦糸痕 横付文・河点文・沈線3条		10YR6/2	灰黄褐色			
	92	A1	X38Y98	圓形	深鉢	4期	-				縦糸痕 横付1字文		7.5YR5/4	12.5Y 褐色			
	93	SE6A1				深鉢	3期	-			帯形 沈線2条・河点文	ナテ	10YR7/4	12.5Y 黄褐色			
	94	SD2A2	X41Y86	圓形	深鉢	4期	(4.9)				縦糸痕 沈線2条・河点文 口縁：縁糸体による割み	ナテ	7.5YR5/4	12.5Y 褐色			砂粒多 い
	95	A4	X71Y59 X39Y60	圓形	深鉢	4期	(10.7)				右下がり垂形 沈線3条 口縁：へろ割み	ナテ	7.5YR6/6	褐色			砂粒多 い 石 面磨削
	96	A1	X38Y98	圓形	深鉢	4期	(4.7)				縦糸痕 口縁：縁糸体による割み 口：脚面凹縁	ナテ	10YR6/3	12.5Y 黄褐色			
	97	A4	9c7B	圓形	深鉢	3期	(3.9)				右下がり垂形 沈線4条 - 口縁：へろ割み	横ナテ	7.5YR7/6	褐色			角磨削 目
	98			圓形	鉢	4期	(4.3)				口縁：沈線4条・河点文		7.5YR7/4	12.5Y 褐色			
	99	A1	X38Y97	圓形	深鉢	4期	(5.0)				赤彩 口：浮線文・沈線文・河点文	横ナテ	7.5YR7/4	12.5Y 褐色			
	100	A2	X44Y86	圓形	深鉢	4期	(3.8)				口縁：目線による割み 口：浮線文		10YR7/4	12.5Y 黄褐色			
	101	A1	X38Y97 X38Y98	圓形	深鉢	4期	(13.7)				磨り右下がり垂形 口縁：縁糸体による割み 口：浮線文		7.5YR6/6	褐色			
	102	A4	X62Y66	圓形	深鉢	4期	(13.9)				右下がり垂形 沈線6条 口縁：磨り面、へろ割み	1字ナ	7.5YR6/3	12.5Y 褐色			砂粒多 い 角 面磨削
	103	A4	X71Y60	圓形	浅鉢	4期	(3.4)				縦糸痕 口縁：磨り面、へろ割み 口：沈線3条		7.5YR7/4	12.5Y 褐色			沈線目線
	104	A1	X38Y98	圓形	浅鉢	4期	(2.8)				口縁：縁糸体による割み 沈線文・河点文		5YR5/3	12.5Y 赤褐色			
	105	A1	X32Y98	圓形	深鉢	4期	(4.3)				口縁：縁糸体による割み 口：沈線文		7.5YR7/6	褐色			
	106	A1	X32Y97	圓形	深鉢	4期	(5.8)				沈線6条	ナテ・2字 ナ	5YR7/4	12.5Y 褐色			外面スス
	107	B2	X129Y19 集	圓形	深鉢	4期	36.4	(16.7)			縁糸痕	右下がり垂形	7.5YR6/3	12.5Y 褐色			外面スス
	108	A4	X62Y78	圓形	垂形鉢	4期	(3.2)				赤彩 浮線網状文	口：赤彩	7.5YR2/1	黒色			
	109	A1	X33Y96	圓形	煎	4期	-				磨り沈線7条状文 脚面凹縁		10YR7/4	12.5Y 黄褐色			片磨 角磨削

第14表 弥生土器・土師器・須恵器一覽

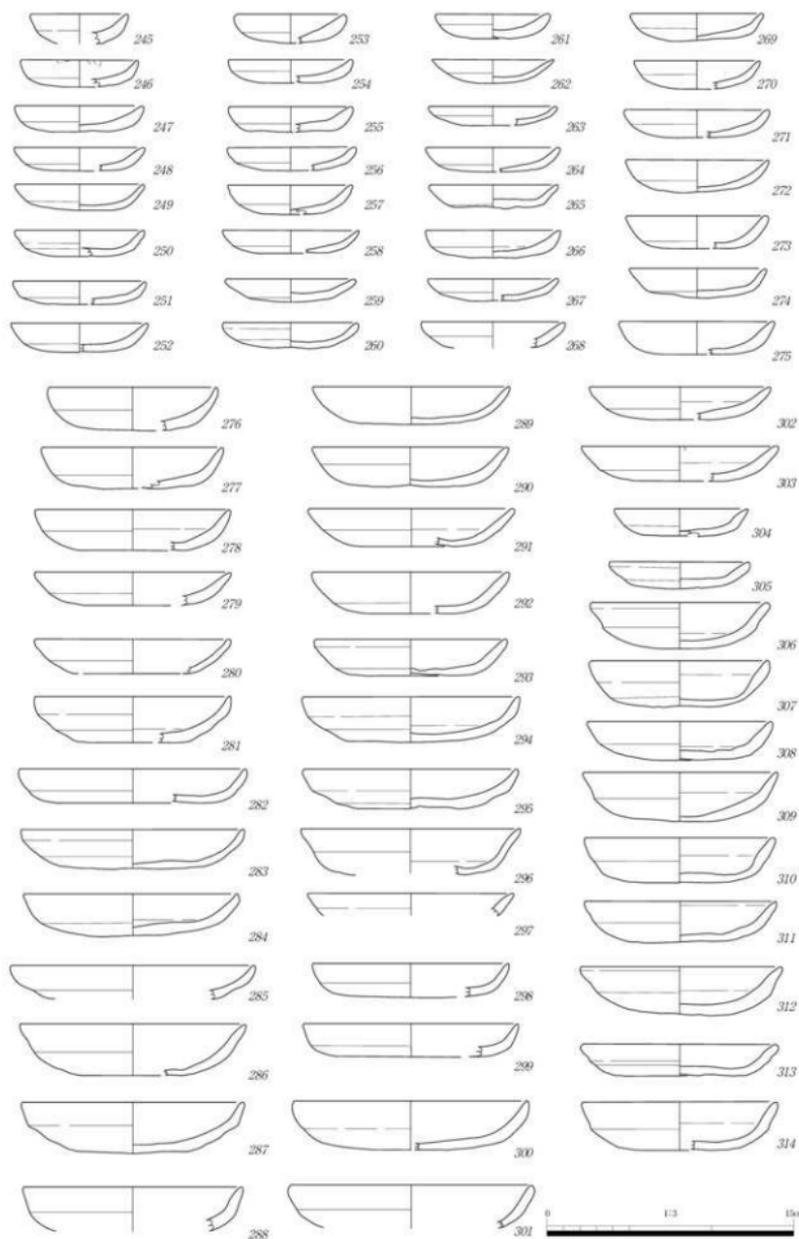
採出 回数 番号	採出 番号	遺物 番号	遺物 番号	形状	土器種	器種	詳細時期	法量 (cm)			色調 (記号)	色調 (姓名)	胎調 (記号)	胎色 (姓名)	備考
								L径	器高	口径					
78	110	B1	X125Y77	圓形	弥生土器	甕	弥生時代 前期	13.5	(4.6)		7.5YR8/4	浅黄褐色			口縁部に割み
	111	SK400B2			弥生土器	甕	弥生時代 前期	15.6	(6.4)		7.5YR8/3	浅黄褐色			
	112	SK400B2			弥生土器	甕	弥生時代 前期	16.5	(7.6)		10YR8/3	浅黄褐色			
	113	SD17B3	X179Y87	圓形	弥生土器	甕	弥生時代 前期 最大径 2.8m	(2.5)			2.0YR/1	灰白色			蓋のつまみ部
	114	A4	X83Y57	圓形	土師器	甕	4C	10.2	(4.5)		7.5YR7/4	12.5Y 褐色			
	115	SP6A1			土師器	有孔鉢	6C	-	(3.8)	1.8	7.5YR7/4	12.5Y 褐色			外面磨りスス、内 面ハケメ
	116	SK180B3	X166Y85	圓形	土師器	甕	8-9C	19.4	(4.0)		7.5YR7/4	12.5Y 褐色			
	117	A4	X70Y74	圓形	土師器	甕?	不明	-			5YR7/4	12.5Y 褐色			把手のみ
	118	SE00B2	X140Y119	圓形	土師器	甕	5C後半 -6C代	18.6	(31.0)		7.5YR8/3	浅黄褐色			内外面にスス
	119	B2	X131Y124	圓形	土師器	甕	7C	14.3	4.9		NS-0	灰色			
	120	A4	X80Y56	圓形	土師器	甕	9C	12.8	(3.5)		2.0Y7/2	灰白色			
	121	SD26B2	X135Y101	圓形	土師器	甕	9C	12.8	3.4	8.2	NS-0	灰色			
	122	B1	X123Y77	圓形	土師器	甕	9C	13.8	3.6	10.6	5Y7/3	灰白色			
	123	B1	X129Y80	圓形	土師器	甕	9C	(1.0)			5YR5/3	12.5Y 赤褐色			底部外面に磨削
	124	B3	X164Y80	1期	土師器	甕	7-8C	-			N7-0	灰白色			
	125	SD12A2	X27Y81	圓形	土師器	甕	9C	13.9	3.5	8.8	7.5Y6/3	灰色			外面磨り・沈線文
	126	SD66A2	X46Y85	圓形	土師器	甕	9C	13.9	3.9	9.4	N6-0	灰色			
	127	SR1B3	X163Y86	圓形	土師器	甕	9C	-	(2.7)	9.2	5Y7/3	灰白色			
	128	B2	X140Y124	5期	灰陶器	甕	10-11C	(1.8)	5.2 (高石)		N7-0	灰白色	7.5Y6/2	灰ナリ 7色	
	129	A4	X67Y60	圓形	土師器	甕類甕	7-8C	11.0	(2.9)		N6-0	灰色			
	130	SD29B2 集	X141Y97	圓形	土師器	甕	7C	(9.3)			5Y6/1	灰色			胴部に沈線文



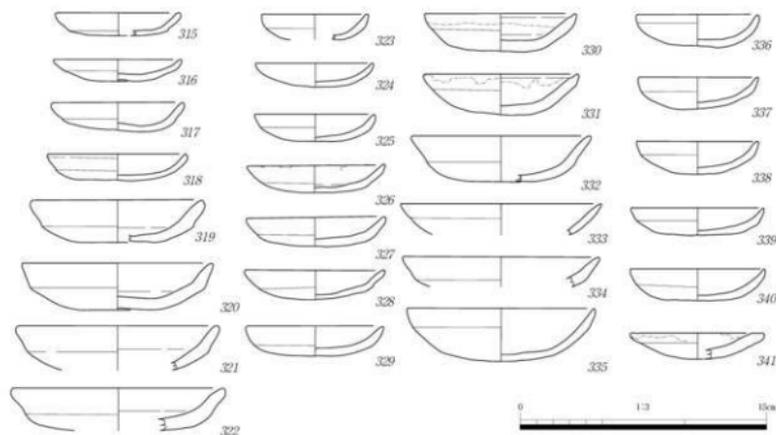
第79図 遺物実測図



第80図 遺物実測図



第81図 遺物実測図



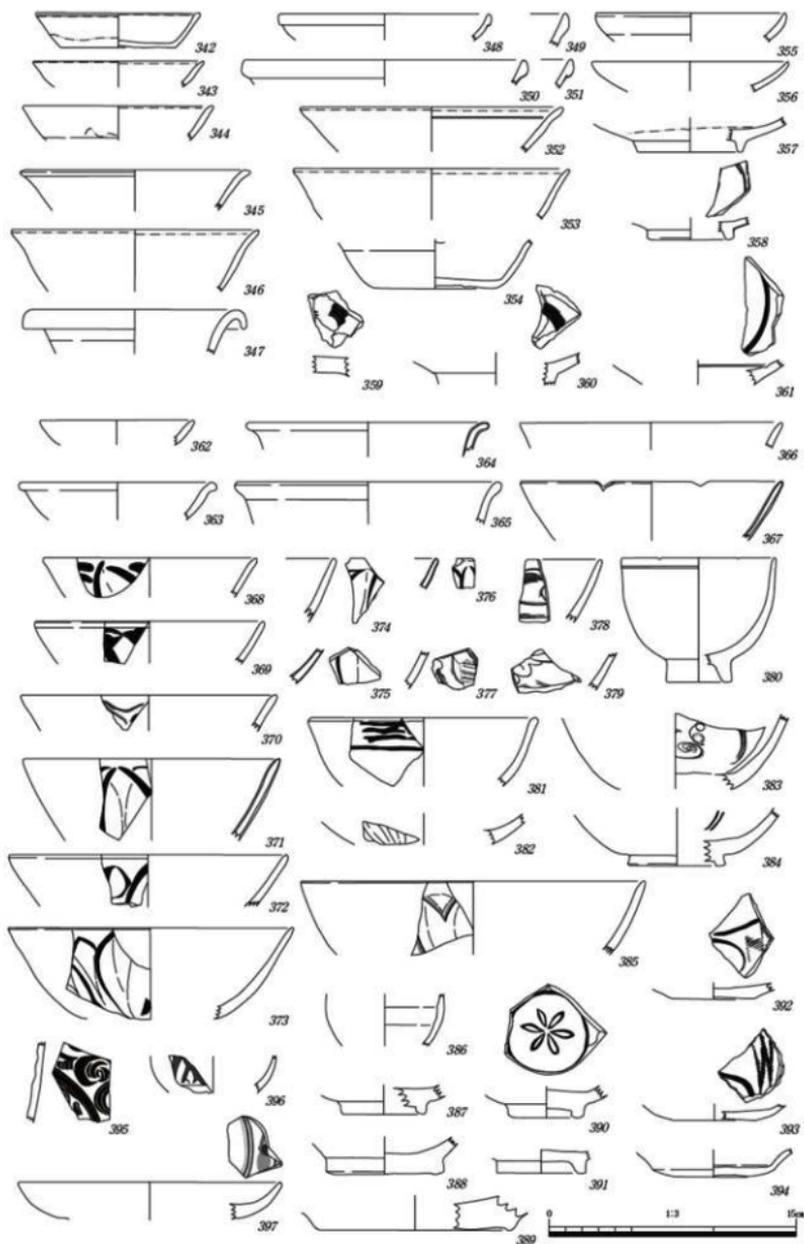
第82図 遺物実測図

第15表 中世土師器一覽(1)

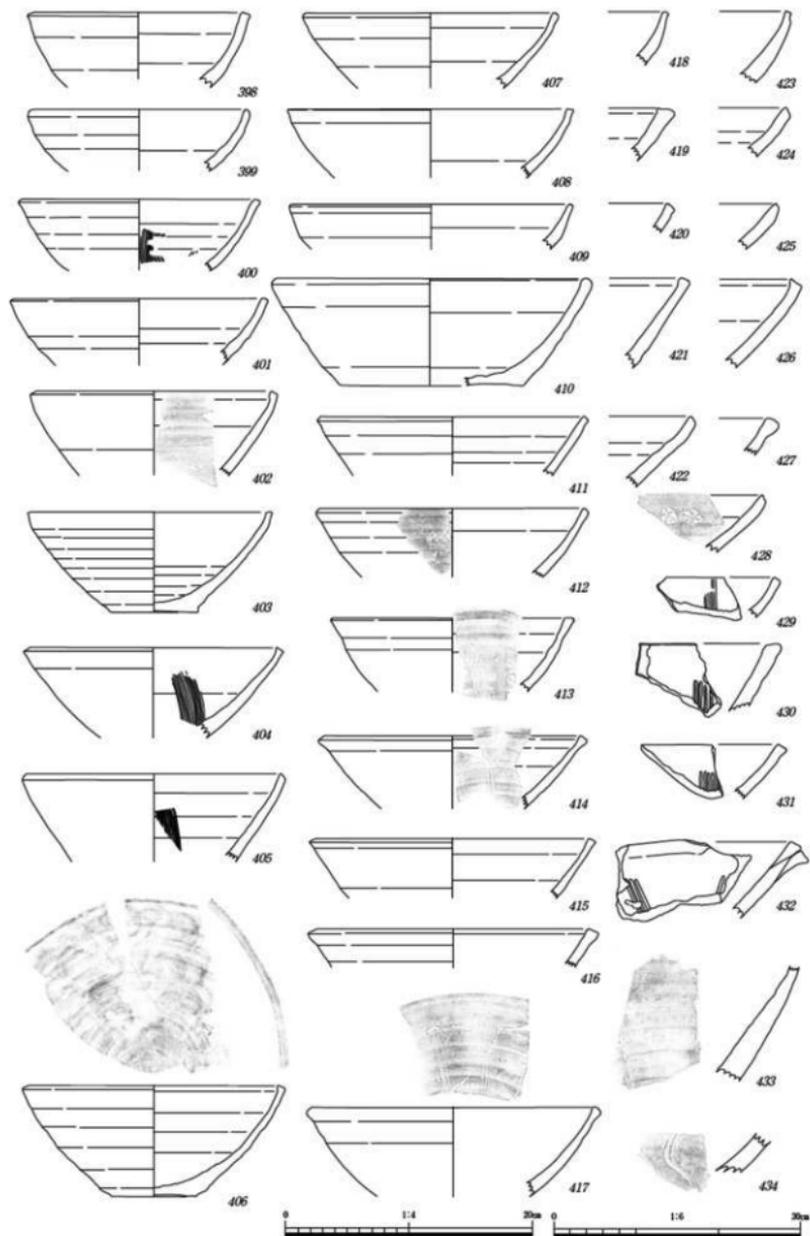
採集番号	図号	遺物番号	形状	土質	種類	器種	分期	詳細分類	口径 (cm)		色調 (図号)	色調 (類似)	備考	
									口内	口外				
77	131	SD1A2			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.4	3.4	8F/B7-2	12.45-黄褐色		
	132	SD106B3	X46Y381		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	10.4	3.2	8F/B8-2	灰白色		
	133	SD106B3	X46Y384		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.6	3.5	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色		
	134	SD106B3	X46Y384		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.0	3.7	6.5	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色	底面部分から穿孔あり
	135	SR1B3	X46Y386		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	10.2	4.1	5.1	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色	
	136	SP63A1			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(2.2)	6.8	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色	
	137	SR1B3	X46Y386		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(2.9)	4.3	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色	
	138	A4	X73Y76	1期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	(2.6)	4.2	8F/B7-2	12.45-黄褐色		
	139	SR1B3	X46Y386 (SR1) X46Y386 1期		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	4.4	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色		
	140	SK196B2	X46Y385		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	4.7	7.5Y/B8-4	浅黄褐色		
	141	A4	X73Y76	1期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	(3.6)	6.4	8F/B7-2	12.45-黄褐色		
	142	SK161B3			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	6.9	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色		
143	B1	X12Y72	2期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(2.6)	6.2	8F/B7-2	12.45-黄褐色		
144	SR1B3	X46Y385		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(3.1)	4.6	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色		
145	SK196B2	X46Y385		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	4.4	7.5Y/B8-3	浅黄褐色			
146	SR1B3	X46Y386		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	4.8	7.5Y/B8-4	浅黄褐色			
147	B2	X14Y109	2期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(4.0)	6.8	8F/B7-2	12.45-黄褐色		
78	148	SD177B3	X13Y37		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(3.5)	8F/B8-3	浅黄褐色	外底面半周に刺孔あり。柱状高台痕有り付。底面内面に片断状文あり	
	149	SR1B3	X46Y386		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(3.5)	3.9	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色	
	150	SK196B2			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.4	13.6)	8.7	8F/B7-2	12.45-黄褐色	
	79	151	SP66A3	No.1	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(3.0)	8.0	7.5Y/B7-2	12.45-黄褐色	
	152	SR1B3	X46Y387		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.0	3.0	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色		
	153	SP135A3	No.1	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.7	2.0	5.1	8F/B7-2	12.45-黄褐色		
	154	SP13A2			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.8	3.3	6.8	8F/B7-4	12.45-黄褐色	
	155	SP11B3			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.8	(2.4)	-	7.5Y/B7-6	褐色	
	156	SD106B3	X46Y384		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.6	3.0	3.5	7.5Y/B8-2	灰白色	
	157	SD106B3	X46Y384		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.6	2.8	4.0	8F/B7-3	12.45-黄褐色	
	158	SK115A2			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.2	2.7	3.0	7.5Y/B8-3	灰白色	内底面にスリキ痕あり
	79	159	A1	X83Y72	2期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(2.6)	5.4	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色
160		B1	X46Y386	1期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(1.1)	3.8	7.5Y/B8-2	灰白色	底面周縁部に刺孔あり
161		A4	X77Y76	1期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	-	(2.1)	4.0	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色	
27		SR1B3	X46Y386		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.0	1.7	-	8F/B7-3	12.45-黄褐色	赤褐色あり
27		SD106B3	X46Y382		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.9	2.3	6.5	8F/B7-2	12.45-黄褐色	内腹および外腹口縁部が黒色。底部中央に内凹した部分あり
164		SS22B3			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.2	2.5	2.8	8F/B8-2	灰黄褐色	内面全体にスリキ痕あり
165		SD106B3	X46Y384		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	15.4	(4.5)	-	8F/B7-3	12.45-黄褐色	
166		SR1B3	X46Y387		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	7.3	1.8	4.2	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色	
167		SR1B3	X46Y387		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.0	1.7	5.0	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色	
168		SD127B3	X46Y78		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.6	2.1	3.0	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色	
169		B2	X13Y111	2期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	9.3	2.6	3.5	7.5Y/B7-4	12.45-黄褐色	縁部に棘
170		SP29A1			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.5	2.3	4.9	8F/B7-2	12.45-黄褐色	
171	SP29A1			中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	7.8	2.0	5.1	8F/B7-3	12.45-黄褐色		
172	SP28AA	No.2		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	8.0	2.2	3.3	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色		
173	SR1B3	X46Y386		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	10.7	3.0	5.6	7.5Y/B7-6	褐色		
174	A2	X49Y85	2期	中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	10.6	2.2	-	7.5Y/B7-3	12.45-黄褐色	底面周縁部から穿孔あり。口縁部全体にスリキ痕あり	
175	SR1B3	X46Y387		中世土師器	底蓋型	12C-中一	底	11.6	3.9	6.3	7.5Y/B8-6	浅黄褐色		

第15表 中世土師器一覽(3)

調査 年度	調査 地点	遺物 番号	名称	形状	土質	種類	図解	分類	詳細時期	径長(㎝)		色調(色号)	色調 (単位)	備考
										口部	底高			
昭 和	29	SR013	X60Y36	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.1	1.6	10YR8/2	灰白色	灰白色	大分県	
		SR2	X120Y77	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	6.8	1.5	7.5YR7/3	にがい・黄褐色		
		SR20802		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.3	1.4	10YR8/3	黄褐色			
		SP33382		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.7	1.2	10YR7/2	にがい・黄褐色			
		SR013	X17Y387	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.0	1.5	10YR8/1	灰白色			
		SR013	X60Y38	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.7	1.7	7.5YR8/3	黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ		
		SR250903		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.0	1.2	7.5YR7/4	にがい・黄褐色			
		SP31182		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.7	1.5	7.5YR7/2	にがい・黄褐色			
		SP2882		2 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.7	1.6	10YR8/2	灰白色		
		SR20802		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.9	1.6	7.5YR7/4	にがい・黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ		
		SR20602		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.8	1.7	7.5YR7/4	にがい・黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ		
		SR271	X130Y122	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.7	1.7	10YR8/3	黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ	
		SR27712		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.6	2.0	10YR8/3	黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ		
		SR21982		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.5	2.0	10Y8/6	明褐色			
		SR271	X13Y119	2 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.2	1.8	10YR7/2	にがい・黄褐色		
		SR242280	X60Y77		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.3	2.0	2.5Y8/8	褐色		
		SP37182		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	10.2	2.6	10YR7/3	にがい・黄褐色			
		SR29782		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	10.9	2.5	10YR7/4	にがい・黄褐色			
		SR2	X130Y113	2 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.7	2.5	10YR8/4	黄褐色		
		SR21082		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.9	2.0	10YR8/2	灰白色			
		SR21082		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.7	2.1	7.5YR8/2	灰白色			
		SR210803	X60Y75		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.8	2.8	10YR8/2	黄褐色		
		SR29782		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	13.7	2.1	7.5YR8/1	灰白色			
		SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	13.4	2.4	2.5Y8/2	灰白色	〔の〕 宇賀中土上げ	
		SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	12.9	2.6	2.5Y8/1	灰白色	〔の〕 宇賀中土上げ	
		SR210803	X60Y75		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	14.8	2.1	7.5YR8/4	黄褐色		
		SR250902		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	15.6	3.1	10YR7/1	灰白色			
		SR013	X130Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	15.4	2.4	7.5YR8/4	黄褐色		
		SR28782		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	15.2	2.7	10YR8/2	灰白色			
		SR296803		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.8	2.3	10YR8/3	黄褐色			
		SR29782		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.8	2.4	10YR7/2	にがい・黄褐色			
		SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	12.4	2.3	7.5YR7/3	にがい・黄褐色		
		SR210803		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.6	2.5	10YR8/3	黄褐色			
		SR26682		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.5	2.2	7.5YR7/2	明褐色			
		SR013	X60Y387		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	15.0	2.8	10YR8/3	黄褐色		
		SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	12.8	2.4	10YR8/1	灰白色		
		SR250903		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	15.2	2.8	10YR8/3	黄褐色			
		SR210803		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	12.4	1.4	10YR7/3	にがい・黄褐色			
		SR17382		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.8	2.0	7.5YR8/2	灰白色			
		SR210803		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	12.9	2.0	10YR8/2	灰白色			
		SR013	X60Y38		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	14.2	3.0	10YR7/2	灰白色		
		SR210812	X180Y114		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	16.7	2.6	7.5YR8/4	にがい・黄褐色		
		SR250902		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	16.9	2.0	10YR8/1	黄褐色			
		SR013	X130Y38	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.8	2.1	10YR8/1	灰白色	大分県	
		SR013	X60Y38		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	8.0	1.7	7.5YR7/6	褐色	〔の〕 宇賀中土上げ	
SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	8.4	1.7	2.5Y8/2	灰白色	切り込み舟形手取			
SR10082		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	10.6	2.8	10YR7/4	にがい・黄褐色	車取・逆瀬川				
SR3	X130Y37		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	10.7	2.8	10YR8/3	黄褐色	底面側に縦 型取りあり			
SR013	X13Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	11.1	2.4	10YR8/2	灰白色				
SR21788		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	11.6	3.0	7.5YR7/6	褐色					
SR3	X130Y37	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	11.5	2.8	10YR8/3	黄褐色				
SR250903	X60Y77		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	11.6	2.5	10YR7/6	褐色	胎土に赤褐色目立つ			
SR2	X13Y111	2 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	12.1	3.0	10YR8/3	黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ			
SR13182		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	11.7	1.9	10YR8/2	灰白色					
SR210803	X60Y79		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C	11.7	2.0	10YR8/3	黄褐色				
SR2	X13Y119	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C-19C	7.4	1.4	7.5YR8/4	黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ			
SR210803		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C-19C	7.7	1.3	10YR8/2	灰白色	〔の〕 宇賀中土上げ				
SR013	X17Y387		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	19C	7.9	1.7	7.5YR7/4	にがい・黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ			
SR013	X60Y37		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	19C	8.2	1.6	10YR8/2	灰白色	〔の〕 宇賀中土上げ			
SR3	X60Y37	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ C	19C-19C	10.4	2.5	7.5YR7/4	にがい・黄褐色	底面に内面側に縦 型取りあり			
SR22182		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	19C-19C	11.5	2.9	7.5YR8/3	黄褐色					
SR3	X12Y38	2 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ C	19C-19C	12.0	2.7	10YR7/2	明褐色				
SR2	X130Y116	1 Ⅰ B	中世土師器	黒	7 Ⅰ C	19C-19C	12.8	2.6	10YR8/4	黄褐色				
SR250903	X60Y34		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	6.4	1.5	2.5Y8/2	灰白色	内面に縦向きに上向き調転痕あり			
SR210803	X60Y79		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.0	1.5	2.5Y8/1	灰白色				
SR3	X60Y78		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.4	1.6	2.5Y8/1	灰白色				
SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.2	1.7	7.5YR8/4	黄褐色				
SR013	X60Y38		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.3	1.7	2.5Y8/2	灰白色				
SR013	X60Y36		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.4	1.8	7.5YR7/4	にがい・黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ			
SR22182		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	8.3	1.8	10YR7/4	にがい・黄褐色	〔の〕 宇賀中土上げ				
SR2	SR2A2		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平-19C	9.1	2.3	2.5Y8/6	明褐色	内外面に大分厚 赤→白胎土で内厚 削り込みあり			
SR2	SR6A2	6A	中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平-19C	9.2	2.5	10Y8/6	褐色	内外面に大分厚 赤→白胎土で内厚 削り込みあり			
SR250902		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	10.8	2.8	7.5YR8/4	にがい・黄褐色					
SR250902		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	12.2	1.9	7.5YR7/3	にがい・黄褐色					
SR250902		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	11.9	1.8	7.5YR8/4	にがい・黄褐色					
SR22280	X60Y38		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	13.2	2.2	10YR8/2	灰白色				
SR22280	X60Y38		中世土師器	黒	7 Ⅰ B	18C 平	7.3	2.0	10YR8/1	灰白色				
SR22280	X60Y79		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C 平	7.2	1.9	10YR8/3	黄褐色				
SR3	X60Y79		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C 平	7.4	2.0	10YR8/3	黄褐色				
SR3	SR11A1		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C 平	8.0	1.7	7.5YR8/2	灰白色	外面に縦向きに縦 型取りあり			
SR3	SR11A1		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C 平	8.1	1.9	10YR7/2	にがい・黄褐色	外面に縦向きに縦 型取りあり			
SR3	SR3A1		中世土師器	黒	7 Ⅰ C	18C 平-19C	6.8	1.6	7.5YR8/3	黄褐色	〔胎土に大分厚			

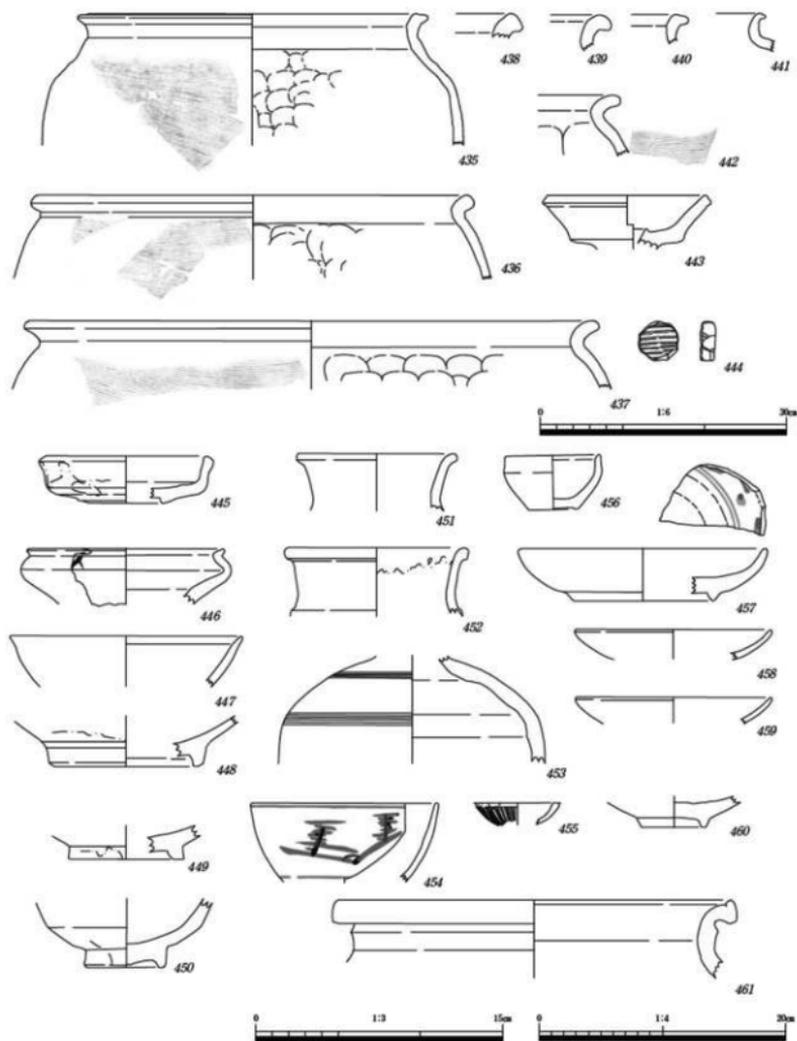


第83図 遺物実測図



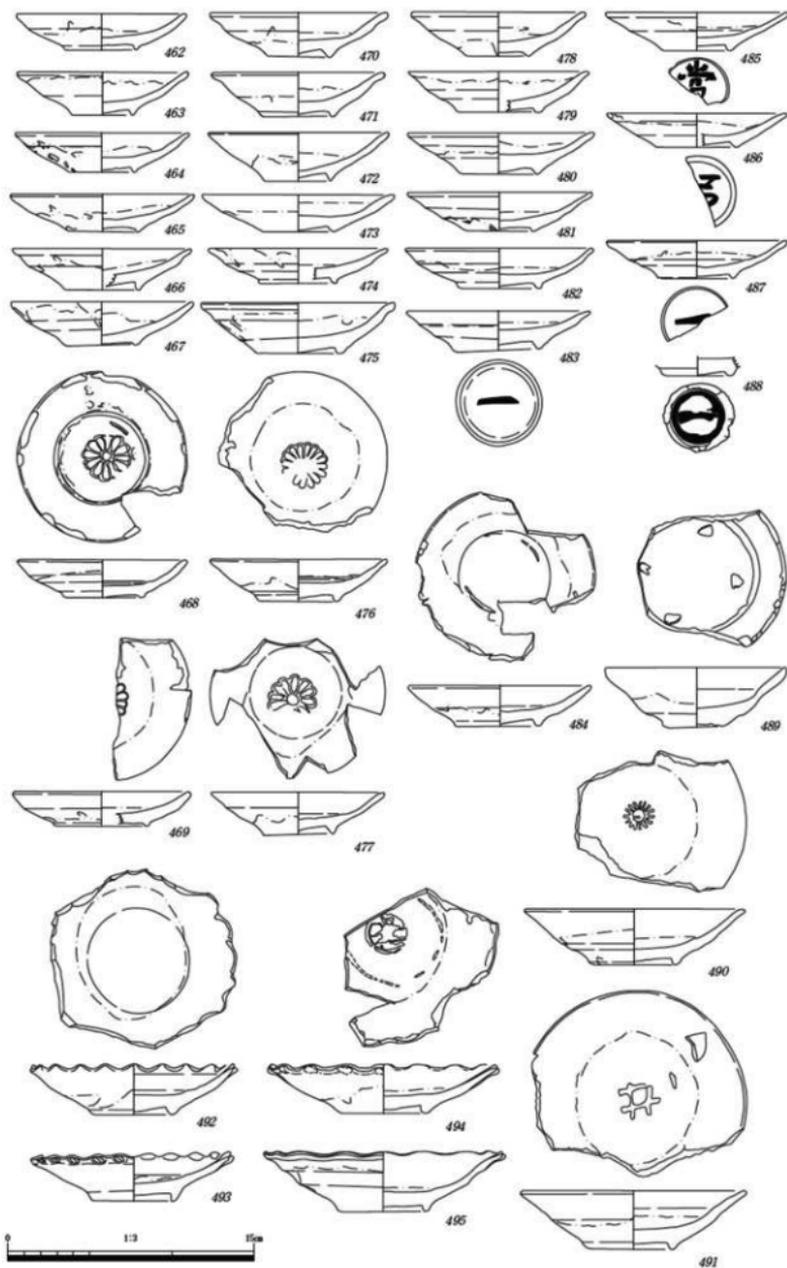
第84図 遺物実測図

(398~401・407~410・418~434 1/4, 402~406・411~417 1/6)

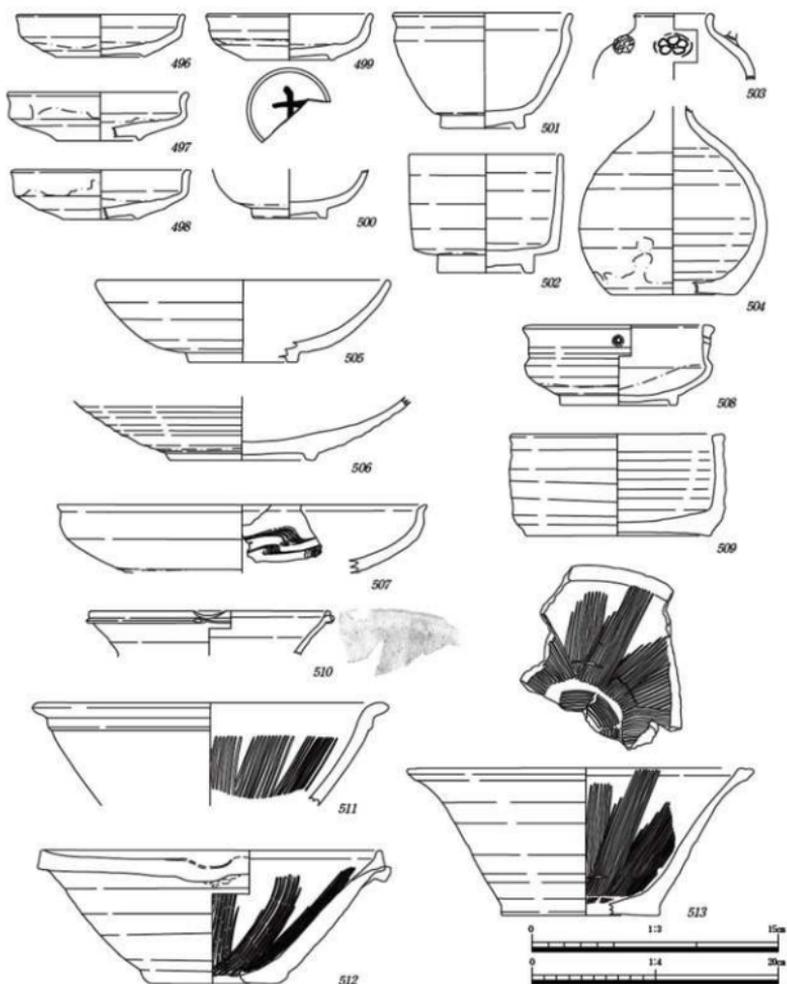


第85図 遺物実測図

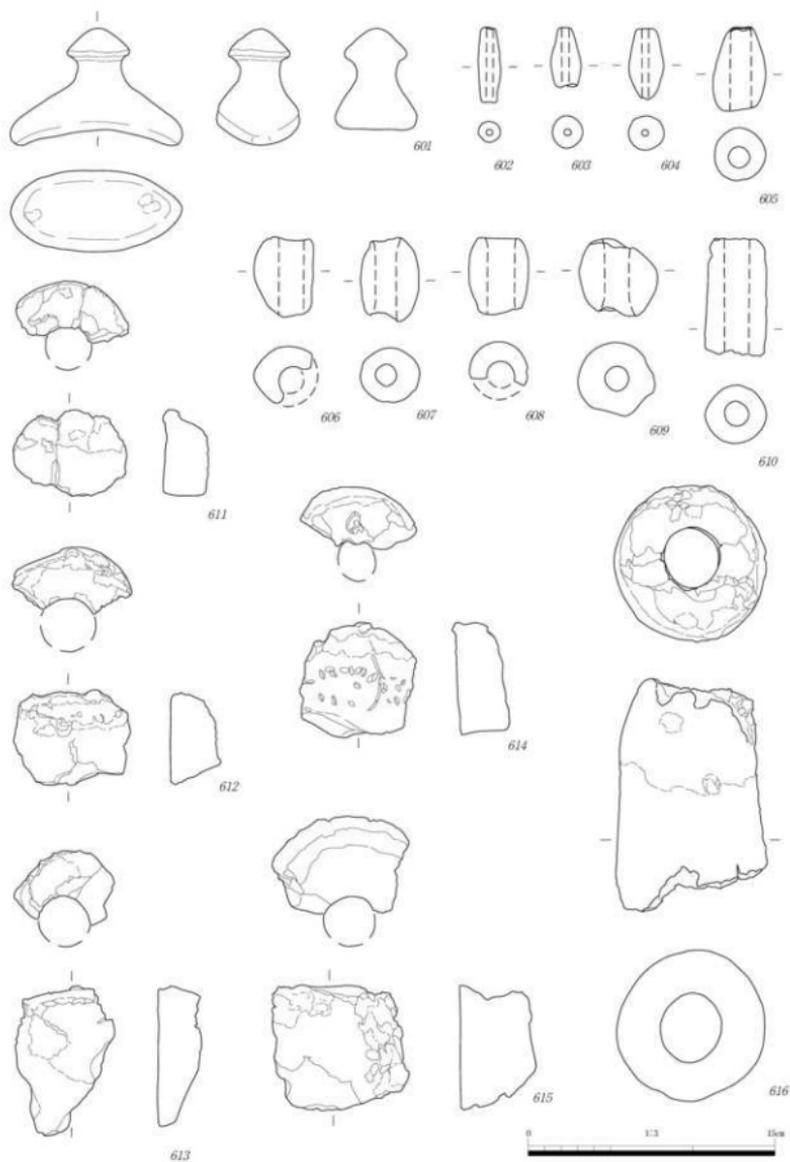
(445~460 1/3, 443・444・461 1/4, 435~442 1/6)



第86図 遺物実測図



第87図 遺物実測図
(496~504 1/3, 505~513 1/4)



第88図 遺物実測図

第16表 陶磁器・土製品一覧(1)

調査 区画 番号	遺物 番号	遺物 番号	器種	土器名	形状	器種	分類	詳細時期	法量(㎖)			色澤 (記号)	色澤 (和名)	焼成 (記号)	釉色 (和名)	備考	
									口徑	器高	底径						
83	32	J42	SR1H3	X365X97	1層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	10.0	2.1	7.0	N8-0	灰白色			断面に口縁は鋼線部に2層構造	
	32	J42	B3	X365Y75	1層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	10.3	1.6	-	5Y7-1	灰白色	2.5G/Y8-1	明確灰白色		
	32	J42	B3	X365Z7	1層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	11.4	(2.3)	-	4Y8-1	灰白色	4Y7-1	灰白色		
	32	J42	B2	X341Y120	0.5層	中国製白磁	餅	11C中→12C前	13.2	(2.5)	-	5Y7-1	灰白色	4Y7-2	灰白色		
	32	J42	B2	X341Y115	1層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	14.9	(3.8)	-	5Y7-1	灰白色	4Y7-1	灰白色		
	32	J42	B2	X341Y119	0.5層	中国製白磁	餅	11C→14C	12.5	(2.7)	-	N7-0	灰白色	4Y6-1	灰白色		
	32	J48	SK69A4			中国製白磁	餅	11C前→13C前	12.6	(1.6)	-	N7-0	灰白色	2.5Y7-1	灰白色		
	32	J48	SR1H3	X365Y98	1層	中国製白磁	餅	11C前→12C前	-	(2.0)	-	7.5Y8-1	灰白色	4Y8-1	灰白色		
	32	J50	SK221H3			中国製白磁	餅	11C前→12C前	17.0	(1.6)	-	5Y8-1	灰白色	4Y7-2	灰白色		
	32	J51	B2	X327Y10	1層	中国製白磁	餅	11C前→12C前	-	(1.8)	-	5Y7-1	灰白色	4Y7-2	灰白色		
	32	J52	SK173B3	X371Y96		中国製白磁	餅	13C中→14C前	16.0	(2.7)	-	5Y8-1	灰白色	4G/Y7-1	明確灰白色	口縁	
	32	J52	B2	X339Y112	0.5層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	16.6	(3.1)	-	N8-0	灰白色	2.5G/Y8-1	明確灰白色		
	32	J54	SK173B3			中国製白磁	餅		-	(3.0)	7.4	4Y7-1	灰白色				
	32	J54	A2	X327Y1	0.5層	中国製白磁	餅		11.4	(1.7)	-	4Y8-1	灰白色	2.5G/Y8-1	明確灰白色		
	32	J56	A1	X362Y8	0.5層	中国製白磁	餅	16C	11.9	(1.8)	-	5Y8-1	灰白色	2.5G/Y8-1	灰白色		
	32	J57	SK188B2			中国製白磁	餅		-	(2.1)	6.4	N7-0	灰白色	2.5Y7-1	灰白色		
	32	J58	B2	X301Y91	0.5層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	-	(1.3)	5.3	N8-0	灰白色	2.5G/Y7-1	灰白色	明オリーブ灰白色	
	32	J58	SK250A2			中国製白磁	餅	13C中→14C前	-	-	-	2.5Y7-1	灰白色	2.5Y7-1	灰白色		
	32	J60	B2	X336Y110	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	-	-	5Y8-1	灰白色	4Y6-1	灰白色		
	32	J62	B3	X339Y75	1層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	-	-	-	7.5Y7-1	灰白色	4Y7-1	灰白色		
	32	J62	B4	X325Y12	0.5層	中国製白磁	餅		8.2	(1.5)	-	5Y8-1	灰白色	4G/Y7-1	明確灰白色		
	32	J62	B3	X329Y75	0.5層	中国製白磁	餅		11.6	(2.3)	-	5Y8-1	灰白色	4Y7-2	灰白色		
	32	J62	A1	X307A4	1層	中国製白磁	餅	13C→14C	14.2	(2.1)	-	5Y7-1	灰白色	4Y7-1	灰白色		
	32	J63	B1	X325Y87	1層	中国製白磁	餅		15.8	(2.6)	-	N7-0	灰白色	4G/Y8-1	オリーブ灰白色		
	32	J64	B3	X366Y98	1層	中国製白磁	餅		16.0	(1.6)	-	5Y7-1	灰白色	4Y7-3	灰白色		
	32	J67	SR1H3	X368Y96	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	15.9	(3.6)	-	7.5Y7-1	灰白色	4G/Y6-1	緑灰白色		
	32	J68	B1	X321Y90	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	12.8	(2.4)	-	7.5Y7-1	灰白色	2.5Y6-1	灰白色		
	32	J69	SR1H3	X369Y97	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	13.8	(2.6)	-	N8-0	灰白色	2.5G/Y8-1	緑灰白色		
	32	J70	B2	X335Y121	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	15.4	(2.2)	-	N7-0	灰白色	4Y8-2	灰白色		
	32	J71	SK74A3	SK97Y57		中国製白磁	餅	13C前	12.5	(5.0)	-	4Y7-1	灰白色	4G/Y8-1	オリーブ灰白色		
	32	J72	B2	X338Y114	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	16.8	(3.2)	-	7.5Y7-1	灰白色	2.5Y6-2	灰オリーブ色		
	32	J72	SR1H3	X363Y96	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	17.3	(5.6)	-	N6-0	灰白色	2.5G/Y8-1	オリーブ灰白色		
	32	J73	B2	X349Y113	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	-	(3.9)	-	5Y7-1	灰白色	4G/Y7-1	明オリーブ灰白色		
	32	J75	B2	X332Y95	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	-	-	-	7.5Y7-1	灰白色	4G/Y7-1	明オリーブ灰白色		
	32	J76	B2	X337Y125	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	-	(1.8)	-	7.5Y7-1	灰白色	4G/Y6-1	緑灰白色		
	32	J77	SK44A2			中国製白磁	餅	13C前	-	-	-	N7-0	灰白色	2.5G/Y8-1	オリーブ灰白色		
	32	J78	B2	X339Y115	0.5層	中国製白磁	餅	13C中→14C前	-	(3.9)	-	5Y7-1	灰白色	4Y6-2	灰オリーブ色		
	32	J79	B2	X334Y120	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	-	-	4Y8-1	灰白色	2.5Y6-1	灰白色		
	32	J80	SK62A1			中国製白磁	小瓶	13C中→14C前	9.3	2.6	4.0	4Y8-1	灰白色	4G/Y7-1	明オリーブ灰白色		
	32	J81	A1	SK97Y6	1層	中国製白磁	餅	15C前→16C前	13.9	(4.2)	-	2.5Y8-2	灰白色	4Y6-2	オリーブ灰白色		
	32	J82	B1	X326Y82	1層	中国製白磁	餅	13C前	-	-	-	7.5Y7-1	灰白色	2.5G/Y6-1	緑灰白色		
	32	J82	SR1H3	X363Y97	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	(4.6)	-	N6-0	灰白色	4Y6-1	灰白色		
	32	J82	SR1H3	X364Y97	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	(3.3)	5.9	5Y3-1	灰白色	2.5Y5-2	灰オリーブ色		
	32	J85	SR1H3	X363Y96	0.5層	中国製白磁	餅	13C前	20.7	(4.5)	-	N7-0	灰白色	2.5G/Y8-1	緑灰白色		
	32	J86	SK122B3	X364Y79		中国製白磁	小瓶		-	-	-	5Y8-1	灰白色	4G/Y7-1	明確灰白色		
32	J87	B2	X337Y119	0.5層	中国製白磁	餅		-	(1.8)	5.1	N7-0	灰白色	2.5Y6-2	灰オリーブ色			
32	J88	SR1H3	X370Y98	0.5層	中国製白磁	餅		-	(2.3)	7.1	2.5Y8-1	灰白色	4Y7-1	灰白色			
32	J89	A1	X366Y86	0.5層	中国製白磁	餅?		-	(2.1)	N8-0	灰白色	2.5G/Y7-1	明確灰白色				
32	J90	B2	X334Y107	0.5層	中国製白磁	餅	14C前→14C	-	(2.0)	4.5	N8-0	灰白色	2.5G/Y7-1	明確灰白色			
32	J91	SK36B3			中国製白磁	餅		-	(1.4)	5.4	N8-0	灰白色					
32	J92	A3	X307A4	1層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	(1.0)	5.0	5Y7-1	灰白色	4Y6-1	灰白色			
32	J93	B2	X334Y96	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	(1.9)	3.0	5Y7-1	灰白色	4Y6-2	灰オリーブ色			
32	J94	B3	X371Y98	0.5層	中国製白磁	餅	12C中→14C前	-	(1.7)	4.7	2.5Y7-1	灰白色	2.5Y6-1	灰白色			
32	J95	ED製		1層	中国製白磁	梅瓶		-	-	-	7.5Y8-1	灰白色	4G/Y8-1	明確灰白色			
32	J96	B1	X322Y75	0.5層	中国製白磁	小瓶	12C中→14C前	-	-	-	2.5Y8-1	灰白色	4G/Y8-1	明確灰白色			
32	J97	SK278A4			青磁	鉢		15.8	(2.3)	-	N7-0	灰白色	N8-0	灰白色			
32	J98	SR1H3	X364Y79	1層	中国製白磁	鉢	1層	17.2	(3.5)	-	N6-0	灰白色					
32	J99	SR1H3	X364Y79	1層	中国製白磁	鉢	1層	17.1	(3.8)	-	N6-0	灰白色					
32	J99	B2	X337Y110	0.5層	中国製白磁	鉢	並製?	16.8	(5.8)	-	N5-0	灰白色					
32	J99	SK122B3	X365Y80		中国製白磁	鉢	1層	20.0	(5.4)	-	5Y7-2	灰白色					
32	J99	SR1H3	X365Y96		中国製白磁	鉢	1層	20.7	(10.3)	-	2.5Y8-1	灰白色					
32	J99	A1	SK1742B6		中国製白磁	鉢	0.5層	28.0	(2.2)	10.9	5Y8A-1	緑灰白色					
32	J99	SK182B3			中国製白磁	鉢	並→1層	30.0	(11.0)	-	N6-0	灰白色					
32	J99	SK74A3	SK97Y54		中国製白磁	鉢	0.5→1層	30.0	(10.8)	-	5Y6-1	灰白色					
32	J99	SR1H3	X363Y96		中国製白磁	鉢	0.5層	30.4	(13.6)	10.3	N5-0	灰白色					
32	J99	SR1H3	X364Y96		中国製白磁	鉢	0.5層	30.4	(16.1)	-	5Y6-1	灰白色					
32	J99	SK122B3	X364Y79		中国製白磁	鉢	1層	32.2	(15.6)	-	N6-0	灰白色					
32	J99	B1	X366Y78	1層	中国製白磁	鉢	0.5→1層	32.5	(13.7)	-	N6-0	灰白色					
84	30	406	SR1H3	X363Y96 X364Y96 X365Y96		中国製白磁	鉢	0.5層	30.4	13.6	10.3	N5-0	灰白色			口縁部磁釉が剥離し、内面磨みかけあり。断面に3層構造。底面に2方向から磨痕あり	
	30	407	SR1H3			中国製白磁	鉢	1→0.5層	20.0	16.1	-	5Y6-1	灰白色				
	30	408	SK122B3	X364Y79		中国製白磁	鉢	1層	22.2	15.6	-	N6-0	灰白色				
30	409	B1	X366Y78	1層	中国製白磁	鉢	1→0.5層	32.5	13.7	-	N6-0	灰白色					

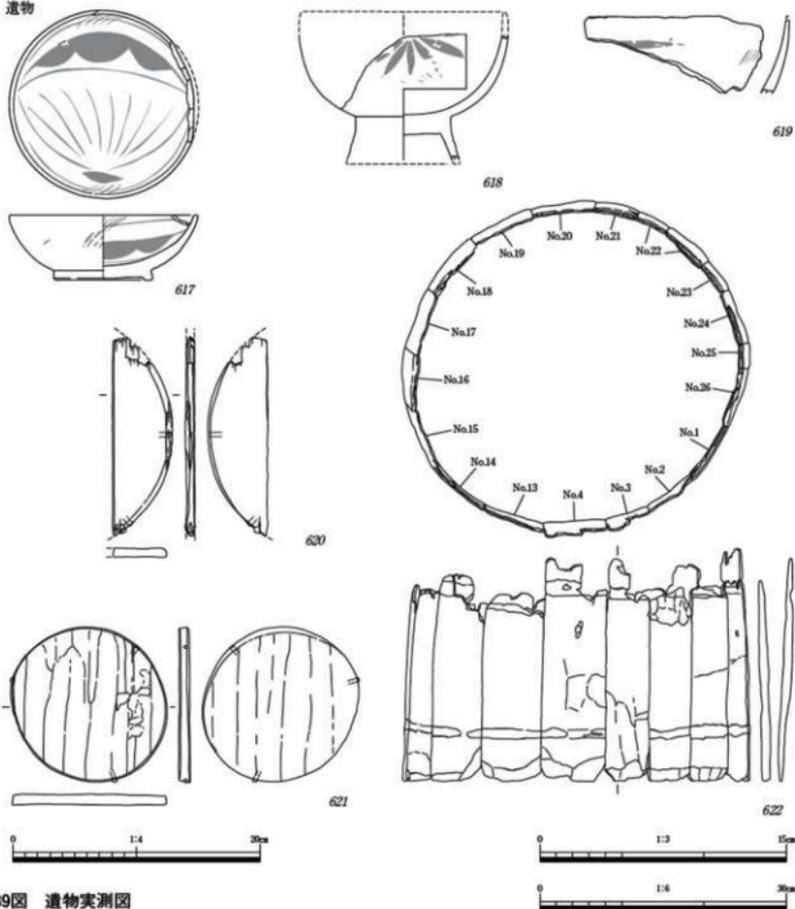
第16表 陶磁器・土製品一覧(2)

図録 番号	遺物 番号	遺物番号	形状	高100	種類	部所	分類	詳細時期	重量 (g)			色調 (図号)	色調 (白濁)	釉調 (図号)	釉色 (名称)	備考					
									口径	器高	底径										
29	SD17B2		流石	流	前期			25.1	8.7	14.8	N6/0			灰白色							
30	41	SR1B3	X46Y36	流石	流	前期		32.0	17.2	-	2.5V7/1			灰白色							
30	42	SR1B3	X17Y37	流石	流	前期		30.0	16.4	-	2.5V7/1			灰白色		内面 紺色にのみ SR1B3と共通である類 遺物の出所より					
30	43	SR1B3	X98Y37	流石	流	前期		26.0	19.0	-	N4/0			灰白色							
30	44	BD	X46Y79	1期	流石	流	前期	31.0	16.9	-	N6/0			灰白色							
30	45	BD	X120Y36	2期	流石	流	前期	35.1	17.3	-	N6/0			灰白色							
30	46	SD122B3	X47Y33	流石	流	前期		28.0	14.7	-	N3/0			灰白色							
30	47	SD122B3	X16Y30	流石	流	前期		34.0	19.9	-	7.5V6/1			灰白色		節目幅2cm, 10角 口の縁部あり					
30	48	SD122B3	X46Y30	流石	流	前期		-	14.4	-	N6/0			灰白色							
30	49	BD	X120Y34	1期	流石	流	前期	-	14.3	-	N3/0			灰白色							
30	50	SD140B3	X63Y75	流石	流	前期		-	12.4	-	N5/0			灰白色							
30	51	SR1B3	X46Y37	流石	流	前期		-	17.3	-	2.5V8/1			灰白色							
30	52	BD	X46Y37	2期	流石	流	前期	-	15.7	-	N6/0			灰白色							
30	53	BD	X46Y79	1期	流石	流	前期	-	15.8	-	7.5V7/1			灰白色							
30	54	SR1B3	X46Y36	流石	流	前期		-	14.0	-	10V4/1			灰白色							
30	55	BD	X46Y79	1期	流石	流	前期	-	13.7	-	N7/0			灰白色							
30	56	SR1B3	X46Y36	流石	流	前期		-	17.2	-	2.5V7/1			灰白色							
30	57	SD122B3	X46Y30	流石	流	前期		-	15.1	-	2.5V7/2			灰黄色							
30	58	BD	X17Y37	1期	流石	流	前期	-	14.7	-	5V7/1			灰白色		内面2つの窪みあり 同一遺物あり(節目 の幅は異なる)					
30	59	BD	X46Y79	1期	流石	流	前期	-	13.1	-	5V7/1			灰白色		節目幅1.5cm, 丸 口縁でくぼみ入る					
30	60	BD	X130Y121	流石	流	前期		-	15.3	-	N6/0			灰白色							
30	61	BD	X130Y36	1期	流石	流	前期	-	14.4	-	N4/0			灰白色							
30	62	SD122B3	X46Y79	流石	流	前期		-	16.2	-	N6/0			灰白色							
30	63	SR1B3	X46Y36	流石	流	前期		-	-	-	10V6/1			濃褐色		内面にへり記号					
30	64	SR1B3	X130Y36	流石	流	前期		-	-	-	N6/0			灰白色							
30	65	SK399B2		流石	流	前期		30.9	16.0	-	N4/0			灰白色							
30	66	BD	X124Y73	2期	流石	流	前期	32.1	18.3	-	10V17/2			灰白-黄褐色							
30	67	SR1B3	X46Y37	流石	流	前期		68.8	41.4	-	N5/0			灰白色							
30	68	SD211A1	X63Y36	流石	流	前期		-	12.0	-	N5/0			灰白色							
30	69	SD211A1	X63Y36	流石	流	前期		-	14.3	-	5V6/1			灰白色							
30	70	SD122B3	X46Y30	流石	流	前期		13.6	13.6	-	10V17/2			明黄色							
30	71	SR1B3	X46Y37	流石	流	前期		13.6	13.6	-	N6/0			灰白色							
30	72	SD122B3	X46Y30	流石	流	前期		17.3	17.3	-	2.5V7/2			灰白色							
30	73	SK1A27	X98Y7	流石	不明白			45.6	14.4	-	N5/0			灰白色							
30	74	BD	X130Y78	1期	流石	流	前期	-	15.2	-	N5/0			灰白色							
30	75	BD	X130Y78	1期	流石	流	前期	9.7	12.9	4.5	10V8/1			浅黄褐色		10V17/1					
30	76	AI	X30Y41	2期	流石	流	前期	11.8	13.4	-	5V7/1			灰白色		5V6/1					
30	77	SD90B2		流石	流	前期		17.0	14.0	13.1	-	7.5V6/1			灰オリーブ 色		灰オリーブ 色				
30	78	AI	X81Y48	1期	流石	平瀬	前期	17.0	-	13.1	9.4	5V7/2			灰白色		5V8/3				
30	79	SD162B3		流石	流	前期		17.0	-	12.0	7.0	N6/0			灰白色		5V8/2				
30	80	SD6A2	X54Y85	流石	流	前期		17.0	-	14.0	4.9	5V7/1			灰白色		灰オリーブ 色				
30	81	BD	X110Y181	2期	流石	流	前期	13.0	14.7	9.5	13.0	-	10V17/1			灰白色		10V18/1			
30	82	SK217B2		流石	流	前期		13.0	14.7	10.7	14.2	-	7.5V18/3			灰白-褐色		10V18/2			
30	83	BD	X130Y114	2期	流石	流	前期	14.0	13.0	-	10V17/1			灰白色			5V6/4		くすんだ 濃褐色		
30	84	SD21A1		伊万里	流	前期		18.9	11.2	14.9	-	2.5V8/1			灰白色		10GV8/1		内面縁のかけ方等, 外面の文様、腹本合		
30	85	AI	X36Y100	伊万里	流	前期		18.9	11.2	14.9	-	N8/0			灰白色		10GV8/1		明褐色		
30	86	AI	X79Y44	流石	流	前期		5.5	3.3	3.0	2.5V7/1			灰白色			7.5V6/2		灰白 色		
30	87	SD28B1		伊万里	流	前期		11.8	3.2	8.6	17.0	-	灰白色			5GV8/1		灰白 色			
30	88	AI	X98Y36	2期	不明磁器	流	前期	11.9	14.6	-	7.5V8/1			灰白色			7.5V8/1		灰白 色		
30	89	A2	X46Y34	流石	伊万里	流	前期	11.8	14.0	-	10V17/1			灰白色			7.5GV8/1		明褐色		
30	90	AI	X63Y36	1期	伊万里	流	前期	11.9	14.9	4.8	10V17/1			灰白色			7GV8/1		明褐色		
30	91	BD	X47Y38	2期	伊万里	流	前期	11.9	16.3	-	7.5V8/1			灰白-褐色							
30	92	SD15A2	X60Y78	流石	流	前期		10.2	2.2	4.4	2.5V8/3			灰白-褐色			2.5V8/1		灰白色		
30	93	SD1A2		流石	流	前期		10.3	2.6	3.8	10V18/3			浅黄褐色			10V18/2		灰白色		
30	94	SD6A2		流石	流	前期		10.5	2.4	4.1	5V17/4			灰白-褐色			10V18/4		浅黄褐色		
30	95	SD6A2		流石	流	前期		11.0	2.3	4.3	2.5V7/2			灰黄色			5V6/3		オリーブ 色		
30	96	AI	X79Y44	2期	流石	流	前期	17.0	-	10.6	2.5	4.7	5V18/4			灰白-褐色		5V18/2		黄褐色 非褐色	
30	97	SD6A2		流石	流	前期		10.9	2.7	4.6	10V18/4			浅黄褐色							
30	98	SD6A2		流石	流	前期		10.1	2.3	5.0	10V18/3			浅黄褐色			2.5V8/1		灰白色		
30	99	AI	X63Y36	2期	流石	流	前期	17.0	-	10.6	2.1	5.8	2.5V18/6			褐色			2.5V7/2		灰黄色
30	100	SD6A2		流石	流	前期		17.0	-	10.6	2.7	3.9	2.5V18/2			灰白色			5V8/1		灰白色
30	101	SD1A2	X41Y76	流石	流	前期		10.2	2.7	4.6	7.5V18/4			浅黄褐色			2.5V8/2				灰白色
30	102	SD6A2B		流石	流	前期		11.0	3.0	4.1	10V18/6			非褐色			2.5V8/3				浅黄色
30	103	SD50A1		流石	流	前期		11.8	2.3	4.2	10V18/3			浅黄褐色			5V18/2				明非褐色
30	104	SD211A1	N628	流石	流	前期		11.8	3.1	4.8	10V18/2			灰黄褐色			2.5V8/6				明黄褐色
30	105	SD2A2		流石	流	前期		11.6	3.1	5.4	10V18/4			浅黄褐色			7.5V18/1				明褐色
30	106	SD1A2	X41Y76	流石	流	前期		10.5	2.6	4.9	7.5V18/4			浅黄褐色			2.5V18/2				明非褐色
30	107	SD50A1		流石	流	前期		17.0	-	11.4	2.6	3.1	5V7/0			褐色			10V18/2		灰黄褐色
30	108	SD50A1		流石	流	前期		10.3	2.7	3.5	7.5V18/4			浅黄褐色			10V17/4				灰白-褐色
30	109	SK317A2		流石	流	前期		10.9	2.0	5.2	5V18/4			灰白-褐色			2.5V7/2				灰黄色
30	110	SD6A2B		流石	流	前期		11.0	2.5	4.8	5V18/4			灰白-褐色			5V8/1				灰白色

第16表 陶磁器・土製品一覧(3)

調査 年度	調査 番号	遺物 番号	遺物 名称	原料	土層	形状	器種	分類	詳細時期	法量 (cm)			色澤 (色目)	色澤 (顔料)	施漉 (目)	施色 (目)	備考		
										口径	底径	高さ							
第16表	第16表	34	68	SD6A2		楕円盤状	皿	ITC-		11.0	2.20	4.0	7.5YR7/4	にがい褐色	5.YR8-1	灰白色			
		35	68	SD1A2	X49Y78		楕円盤状	皿	ITC-		11.1	2.8	5.0	5YR7-1	にがい褐色	5YR2-4	灰白色		
		36	68	SD1A2	X49Y78		楕円盤状	皿	ITC-		11.0	2.5	5.4	5YR8-1	にがい褐色	5.YR8-1	灰白色		
		37	68	SD6A2	X49Y85	X49Y81		楕円盤状	皿	ITC-		10.7	2.5	5.0	2.5YR7-4	浅黄褐色	5.YY7-6	明褐色	
		38	68	A1	X50Y14	1層	楕円盤状	皿	ITC-		10.9	2.3	4.1	7.5YR8-3	浅黄褐色	5YR8-1	灰白色	器背	
		39	68	SD6A2	X49Y85		楕円盤状	皿	ITC-		10.8	2.1	5.0	2.5YR7-4	浅黄褐色	5YR8-1	灰白色	器背	
		40	68	SD2A2	X33Y76		楕円盤状	皿	ITC-		10.7	2.3	4.7	5YR8-3	浅黄褐色	5YR8-1	にがい黄褐色	器背	
		41	68	A1	X39Y79	1層	楕円盤状	皿	ITC-		11.1	4.4	7.5YR8-3	浅黄褐色				器背	
		42	68	SD2A2	X33Y76		楕円盤状	皿	ITC-		10.9	3.7	3.9	2.5Y7-0	褐色	7.5YR2-2			
		43	68	SD1A2	X49Y78		楕円盤状	皿	ITC-		11.2	3.4	5.5	5YR8-3	浅黄褐色	7.5YR2-2	褐色		
		44	68	SK11A2	X49Y78		楕円盤状	皿	ITC-		11.5	3.6	5.3	5YR8-2	灰白色	2.5Y7-1	浅黄色		
		45	68	SK20A1			楕円盤状	ひらね	ITC-		12.6	3.1	5.0	7.5YR7-4	にがい褐色	7.5YR2-3	暗褐色		
		46	68	SD6A2	X33Y85		楕円盤状	ひらね	ITC-		12.1	3.0	5.3	7.5YR7-3	にがい褐色	7.5YR2-3	暗褐色		
		47	68	SD2A2	X33Y85		楕円盤状	ひらね	ITC-		13.0	3.0	5.6	7.5YR7-3	にがい褐色	7.5YR3-4	暗褐色		
		48	68	SD1A2	X49Y78		楕円盤状	ひらね	ITC-		14.3	3.6	5.5	2.5YR8-1	浅黄色	5Y7-3	浅黄色		
		49	68	SD1A2	X49Y76		楕円盤状	内付	ITC-		8.8	2.6	5.4	7.5Y7-1	灰白色	2.5Y5-1	黄褐色		
		50	68	SD1A2	X49Y76		楕円盤状	内付	ITC-		10.6	3.0	4.9	5YR7-2	にがい黄褐色	5Y5-3	灰白色		
		51	68	SK12B2			楕円盤状	内付	ITC-		10.4	3.0	4.5	2.5Y8-3	浅黄褐色	5YR7-4	にがい黄褐色		
		52	68	SD1A2			楕円盤状	内付	ITC-		8.8	2.8	5.4	7.5YR8-1	浅黄褐色	5YR8-1	灰白色	器背	
		53	68	A1	X39Y65	1層	楕円盤状	皿	ITC-		13.0	4.6	2.5Y6-1	黄褐色	7.5YR4-1	褐色			
		54	68	SD21A1		東室南	楕円盤状	5口蓋	ITC-		10.5	7.1	3.0	5YR8-4	浅黄褐色	5.Y2-1	褐色		
		55	68	SD1A1	X39Y93		楕円盤状	皿	ITC-		8.1	3.2	5.2	5YR7-1	灰白色	5YR2-6	暗褐色		
		56	68	SD6A2	X7Y81		楕円盤状	小皿	ITC-		4.6	14.1	-	2.5Y6-1	黄褐色	7.5YR2-4	暗褐色		
		57	68	SD2A2	X33Y86		楕円盤状	皿	ITC-		11.5	7.8	5YR7-1	灰白色	7.5YR4-6	褐色			
		58	68	SD1A2	X49Y76		楕円盤状	大皿	ITC-		23.4	6.7	8.9	5YR8-4	浅褐色	2.5Y7-1	浅黄色		
		59	68	SD6A2	9d		楕円盤状	大皿	ITC-		16.2	11.8	5YR8-3	浅黄褐色	5YR2-4	暗褐色			
		60	68	SD1A2	X39Y81		楕円盤状	大皿	ITC-		28.0	15.6	-	5YR7-1	にがい褐色	7.5YR2-4	暗褐色		
		61	68	SD2A2			楕円盤状	丸土	ITC-		11.0	6.5	5.3	5YR8-2	灰白色	5YR3-1	褐色	鉄線	
		62	68	SD2A2			楕円盤状	壺水	ITC-		16.8	8.3	15.0	5YR7-2	にがい黄褐色				
		63	68	SK20A1			楕円盤状	楕鉢	ITC-		28.0	15.2	-	5YR8-3	浅黄褐色	5YR3-3	暗褐色		
		64	68	SK20A2			楕円盤状	楕鉢	ITC-		27.9	18.4	-	7.5YR7-3	にがい褐色	5YR2-1	黒褐色		
		65	68	SD6A2			楕円盤状	楕鉢	ITC-		27.1	10.9	10.7	2.5YR4-1	-				
		66	68	SD1A2			楕円盤状	楕鉢	ITC-		25.0	12.0	11.9	2.5Y8-3	浅黄色	7.5YR4-2	褐色		
第16表	第16表	67	68	SK25A2		土塊	-	縄文時代晩期	-	-	-	7.5YR7/4	にがい褐色				系統図番号 30.3 高 37.2 底径 底径 6.9 底径 1.7 底径 2.4 (cm)		
		68	68	SR1B3	X18Y85	1層	-	1層型a		長径 4.8 口径 1.3	口径 1.4	7.5YR7/4	にがい褐色						
		69	68	B1	X32Y84	1層	土塊	-	2層型b		長径 3.7 口径 1.8	口径 0.4	5YR7/2	にがい黄褐色					
		70	68	SK17B2			1層	-	2層型b		長径 5.0 口径 1.3	口径 1.3	2.5Y6-2	灰黄色					
		71	68	B2	X33Y122	1層	土塊	-	2層型c		長径 5.2 口径 3.2	口径 1.3	7.5YR7-2	にがい褐色					
		72	68	B2	X32Y115	1層	土塊	-	2層型c		長径 4.9 口径 3.4	口径 1.5	7.5YR7-2	にがい褐色					
		73	68	B2	X349Y103	1層	土塊	-	2層型c		長径 5.1 口径 3.5	口径 1.3	5YR8-3	浅黄褐色					
		74	68	B2	X33Y115	1層	土塊	-	2層型c		長径 5.0 口径 3.7	口径 1.5	7.5YR7-4	にがい褐色					
		75	68	B2	X33Y115	1層	土塊	-	1層型d		長径 4.7 口径 3.7	口径 1.5	5YR8-2	灰白色					
		76	68	A2	X49Y80		1層	-	1層型c		長径 7.2 口径 3.7	口径 1.5	5YR7-2	にがい黄褐色					
		77	68	SK66A1			フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	5YR8-3	浅黄褐色					
		78	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	5YR7-6	褐色					
79	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	2.5YR6-6	褐色							
80	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	5YR8-6	褐色							
81	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	2.5YR6-6	褐色							
82	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	5YR8-6	褐色							
83	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	2.5YR6-6	褐色							
84	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	5YR8-6	褐色							
85	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	2.5YR6-6	褐色							
86	68	SR1B3	X18Y85		フイゴ型II	-			長径 15.2 口径 6.9	口径 2.5	5YR8-6	褐色							

4 遺物

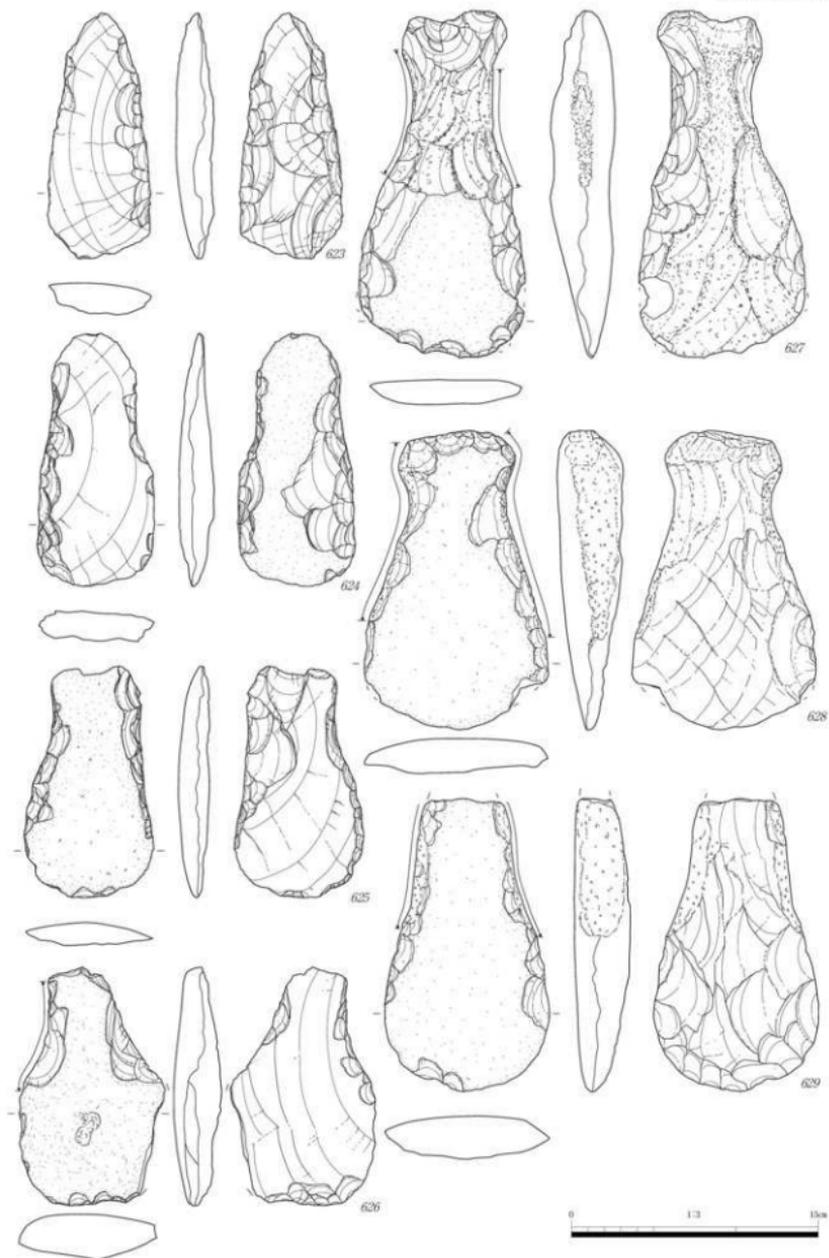


第89図 遺物実測図

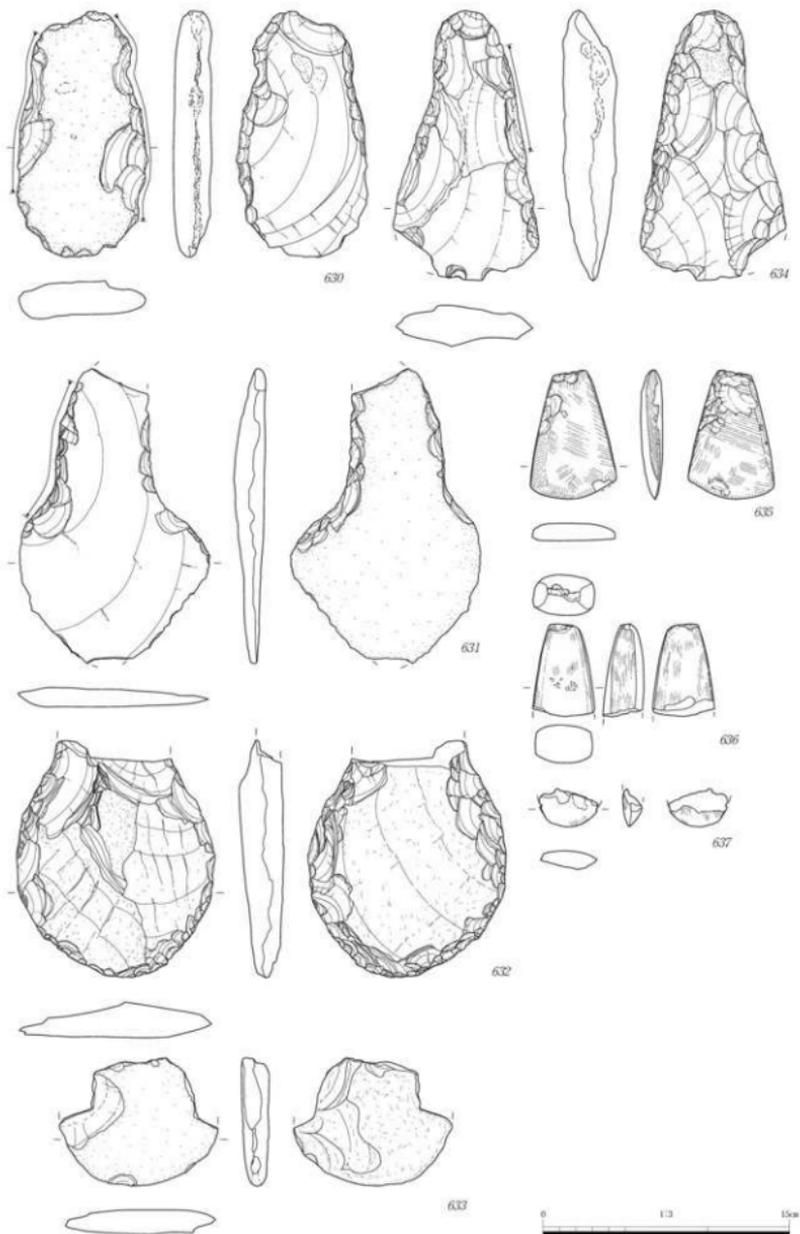
(617~619 1/3, 620・621 1/4, 622 1/6)

第17表 木製品一覧

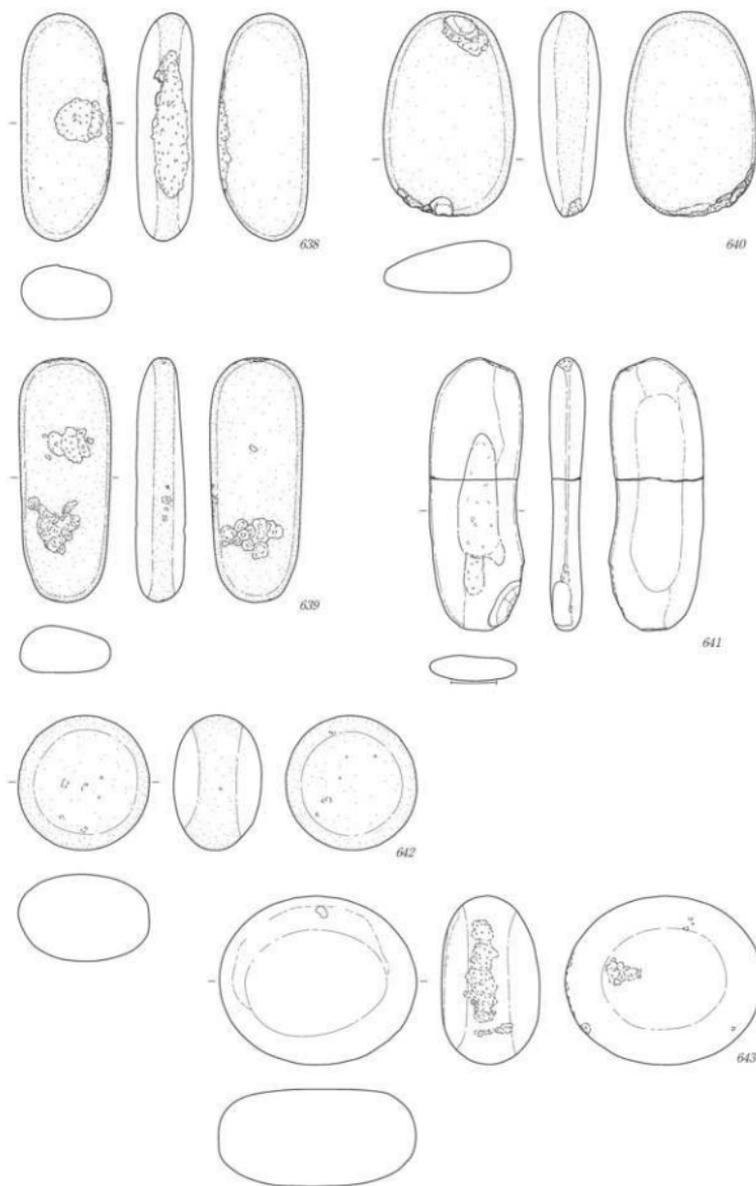
拝啓番号	図版番号	遺物番号	通稱番号	出土地点	種類	材質	法量 (cm)			時期	放射性炭素分析No	備考
							長さ	幅	厚さ			
89	38	617	SE50A1		漆器碗	ブナ属	11.0	4.3		近世	3	
	38	618	SE50A1		漆器碗	ブナ属	10.5	8.0		近世	1	
		619	SE50A1		漆器碗	ブナ属	11.0	4.7	0.7	近世	2	
		620	SE50A1		漆板	サワラ	15.8	4.5	0.8	近世		
		621	SE730A4		円形板	スギ	12.8	12.5	1.1			
				No. 20			46.2	15.9	2.1			
				No. 13			46.9	15.4	2.0			
				No. 14			51.7	15.3	2.4			
				No. 15			53.9	15.3	1.6			
				No. 16			56.2	13.7	2.5			
				No. 17			47.4	16.1	2.2			
				No. 4			54.5	15.7	1.8			
				No. 3			47.8	16.0	1.7			
		38	622	SE50A1		桶側板	スギ	54.0	11.3	2.2	近世	組み合わせた直径約40cm
				No. 21			47.7	10.7	2.2			
				No. 22			57.0	20.5	2.7			
				No. 23			48.3	9.2	2.0			
				No. 24			59.0	14.0	1.9			
				No. 25			50.3	6.3	2.3			
				No. 26			54.0	15.1	1.8			
				No. 1			56.5	14.6	1.8			
				No. 2			47.8	12.3	1.6			
				No. 18			53.5	16.1	2.4			



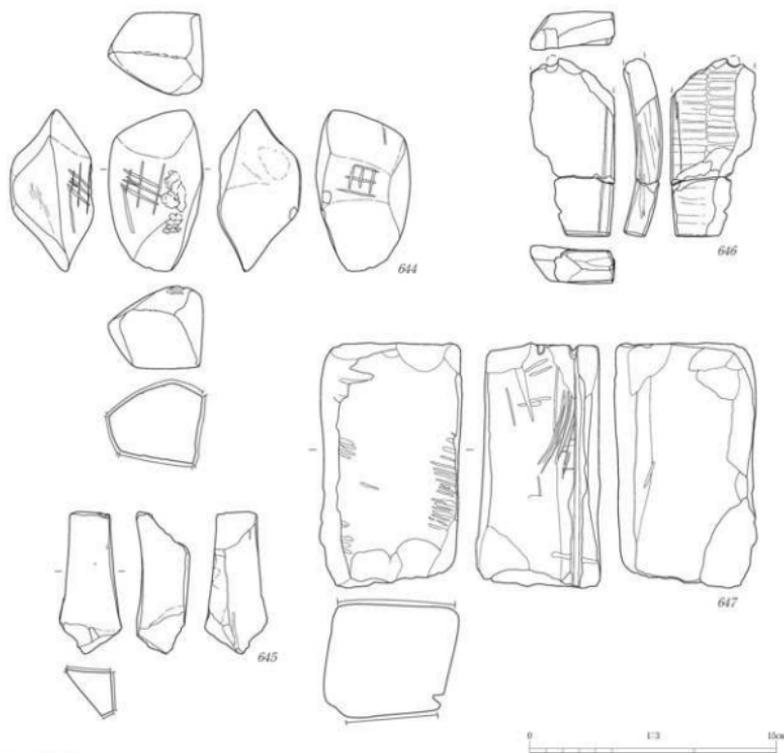
第90図 遺物実測図



第91図 遺物実測図



第92図 遺物実測図

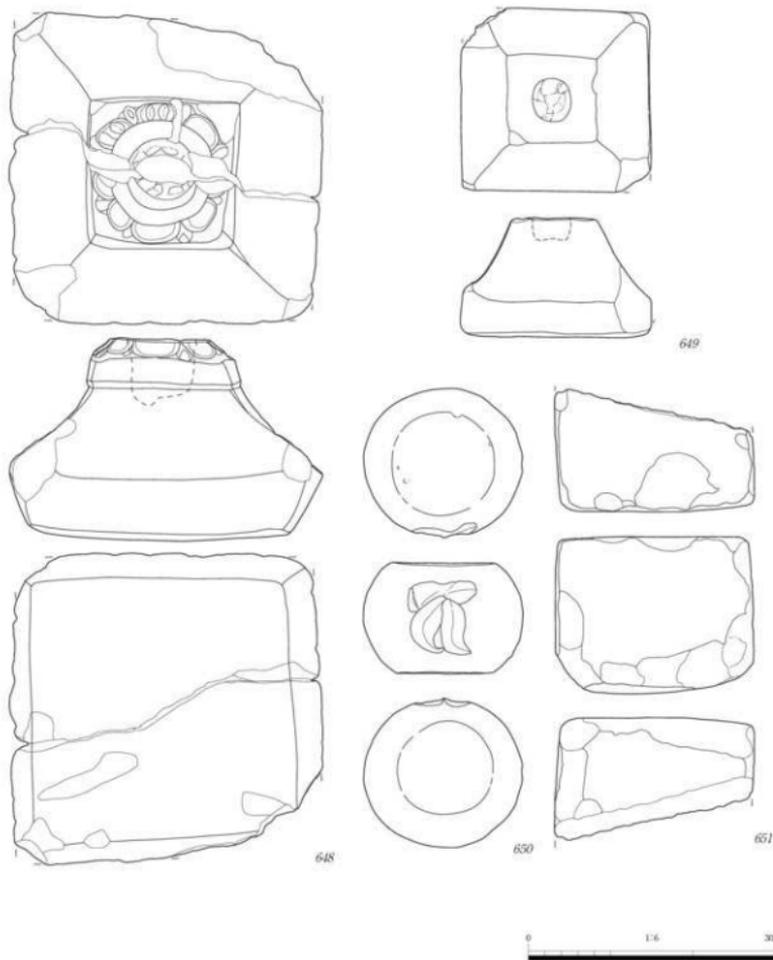


第93図 遺物実測図

第18表 石製品一覧(1)

種別 番号	国庫 番号	遺物 番号	遺物番号	出土地点	種類	材質	質量 (cm・g)			時期	備考	
							長さ	幅	厚さ			
90	39	622	B2	群層 X130Y116	打製石斧	閃緑岩	15.0	6.1	2.4	237.91	縄文晩期	
		623	B2	群層 X130Y116	打製石斧	変質安山岩	15.5	7.1	2.1	256.47	縄文晩期	
		625	B2	群層 X130Y116	打製石斧	変質安山岩	14.4	8.0	2.3	239.25	縄文晩期	
		626	A4		打製石斧	砂岩	14.5	9.0	2.6	376.50	縄文晩期	
		627	SK201A2		打製石斧	変質安山岩	21.1	10.0	3.0	794.95	縄文晩期	
		628	SD65A2	X50Y85	打製石斧	石英斑岩	18.2	11.2	4.0	828.22	縄文晩期	
		629	A1	群層 X30Y96	打製石斧	石英斑岩	17.7	10.0	2.7	693.62	縄文晩期	
91	39	630	B3	I層 X166Y78	打製石斧	閃緑岩	14.9	7.8	2.3	407.75	縄文晩期	
		632	A4		打製石斧	変質安山岩	18.0	11.8	2.0	715.70	縄文晩期	
		632	SD1A2	X40Y76	打製石斧?	安山岩	15.0	12.0	1.9	488.04	縄文晩期	基部欠損
		633	A3	II層 X38Y41	打製石斧?	安山岩	9.6	7.5	1.5	133.50	縄文晩期	刃部厚減激しい
		634	A1	II層 X32Y98	打製石斧	変質安山岩	16.4	8.5	3.0	420.14	縄文晩期	
		635	A2	II層 X52Y80	磨製石斧	透閃石岩	8.0	5.2	0.8	76.89	縄文晩期	
		636	A4	II層 X78Y65	磨製石斧	結晶片岩	5.5	4.0	2.4	75.61	縄文晩期	基部だが刃をつくっている様に見える
92	39	637	A4	II層 X67Y75	磨製石斧	透閃石岩	3.6	2.2	1.0	10.43	縄文晩期	刃部破片
		638	A2	II層 X44Y86	叩石	安山岩	14.0	5.6	3.1	438.17	縄文晩期	
		639	SD69A2	X48Y82	叩石	砂岩	15.0	5.5	2.5	305.68	縄文晩期	
		640	A4	群層 X72Y86	叩石	流紋岩	12.2	8.2	4.0	489.53	縄文晩期	
		641	A4	群層 X73 Y73	不明石製品	砂岩	16.7	5.6	2.1	24.39	縄文晩期	
		642	SK807A4		不明石製品	砂岩	7.8	8.2	4.5	486.21	縄文晩期	
		647	A4		磨石	砂岩	11.8	10.5	6.5	1094.95	縄文晩期	

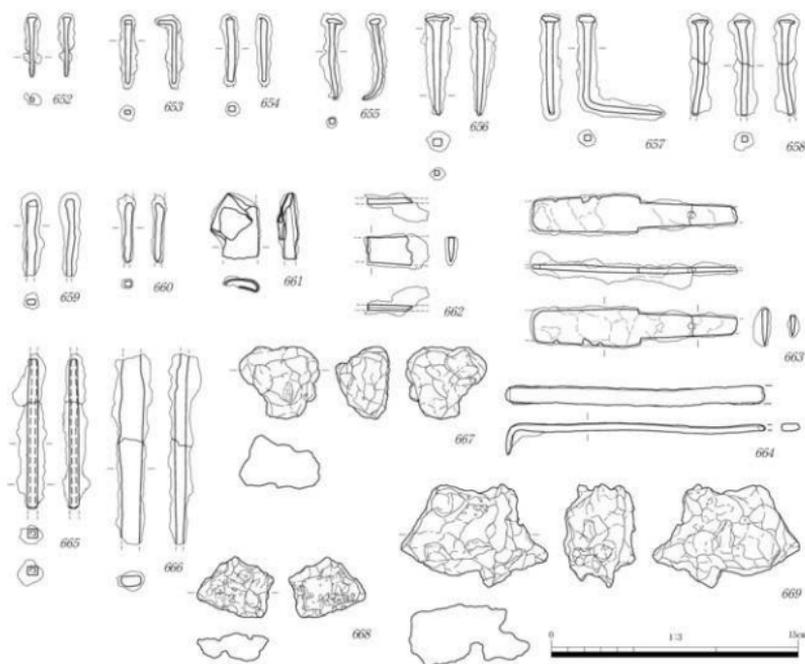
※従来、流紋岩と称されてきたもので、石材鑑定による比重測定等の結果、透閃石岩と判断されたものがある。



第94図 遺物実測図

第18表 石製品一覧(2)

採国 番号	図版 番号	遺物 番号	遺構番号	出土地点	種類	材質	法量 (cm・g)			時期	備考		
							長さ	幅	厚さ				
93	42	644	SK203A2		砥石	流紋岩	9.2	5.4	4.6	296.96	中世	全面良く磨かれる。表面に細彫。表面に打ち付けた様な痕。	
		645	SK211B2		砥石	流紋岩	8.5	4.0	3.2	87.12	中世		
	42	646	B3	I期 X166Y29	砥石	滑石	10.9	5.2	1.8	133.15	中世	石跡を転用	
		647	SK138B2		砥石	白色砂岩	14.8	8.5	7.6	1292.10	中世		
94	41	648	SK216B3	No.5	宝塔	銅鋼粘砂岩	39.0	37.5	25.0	3180.00	中世	火輪 頂部の段上に清花の遺骨を磨む	
		649	SE107A2		五輪塔	安山岩	22.0	14.5	22.3	-	中世	火輪	
		650	SD65A2	X46Y86		五輪塔	安山岩	17.8	18.4	23.5	-	中世	水輪
		651	SE50A1	No.6		五輪塔	安山岩	25.0	18.8	13.0	-	中世	地輪



第95図 遺物実測図

第19表 金属製品一覧

種別 番号	図版 番号	遺物 番号	遺物番号	出土地点	種類	法量 (cm・g)				時期	備考	
						長さ	幅	厚さ	重量			
95	42	652	SD539A4		釘	3.8	1.0	0.8	3.69	近代		
		653	SX100H2		釘	4.5	1.5	1.0	4.51	中近世		
		654	SK197H2		釘	4.4	0.9	0.8	3.80	中世		
		655	SK278A4		釘	5.3	1.3	0.8	4.43	中近世		
		656	SK278A4		釘	6.2	1.5	1.7	9.11	中近世		
		657	SP539A4		釘	6.3	0.9	0.7	16.85	中近世		
		658	SR1B3	X168Y85		釘?	6.5	1.3	1.3	11.83	中近世	
		659	SK313H2		棒状鉄製品	5.0	1.1	1.0	7.52	中世		
		660	A4	II層 X78Y41	棒状鉄製品	4.2	1.1	0.7	5.69	中近世		
		661	SP112H2		板状鉄製品	3.8	2.9	1.0	12.75	中近世		
		662	SR1B3	X168Y85	刀子	4.0	1.9	0.3	-	中近世		
		663	H2	II層 X141Y107	刀子	12.6	2.4	1.2	32.60	中近世		
		664	A4	II層 X78Y65	板状鉄製品	15.6	1.0	0.3	42.86	中近世		
		665	SK277A4		棒状鉄製品	9.5	1.6	1.2	21.13	中近世		
		666	SK150H2		板状鉄製品	11.6	2.2	1.6	33.14	中近世		
		667	SR1B3	X169Y86	鉄滓	4.7	4.0	2.9	53.22	中近世		
		668	SK11A2		鉄滓	4.2	3.2	1.5	28.22	中近世		
		669	SK257A2		鉄滓	8.8	6.0	4.2	231.60	中近世		

第IV章 自然科学分析

1 羽根下立遺跡出土漆器の科学分析

漆器文化財科学研究所 四柳嘉章

(1) はじめに

富山市羽根下立遺跡は、神通川とその支流井田川に挟まれた、標高約11mの自然堤防上に立地する、縄文～近世の複合遺跡である¹⁾。今回は平成19年度A1調査区の50号井戸(SEE50A1)出土漆器(17世紀初頭)について、塗膜分析、赤外分光分析、蛍光X線分析、漆器考古学的観察を行ったので、その結果を報告する。

(2) 分析の方法

漆器は階層や価格に応じた各種の製品が生産され、その品質が考古学的には所有階層復元の手がかりとなる。この品質差を材料や技術的側面から評価する場合、肉眼による表面観察では使用や廃棄後の劣化を含めた表面の塗りや加飾部分でしか判断できず、それも専門的な経験に左右される。しかし漆器本来の耐久・堅牢性は塗装工程にあり、この塗膜の下に隠された情報は、塗膜分析によって引き出される。また塗料及び下地膠着剤の分析は、フーリエ変換赤外分光法(FT-IR)を、赤色顔料や蒔絵材料の分析にはエネルギー分散型蛍光X線分析をおこなった。なお、本稿で用いる用語については基本的には漆工用語に従うこととし、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

①赤色漆

赤色の主な顔料である朱(HgS)やベンガラ(Fe₂O₃)が未同定の場合には「赤色漆(未同定)」と最初に断って使用し、同定済みは「赤色(朱)漆」「朱漆」「ベンガラ漆」などと表記する。よく使われる「赤漆(あかうるし)」は「赤漆(せきしつ)」(木地を蘇芳で染め透漆を施したもの)との混同をさけるために用いない。内外面とも赤色漆の場合は、未同定は「総赤色(未同定)漆」、同定済みの場合は「総赤色(朱)漆」、あるいは慣例による「総(惣)朱」「皆朱」「朱漆器」などを用いる。

②黒色漆と黒色系漆

黒色の顔料である炭素粒子(油煙・松煙)や鉄系化合物粒子などを含むものを「黒色漆」、まぎらわしいが黒色顔料を含まないものを「黒色系漆」として区別する。なぜならば「黒色系漆」においては、黒色顔料を含まずとも漆自体の表層が茶黒色に変質し、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見えるからである。近年の筆者の調査では古代以来こうした方法が一般的と考えられるので、技術や材料科学の上からも両者の区別が必要となっている。未同定の場合は、はじめに「黒色漆(未同定)」と断る。内外面とも黒色漆の場合は「総黒色漆」、同じく黒色系は「総黒色系漆」(いわゆる「総黒」は両者を含んだもの)、内面赤色外面黒色は「内赤外黒色漆」、同じく「内赤外黒色系漆」とする。赤色顔料が同定されている場合は「内赤外黒色漆」あるいは「内赤(ベンガラ)外黒色漆」などと呼称する。「表層変質」とあるものは、酸化劣化防止層の形成を意味する。赤色漆の色調表現はマンセル値で、「4R 4/11」とあれば、4Rは色相、4/11は明度/彩度である。

③下地の分類—漆下地と渋下地

一般の粗い鉱物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、珪藻土使用は「珪藻土漆下地」、より細かい砥の粉類似は「サビ漆下地」、膠使用は「地の粉またはサビ膠下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用いたものは「炭粉渋下地」とする。

(3) 分析結果

1) 塗膜分析

塗膜分析は漆器の内外面数箇所から数mmの塗膜片を採取し実体顕微鏡で観察した後、ポリエステル系樹脂に包埋後その断面を研磨のうえプレパラートに接着し、さらに研磨を加えて（#100～3000）金属・偏光顕微鏡で観察する方法である。サンプルである手板試料と比較検討しながら塗装工程や下地材料の同定を行うが、これによって表面観察ではわからない製品の品質や時代的地域的な特色が把握できるので、遺跡における所有階層の推定や製品の流通問題にも迫ることができる。塗膜分析は1点につき内外面各2～3点の試料を作成し平均値を算出した。したがって必ずしも図版のスケールとは一致しない。下地の炭粉粒子は下記のように3分類する。

細粒…破砕工程が中粒炭粉より細かく炭粉粒子は均一で、針葉樹などの木口の放射組織を全くとどめないもの。

中粒…炭粉粒子は1～2 μm ×5～10 μm 程度の針状粒子と長径5 μm 前後の多角形粒子などからなり、針葉樹などの木口の放射組織はごく一部にしか認められないもの。

粗粒…破砕工程が粗く針葉樹などの木口の放射組織を各所にとどめるもの。炭粉粒子は不均一で各種形状のものを含み、長径30 μm 前後の針状ないし棒状粒子を含むことが多い。

以下、木胎（木地）から塗装順に番号（①～）を付して説明する。

＊樹種同定は株式会社古環境研究所による。

◇No.1（遺物番号618、SE50A1出土、樹種ブナ属、写真1） 椀（総黒色系）

器形・表面観察

外方にふんばった長脚高台から、腰がはらずに内湾気味に立ち上がる総黒色系椀。いわゆる合鹿椀タイプである²¹。外面に吉祥文様の笹竹に類似した赤色（ベンガラ）漆絵が加飾されている。高台外面はカンナ目が顕著である。上塗り漆は高台裏にまで及ぶが、体部外面の剥離が著しい。高台内面にはロクロ爪（4爪）と底部調整のチョンナ痕が認められる。赤色漆絵のマンセル値は、8 R 3.5/7（ベンガラ色）。木取りはヨコ木（柀目）取り。

塗膜分析

内面①炭粉渋下地層。層厚44～61 μm 。表層2～5 μm が分離。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚は薄く9～15 μm 。

外面①炭粉渋下地層。層厚29～36 μm 。表層2～7 μm が分離。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚は薄く7～14 μm 。

◇No.2（遺物番号619、SE50A1出土、樹種ブナ属、写真1） 椀（総黒色系）

器形・表面観察

体部上半の一部しか遺存しないが、筒状に近い立ち上がりの総黒色系椀。外面に赤色（ベンガラ）

漆絵痕をとどめるが、意匠は不明。上塗り漆は薄い。赤色漆絵のマンセル値は、8 R 3.5/7（ベンガラ色）。ヨコ木（柀目）取り。

塗膜分析

内面①炭粉沈下地層。層厚68 μm 前後。表層2～4 μm が分離。炭粉粒子は粗粒。②漆層。層厚はかなり薄く5 μm 前後。

外面①炭粉沈下地層。層厚62 μm 前後。表層6 μm 前後が分離。炭粉粒子は粗粒。②漆層。層厚は薄く4 μm 前後。

◇No.3（遺物番号617、SE50A1出土、樹種ブナ属、写真1） 椀（総黒色系）

器形・表面観察

端脚の高台からゆるやかに立ち上がる総黒色系椀（二の椀）。内外面に赤色（ベンガラ）漆絵の加飾があり、とくに内面全体に扇文が配されている。扇は菱形の要から放射状に伸びる骨を描き、扇面に雲形文を置く。口縁部には要と対になるように縦線と横線による抽象的な松葉が2つ配されている。外面にも同じような松葉が1つ描かれている。上塗り漆は高台裏にまで及ぶ（置付は露胎）。赤色漆絵のマンセル値は、8 R 3.5/7（ベンガラ色）。木取りはヨコ木（柀目）取り。

塗膜分析

内面①炭粉沈下地層。層厚36～110 μm 。表層5 μm 前後が分離。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚は薄く4～7 μm 。

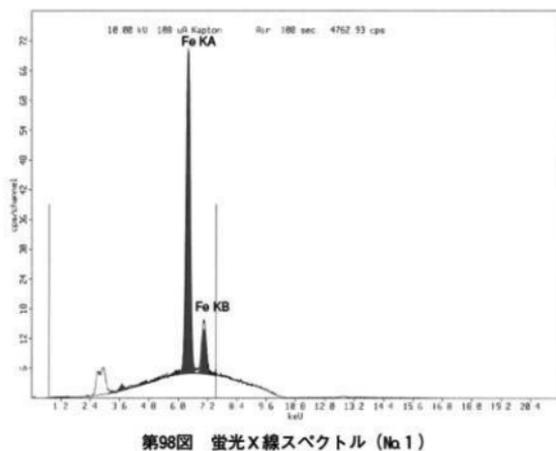
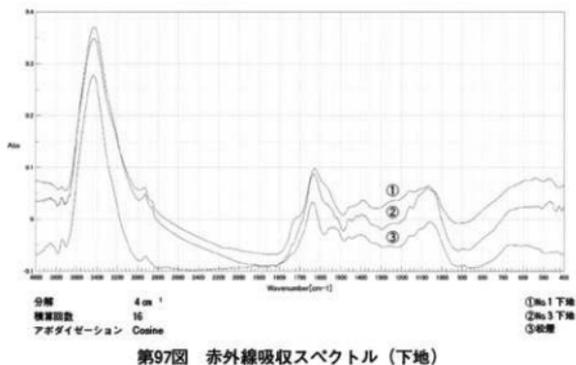
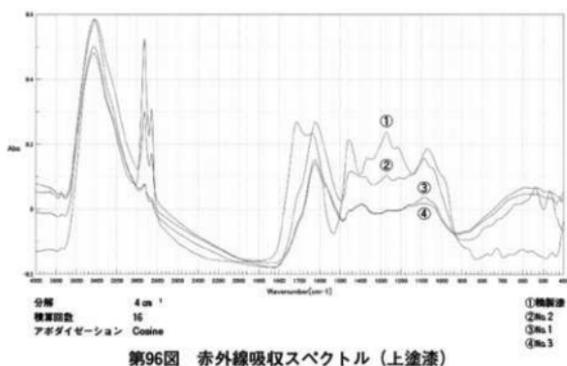
外面①炭粉沈下地層。層厚14～61 μm 。表層5 μm 前後が分離。炭粉粒子はやや粗粒。②漆層。層厚17 μm 前後。③漆絵の赤色（ベンガラ）漆層。最大層厚10 μm 前後。ベンガラ粒子は長径0.5 μm 以下のものが分散。

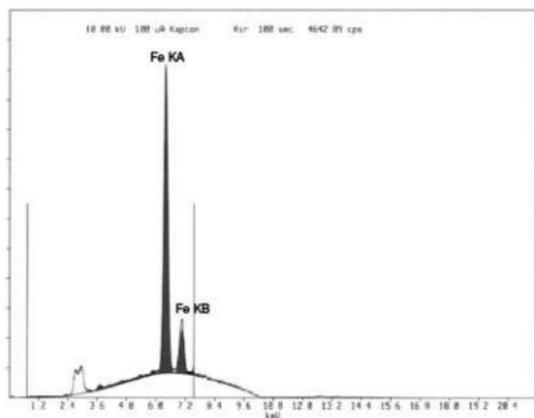
2) 赤外分光分析

分光学（Spectroscopy）は「光と物質との相互作用によって生じる光の強度やエネルギー変化を調べる学問」³⁾である。固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて赤外線照射してゆくと、分子の固有振動と同じ周波数の赤外線が吸収され、分子構造に応じたスペクトルが得られる。このスペクトルから分子構造を解析する方法を赤外線吸収スペクトル法（Infrared Absorption Spectroscopy）という⁴⁾。

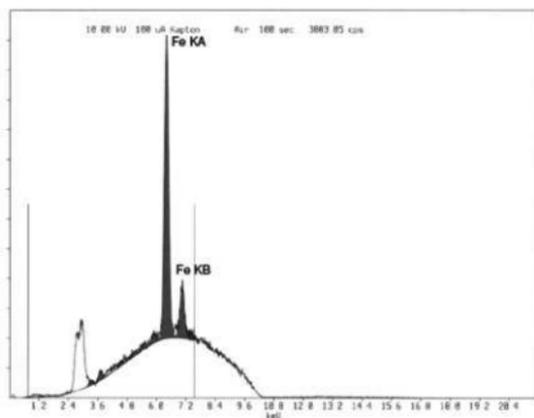
漆塗膜の分析にはフーリエ変換赤外分光法（FT-IR）を用いる。赤外光は近赤外（波数14000～4000 cm^{-1} 、波長700nm～2.5 μm ）、普通赤外（波数4000～400 cm^{-1} 、波長2.5～25 μm ）、遠赤外（波数400～10 cm^{-1} 、波長25 μm ～1mm）に分けられるが、ここでは普通赤外光を用いる。波数は1cm当たりの波の数で、振動数を光速で割ったものであり、波長の逆数である。

FT-IRは普通赤外の倍は波数4000～400 cm^{-1} の光を2つの光束に分割し、1つは固定し（固定鏡）、他方の光路長は可動ミラー（可動鏡）を用いて変化させる。つまり干渉計から位相の異なる光が出るわけで、2つの光束間の距離が変化すると干渉の結果、加え合わさった部分と差し引かれた部分の系列が生ずることによって強度の変化が起こる。すなわち干渉図形が得られる。フーリエ変換という数学的操作を行うと、干渉図形は時間領域から振動数領域のスペクトル点の1つに変換される。ピストンの長さを連続的に変化させ、ミラーBの位置を調節し、光束Bの光路を変化させる。この変化させた各点において、つぎつぎとフーリエ変換を行うと完全な赤外スペクトルが得られる⁵⁾。このように

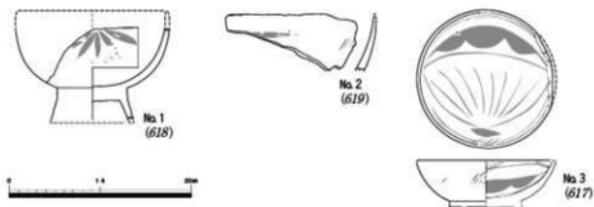




第99図 蛍光X線スペクトル (No.2)



第100図 蛍光X線スペクトル (No.3)



第101図 分析漆器実測図

して得られたスペクトルをあらかじめ得られている基準のスペクトルと比較することによって、塗液の同定ができる。試料は2mgを採取しKBr（臭化カリウム）100mgをメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加圧成形したものをを用いた（錠剤法）。測定条件は分解能 4 cm^{-1} 、積算回数16、アボダイゼーション関数Cosine。第96・97図はその赤外線吸収スペクトル（ノーマライズ）で、縦軸は吸光度（Abs）、横軸は波数（ cm^{-1} ）である（測定機器は日本分光製FT-IR420）。

第96図はNo1（③）・3（④）の上塗り漆塗膜、No2のベンガラ漆絵（②）塗膜、岩手県浄法寺産精製漆塗膜の基準データ（①）の赤外線吸収スペクトル。すべて $1465\sim 1375\text{ cm}^{-1}$ がブロードになっているが、No2のベンガラ漆絵（②）はやや劣化の少ない漆である。No1（③）・3（④）は $1280\sim 1270\text{ cm}^{-1}$ （フェノール性OH）やその左右のショルダー（ 1215 cm^{-1} 、 1375 cm^{-1} ）の吸収がかなり減少しているが、劣化を勘案しつつ仔細に見れば、 3422 cm^{-1} （水酸基）、 2925 cm^{-1} （炭化水素の非対称伸縮振動）、 2850 cm^{-1} （炭化水素の対称伸縮振動）、 $1720\sim 1710\text{ cm}^{-1}$ （カルボニル基）、 $1650\sim 1630\text{ cm}^{-1}$ （糖タンパク）、 1465 cm^{-1} （活性メチレン基）、 $1280\sim 1270\text{ cm}^{-1}$ （フェノール性OH）、 $1070\sim 1030\text{ cm}^{-1}$ （ゴム質）の吸収が確認できる。

第97図は顕微鏡観察で茶色の強い下地色から洪下地と判断されるもので、No1（①）・No3（②）の炭粉洪下地と松煙（③）の赤外線吸収スペクトル。全体の波形から一見して漆ではなく、松煙の吸収に近似することがわかる。柿渋の主成分（渋味成分）はカキタンニンで、それは基本骨格が加水分解されない縮合型タンニン（非加水分解型）とよばれるものであるが、炭粉と混ぜた場合、漆とちがってそれ自体の吸収が弱く、指紋領域（ $1500\sim 650\text{ cm}^{-1}$ ）においては炭粉の吸収が強く現れ、柿渋単体時のようなシャープな吸収がみられることはあまりない。炭粉漆下地の場合は 1465 cm^{-1} や 1280 cm^{-1} の吸収がより強い。 2850 cm^{-1} 、 2925 cm^{-1} 付近の吸収が微量であること（個鎖があまりない）や膠など他の膠着材成分の吸収がみられない点や顕微鏡観察所見から総合して洪下地と判断した。

3) 蛍光X線分析

蛍光X線分析は試料にX線を当てると、元素特有のX線（特性X線ないし固有X線）が発生（放出）する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行う方法。

分析対象：No1～3 赤色漆絵顔料の分析（第98～100図）。

使用機器：PANalytical/PW4025、エネルギー分散型蛍光X線分析装置。

使用管球：Rhターゲット9W。

検出器：高分解能電子冷却Si半導体検出器。

測定条件：10kV、10 μ A、フィルター Kapton、100sec。

測定室雰囲気：大気。測定部径は1mm。サンプルカップに入れて測定。

測定結果：漆絵の赤色顔料はすべてベンガラ（ Fe_2O_3 ）。

（4）おわりに

前田利長の慶長9年（1609）野間許可状（『富山県史料編』Ⅲ）に、羽根村内に新村を認める記述があり、遺跡の年代に一致すると考えられている⁶⁾。漆器の特長を整理してまとめたい。

1) 漆器碗の器形と時期

碗の時期がよくわかるものは、長脚高台の合鹿碗タイプとよばれるNo1である。身の深さに対して

高台が高く、口径も鎌倉時代の椀より狭くなっている。16世紀第4四半期から17世紀第1四半期ごろに盛行する⁷⁾。No.3の椀は組椀の2ないし3の椀で、器形的には16世紀代からの普遍的なものである。これら漆器が出土した石組みの50A1号井戸出土からは、越中瀬戸や他の遺物（木製品・石製品・金属製品・土製品）が共伴しており、とくに越中瀬戸の皿からみて、17世紀初頭とみて大過ないようである。

2) 塗装工程・樹種・木取り

No.1（遺物番号618、S E 50 A 1出土）椀（総黒色系）

内外面①炭粉渋下地層+②漆層（+外面赤色漆絵）

No.2（遺物番号619、S E 50 A 1出土）椀（総黒色系）

内外面①炭粉渋下地層+②漆層（+外面赤色漆絵）

No.3（遺物番号617、S E 50 A 1出土）椀（総黒色系）

内外面①炭粉渋下地層+②漆層（+内外面赤色漆絵）

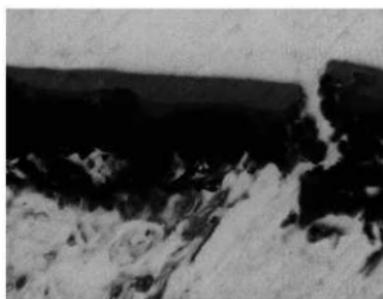
3点ともに安価な炭粉渋下地に漆1層の普及品であることが判明した。薄い上塗漆である点も共通している。木取りはヨコ木（柾目）取りで、樹種は全てブナ属である。

3) 漆絵の意匠

3点ともベンガラ漆絵を有するが、全体がわかるものはNo.3の椀である。先に取り上げたように内面の扇意匠が特徴的で、扇面（上部）を区画して雲形文を配し、口縁部の抽象的な横線と縦線の構成は松葉とみている。松と扇の吉祥文様であろう。こうした扇面の区画は鎌倉時代からの伝統で、さまざまな文様が描かれてきた。本例は銜がなく、伸び伸びと描かれた例である。

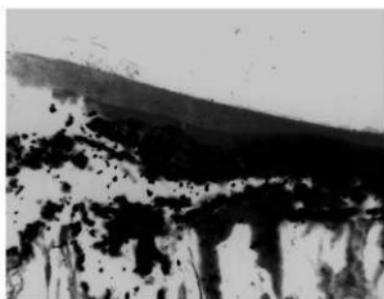
註

- 1) 永井三郎「羽根下立遺跡」『平成19年度埋蔵文化財年報』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所、2008
- 2) 四柳嘉章「合鹿椀の計量及び塗膜分析」『合鹿椀』石川県柳田村、1993
- 3) 尾崎幸洋『分光学への招待』産業図書、1997
- 4) 山田富貴子「赤外線吸収スペクトル法」『機器分析のてびき』化学同人、1988
- 5) SILVERSTEIN・WEBSTER、荒木峻・益子洋一郎ほか訳『有機化合物のスペクトルによる同定法—MS、IR、NMRの併用 第6版』東京化学同人、1999
- 6) 註1に同じ
- 7) 四柳嘉章『漆Ⅰ・Ⅱ』法政大学出版局、2006



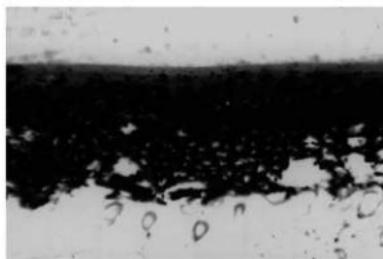
No.1 内面

×400



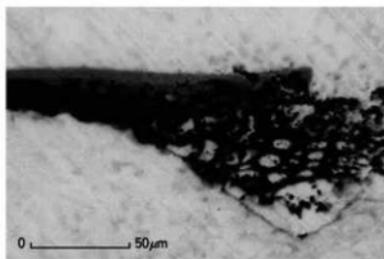
No.1 外面

×400



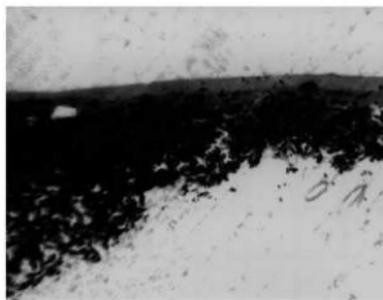
No.2 内面

×400



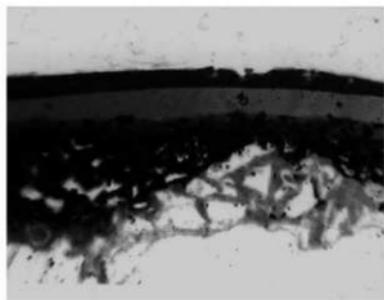
No.2 外面

×400



No.3 内面

×400



No.3 外面 (漆絵)

×400

漆器塗膜層断面の顕微鏡写真1

2 羽根下立遺跡出土木製品の樹種同定

株式会社古環境研究所

(1) はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

(2) 試料

試料は、羽根下立遺跡より出土した桶側板1点、底板1点、円形板1点、漆器椀3点の木材6点である。

(3) 方法

カミソリを用いて試料の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

(4) 結果

第20表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科 写真1

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

サワラ *Chamaecyparis pisifera* Endl. ヒノキ科 写真2

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型であるがスギ型の傾向を示すものもあり、1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりサワラに同定される。サワラは岩手県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ30m、径1mに達する。材は木理通直で肌目も緻密である。ヒノキより軽軟でもろいが、広く用いられる。

ブナ属 *Fagus* ブナ科 写真3

横断面：小型でやや角張った道管が、単独あるいは2～3個複合して密に散在する散孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は緩やかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔である。放射組織はほとんど平伏細胞からなるが、ときに上下端のみ方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織はまれに上下端のみ方形細胞が見られるがほとんどが同性放射組織型で、単列のもの、2～数列のもの、大型の広放射組織のものがある。

以上の形質よりブナ属に同定される。ブナ属には、ブナ、イヌブナがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25m、径60～70cmぐらいであるが、大きいものは高さ35m、径1.5m以上に達する。材は堅硬かつ緻密、韌性があり、保存性は低い。容器などに用いられる。

(5) 所見

同定の結果、羽根下立遺跡出土木材のうち、桶側板、円形板はスギ、底板はサワラ、漆器椀3点はブナ属であった。スギは加工工作が容易な上、大きな材がとれる良材である。サワラは、木理通直、肌目緻密であり、水質によく耐える材である。ブナ属にはブナとイヌブナがあり、強さ中庸、切削、加工も中庸であるが、弾性と従曲性に富み、縄文時代以降現在まで伝統的に木地に用いられる材である。

スギは温帯に広く分布する針葉高木で、やや湿潤な土地を好み、特に積雪地帯や多雨地帯で純林を形成する。サワラは、温帯を中心に分布する針葉高木で、湿気が多い肥沃地で、溪流沿いを好む。冷温帯から暖温帯にまたがる中間域の湿潤な地域に多い。ブナ属は温帯上部の冷温帯から温帯中間域の落葉広葉樹林帯に分布する落葉高木で、やや湿気が多い肥沃地を好み、冷温帯落葉広葉樹林の代表的なブナ林を形成する。

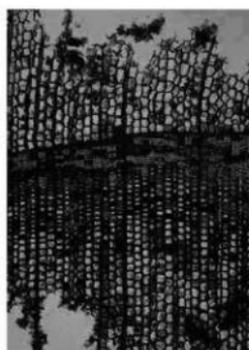
以上のことから、羽根下立遺跡の木材の樹種は当時遺跡周辺に分布していたか、近隣地域よりもたらされたかと推定される。漆器椀3点はブナ属であり、同一の生産地より流通でもたらされたものとみられる。

参考文献

- 佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p. 20-48.
- 佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞、木材の構造、文永堂出版、p. 49-100.
- 島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣、p. 296
- 山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成、植生史研究特別第1号、植生史研究会、p. 242

第20表 羽根下立遺跡における樹種同定結果

No	遺物番号	遺構番号	出土地点	種類	結果(学名/和名)	本取り
1	622	SE50A1	No.1	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
2	622	SE50A1	No.2	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
3	622	SE50A1	No.3	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
4	622	SE50A1	No.4	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
5	622	SE50A1	No.13	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
6	622	SE50A1	No.14	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
7	622	SE50A1	No.15	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
8	622	SE50A1	No.16	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
9	622	SE50A1	No.17	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
10	622	SE50A1	No.18	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
11	622	SE50A1	No.19	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
12	622	SE50A1	No.20	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
13	622	SE50A1	No.21	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
14	622	SE50A1	No.22	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
15	622	SE50A1	No.23	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
16	622	SE50A1	No.24	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
17	622	SE50A1	No.25	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
18	622	SE50A1	No.26	楕圓板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目
19	618	SE50A1	No.6	漆器碗	<i>Fagus</i>	ブナ属 横木
20	619	SE50A1	No.9	漆器碗	<i>Fagus</i>	ブナ属 横木
21	617	SE50A1	No.12	漆器碗	<i>Fagus</i>	ブナ属 横木
22	630	SE50A1	No.10	底板	<i>Chamaecyparis pisifera</i> Endl.	サウラ 板目
23	621	SE730A4		円形板	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don	スギ 板目



横断面 ————— : 0.5mm

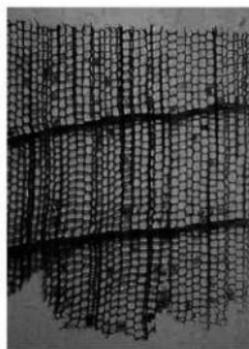


放射断面 ————— : 0.05mm



接線断面 ————— : 0.2mm

写真1. No23 遺物番号621 S E730A.4 円形板 スギ



横断面 ————— : 0.5mm

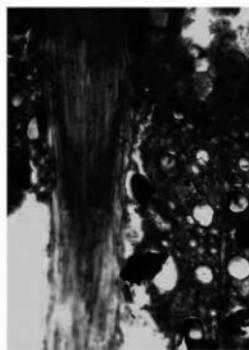


放射断面 ————— : 0.05mm

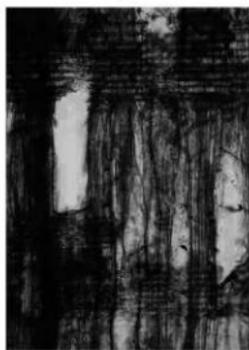


接線断面 ————— : 0.2mm

写真2. No22 遺物番号620 S E50A.1 No10 底板 サワラ



横断面 ————— : 0.2mm



放射断面 ————— : 0.2mm



接線断面 ————— : 0.2mm

写真3. No20 遺物番号619 S E50A.1 No9 漆器椀 プナ属

3 羽根下立遺跡出土石製品石材鑑定報告

株式会社古環境研究所

(1) はじめに

羽根下立遺跡で出土した石器等86点について、肉眼および双眼実体顕微鏡（20倍）を用い、岩石表面に現れている組織や構成鉱物を中心に石材の岩石種判定を実施した。また、21点の試料については比重を計測し、岩石種判定の判断基準に加えた。比重の値は3桁で表記したが、たとえば表中に2.50とあれば、2.495～2.504の範囲を意味する。

(2) 石材の判定基準

1) 砂岩（写真01）

細粒の砕屑粒子である砂粒（粒径1/16～2mm、石英粒を主とするものが多い）から構成される。4点比重を計測したが2.63～2.68であった。砂岩として標準的な値である。アブライトや中粒凝灰岩との判別が難しいことがある。

2) 白色砂岩（写真なし）

白色で固結度のやや低い細粒の砂岩に用いた。

3) 弱固結砂岩（写真02）

固結度の低い褐色の砂岩に用いた。

4) 頁岩（写真03）

極めて細粒の砕屑粒子である泥（粒径1/16mm～1/256mmのシルトおよび1/256mm以下の粘土）から構成される。暗灰色～黒色のものが多く、肉眼では粒子を認めることができない。厳密には平らな面で割れる性質を有する泥岩を指すが、平らな面で割れる性質の認められない泥岩も含め頁岩とする。

5) 粘板岩（写真04）

極めて細粒の粒子である粘土（粒径1/256mm以下）から構成され、薄く剥がれるような割れ方を示す。

6) チャート（写真05）

泥質感・粒状感は全くなく、どちらかという曇りガラスに類似する外観を呈する。光沢および弱いが透明感が認められる。暗灰色・灰色・帯緑灰色・赤褐色など様々な色のものがある。河原では角ばった形である場合が多い。1点比重を計測したが、2.65である。一般にチャートは2.62～2.67の範囲に分布するが、矛盾のない値であった。

7) 変質安山岩（写真06）

火山岩を示す斑状組織を呈し、有色鉱物の量から安山岩と判断できるが、全体として緑色を帯びている。2点比重を計測したが、2.63と2.72であり、安山岩に類似した組織のデイサイトから安山岩の比重範囲に該当している。緑色は岩石形成後の変質によると判断される。デイサイトも含め変質した安山岩類の意味で用いた。

8) 変質閃緑斑岩（写真07）

細粒だが全体が結晶の集合体に見える。白い鉱物と暗緑色の鉱物が集合したように見えるが、白い

鉱物のほうが多い。1点比重を計測したが2.67であり、閃緑斑岩として矛盾のない値であった。全体として緑色を帯びている。緑色は岩石形成後の変質によると判断される。

9) 流紋岩 (写真08)

SiO₂が70%以上の火山岩で、色は白色もしくは明灰色の事が多いが、褐色を帯びることも多い。石英斑晶の認められる場合が多い。流紋岩に類似した外観のアイサイトとの判別は困難である。現状の判別精度では、流紋岩に類似した外観のアイサイトと合わせ流紋岩類として扱うべきと考える。比重を2点計測したが2.44、2.57であり、比重的には流紋岩からアイサイトの範囲に分布する。肉眼的特徴を重視し、広義の流紋岩類の意味で用いる。

10) 石英斑岩 (写真09)

石英や斜長石の大きめの斑晶が多く認められ、斑状組織を示す。色は比較的明灰色である場合が多い。2点比重を計測したが2.57、2.63であった。石英斑岩の範囲を示す値である。

11) 安山岩 (写真10)

火山岩を示す斑状組織を呈し、斑晶に白い斜長石および黒い輝石もしくは角閃石が認められる。気泡の認められる場合も多い。2点比重を計測したが、2点とも2.65であった。安山岩の範囲を示す値であった。

12) 花崗岩 (写真11)

粗粒で等粒状。無色鉱物は透明感のある石英と白く不透明な長石（長石がピンク色を呈する場合もある）が80%前後を占める。有色鉱物は20%前後占めるが、黒雲母が主で角閃石は少量である場合が多い。見かけの特徴では有色鉱物の量比で閃緑岩と区別するが、有色鉱物の量比は連続的に変化するため境界付近では判断が難しい。比重を計測した場合は原則として2.60以上2.65以下を花崗岩、2.66以上2.84以下を閃緑岩とする。1点比重を計測したが、2.61であり、花崗岩の範囲の値であった。

13) 閃緑岩 (花崗岩類) (写真12)

等粒状の角閃石と斜長石の結晶から構成される。量的には斜長石が主で角閃石が従と明らかに判断できるもの。比重を計測した場合は原則として2.66以上2.84以下を閃緑岩とした。4点計測したが2.69、2.71と2.73が2点であることから閃緑岩とした。

14) 結晶片岩 (写真13)

片理が明瞭で広域変成岩であることは明らかだが、細かな岩石名を判定できなかったものに用いた。比重は2.90であり、塩基性岩起源の緑色片岩である可能性が高い。

15) 透閃石岩 (写真14) (全て従来の蛇紋岩に該当する)

透閃石（トレモライト）から構成され、淡帯緑白色～灰緑色で、磨くと明瞭な光沢が生ずる。肉眼的には、色と曲がりくねった繊維状の模様、明瞭な光沢が目安となる。比重およびX線回析による分析から、蛇紋岩ではなく透閃石岩であることが明らかとなっている。2点比重を計測したが、2.89、2.94であり、透閃石岩の比重範囲に入るものである。

16) 片麻岩 (写真15)

石英など白い無色鉱物粒子の集中した白色縞と、黒雲母など黒い有色鉱物粒子の集中した黒色縞が平行に配列する岩石。

17) 滑石 (写真なし)

淡く緑色や褐色を帯びた灰色の場合が多いが、色の変化は大きい。大変軟らかく、触るとすべすべした感じがする。

(3) 器種と構成岩種

1) 磨製石斧

4点と少ないが、透閃石岩が2点、変質閃緑斑岩と結晶片岩が各1点である。富山県内では一般的な岩種構成を示している。透閃石岩が柳田遺跡など東部の遺跡で極めて高い比率を占め、変質閃緑斑岩は惣領浦之前遺跡など西部の遺跡で比率が高くなる傾向をもつ。4点と少ないため明確には言えないが、中間の比率を示している可能性がある。

2) 打製石斧

変質安山岩が5点と最も多く、石英斑岩と閃緑岩が各2点、砂岩と安山岩が各1点である。県東部の柳田遺跡などでは砂岩・流紋岩類・透閃石岩などが高い比率を占めており、本遺跡とは構成岩種が明らかに異なる。

3) 叩石

砂岩が2点、安山岩が1点である。比較的均質で丈夫な石材が選択される傾向が強い。

4) 砥石

19点中、流紋岩が13点と高い比率を占め、次いで砂岩が3点、白色砂岩・頁岩・粘板岩が各1点である。中・近世において、粗砥として砂岩、中砥として流紋岩・頁岩、中砥もしくは仕上げ砥として粘板岩が使われる傾向が顕著であるが、本遺跡の構成石材も同様の傾向を示していると言える。

5) 温石

1点のみであるが、滑石である。

6) 五輪塔

安山岩が3点、弱固結砂岩が1点である。南関東地方において、五輪塔など石造物は比較的硬く丈夫な安山岩類が柔らかな弱固結岩類で作られることが多い。本遺跡においても同様の傾向が見られると言える。

(4) おわりに

器種毎に構成石材が異なり、明確な石材選択のなされていることは明らかである。磨製石斧において透閃石岩が多い点では県内の他の地域と共通である。打製石斧においては、県東部地域とは明らかな構成石材の違いが見られ、石材環境の違いを示しているものと推定される。

参考文献

- 株式会社古環境研究所 2009「5富山県竹ノ内Ⅱ遺跡外における石材鑑定」『竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 2010「6石材鑑定」『惣領浦之前遺跡・惣領野原遺跡発掘調査報告』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 柴田 徹 2009「比重を加味した岩石種判定基準の提案」『松戸市立博物館紀要』第16号 p. 1~19 松戸市立博物館
- 高崎直成・大屋道則 2008「ふじみ野市内出土石製品の鉱物分析」『研究紀要』第23号 p. 89~94 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

第21表 羽根下立遺跡出土の石材鑑定結果

分析番号	整理番号	遺物番号	種類	材質	質量 (cm ³ 、g)			比重	備考
					長	幅	厚		
1	107001	657	五輪塔	安山岩	25.0	18.8	13.0	-	地輪
2	107002		砥石	安山岩	21.7	7.7	5.2	1695.66	
3	107003		不明	片麻岩	17.5	12.5	6.5	1403.93	
4	107004	629	打製石斧	石英斑岩	17.7	10.0	2.7	693.62	
5	107005	634	打製石斧	実質安山岩	16.4	8.5	3.0	420.14	
6	107006		砥石	粘板岩	7.0	5.0	0.3	13.75	
7	107007		叩石?	不明	10.0	5.0	2.5	328.47	
8	107008	632	打製石斧	安山岩	15.0	12.0	1.9	488.04	
9	107009		不明	石英斑岩	5.5	2.8	0.8	28.76	
10	107010		不明	石英斑岩	8.5	7.5	0.8	118.45	
11	107011		砥石?	粘板岩	8.6	6.5	4.3	344.42	
12	107012	628	打製石斧	石英斑岩	18.2	11.2	4.0	828.22	
13	107013	630	五輪塔	不明	17.8	18.4	23.5	-	
14	107014	629	叩石	砂岩	15.0	5.5	2.5	395.66	
15	107015	649	五輪塔	安山岩	22.0	14.5	22.3	-	
16	107016	627	打製石斧	実質安山岩	21.1	10.0	3.0	794.95	
17	107017	644	砥石	流紋岩	9.2	5.4	4.6	296.96	
18	107018		不明	安山岩	18.0	10.0	1.2	111.13	
19	107019		不明	流紋岩	6.5	4.0	1.7	489.4	
20	107020		砥石	頁岩	9.0	2.7	2.0	77.81	
21	107021	638	叩石	安山岩	14.0	5.6	3.1	438.17	
22	107022		叩石	砂岩	15.0	14.6	3.8	471.25	
23	107023	625	磨製石斧	透閃石岩	8.0	5.2	0.8	76.89	
24	107024	633	打製石斧	安山岩	9.6	7.5	1.5	133.30	
25	107025		不明	安山岩	3.4	3.5	3.5	96.42	
26	107026		砥石	砂岩	7.1	3.3	3.0	173.71	
27	107027		不明	安山岩	5.5	4.5	4.3	78.80	
28	107029		不明	石英斑岩	10.6	7.5	5.0	675.65	
29	107030		不明	花崗岩	7.0	7.5	4.2	221.99	
30	107031		不明	砂岩	8.0	6.0	1.5	91.17	
31	107032		不明	弱固結砂岩	6.0	7.7	2.2	111.71	
32	107033	642	不明	砂岩	7.8	8.2	4.5	486.23	
33	107034		不明	安山岩	8.0	3.3	1.8	43.48	
34	107035	637	磨製石斧	透閃石岩	3.6	2.2	1.0	10.43	
35	107036		不明	弱固結砂岩	8.5	6.5	2.5	94.95	
36	107037		不明	石英斑岩	6.5	3.5	2.5	48.94	
37	107038		打製石斧	安山岩	7.5	4.8	3.3	111.16	
38	107039		不明	石英斑岩	11.5	9.8	7.0	397.40	
39	107040	626	打製石斧	砂岩	14.5	9.0	2.5	576.50	
40	107041	637	打製石斧	実質安山岩	18.0	11.8	2.0	715.70	
41	107042		砥石	安山岩	17.7	10.0	3.8	904.18	
42	107043		不明	花崗岩	12.5	6.8	4.5	467.47	
43	107044		不明	花崗岩	22.5	16.0	13.0	6700	
44	107045		不明	石英斑岩	17.0	11.0	5.8	1176.12	
45	107046		不明	流紋岩	10.8	7.5	8.1	650.86	
46	107047		不明	閃緑岩	13.0	8.0	6.5	900.14	
47	107048	643	不明	砂岩	11.8	10.5	6.5	1094.95	
48	107049		不明	流紋岩	3.5	2.8	1.0	6.74	
49	107050		砥石	流紋岩	5.1	3.5	1.0	35.23	
50	107051	636	磨製石斧	結晶片岩	5.5	4.0	2.4	75.61	
51	107052		叩石?	流紋岩	7.5	6.0	4.1	212.82	
52	107053		片麻石	安山岩	17.8	13.0	10.1	3713.94	
53	107054		不明	花崗岩	15.2	10.5	6.3	1633.82	
54	107055	640		流紋岩	12.2	8.2	4.0	489.53	
55	107056		不明	石英斑岩	7.0	6.0	2.6	118.10	
56	107057	641		砂岩	16.7	5.6	2.1	24.39	
57	107059		不明	閃緑岩	12.0	7.1	5.3	678.53	
58	107060		砥石	砂岩	7.8	6.5	2.0	133.57	
59	107061	647		白色砂岩	14.8	4.1	7.4	1292.19	
60	107062	645		砥石	8.5	4.0	3.2	87.12	
61	107063		砥石?	流紋岩	7.5	7.4	3.0	138.00	
62	107064		砥石	流紋岩	9.5	5.9	3.1	177.92	
63	107065		砥石	砂岩	4.7	3.4	1.4	23.73	
64	107066		砥石	流紋岩	2.8	2.5	2.3	28.62	
65	107067			-	-	-	-	-	
66	107068		砥石	流紋岩	3.8	3.6	1.3	28.18	
67	107069		砥石	流紋岩	7.8	5.3	2.2	91.12	
68	107070		砥石	流紋岩	4.6	4.5	3.8	61.27	
69	107071		不明	チャート	4.7	2.4	1.7	21.46	
70	107072	624	打製石斧	実質安山岩	15.5	7.1	2.1	256.47	
71	107073	625	打製石斧	実質安山岩	14.4	8.0	2.3	239.25	
72	107074	623	打製石斧	不明	15.0	6.1	2.4	237.91	
73	107075		砥石	流紋岩	3.8	4.1	2.7	60.64	
74	107076		砥石	流紋岩	2.7	2.1	1.3	15.00	
75	107077		不明	流紋岩	3.6	2.1	2.4	22.72	
76	107078		不明	砂岩	15.5	5.5	3.3	388.09	
77	107083		砥石	砂岩	12.7	8.3	1.3	241.54	
78	107084		不明	流紋岩	8.7	7.1	3.8	316.86	
79	107085		砥石?	石英斑岩	10.8	7.6	3.6	227.06	
80	107086		砥石	流紋岩	4.6	4.4	3.4	87.95	
81	107088	630	打製石斧	閃緑岩	14.9	7.8	2.3	407.25	
82	107089	646	盥石	滑石	10.9	5.2	1.8	133.15	
83	107090	648	玉塔	弱固結砂岩	28.0	37.5	25.0	3180.00	
84	107091		砥石	流紋岩	3.9	3.9	1.6	18.86	
85	107092		砥石	流紋岩	4.8	4.2	1.2	17.66	
86	107094		磨製石斧	実質閃緑岩	10.2	5.4	3.9	303.1	

第22表 羽根下立遺跡器種毎構成岩種

	磨製石斧	打製石斧	叩石	砥石	温石	五輪塔	その他	総計
砂岩		1	3	4			5	13
白色砂岩				1				1
崩壊結砂岩						1	2	3
頁岩				1				1
粘板岩				2				2
チャート							1	1
流紋岩			1	14			6	21
石英英岩		2		1			7	10
安山岩		3	1	2		3	5	14
変質安山岩		5						5
変質閃緑岩	1							1
花崗岩							4	4
閃緑岩		2					2	4
結晶片岩	1							1
透閃石岩	2							2
片麻岩							1	1
滑石					1			1
総計	4	13	5	25	1	4	33	85

第23表 比重計測一覧

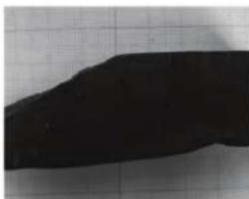
分析番号	整理番号	遺物番号	種類	材質	法量 (cm ³ ・g)				計測重量	計測体積	比重
					長	幅	厚	重			
8	1 07008	637	打製石斧	安山岩	13.0	12.0	1.9	488.04	487.6	184.0	2.65
11	1 07011			粘板岩	8.6	6.5	4.5	544.42	544.0	208.7	2.61
14	1 07014	639	叩石	砂岩	15.0	5.5	2.5	395.68	395.2	150.1	2.63
21	1 07021	638	叩石	安山岩	14.0	5.6	3.1	438.17	437.0	164.8	2.65
23	1 07023	635	磨製石斧	透閃石岩	8.0	5.2	0.8	76.89	76.7	26.5	2.89
28	1 07029			石英英岩	10.6	7.5	5.0	675.65	674.8	262.6	2.57
34	1 07035	637	磨製石斧	透閃石岩	3.6	2.2	1.0	10.43	10.42	3.54	2.94
42	1 07043			花崗岩	12.5	6.8	4.5	467.47	467.0	179.2	2.61
44	1 07045			石英英岩	17.0	11.0	5.8	1176.12	211.5	82.3	2.57
45	1 07046			流紋岩	10.8	7.5	8.1	630.86	649.9	252.6	2.57
46	1 07047			閃緑岩	13.0	8.0	6.5	790.14	789.5	293.6	2.69
48	1 07049			流紋岩	3.5	2.8	1.0	6.74	6.72	2.75	2.44
50	1 07051	636	磨製石斧	結晶片岩	5.5	4.0	2.4	75.61	75.6	26.1	2.90
57	1 07059			閃緑岩	12.0	7.1	5.3	678.53	677.7	248.6	2.73
69	1 07071			チャート	4.7	2.4	1.7	21.46	21.43	8.1	2.65
70	1 07072	624	打製石斧	変質安山岩	15.5	7.1	2.1	256.47	256.2	94.2	2.72
71	1 07073	625	打製石斧	変質安山岩	14.4	8.0	2.3	238.25	238.8	90.7	2.63
72	1 07074	623	打製石斧	閃緑岩	15.0	6.1	2.4	237.91	237.5	87.7	2.71
79	1 07085			石英英岩	10.8	7.6	3.6	227.06	226.9	86.2	2.63
81	1 07088	630	打製石斧	閃緑岩	14.9	7.8	2.3	407.75	407.3	149.2	2.73
86	1 07094		磨製石斧	変質閃緑岩	10.2	5.4	3.9	190.59	303.1	113.7	2.67



01. 砂岩 (56)



02. 弱固結砂岩 (31)



03. 頁岩 (20)



04. 粘板岩 (6)



05. チャート (69)



06. 変質安山岩 (70)



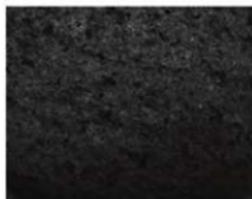
07. 変質閃緑斑岩 (86)



08. 流紋岩 (17)



09. 石英斑岩 (38)



10. 安山岩 (13)



11. 花崗岩 (42)



12. 閃緑岩 [花崗岩類] (57)



13. 結晶片岩 (50)



14. 透閃石岩 (23)



15. 片麻岩 (3)

羽根下立遺跡石器写真

() 内は分析番号

第V章 まとめ

1 縄文時代

(1) 遺構分布と遺物出土状況

縄文時代晩期の集落は低地への拡散が進む時期とされ、富山市内では常願寺川や神通川流域に多くの遺跡が確認されている。ただし遺構を伴う遺跡は少なく、散布地や遺物のみ確認された遺跡が大半である。これは当該期の遺構が極めて残存しにくく、特に氾濫原では検出も困難であることを示す。低地で遺構が調査された例には、富山市吉岡遺跡、同豊田遺跡、高岡市下老子笹川遺跡、同井口本江遺跡等があり、居住施設とみられる土坑や炉跡を検出した遺跡もある。

羽根下立遺跡では遺跡南側のA地区において住居跡や埋設土器を検出した。

住居跡は炉とみられる焼土、炭化物の堆積した土坑を中心とした浅い掘り込みで、床面の一部に硬化面を確認した遺構もあるが、柱穴等の詳細は不明である。出土土器から晩期後半（中屋式～下野式期）に比定される。神通川中流域における当該期の居住施設としては初例とみられ、今後、資料が増えることを期待したい。

2基の埋設土器は使用痕のある壺、深鉢が正位に据えられた状態で単発的に出土した。SX811A 4では口縁部がほぼ残存するものの、体部下半から底部が欠損している。SX102A 1では上部を欠損しており、蓋として別の土器や扁平な石が被せられていた可能性もある。

遺物は主に包含層からの出土であるが、純然たる縄文時代の包含層は薄く、中近世の遺構に混入したものが多く見受けられる。

石器では打製石斧が10点出土しており、3点が鑿形、ほかは短冊形を呈する。

注目される遺物としては土冠がある。土冠は新潟県を含む東北地方に分布の中心があり、石冠の分布が希薄な地域に集中するとされている²¹。通説では当地域は石冠の集中地域に含まれることから、特異な出土事例といえよう。管見のかぎり、県内ではこのほか、高岡市井口本江遺跡に出土例があるのみで²²、資料は極めて少ないといえる。

(2) 土器の編年的位置付け

土器の出土には層位的な新旧は認められないが、その文様の特徴から年代に幅があることがわかる。第Ⅲ章遺物の項でも示したとおり、出土土器は4期に区分した。

1期は後期後半の八日市新保式、御経塚式に比定される土器群を位置付けている。SK801A 4、SK802A 4から出土した深鉢11、9はともに後期後半～晩期初頭とみられる。約半分が残存しており、この2基についてはやや先行する時期の遺構であると考えられる。このほかの1期に比定される土器はほとんどが包含層からの出土である。

2期は晩期中葉の中屋式に併行するものである。22、23は口縁部と胴部に文様帯をもつ精製深鉢で、縄文地にフ字入組文、工字状文などの施文に古い様相がみられる。

3期は中屋サワ式、下野式を包括したもので、量的に最も多い土器群である。炉跡とみられる土坑や住居跡から多く出土しており、集落が営まれていた時期に相当すると考えられる。ただし、完形に復元できる土器は少なく、残存状況は決して良いとはいえない。深鉢の口縁にはヘラや絡条体による

刻みか加えられ、北陸東部の文様の特徴である口縁部や胴部への凹線文が引かれる²³。

4期は長竹式以降として、柴山出村式、大境V層出土土器など、弥生土器と解釈されている²⁴ものをも含んでおり時期幅は広い。この時期の土器は前段階までのものに比べて小さな破片資料が多いことから、混入した資料が主体と考えられる。

2 古墳時代～古代

包舍層中に遺物が散見している。遺構は土坑および谷を確認した。土坑は出土土器から弥生時代末～古墳時代初頭とみられるが、谷については時期を確定しにくく、古墳時代～古代の時期幅のなかに存在したものと考えたい。

3 中世

(1) 掘立柱建物の変遷

当地は古代末期に成立したとみられ、広範囲に及んだとされる徳大寺家領宮河荘の領域内と推定される。遺跡の南方に鎮座する鶴坂神社は、古代には伊勢神宮神領「鶴坂御厨」として、中世には荘官が置かれた記録が残る、宮河荘の中心的な存在であったことがうかがえる²⁵。

中世初頭以降、羽根下立遺跡には掘立柱建物を主体とした集落が展開しており、これらもまた神通川兩岸に点在している荘域内集落のひとつに数えられるであろう。全調査区合わせて38棟の掘立柱建物を検出したが、建物の構造や方位などにより、大きくⅠ～Ⅲの3時期が想定できる。Ⅰ期は12世紀後半～13世紀前半、Ⅱ期は13世紀後半～14世紀代、Ⅲ期は15～16世紀と考えられ、Ⅰ、Ⅱ期については遺構の重複関係等をもとに細分できる。以下、変遷順に従い、所属遺構について記述する。

Ⅰ-1期 (SB14～17、19、23、SE122A3?)

A4、A3地区の西側において数棟の建物からなる。調査した掘立柱建物の中でも最大規模のSB19は中心的存在であるとみられ、この周囲にやや小規模な建物が併存している。建物は概ね北を指向しており、全て南北棟で構成される。時期は12世紀後半～13世紀前半と推測される。

Ⅰ-2期 (SB11～13、18、20、22、26～28、SB43、45、47、48、SA1、SD74A3および平行する細い溝群、SE730A4、SE223B3)

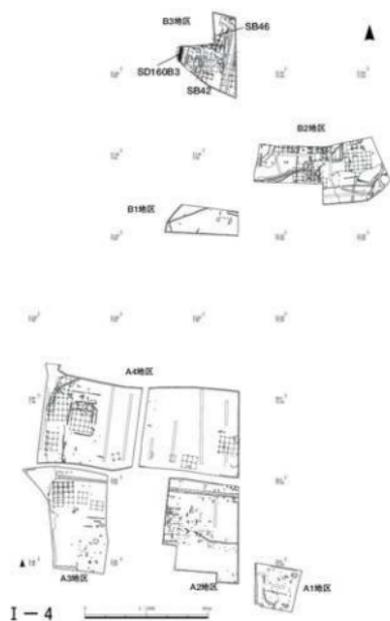
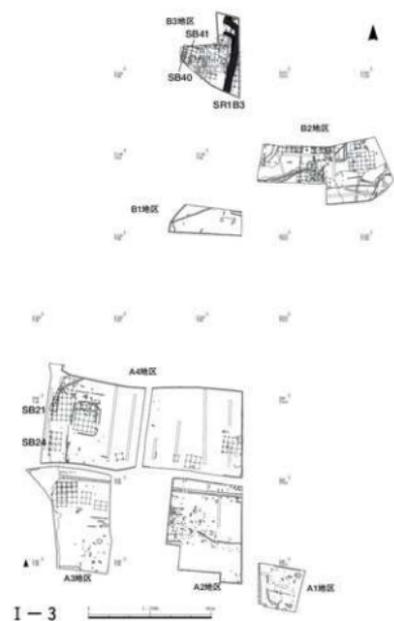
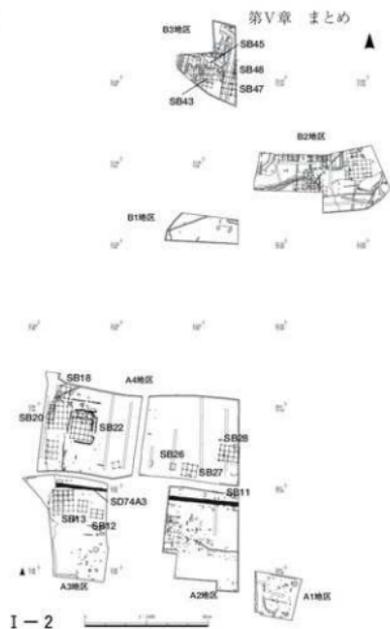
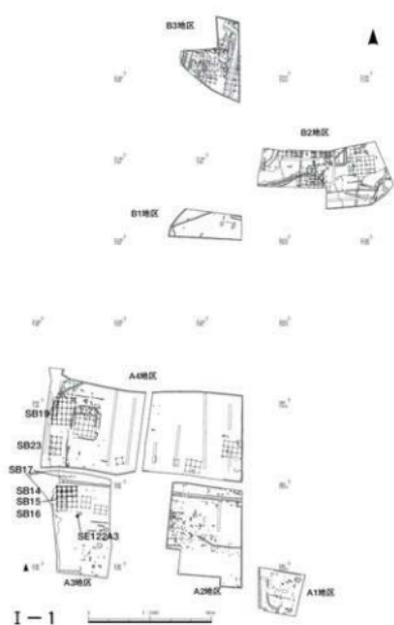
最も建物数が多い時期である。Ⅰ期の中心的建物SB19が変遷したとみられるSB22は、建物の周囲を雨落ち溝が囲んでおり、溝の切り合いからは東に拡張した様子がうかがえる。A4地区東側、A3地区のほか、北に位置するB3地区でも建物方位が似通った一群が存在するが、SD74A3をはじめ東西方向の区画溝による短冊形地割がみられるようになる。SE730A4からは12世紀後半～13世紀前半の中世土師器が出土しており、前時期から比較的短い間隔で変遷したものと考えられる。

Ⅰ-3期 (SB21、24、40、41、SR1B3)

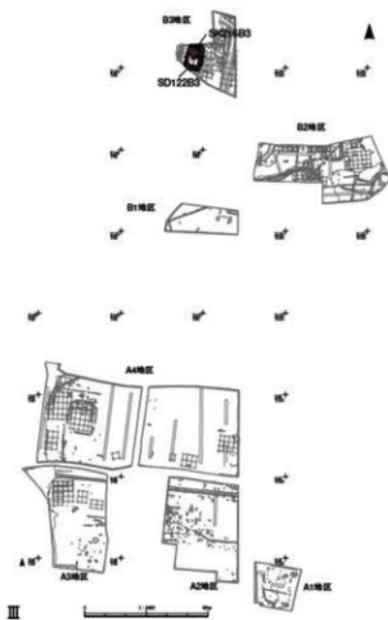
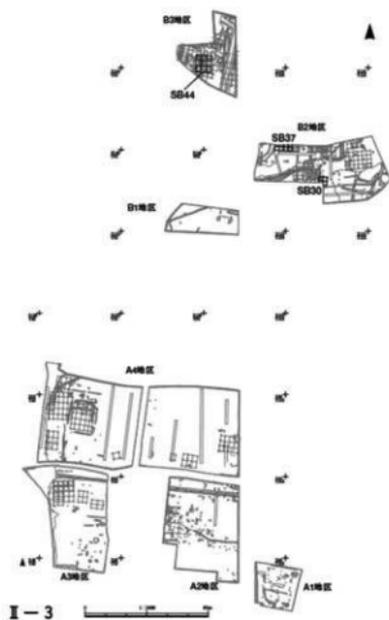
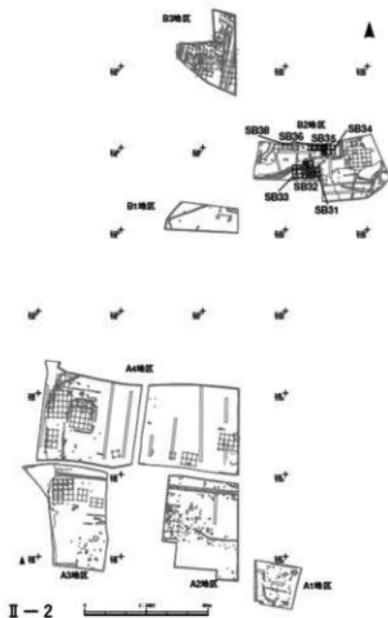
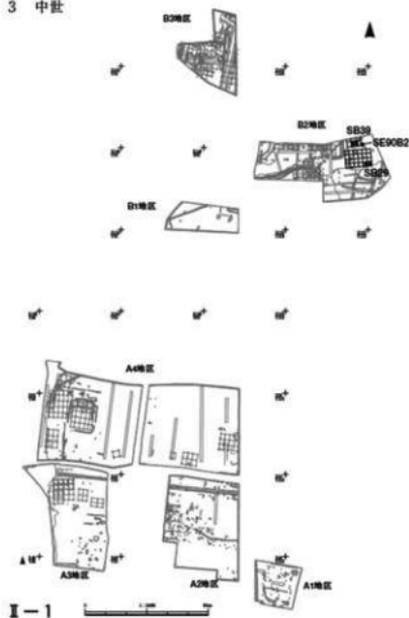
B3地区においてⅠ-2期の後、区画溝SR1B3がつくられた時期である。建物は方位が11°～13°北に振る一群で、A4地区西端にも建物群がみられる。年代は12世紀後半～13世紀前半に収まると考えられる。

Ⅰ-4期 (SB42、46、SD160B3?)

東へ20°前後振るB3地区の2棟で、Ⅲ期のSB40、41より新しいSD160B3が伴うか。13世紀前



第102図 中世集落変遷図(1)



第103图 中世集落变遷图(2)

半代を想定する。

Ⅰ-1期 (S B29、39、S E90B 2?)

B 2地区の竪穴状土坑をもつ掘立柱建物が主体となる時期に相当する。建物方位はそれまでの東寄りから西寄りへと変化がみられ、この時期は7°~11°西へ振る。B 2地区東の2棟からなり、S B29は4間×6間の大型である。出土遺物から13~14世紀とみられる。

Ⅰ-2期 (S B31~36、38)

B 2地区で最も建物が多い時期で、中央付近の南北でそれぞれ重複している。概ね2間×3間、2間×4間の規模をもち、方位は真北~3°西振りで前時期より北指向となる。南北に離れた建物群の間に伴う井戸がある。

Ⅰ-3期 (S B30、37、44)

B 2、B 3地区で、方位が再び東に振る。

Ⅲ期 (S D122B 3、S K216B 3)

掘立柱建物はなく、B 3地区の方形区画をなす溝と土坑の時期。出土した石製宝塔は15世紀代頃とみられ、溝による区画は墓域の可能性が高い。土地利用が変化し、居住域は他所へ移ったとみられる。

(2) 集落の動態

I期は概ね12世紀後半~13世紀前半に比定され、中世前半には遺跡東側を除き居住域として利用されている。I-1、I-2期には中世前半期に特徴的な大小の総柱建物が構成された散村景観がみられ、計画的な地割の存在もうかがえる²⁵⁾。井戸は多くなく、それぞれの建物群で共用したと考えられる。建物は特にA 3・A 4地区西側、B 3地区に集中しており、A 4地区ではさらに西側への広がり予想される。

Ⅱ期にはB 2地区に建物群がまとまるようになる。ほとんどの建物は屋内に竪穴状土坑をもち、Ⅰ-1期にはやや大型の建物が残るものの、全体的には小型化が進み、中世後半的な要素が強まる。井戸は重複する建物の間に位置しており、先行時期と同様に共用されていた可能性が高い。また、I期のような散村形態を確認できないが、これは新たな区画の形成に起因するものとみられる。居住域の中心は周辺の他所へ移動した可能性が高く、調査区の範囲内ではB 2地区の建物群のみが相当するものと推測する。年代は13世紀後半~14世紀代とみられる。

中世の最終としたⅢ期は15~16世紀に比定され、前時期からは暫しの断絶がある。土地の利用状況は墓域や生産域へと変貌しており、この後は近世に至るまで居住の痕跡が確認できないことから、概ね田畑等であったと推測される。ただし当地の立地環境を顧みると、河川の氾濫による甚大な影響は必至であることから、旧河道に押し流された部分が多かったことは想像に難くない。

4 戦国期から近世以降

富山城をめぐる交通の要衝として周辺には多くの著名な城砦が築かれ、戦国期は動乱に明け暮れた土地であったとみられるが、今回の調査では具体的な遺構の確認には至っていない。

近世になると当地は慶長9年(1609)前田利長による野間許可状の書面にみえる、歸負郡内の新村比定地のひとつとされており、新たな新田開発が推進された地域といえる。居住域は遺跡の南側へ集約されており、調査区の大半は新たな田畑へと大きく作り直されたものと考えられる。

居住域はA1～4地区に限られ、とくにA2地区に集中する。なお、この動きによって現風景の礎が築かれたものとも想像できる。A2地区のやや北に位置するSB7、SB8は、SE308A4を伴うとみられ、区画溝の切り合い等から南の建物群に先行するブロックと考えられる。

その後はSD231A4を境に、北を生産域、南を居住域として土地の区分が明確化するようで、A4地区には高跡とみられる小溝が並行する。居住域では建物の変遷がわかる。先行するSB5、SB6は柱穴が小さく、付属する遺構等は特定できないが、新しいSB4はSD25A2・SD65A2・SD2A2で方形に区画されており、楕円柱穴や柱構造、間取りなど、従前の建物とは一線を画している。方形区画を成す溝には東面の一箇所に開放部が設けられ、敷地内への通用口として機能していたと想定される。また、同区画内にはSE107A2が伴い、屋敷地での生活をうかがわせるように区画溝からは多量の陶磁器類が出土している。

最新と考えられる建物はSK11A2をSD50A2・SD94A2・SD350A2・SD355A2の4本の溝で囲んだ土台構造と考えられる建物で、近世以降に比定できる。

近代以降は主に道路整備に伴う区画整理や圃場整備等によって、現在の景観へと遷移したと考えられる。近年はとくに周辺の開発が進み、店舗や住宅団地が著しく増大したため、かつてのような広大な水田風景は姿を消しつつある。

[注]

- i 中島榮一 1983「石冠・土冠」『縄文文化の研究9』雄山閣
- ii 島田亮仁 2009「井口本江遺跡 下層」『平成20年度埋蔵文化財年報』富山県文化振興財団
- iii 泉 英樹 2009「土冠・有孔球状土製品について—井口本江遺跡出土資料の紹介—」『富山考古学研究』第12号 富山県文化振興財団
- iv 酒井重洋 2008「下野式土器」『総覧 縄文土器』
- v 水見市史ほか
- vi 久保尚文 1996「第3章 婦中の中世」『婦中町史』
- vii 富田進一 1997「第6節 越中国における中世集落の様相」『中・近世の北陸』北陸中世土器研究会

参考文献

- 石川県埋蔵文化財センター 1998「能美丘陵東遺跡群」
 石川県埋蔵文化財センター 2001「松任市乾遺跡発掘調査報告書」
 石川県教育委員会・石川県埋蔵文化財センター 2010「白山市乾遺跡」
 泉 英樹 2009「土冠・有孔球状土製品について—井口本江遺跡出土資料の紹介—」『富山考古学研究』第12号 富山県文化振興財団
- 久々 忠義 2009「白鳥城下の中世集落について」『富山考古学研究』第12号 富山県文化振興財団
- 酒井 重洋 2008「古代の五福」『富山考古学研究』第13号 富山県文化振興財団
- 狭川 真一 2001「中層式土器」「下野式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 櫻井 甚一 1975「五輪塔の成立とその背景—出現期資料の分類を中心とした予察—」元興寺文化財研究所 研究報告2001
- 高梨 清志 2004「第四章 中世墓地の石造遺物」『善正寺』石川県考古学研究会
- 高梨 清志 2006「越中（富山県）の様相」『掘立柱建物から礎石建物へ』北陸中世考古学研究会
- 中世考古学研究会 2000「中世北陸の石塔・石仏」
- 富山市教育委員会 2002「富山市吉岡遺跡・経力遺跡発掘調査報告書」
 2005・2008「富山市鶴坂1遺跡発掘調査報告書」
- 富山市史編纂委員会 1987「富山市史」
- 富山県文化振興財団 2006「下老子笹川遺跡発掘調査報告」
 2010「友杉遺跡発掘調査報告」
- 中島 榮一 1983「石冠・土冠」『縄文文化の研究9』雄山閣
- 中村 太一路ほか 1994「神明郷土史」神明校下自治振興会
- 西野 秀和 2008「御経塚式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 久田 正弘 2004「北陸西部晩期中葉の様相」『晩期中葉の再検討』縄文セミナーの会
- 藤田 富士夫 1983「日本の古代遺跡 13 富山」保育社
- 婦中町史編纂委員会 1996「婦中町史」
- 町田 勝則 1991「富山県における縄文後・晩期石器研究の現状と課題」『長野県考古学会誌』61・62 長野県考古学会
- 三浦 純夫 2003「中世加賀における石製宝塔の系譜」『加能史料研究』第15号 石川県地域史研究振興会
- 宮田 進一 1996「第4章第4節 越中瀬戸の変遷と分布」『中・近世の北陸』桂書房
- 森田 伸弘 1951「越中志概」
- 山田 康弘 2008「土器箱（西日本）」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 山本 信夫 2000「大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—」大宰府市教育委員会
- 吉岡 康暢 1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館

写 真 图 版



航空写真 (1946年撮影)

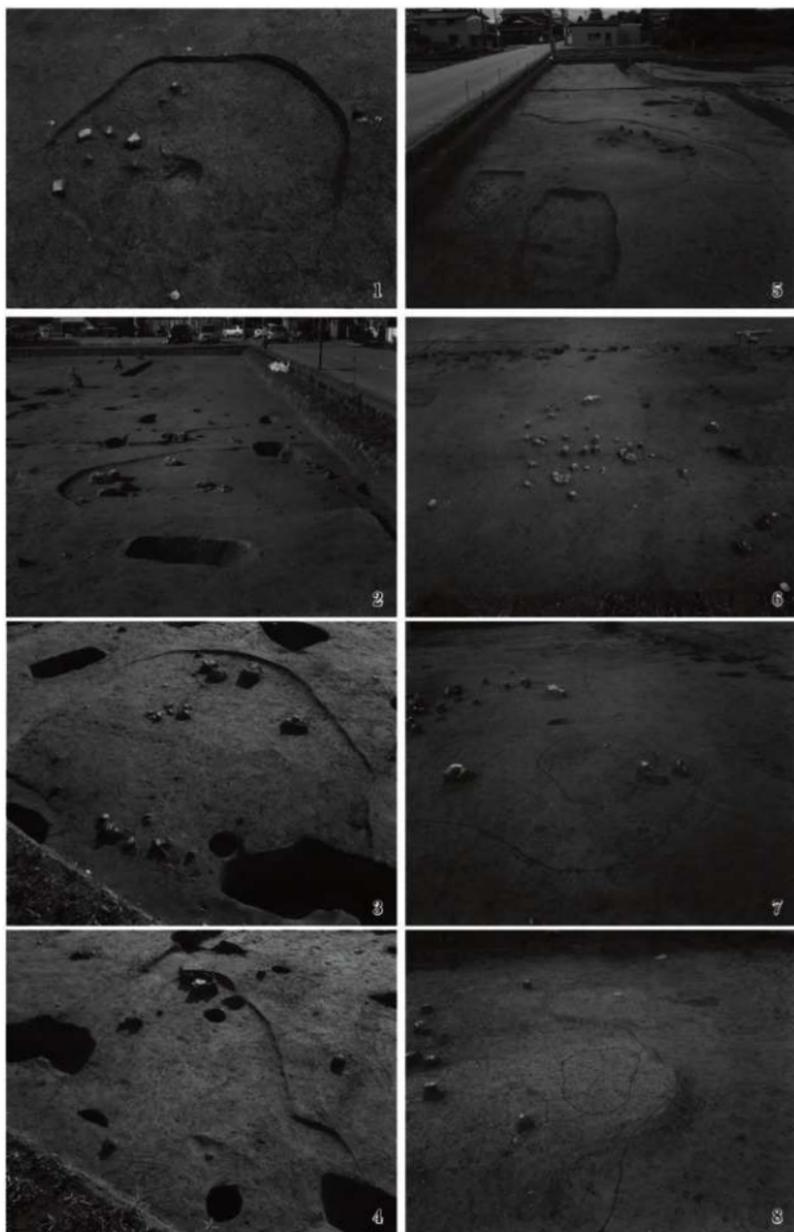


航空写真（2003年撮影）



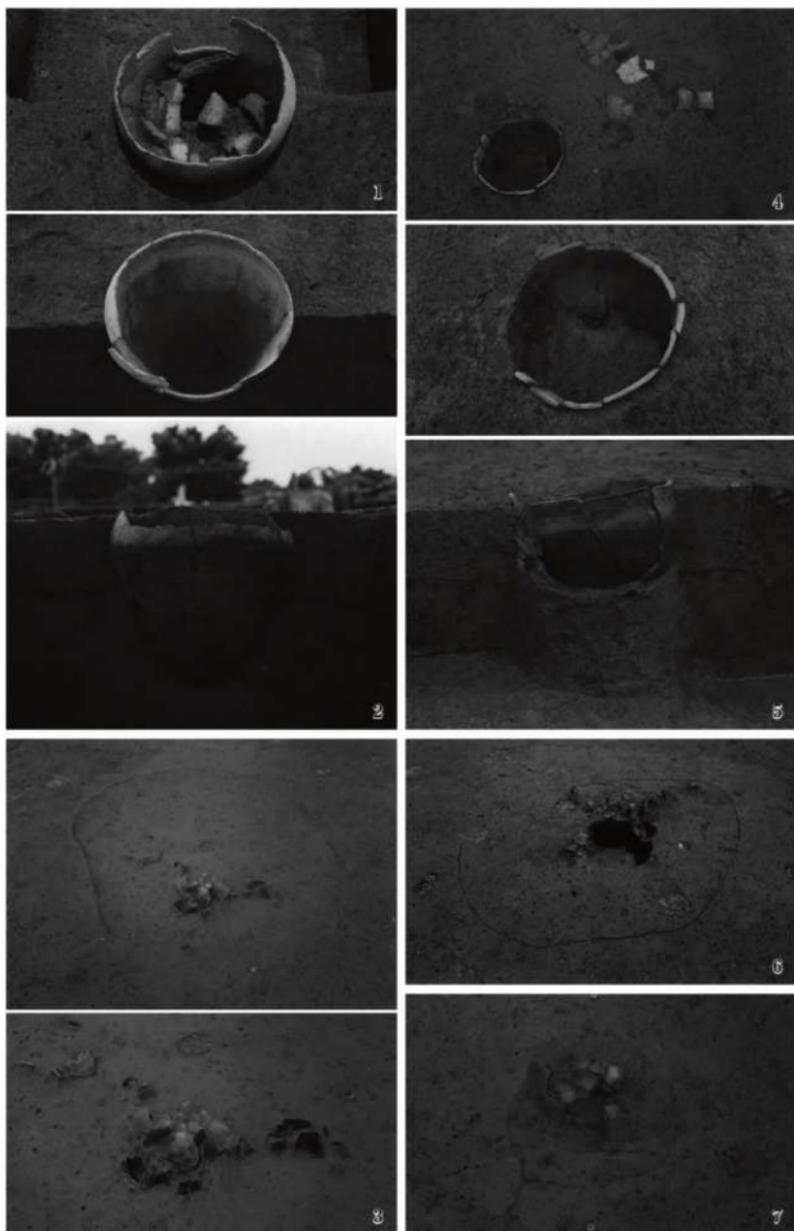
遺跡遺景

1. A地区(東から) 2. B地区(西から)



縄文時代

1. SX101A1 (東から) 2. SK804A4・SK807A4 (南から) 3. SK807A4 (東から)
 4. SK804A4 (東から) 5. SX401A2 (北から) 6. SK809A4 (西から) 7. SK809A4 焼土南 (南から)
 8. SK809A4 焼土北 (東から)



縄文時代

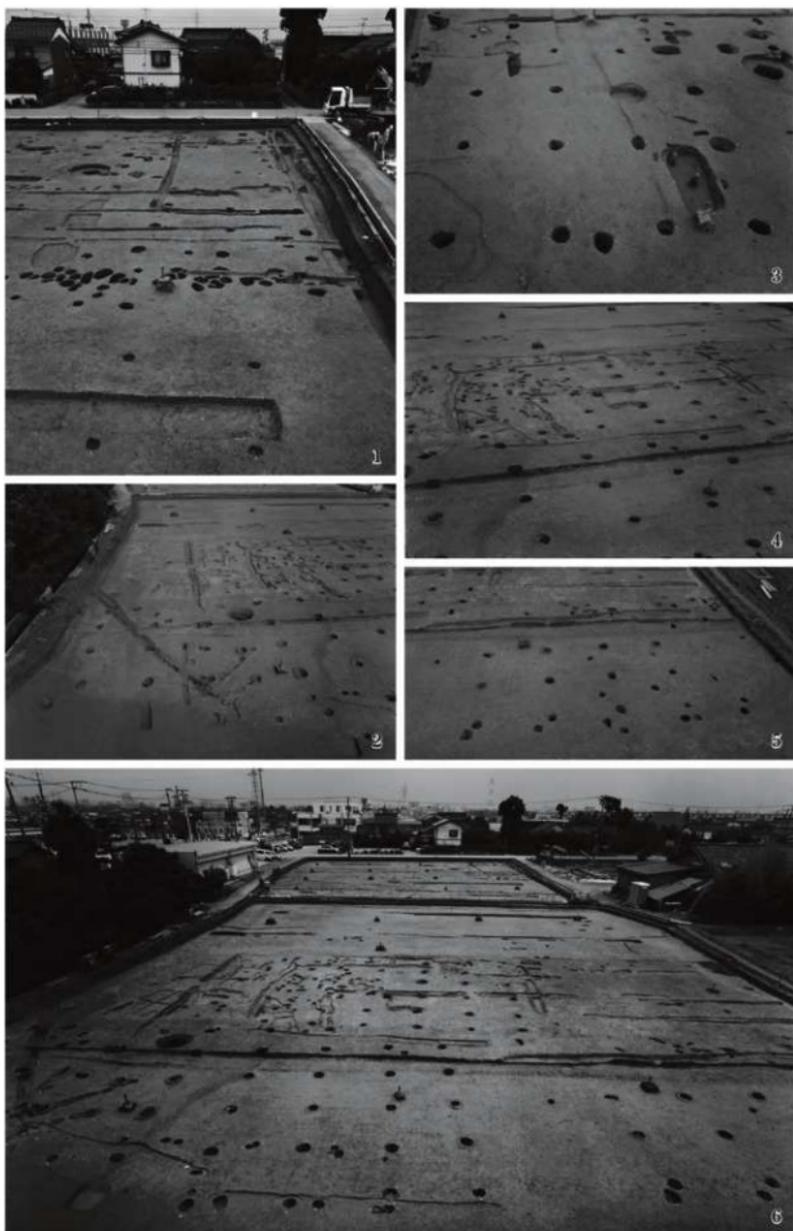
1. SX102A1 (西から) 2. SX102A1 (東から) 3. SK802A4 出土状況 (南東から) 4. SX811A4 (南から)
 5. SX811A4 (南西から) 6. SK801A4 (西から) 7. SK810A4 (西から)

図版 6



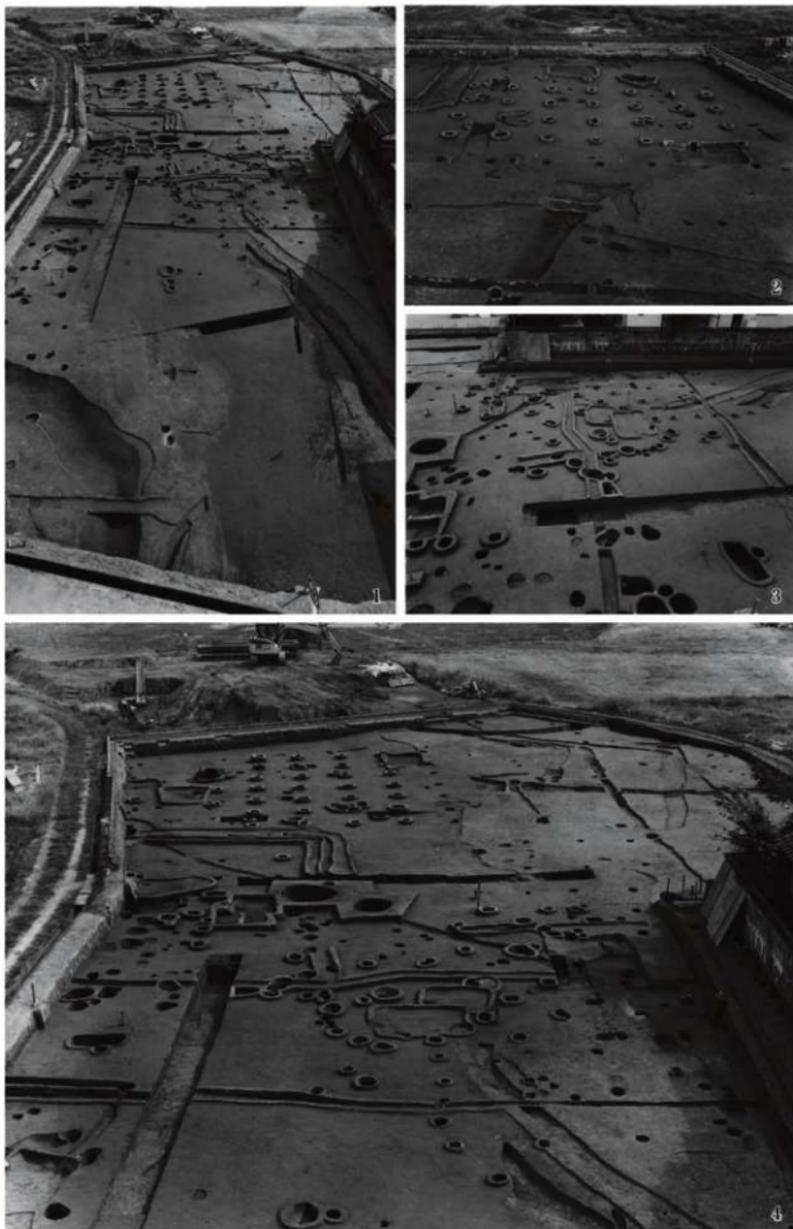
中世 (A 3 地区)

1. 全景 (西から) 2. SB12・13 (南から) 3. SB14~17 (南から)



中世 (A 4 地区)

1. SB26・27 (西から) 2. SB18~21 (西から) 3. SB28 (北から) 4. SB21・22 (西から)
 5. SB23・24 (西から) 6. 全景 (西から)

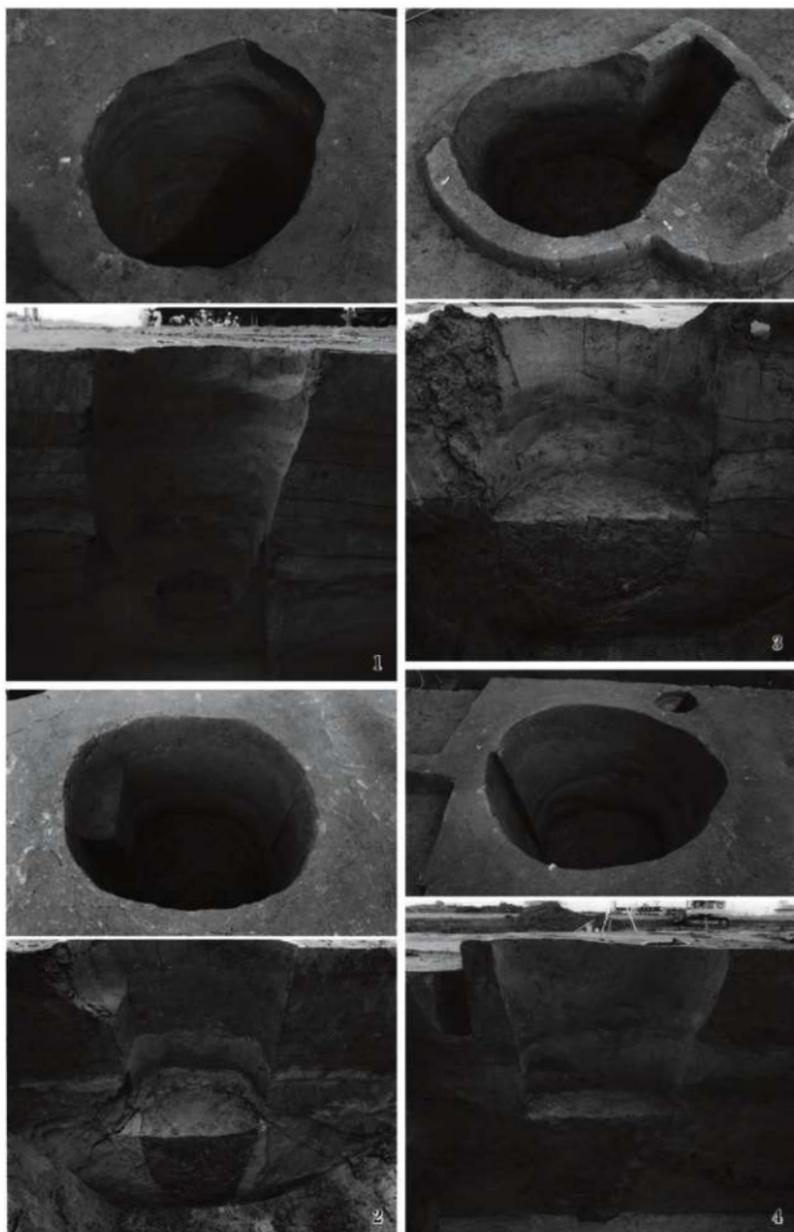


中世 (B 2 地区)

1. 全景 (西から) 2. SB29・39 (南から) 3. SB30~33 (北から) 4. SB29~36・39 (西から)



中世 (B3地区)
1.2. 全景 (南から)



中世（井戸）

1. SE122A3 (南から) 2. SE99B2 (南から) 3. SE90B2 (南から) 4. SE98B2 (西から)



中世 (溝)

1. SD122B3・SD160B3 (南から) 2. SR1B3 (南から)



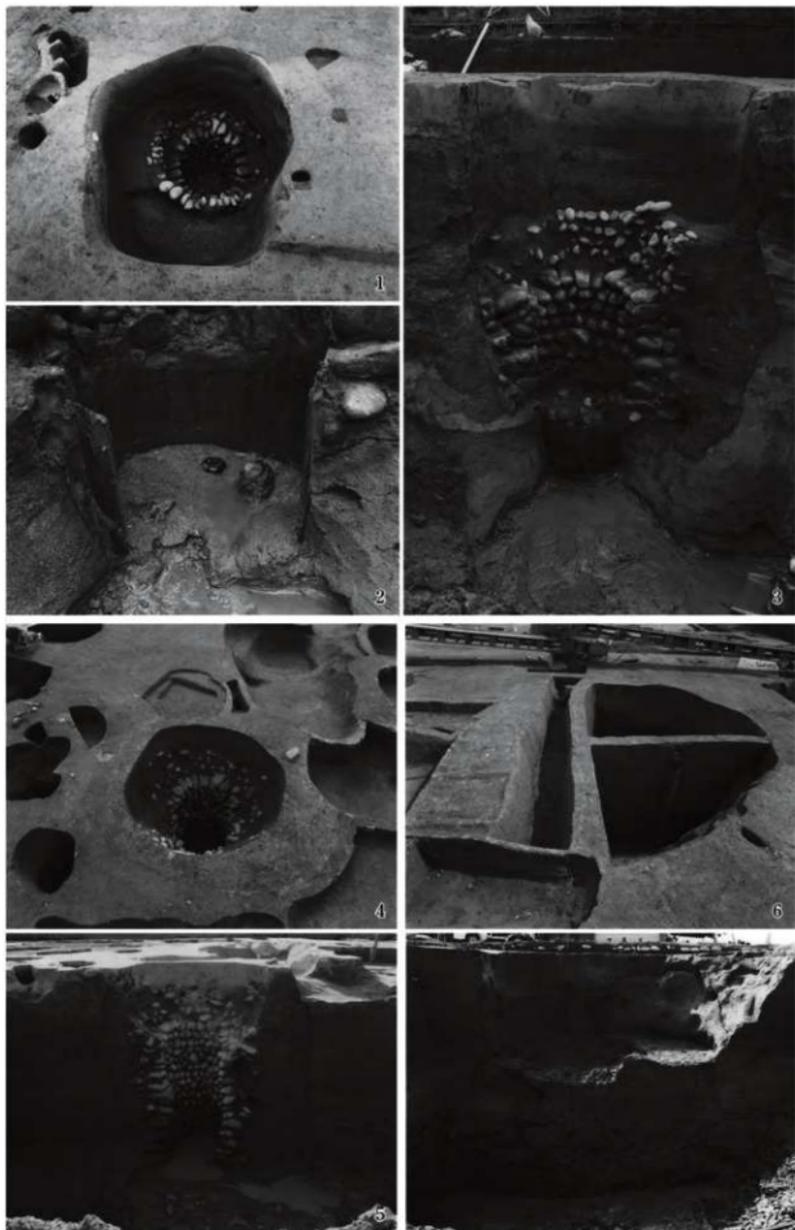
近世（掘立柱建物）

1. A1地区 SB1～3（南から） 2. A2地区 SB4～6（南から）



近世（掘立柱建物・区画溝・井戸）

1. SD25A2・SD65A2・SB4～6（北から） 2. SB8・SE308A4（北から） 3. SE149A3（西から）
4. SE308A4（南東から）



近世（井戸）

1. SE50A1（北から） 2. SE50A1 遺物出土状況（南から） 3. SE50A1（南から） 4. SE107A2（西から）
 5. SE107A2（東から） 6. SE78A2（北から） 7. SE78A2（東から）



3



10



10 (放大)



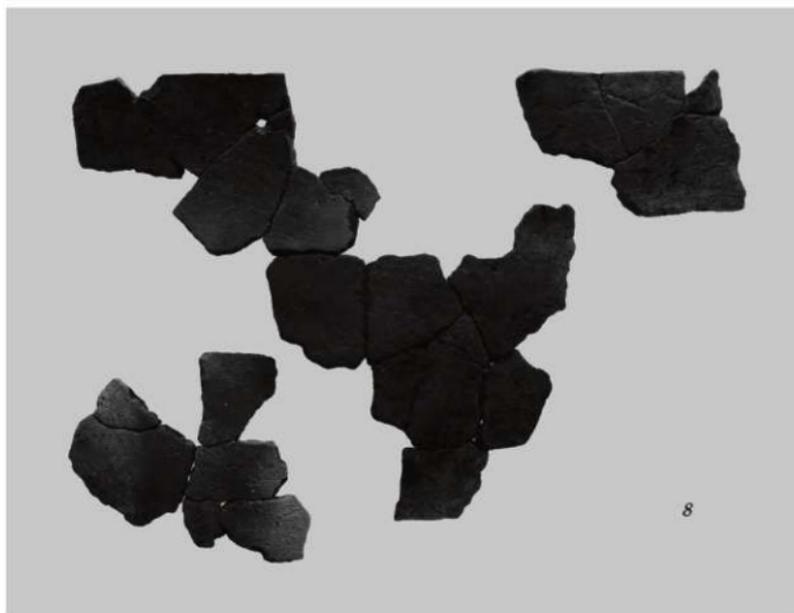
9



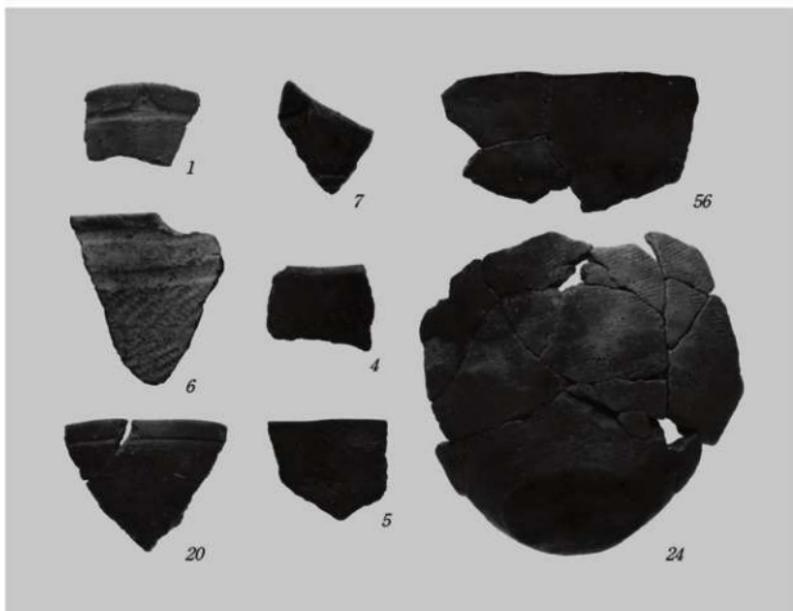
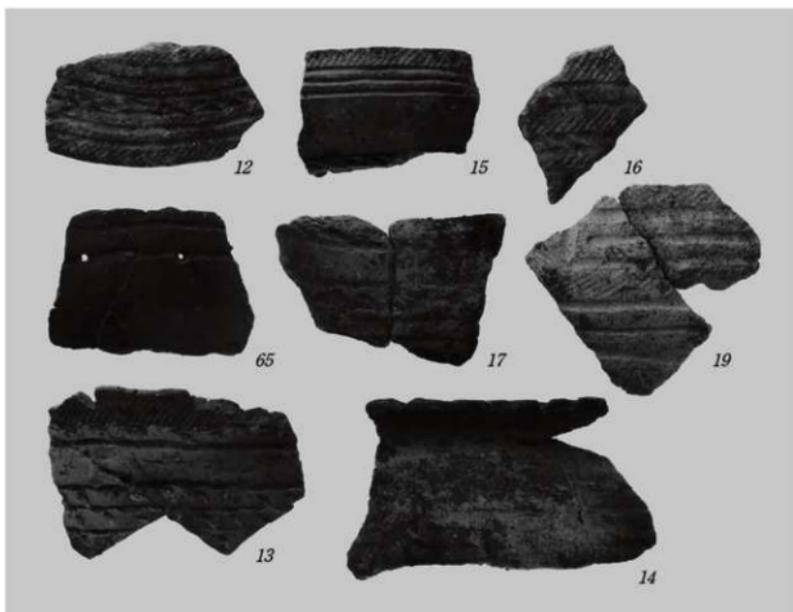
11

縄文土器

SK801A4 (11) SK802A4 (9) 包含層



繩文土器
包含層



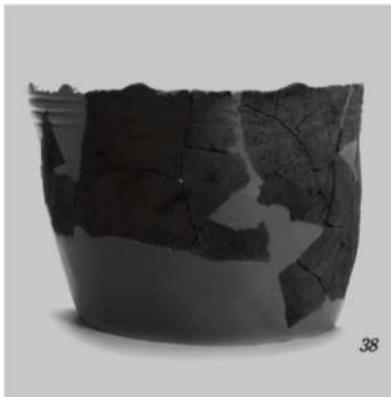
绳文土器

SD14A1 (7) SE50A1 (5) SK82A2 (15) SX401A2 (65)



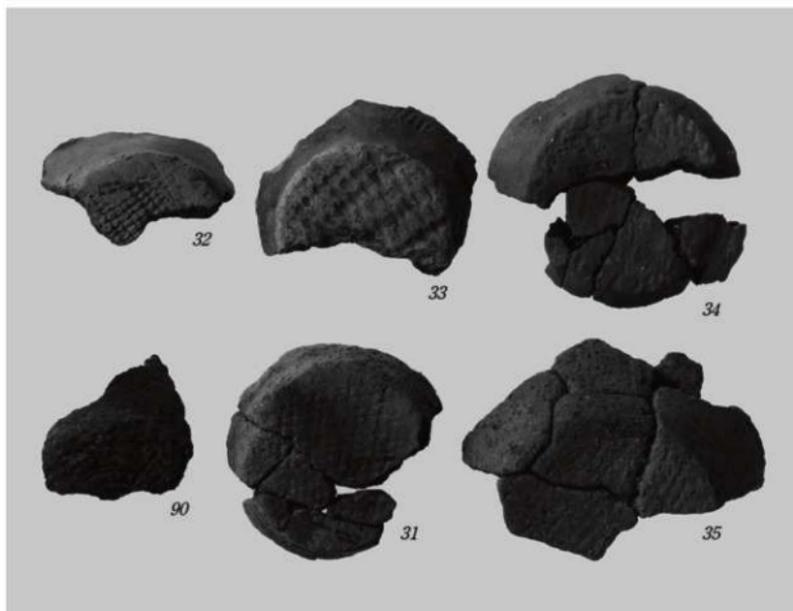
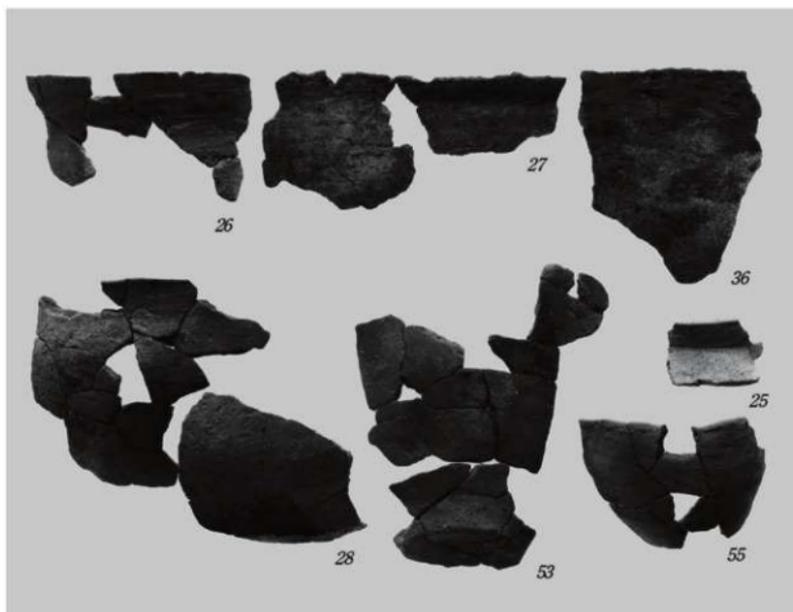
縄文土器

SK82A2 (22) 包含層



縄文土器

SD1A2 (30) SX401A2 (40) SK810A4 (62) SX811A4 (29) 包含層



縄文土器

SX401A2 (26・28・36) 包含層



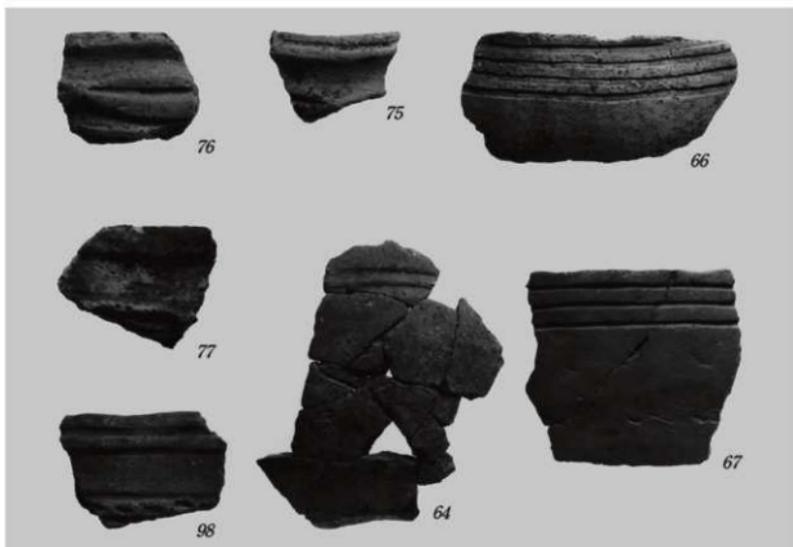
縄文土器

SX401A2 (43・49) 包含層



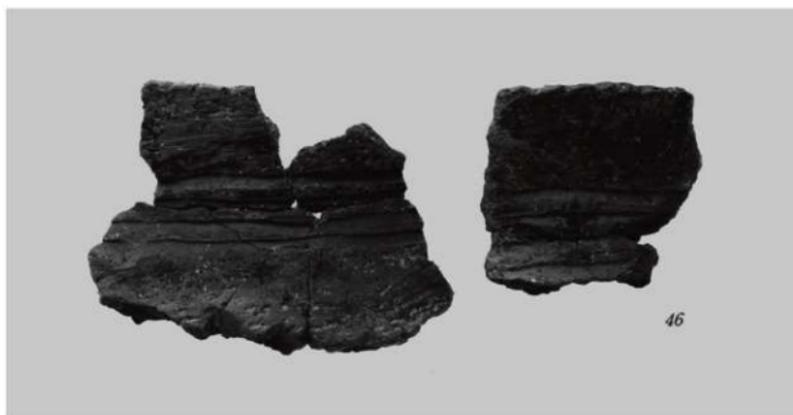
縄文土器

SK61A1 (72) SX401A2 (47・51) SK807A4 (44) 包含層



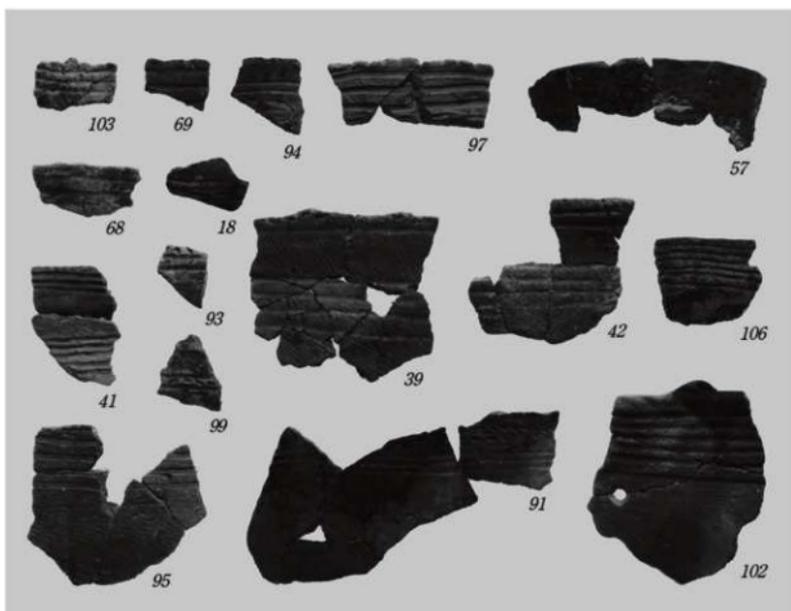
縄文土器

SX401A2 (66) SD68B2 (63) 包含層



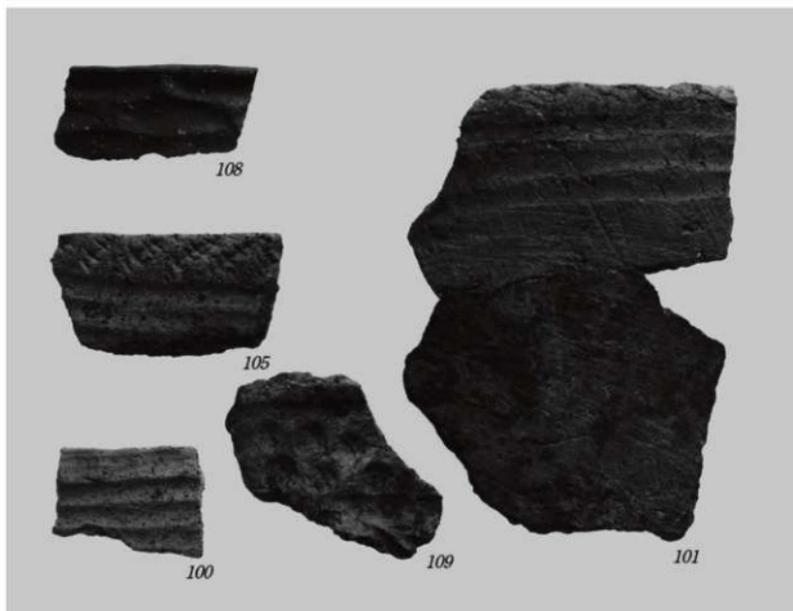
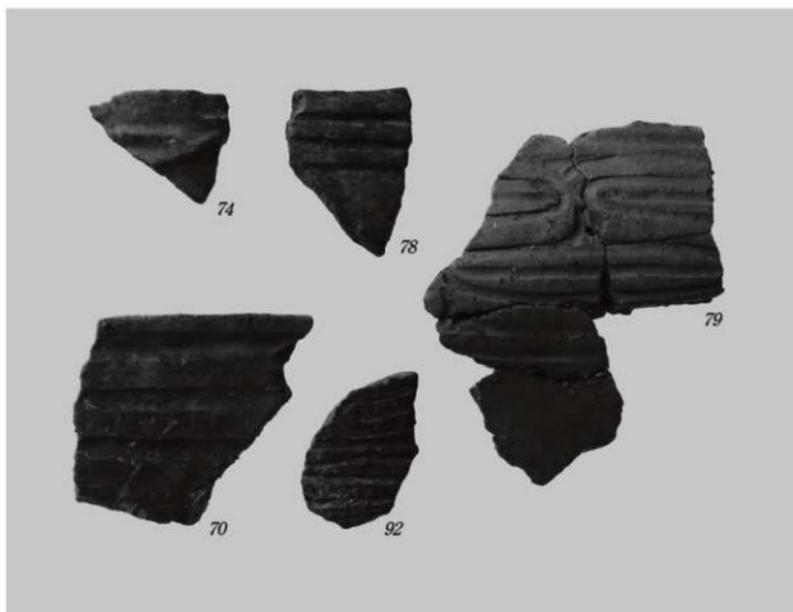
縄文土器

SX101A1 (52) SX102A1 (54) 包含層



縄文土器

SB8A1 (80) SD2A2 (94) SD69A2 (21) SX401A2 (41) 包含層



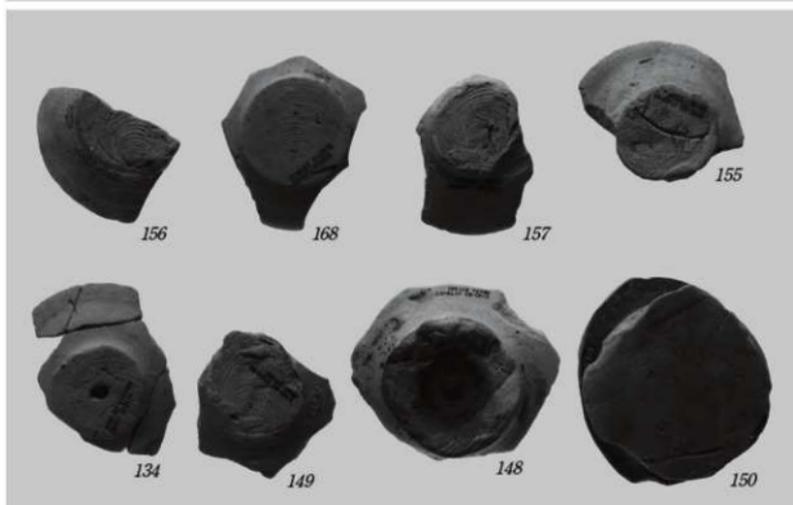
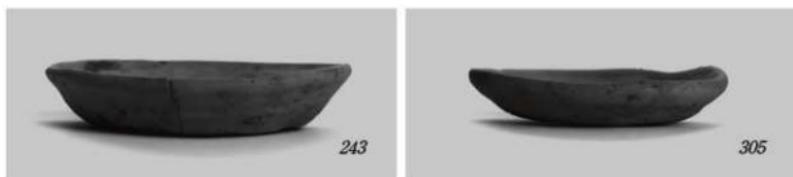
繩文土器

SX401A2 (79) 包含層



土冠・弥生土器・須惠器・土師器・中世土師器

SD1A2 (131) SK252A2 (601) SP90A3 (151) SE90B2 (118) SK401B2 (111) SK403B2 (112)
 SR1B3 (162) SD196B3 (163) 包含層



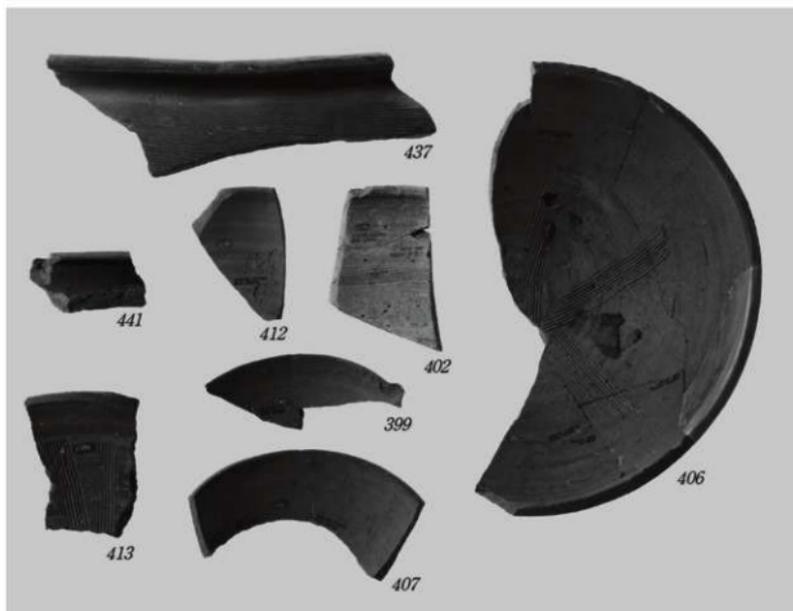
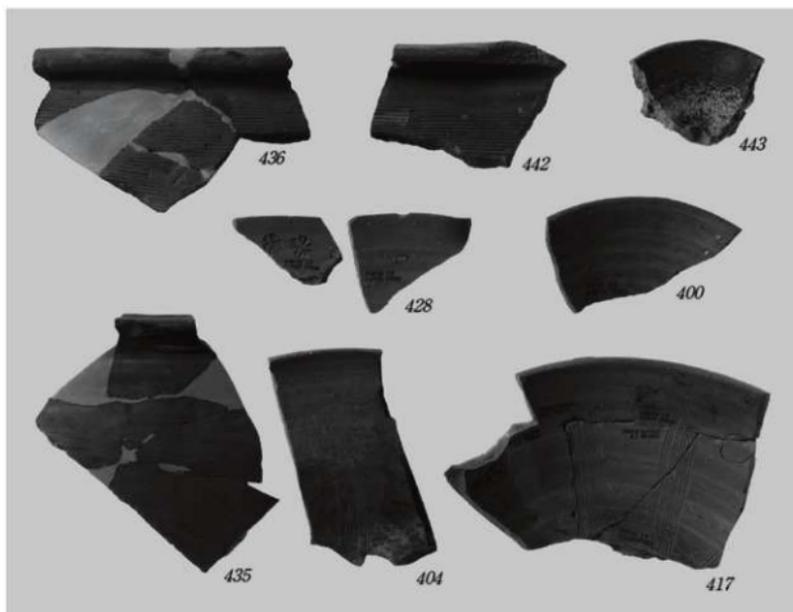
中世土師器

SK11A1 (339・340) SD2A2 (330) SD65A2 (331) SE90B2 (269) SD329B2 (199) SR1B3 (149・243・305)
 SP11B3 (155) SK58B3 (150) SD122B3 (168・246・336・337) SD173B3 (148) SD196B3 (134・156・157)
 包含層



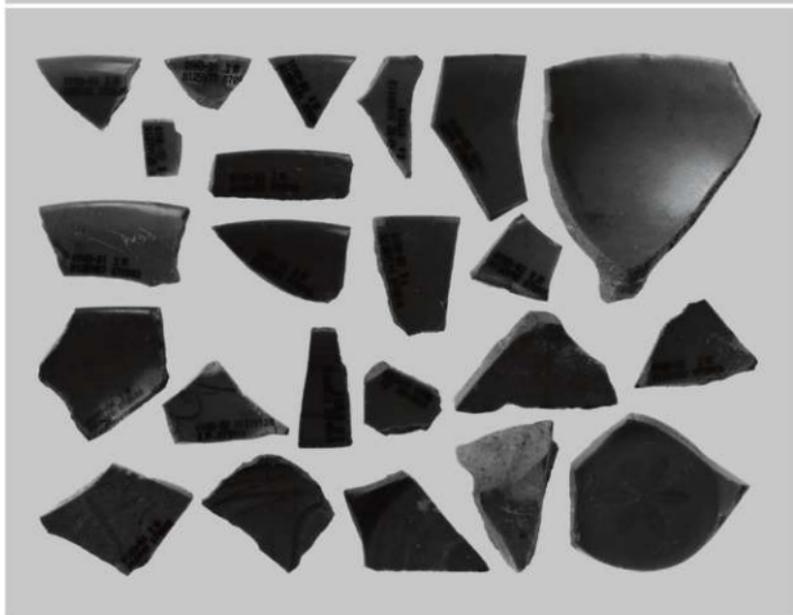
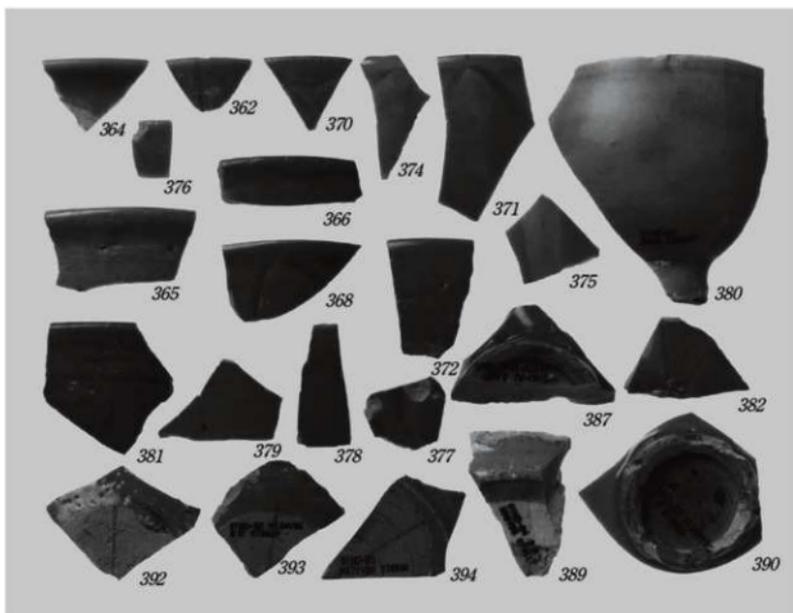
中世土師器

SR1B3 (183・192・195・203・205・218・220・228・230・232・239・241・242・260・265・284・294・317・328)
SD173B3 (223・244)



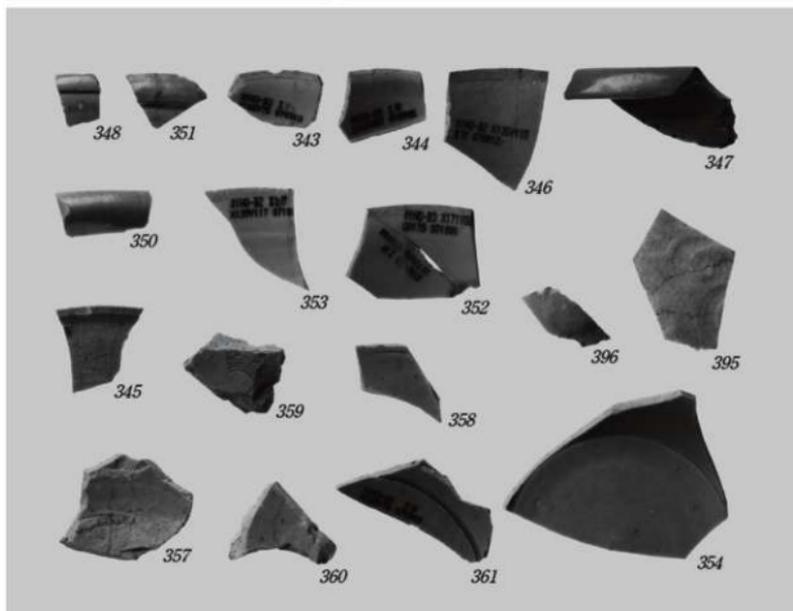
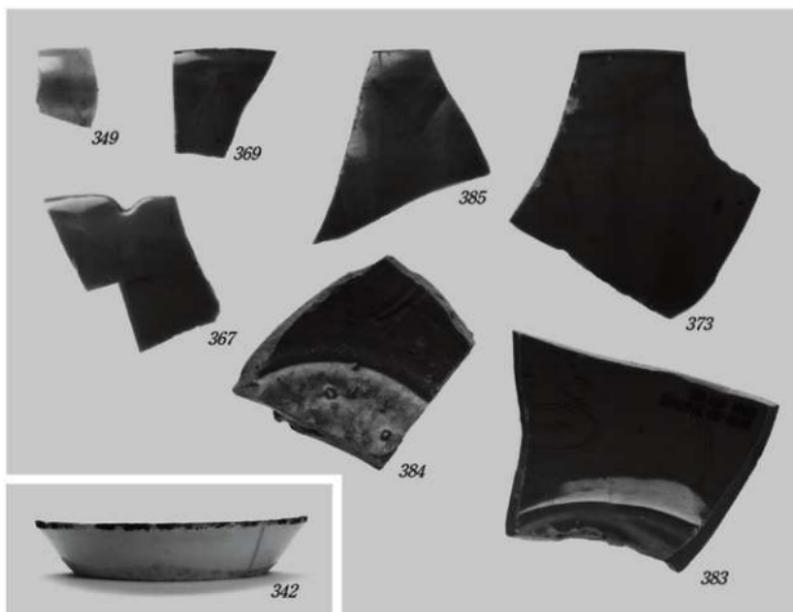
珠洲

SK11A2 (443) SK192B2 (404) SK309B2 (436) SR1B3 (399·402·406·407·412·413·437·441)
SD122B3 (417·442) 包含層



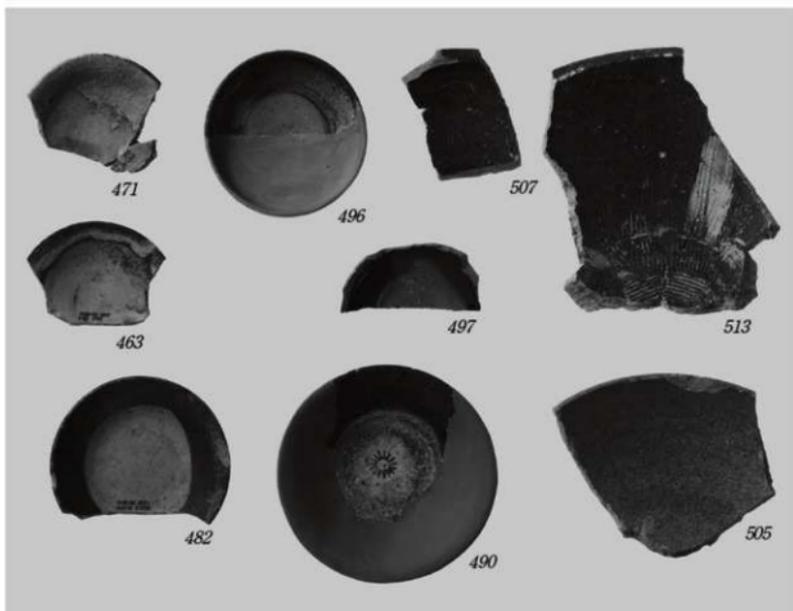
青磁

SK62A1 (380) SK44A2 (377) SD74A3 (371) 包含層



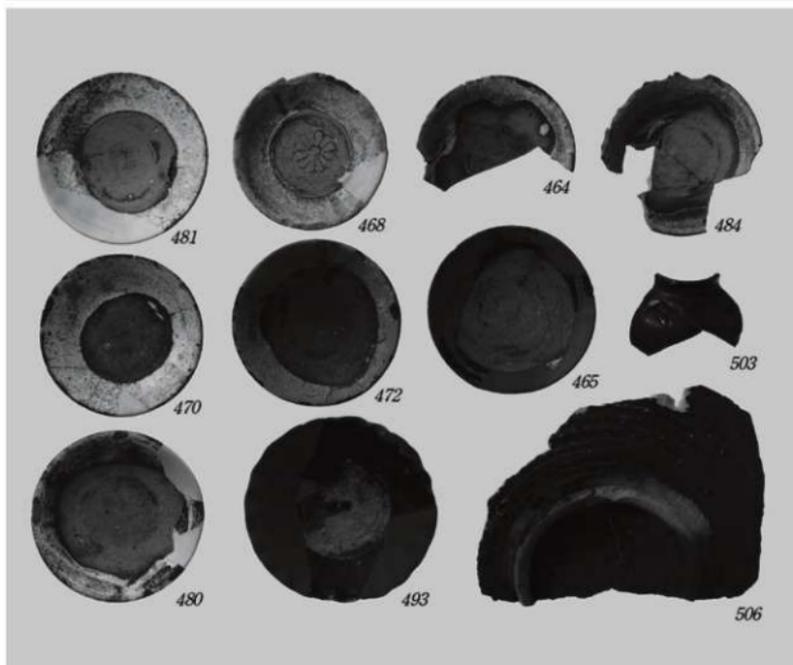
青磁・白磁・青白磁

SK257A2 (359) SK69A4 (348) SP126B2 (357) SR1B3 (342・349・367・369・373・383~385)
 SD173B3 (352・354) SK221B3 (350) 包含層



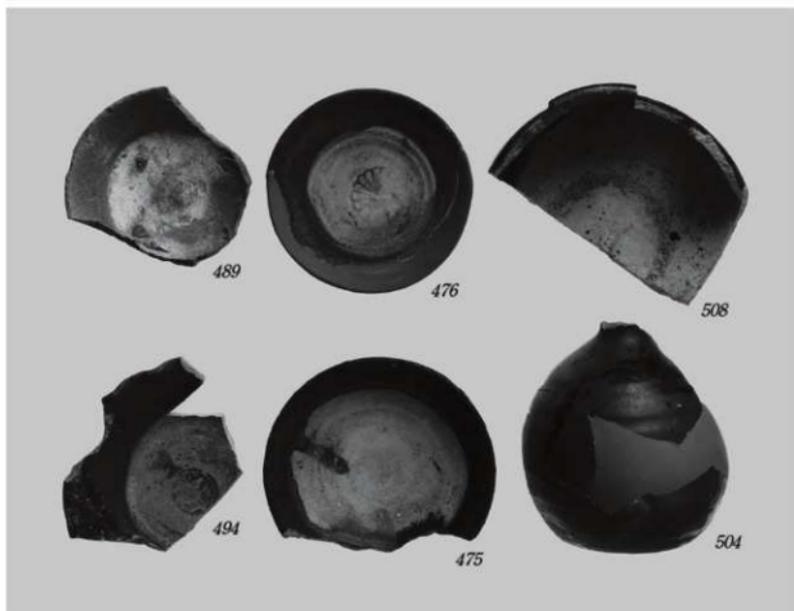
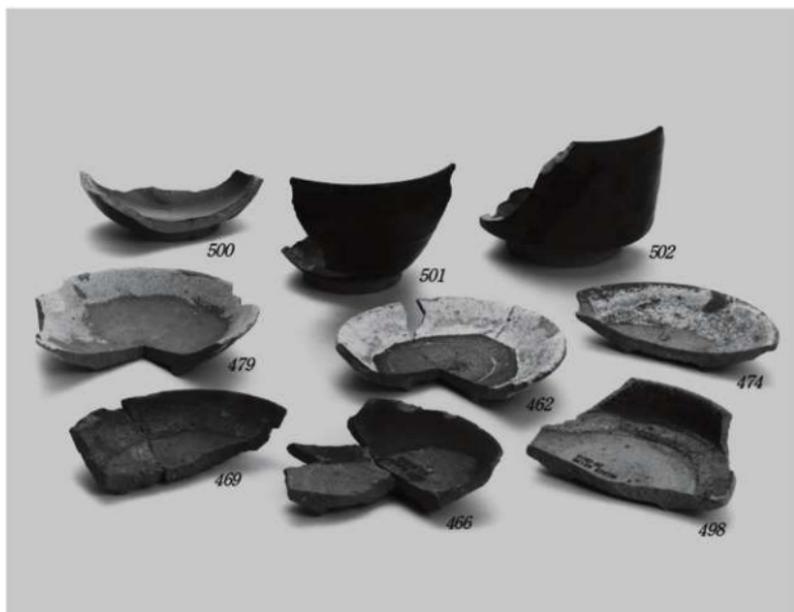
越中瀬戸

SE50A1 (478) SD1A2 (463・471・482・490・495~497・505・507・513) SK11A2 (491) SD65A2 (467)



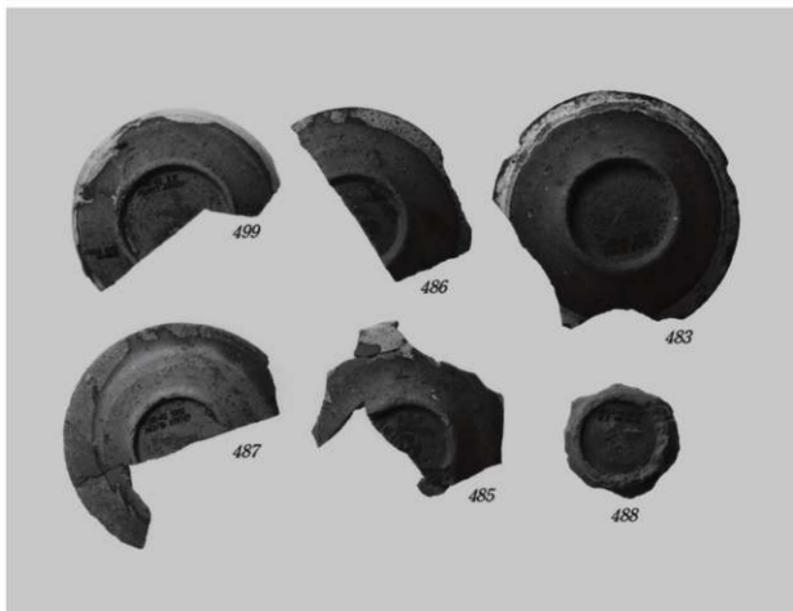
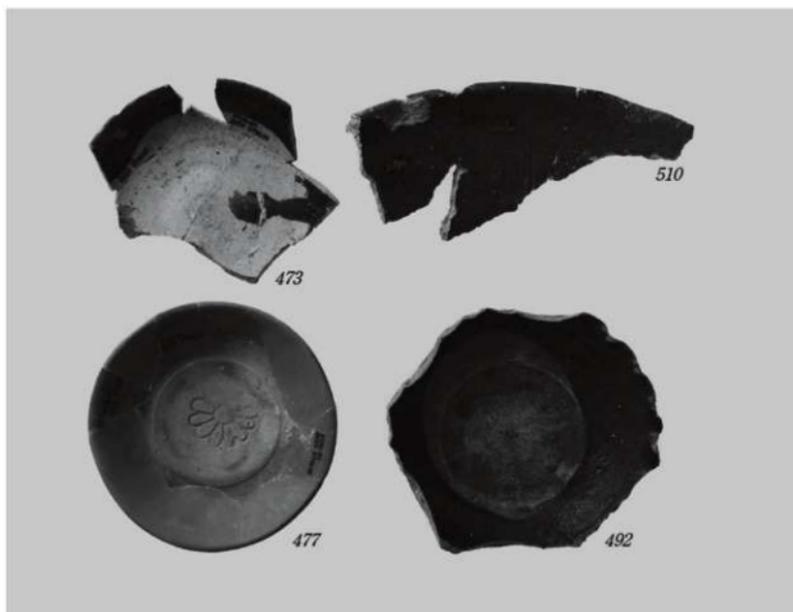
越中瀬戸

SD2A2 (509) SD65A2 (464・465・468・470・472・480・481・484・493・503・506・512)



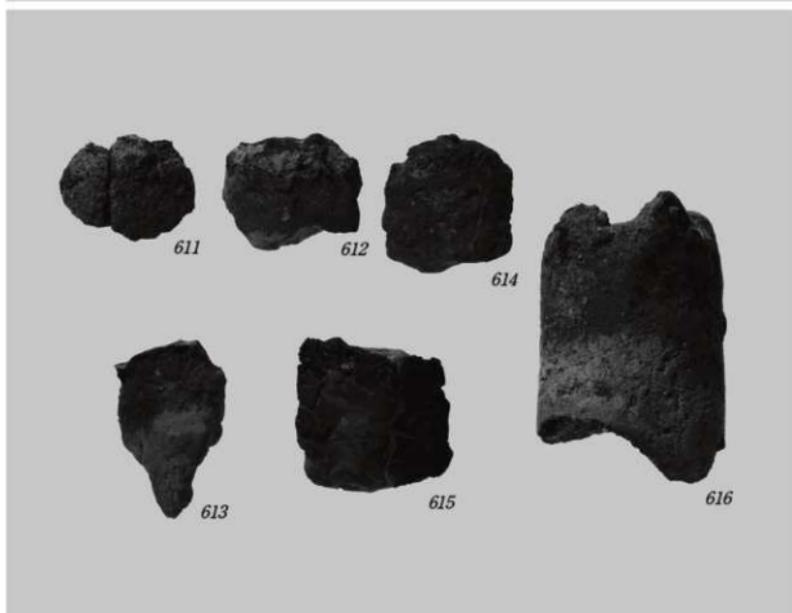
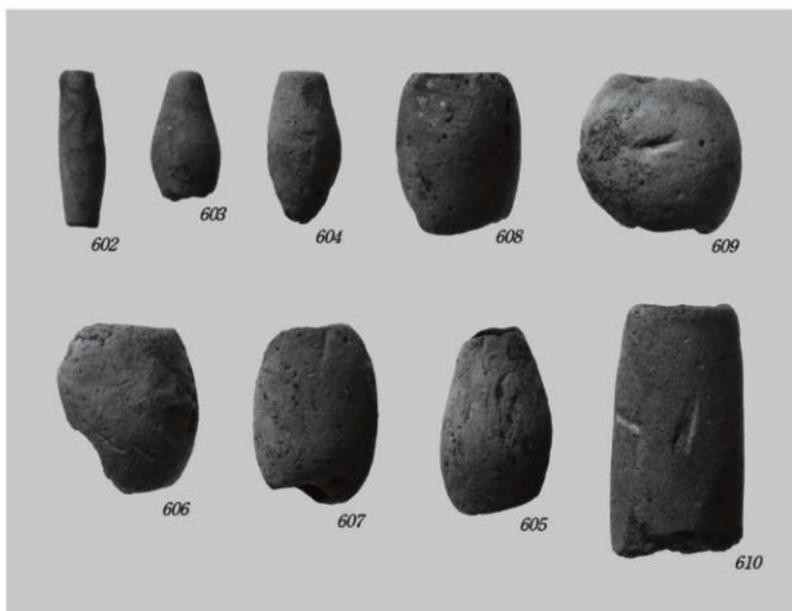
越中瀬戸

SD14A1 (502) SD2A2 (475・476・489・494・504・508) SD25A2 (462) SK317A2 (479)
SD231A4 (474・501) 包含層



越中瀬戸

SE50A1 (473・477・492・510) SD1A2 (483) SD2A2 (487) SD13A2 (499) SD65A2 (486) 包含層



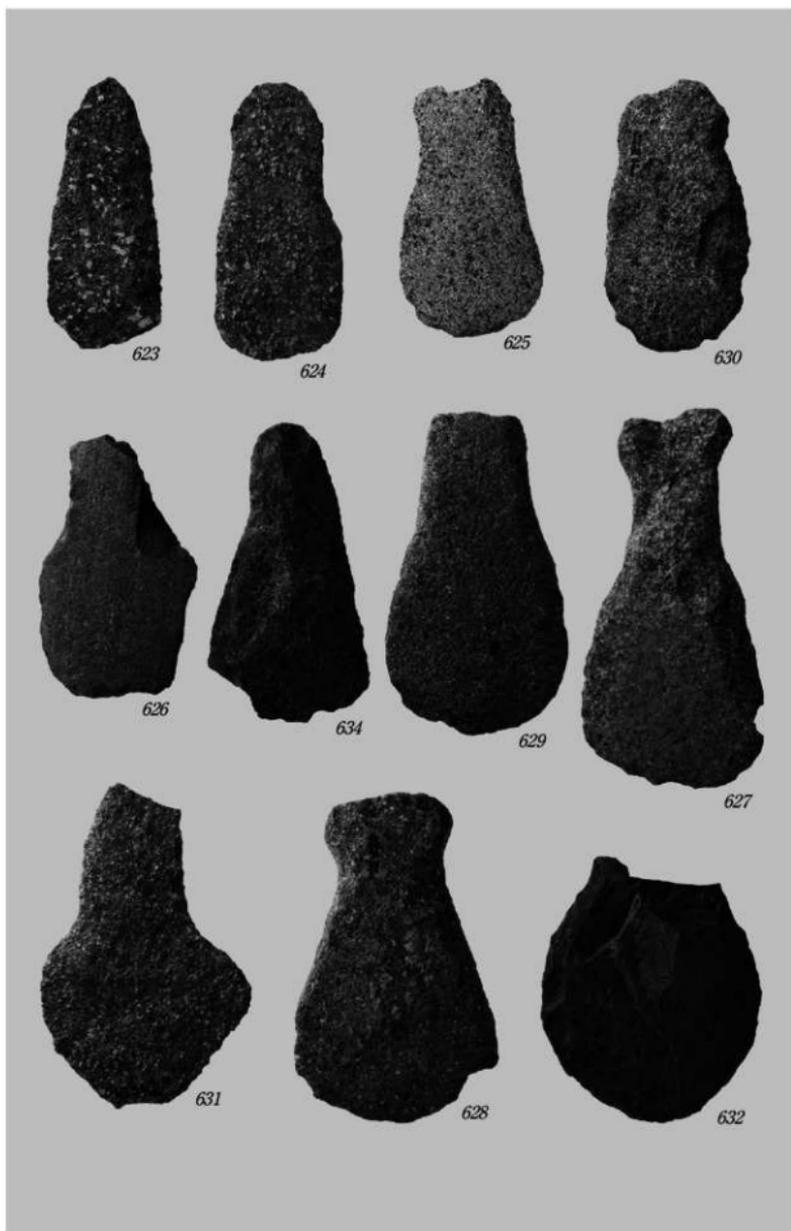
土錘・羽口

SK606A4 (611) SK171B2 (604) SR1B3 (602・612~616) 包含層



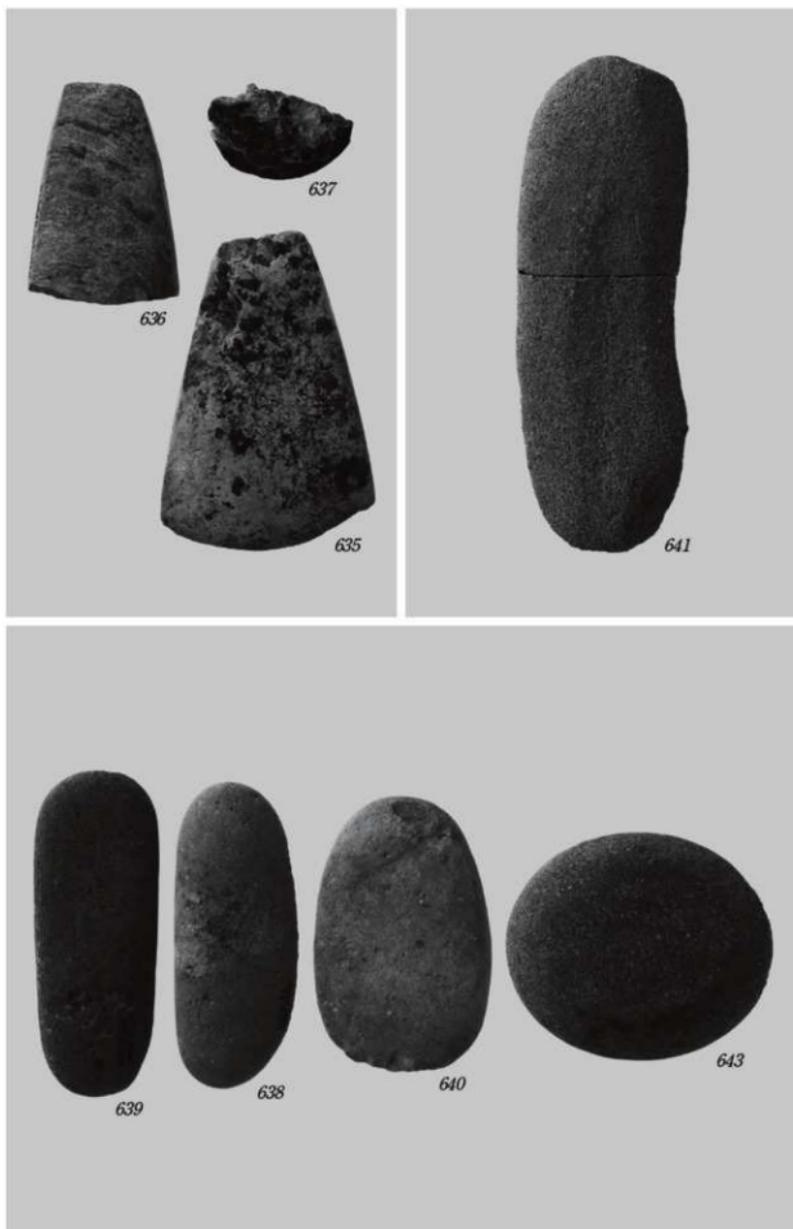
漆器碗·底板·桶

SE50A1 (617·618·622) SE730A4 (621)



打製石斧

SD1A2 (632) SD65A2 (628) SK201A2 (627) SK62A4 (626) SK63A4 (631) 包含層



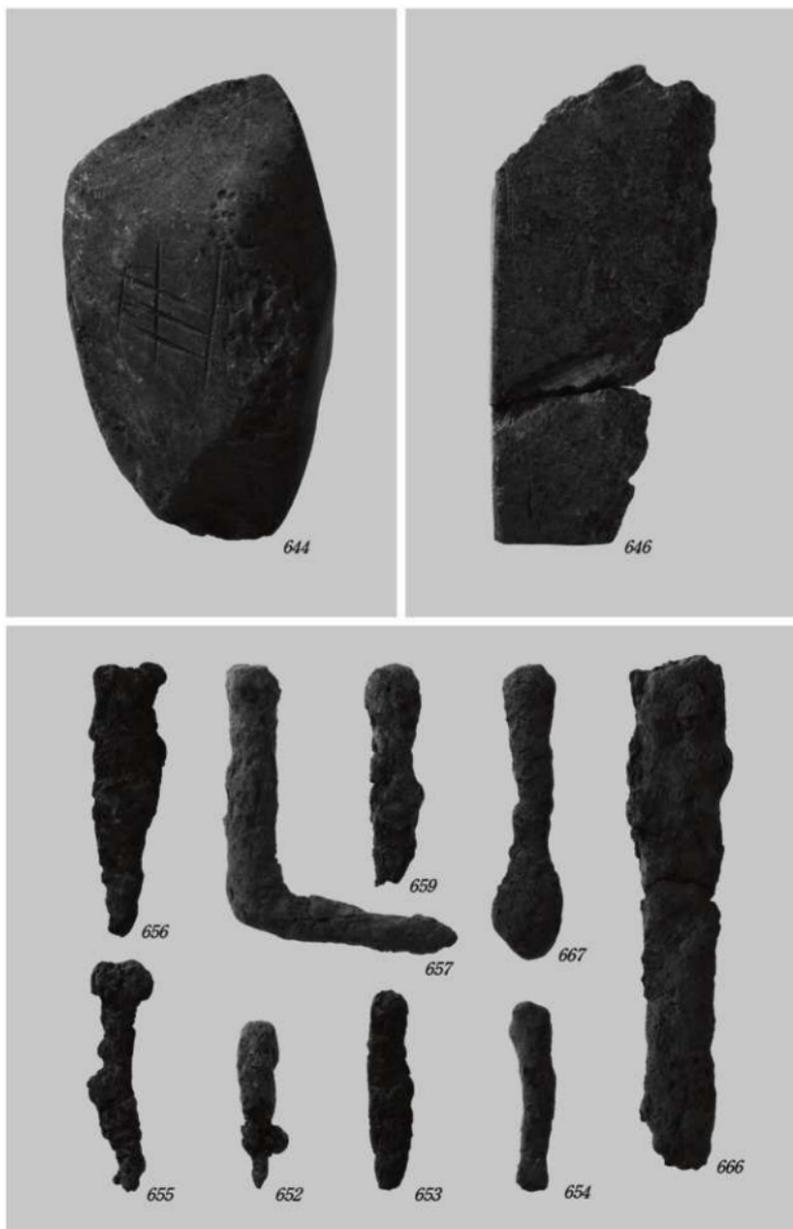
磨製石斧・叩石・磨石

SD69A2 (639) SK107A4 (643) 包含層



宝塔・五輪塔

SE50A1 (651) SD65A1 (650) SE107A2 (649) SK216B3 (648)



砥石・温石・釘・刀子・不明鉄製品

SK203A2 (644) SK278A4 (655・656) SP533A4 (657) SD539A4 (652) SX100B2 (653) SK159B2 (666)
SK197B2 (654) SK313B2 (659) SR1B3 (667) 包含層

報告書抄録

ふりがな	はねしもたていせきはつつちょうさほうこく							
書名	羽根下立遺跡発掘調査報告							
副書名	公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	X							
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ番号	第48集							
編著者名	中川道子・青山裕子・町田高美・永井三郎							
編集機関	財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所							
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL 076-442-4229							
発行年月日	西暦2011年2月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	道路番号	北緯	東経			
はねしもたて 羽根下立 遺跡	とやまし 富山市 羽根	16201	201619	36度 40分 56秒	137度 11分 3秒	20080516 ～ 20081030	14,486m ²	公害防除特別土地改良事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
		縄文時代晩期	竪穴住居 焼土土坑 埋設土器	縄文土器・打製石斧・磨製石斧・叩き石・土冠		焼土や炭化物の集中箇所から住居とみられる痕跡を確認		
		中世	掘立柱建物34棟 井戸7基 土坑・溝	中世土師器・珠洲・八尾・瀬戸・中国製白磁・中国製青磁・越中瀬戸・唐津・伊万里・漆器 椀・桶・砥石・宝塔・五輪塔・刀子・釘・鉄滓・フイゴ羽口		溝により区画された掘立柱建物群を検出		
		近世	掘立柱建物7棟 井戸5基 溝・土坑			桶を利用した井戸から漆器 椀、五輪塔など多数の遺物が出土		
要約	<p>縄文時代晩期、中～近世の遺構・遺物のほか、弥生時代終末期～古墳時代の遺物を検出した。</p> <p>縄文時代晩期では住居痕跡とみられる浅い焼土坑や硬化面がみつき、共伴土器から下野式併行期と考えられる。当該期の遺構は確認例が少なく、周辺遺跡でも希有な資料である。</p> <p>中世では掘立柱建物を中心とした集落がみつかった。建物の構造や方位などから中世前半には12世紀後半～13世紀前半と13世紀～14世紀の2時期に展開し、中世後半の15世紀代になると一部は幕城としても利用され、加賀型宝塔と呼称される石塔の火輪が出土している。</p> <p>近世には土地の利用区分が明確化したとみられ、遺跡南側に居住域、北側は畠等の生産域に使われている。区画溝や自然流路からは越中瀬戸が多量に出土した。</p>							

2011（平成23）年2月10日 印刷
2011（平成23）年2月25日 発行

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第48集

羽根下立遺跡発掘調査報告

－公害防除特別土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告X－

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

印刷 とうざわ印刷工業株式会社
〒930-0008 富山市神通本町1丁目8-13
TEL 076-432-3267